

ESJ63 [PROGRAM]

THE 63RD ANNUAL MEETING OF THE ECOLOGICAL SOCIETY OF JAPAN
SENDAI, 20-24 MARCH 2016

第63回日本生態学会大会 プログラム 会場／仙台国際センター&仙台市情報・産業プラザ

[CONTENTS]

001	大会日程概略
002	大会日程一覧表
006	諸案内
006	注意事項
008	General instruction
008	Notices for participants
009	日本生態学会大会規則
010	アクセス・地図／Access and maps
014	学会賞各賞授賞式・受賞記念講演
014	高校生ポスター発表・みんなのジュニア生態学講座
015	公開講演会／Public lecture
016	シンポジウム概要／Symposia
020	フォーラム概要／Forums
026	企画集会概要／Organized sessions
044	口頭発表一覧／Oral presentations
055	ポスター発表一覧／Poster presentations
082	高校生ポスター発表一覧／Poster presentations by high school students
084	自由集会概要／Workshops
108	発表者・企画者一覧
	協賛一覧・広告
	第64回日本生態学会大会(2017年3月、東京)のご案内
	大会企画委員会・大会実行委員会名簿

学会長／齊藤 隆 大会会長／中静 透 実行委員長／占部城太郎 大会企画委員長／半谷吾郎

大会日程 概略

●各種委員会 | 3月20日(日) | 仙台市情報・産業プラザ(仙台駅前 AER 5F)

外来種問題検討作業部会	09:30-11:30	会議室2 (A)	大規模長期生態学専門委員会	14:00-16:00	会議室1 (A)
大会企画委員会	09:30-11:30	会議室2 (B)	生態学教育専門委員会	14:00-16:00	会議室1 (B)
生態系管理専門委員会	09:30-11:30	会議室(情報化室)	日本生態学会誌刊行協議会	14:00-16:00	会議室2 (A)
電子情報委員会	11:45-13:45	会議室1 (A)	ER刊行協議会	14:00-16:00	会議室2 (B)
野外安全管理委員会	11:45-13:45	会議室1 (B)	キャリア支援専門委員会	14:00-16:00	会議室1(情報化室)
自然保護専門委員会	11:45-13:45	会議室2 (A)			
将来計画専門委員会	11:45-13:45	会議室2 (B)	代議員会	17:00-20:00	会議室2
保全誌刊行協議会	11:45-13:45	会議室(情報化室)	大会実行委員会本部・学会本部	09:00-20:15	会議室2

●公開講演会 | 2016年 3月20日(日) 13:00-16:00 | 仙台市情報・産業プラザ 多目的ホール

●総会・授賞式・受賞講演・理事会 | 3月23日(水) | 仙台国際センター Room A (橘)

総会	09:30-11:00, 15:30-17:00
授賞式 [学会賞/宮地賞/大島賞/奨励(鈴木)賞/ER論文賞/ポスター賞]	11:00-12:00
受賞記念講演 [学会賞/宮地賞/大島賞/奨励(鈴木)賞]	13:00-15:30
理事会	12:00-13:00 [委員控え室(小会議室5)]

●一般講演・シンポジウム・フォーラム・各種集会等

一般講演(口頭発表)	3月21日(月), 22日(火), 24日(木)
一般講演(ポスター発表)	3月22日(火), 24日(木)
高校生ポスター発表	3月21日(月)
シンポジウム	3月21日(月), 22日(火), 24日(木)
フォーラム	3月21日(月), 22日(火), 24日(木)
企画集会	3月21日(月), 22日(火), 24日(木)
自由集会	3月21日(月), 22日(火), 23日(水), 24日(木)
ランチョンフォーラム	3月21日(月), 22日(火), 24日(木)

●懇親会 | 3月23日(水) 18:30-20:30 | 仙台国際ホテル

●エコカップ2016 仙台大会 | 3月19日(土) 12:00~ | ワッセ仙台

大会サテライト企画として、日本生態学会大会に合わせて開催されてきた親善フットサル大会(5人制のミニサッカー)は、大会前日の3月19日(土)12:00よりワッセ仙台で開催されます(受付は11:00開始)。エコカップは、2002年日本生態学会仙台大会から始まりました。詳細は以下のWebページにてご確認ください。

<http://meme.biology.tohoku.ac.jp/ecocup2016/index.html>

大会日程 PROGRAM

MARCH 21

3/21

(MON)

	9:00	10:00	11:00	12:00	13:00	14:00	15:00	16:00	17:00	18:00	19:00	20:00
Room A 橘		企画集会 T01 階層モデリング				高校生 ジュニア 生態学講座		高校生 ポスター 授賞式		自由集会 W01 生物群集と共進化		
Room B 萩		フォーラム U01 企業と生物多様性			フォーラム U02 男女共同参画		シンポジウム S01 Tropical plant-soil interactions			自由集会 W02 草原の保全生態学		
Room C 桜1		企画集会 T02 種の境界					フォーラム U04 生態学キャリア開拓			自由集会 W03 藻類から迫る 生物進化		
Room D 桜2		企画集会 T03 植物の識別能力					シンポジウム S02 保全と情報ギャップ			自由集会 W04 UAV & 空撮画像		
Room E 白檀1		英語口頭発表 OS Ecosystem Ecology			フォーラム U03 生態 ピブリオ1		英語口頭発表 OS Plant Ecology			自由集会 W05 博物館の生態学11		
Room F 白檀2		企画集会 T04 巨大攪乱の 生態学的帰結					口頭発表 OS 植物個体群／植物生理生態／ 遷移・更新			フォーラム U05 アクティブ・ラーニング		

	9:00	10:00	11:00	12:00	13:00	14:00	15:00	16:00	17:00	18:00	19:00	20:00
Room G 会議室 4		企画集会 T05 日本型の 市民科学の実現					口頭発表 OS 行動			自由集会 W06 感染症の生態学		
Room H 会議室 3		企画集会 T06 温暖化適応策の 実装化					口頭発表 OS 進化			自由集会 W07 都市生物多様性		
Room I 会議室 2		企画集会 T07 Dynamic Traits					口頭発表 OS 保全			自由集会 W08 分光観測と 生理生態		
Room J 会議室 1		企画集会 T08 温暖化の影響					口頭発表 OS 群落			自由集会 W09 再導入生物学		
Poster hall 展示棟		高校生ポスター	高校生ポスター 発表コアタイム		高校生ポスター							
	受付(Reception)／企業展示は10:00-18:00											

S: シンポジウム (Symposia) / T: 企画集会 (Organized Sessions) / OS: 英語口頭発表・口頭発表 (Oral Sessions) / P: ポスター発表 (Poster Sessions) / U: フォーラム (Forums) / W: 自由集会 (Workshops)

大会日程 PROGRAM

MARCH 22

3/22

(TUE)

	9:00	10:00	11:00	12:00	13:00	14:00	15:00	16:00	17:00	18:00	19:00	20:00
Room A 橘		企画集会 T09 哺乳類の 個体群管理				シンポジウム S03 次世代の政策統合III			自由集会 W10 リモセン 生態系観測			
Room B 萩		フォーラム U06 生物多様性評価 JBO2		フォーラム U07 EcoResの秘密		フォーラム U08 次世代長期研究			自由集会 W11 社会に向き合う 生態学			
Room C 桜1		企画集会 T10 移動するセンシウム				フォーラム U09 拠点を使おう			自由集会 W12 熱帯球果植物			
Room D 桜2		企画集会 T11 新しい群集生態学				口頭発表 OS 動物と植物の相互関係			自由集会 W13 海の保全生態・管理			
Room E 白樺1		英語口頭発表 OS Animal Behavior		フォーラム U03 生態 ピブリオ2		英語口頭発表 OS Animal Behavior/ Animal Ecology			自由集会 W14 小笠原の 進化と保全			
Room F 白樺2		企画集会 T12 ネオニコチノイド 生態影響				英語口頭発表 OS Applied Ecology			自由集会 W15 貝類でみる 生命現象4			
	9:00	10:00	11:00	12:00	13:00	14:00	15:00	16:00	17:00	18:00	19:00	20:00
Room G 会議室4		企画集会 T13 保残伐				口頭発表 OS 行動/生物多様性			自由集会 W16 社会性昆虫学の 可能性			
Room H 会議室3		企画集会 T14 空間と クローナリティ				口頭発表 OS 進化/外来種			自由集会 W17 生態学×国際貿易			
Room I 会議室2		企画集会 T15 Sperm & Ecology				口頭発表 OS 保全/生態系管理			自由集会 W18 IPBESからの展望			
Room J 会議室1		企画集会 T16 生態学と土壌動物				口頭発表 OS 物質循環/数理			自由集会 W19 ライトニングトーク			
Poster hall 展示棟		ポスター発表	ポスター発表 P コアタイム1			ポスター発表						
	受付(Reception)/企業展示は10:00-18:00											

S: シンポジウム (Symposia) / T: 企画集会 (Organized Sessions) / OS: 英語口頭発表・口頭発表 (Oral Sessions) /
P: ポスター発表 (Poster Sessions) / U: フォーラム (Forums) / W: 自由集会 (Workshops)

大会日程 PROGRAM

MARCH 23

3/23

(WED)

	9:00	10:00	11:00	12:00	13:00	14:00	15:00	16:00	17:00	18:00	19:00	20:00
Room A 橘		総会(1)	授賞式		受賞講演			総会(2) 大会改革				
Room B 萩								自由集会 W20 海鳥から見た 重要海域				
Room C 桜1								自由集会 W21 モニ1000の 10年の成果 Vol. 2				
Room D 桜2								自由集会 W22 これからの 生態学教育				
Room E 白樺1								自由集会 W23 Eco-DRRの 機能と評価				
Room F 白樺2								自由集会 W24 英語化				

	9:00	10:00	11:00	12:00	13:00	14:00	15:00	16:00	17:00	18:00	19:00	20:00
Room G 会議室4								自由集会 W25 時系列データ解析				
Room H 会議室3								自由集会 W26 ナチュラリストの 生態学				
Room I 会議室2								自由集会 W27 植物社会学研究会				
Room J 会議室1								自由集会 W28 アメリカザリガニ 対策				
Poster hall 展示棟	受付(Reception)／企業展示は10:00-17:30											
仙台国際 ホテル Sendai Kokusai Hotel	懇親会 Banquet											

S: シンポジウム (Symposia) / T: 企画集会 (Organized Sessions) / OS: 英語口頭発表・口頭発表 (Oral Sessions) /
P: ポスター発表 (Poster Sessions) / U: フォーラム (Forums) / W: 自由集会 (Workshops)

大会日程 PROGRAM

MARCH 24

3/24

(THU)

	9:00	10:00	11:00	12:00	13:00	14:00	15:00	16:00	17:00	18:00	19:00	20:00
Room A 橘		企画集会 T17 植物と微生物の戦略		フォーラム U10 安全な野外調査								
Room B 萩		企画集会 T18 都市住民と生物多様性		フォーラム U11 国外で研究職		フォーラム U12 生態学の展望			自由集会 W29 植物エコメカニクス			
Room C 桜1		企画集会 T19 里地里海の普通種の行方				シンポジウム S04 環境DNA			自由集会 W30 サケの保全と放流			
Room D 桜2		企画集会 T20 環境DNAと生態学				フォーラム U13 開発計画を再考させる			自由集会 W31 メタバーコーディング			
Room E 白檀1		英語口頭発表 OS Animal Ecology		フォーラム U03 生態ピブリオ3		英語口頭発表 OS Plant-Animal Interaction			自由集会 W32 巨大地震への備え			
Room F 白檀2		英語口頭発表 OS Ecosystem Ecology				口頭発表 OS 動物群集			自由集会 W33 生殖器の形態測定学			
	9:00	10:00	11:00	12:00	13:00	14:00	15:00	16:00	17:00	18:00	19:00	20:00
Room G 会議室4		企画集会 T21 生物多様性保全と利用				口頭発表 OS 生物多様性			自由集会 W34 きのこる4			
Room H 会議室3		企画集会 T22 絶滅危惧鳥類保全				口頭発表 OS 植物繁殖/植物生活史/景観			自由集会 W35 Future Earthってなんだ?			
Room I 会議室2		企画集会 T23 CCMによる因果推論				口頭発表 OS 生態系管理/菌類微生物/動物繁殖/動物生活史			自由集会 W36 多様性評価手法の開発			
Room J 会議室1		企画集会 T24 生物が形作る生態系				口頭発表 OS 数理/動物個体群			自由集会 W37 防災・減災と生態学			
Poster hall 展示棟		ポスター発表	ポスター発表 P コアタイム2	ポスター発表								
	受付(Reception)/企業展示は10:00-18:00											

S: シンポジウム (Symposia) / T: 企画集会 (Organized Sessions) / OS: 英語口頭発表・口頭発表 (Oral Sessions) / P: ポスター発表 (Poster Sessions) / U: フォーラム (Forums) / W: 自由集会 (Workshops)

諸案内

受付 | 2016年2月29日(月)までに参加費を払いを終了した方で、参加申込時に国内住所を登録された方には、3月15日(火)までに名札や領収書が送付されますので、その名札を持参してください。名札を持参された方の受付は不要です。●送付された名札を忘れた方、紛失した方は、下記の受付にて名札の再発行の手続きを必ず行って下さい。●それ以外の方は、受付で所定の手続き(名札などを受け取る)を済ませてください。●受付は、仙台国際センター展示棟(地下鉄駅側)にて、3月21日(月)から24日(木)の間、9:00以降に開設しています。詳細は会場地図をご覧ください。●会場では必ず名札をつけてください。●オンラインでの参加申込・参加費支払いは、いずれも2016年2月29日(月)17:00まで受け付けます。JTBのAMARYS (<https://amarys-jtb.jp/esj63/>) で手続きをお願いします。なお、2016年2月2日(火)17:00までは参加費の割引料金が適用されます。●発表者・集会企画者は、2月2日(火)17:00までに参加費をお支払い下さい。●大学の学部生以下(中・高校生を含む)の大会参加費を、聴衆としての参加に限り無料にします(高校生ポスター発表は無料)。ただし、参加費無料は大会当日受付に限ります。大会HPからの事前申し込みは行わず、当日大会の受付に学生証提示の上お申し出ください。●前々大会から冊子体とPDF版の講演要旨集の作成を取りやめています。HTML版講演要旨は、2月中に大会HP (<http://www.esj.ne.jp/meeting/63/>) から閲覧できる予定です。インターネット接続機能を持った携帯電話等でご覧頂けます。

駐車場 | 仙台国際センターには有料の地下駐車場がありますが、駐車台数に限りがあります。なるべく公共交通機関をご利用ください。

会場へのアクセス | 仙台駅から大会会場までは、地下鉄東西線で5分です。徒歩の場合は30分程度です。詳しくは「会場周辺地図」をご覧ください。

総会・受賞記念講演 | 総会は、3月23日(水)9:30から仙台国際センターで開催します。総会への参加は会員に限られます。●総会に引き続き、各賞の授賞式及び受賞記念講演も同会場で行われます。

懇親会 | 3月23日(水)18:30(開場18:00)から、仙台国際ホテル(大会会場から徒歩25分、地下鉄「仙台駅」から徒歩10分)で開催します。●懇親会参加申込は、オンラインでの参加申込(JTBのAMARYS)の際に行ってください。受付は2月29日(月)17:00で終了します。受付締め切りまでの参加申込数に制限はありません。当日の参加申込は原則受け付けません。

託児室 | 大会会場内に、託児室(3月21~24日)を設けます。利用は事前に申込をされた方に限ります。●開設時間・利用料金及び申し込み方法は、大会HPに掲載しています。申し込み締め切りは、2016年2月19日(金)15:00です。●ご不明の点がある場合は、お早めに大会実行委員会託児室担当(nursery@mail.esj.ne.jp)へお問い合わせ下さい。

ファミリー休憩室 | 乳幼児や小学生連れの大会参加者向けのファミリー休憩室(3月21~24日)を設けます。予約は不要です。●お子様と一緒に食事や休憩、授乳などにご利用下さい。お子さま単独でのご利用はご遠慮下さい。●開設時間等の情報は、大会HPに掲載しています。

宿泊・昼食 | 大会中の宿泊は各自での手配をお願いします。JTBのAMARYSでも宿泊の申し込みが可能です。仙台市内には多くの宿泊施設がありますが、大会前後には他の学会

大会やイベントが予定されており大変混雑すると予想されています。宿泊の予約は早めにされることをお勧めします。最終日(3/24)の夜まで自由集会等のセッションが予定されていますので、最終日も宿泊されることをお勧めします。●会場内には小さなレストランがありますが、混み合うことが予想されます。なお、会場周辺には他の飲食店はありませので、昼食は地下鉄にて市街地に出るか、お弁当をご持参下さい。会場にてお弁当販売も予定しています。お弁当販売の詳細は、大会公式HPに掲載します。●展示棟受付周辺には、休憩コーナーを設けていますので、昼食等にご利用ください。昼食時にはポスター会場以外の会場でも飲食できますが、ゴミは持ち帰るようご協力をお願いします。

ネットワーク接続 | 会場には無線LANが設置されています。利用回線やパスワードは受付(展示棟)に掲示してお知らせします。ただし、施設付属の一般回線のため通信状況の保証はできません。大会講演要旨のダウンロードなどは、あらかじめ済ませておくことをお勧めします。

大会期間中の問い合わせ | 本大会に関する大会期間中の問い合わせは、大会本部に直接お越しいただくか、大会HPの問い合わせフォーム (<http://www.esj.ne.jp/meeting/63/inquiry.html>) よりお尋ねください。

公開講演会 | 3月20日(日)に、仙台市情報・産業プラザ多目的ホール(仙台駅隣AER5階)にて一般市民向け講演会「生態学から見た東日本大震災」を開催します。学会員は自由に参加出来ますので、是非ご来場下さい。詳細は大会HPをご覧ください。なお、来場者には、講演会に関連した一般向け書籍「生態学が語る東日本大震災」(生態学会東北地区会編)を先着順で差し上げる予定です。

注意事項

【参加者の皆様へ】

大会規則 | 本大会は、日本生態学会大会規則(プログラム掲載)に基づいて実施されます。大会期間中、参加者はこの規則および下記の注意事項を遵守し、大会実行委員、座長、会場係の指示に従ってください。

撮影について | 会場での講演・ポスターの撮影は、発表者の了承を得た場合に限り認められます。また、発表者に了承を得て撮影する場合でも周囲の方に迷惑がかからないようにしてください。

会場での飲食、喫煙等 | 展示棟受付周辺には、休憩コーナーを設けていますので、昼食等にご利用ください。●建物内は全館禁煙です。喫煙の際は、屋外に設置されている喫煙コーナーをお願いします。●ポスター会場での飲食は禁止です。また、昼の休憩時間帯以外も講演会場での飲食は禁止です。ゴミは極力持ち帰るようご協力をお願いします。●その他、会場の利用案内に従っていただきます。

【発表者・企画者の皆様へ】

キャリアエクスプローラマークの表示 | 発表者である学生・ポスドクは、本人が希望する場合、求職中であることを示すキャリアエクスプローラマーク(CEマーク)を口頭発表やポスター発表の際に表示することができます。●(社)応用物理学会HP (<http://www.jsap.or.jp/activities/annualmeetings/CEmark.html>) からダウンロードし、口頭発表のタイトルページやポスターのタイトル付近に表示してください。CEマークの使用許可は取得済みです。

一般講演(口頭発表) | 口頭発表は、会場備え付けのパソコン(OSはWindows7)と液晶プロジェクターを使用したマイクロソフトパワーポイント(Win版PowerPoint2013)あるいはアドビリーダー(PDFファイル)による発表に限りま。持ち込んだパソコンを使用するの発表はできません。●発表用ファイルの作成方法:上記の使用機器に充分留意してください。また、「事前にお送りいただいた発表用ファイルを各会場のパソコンのハードディスクにあらかじめコピーしておく」ことをふまえ、発表用ファイルを作成してください。特に以下の点にご注意ください。

○パワーポイントファイルは、Win版PowerPoint2013で動作可能なことを確認してください。文字化けを避けるため、標準的なフォントを使用するか、ファイルにフォントを埋め込むことをお勧めします。

○MacOSでファイルを作成した場合には、必ずWindowsファイルに変換し、Win機での動作確認を発表者の責任でおこなってください。

○口頭発表用の*.ppt、*.pptxあるいは*.pdf形式ファイルのファイルサイズは20MB以下まで、かつ1ファイルのみにしてください。写真を多用される方は、解像度(あるいは画素数)を落とすなどの工夫をしてこの制限に対処してください。このファイルサイズの範囲内におさまるのであれば、ファイル内うめこみ動画再生など上記ソフトウェアの諸機能の利用は可能ですが、発表者が意図したとおりの動作を必ずしも保証するものではありません。

●**発表用ファイルの提出期限:3月14日(月)17:00です。**大会HPにて登録してください。各自のファイル名は自動で作成されます。

○期限までに発表用ファイルが登録されない場合には、プロジェクターを利用した発表はできません。なお、パソコンと液晶プロジェクターを使用しないで発表される場合は、3月14日(月)17:00までに大会の問い合わせページ(<http://www.esj.ne.jp/meeting/forms/inquiry/index.cgi>)からその旨をご連絡ください。発表用ファイルの登録がなく、ご連絡をいただけない場合には、発表ができませんので、ご注意ください。

●講演時間は、発表12分、質疑応答3分の合計15分です。一鈴10分、二鈴12分、三鈴14分30秒です。時間を厳守してください。●パソコンの操作は、最初のスライドを表示するところまではオペレーター(会場係)が行います。その後の操作(スライドの進行)は、講演者自身で行うことも、会場のオペレーター(会場係)に指示することも可能です。●講演の終了した講演者は、次の講演の座長を務めてください。最初の座長は、大会実行委員会が対応します。

英語口頭発表賞 | 広島大会(ESJ61)以来、大会における英語による研究発表を振興し、留学生や国外からの参加者との議論の場をより多く作るために、英語口頭発表賞の審査を実施しています。この賞には、大会での英語を用いた「科学コミュニケーション」を振興する目的があります。単なる英語スピーチコンテストではありません。応募者は聴衆の多くが必ずしも英語を母国語とはしないこと、また、さまざまな研究背景を持つことを前提に、自身の研究成果をより多くの人にわかりやすく伝えるよう努力してください。結果として意思伝達が不十分な場合でも伝達しようとする意欲や工夫を含めて審査します。また、聴衆のみならず審査員の方々は、講演者の方が必要以上に緊張しないよう、和気あいあいとした講演会場づくりにご協力ください。英語口頭発表賞の詳細は、<https://sites.google.com/site/esj63engpresenawardjp/>にも掲載しますのでご覧ください。●英語口頭発表賞は一般講演(口頭発表)と基本的に同じ運営方法で実施されますので「一般講演(口頭発表)」の説明を確認の上、発表用ファイルのフォーマットや提出期限などにご注意ください。●それぞれのセッションの座長については英語口頭発表賞部会が担当します(これは一般口頭発表と異なります)。●英語口頭発表部門は以下の6つの部門でそれぞれ審査します。

Animal Behavior, Animal Ecology, Applied Ecology, Ecosystem Ecology, Plant Ecology, Plant-Animal Interaction

●講演数が増えることでセッションを盛り上げるため、英語口頭発表賞のセッションには賞の対象でない英語による一般講演を混在させました。今回は、一般講演と審査対象講演を合わせて75件の発表が予定されています。詳細は上記HPにて公開します。みなさまのご来場をお待ちしております。

一般講演(ポスター発表) | 3月22,24日にポスター会場(展示棟)で行います。●展示場所は「ポスター発表案内デスク」およびポスター会場の「展示案内地図」に掲示されますので確認してください。わからない場合はスタッフにお問い合わせください。●ポスター賞に応募した方の発表日は3月22日、それ以外の方は3月24日です。ポスター賞に応募している方は、22日10時までに展示を完了してください。展示が遅れた場合は、審査が受けられません。24日に発表される方は、ポスターの展示を発表当日の11時までに完了してください。ポスター会場の開場時間は、9:30~16:00です。●ポスターは90×210cm(縦長)までのサイズで作成してください。ポ

スター貼り付け用のピンや画鋏は各自で用意下さい。●それぞれの発表日にコアタイム(11:30-13:30)を設けておりますので、発表者の方はポスター前にて説明をしてください。●ポスターの撤去は、当日の16時までに完了してください。撤去されず残されたポスターは受付(展示棟)で預かりますが、会期終了後まで(24日17時まで)残っていたポスターは処分させていただきます。

ポスター賞 | 日本生態学会では、若手研究者の奨励のために優秀なポスター発表に賞を贈ります。ポスター賞の運営方法や選考基準については大会HPに記載されています。●受賞者は、3月23日の10:00から、ポスター発表案内デスク付近にて受賞者リストを掲示・発表します。●授賞式は、3月23日11:00より、Room A(橘)会場で行います。なお、出席できない受賞者は3月23日13:00以降、「受付」で賞状を受け取ることができます。●「最優秀賞」受賞ポスターは、3月23日17:30まで、受付付近(展示棟)に特別展示されます。最優秀賞を受賞する可能性のある方には、3月22日の15:30~15:45に最優秀賞ノミネートの札を貼りますので、ポスターをお貸しください。特別展示終了時(3月23日17:30)より前にポスターを持ち帰る受賞者は、「受付」に申し出た上、お持ち帰りください。会期終了後まで残っていたポスターは処分いたします。

高校生ポスター発表 | 高校生のポスター発表に関する案内は、事前に世話人(西脇亜也)から引率教員あてに別途送付します。

各種集会(シンポジウム、フォーラム、企画・自由集会) 設定された時間内に終了してください。時間延長はできません。●発表には会場に設置されているプロジェクターが使用できます。ただし、プロジェクターに接続するパソコンおよび発表用ファイルは、企画者側で準備してください。●企画集会と自由集会会場には会場係がつかいません。問題がありましたら大会本部までご連絡ください。

チラシ・パンフレット類 | プロジェクト広報や案内等のチラシ・パンフレット配布を希望する団体や企業は展示棟ポスター会場休憩コーナー付近に配架機を設けていますので、そこに置いて会員が自由に持っていただけるようにして下さい。配架は自由ですが、スペースに限りがありますので譲り合いの配架をお願いします。生態学会として相応しくないと判断されるチラシ・パンフレットは撤去することがあります。パンフレット類の残部回収は3月24日17:00までに行ってください。それ以後に残されていたチラシ・パンフレット類は廃棄いたしますので、ご了承下さい。

GENERAL INSTRUCTION

Access to the venues: Please see the map of "Access to main venue" etc.

By Air: From Sendai Airport, take the Sendai Airport Line, and get off at the JR Sendai Station (20 min).

By Train: The closest station to the venue is International Center Station. International Center Station is a 5-minute ride from JR Sendai Station on the subway (Tozai Line) bound for Yagiyama Zoological Park.

Check in: Participants, who complete the payment before 17:00 (JST), Feb. 29, 2016 through the online payment system operated by JTB AMARYS (<https://amarys-jtb.jp/esj63/>) and registered the address in Japan, are not necessary to go to reception desk. You will receive your name tag and receipt by Mar. 15, 2016. Participants with name tags do not need to check in on site. Participants who lost their name tag should be issued again at reception desk. Other participants should complete the prescribed processes and receive name tags and so on at the reception desk. Reception desk will be open at Exhibition Building of Sendai International Center (subway station side) from Mar. 21 to 24 at 9:00. Details are shown in venue map. Please wear your name tag at the venues. Online registration and payment through the system provided by the JTB AMARYS will be accepted until Feb. 29, 17:00 (JST). Discount price will be applied for participants who complete their payment before 17:00 (JST), Feb. 2, 2016. Organizer/presenter in the official session, please complete your payment before 17:00 (JST), Feb. 2, 2016 through the online payment system operated by JTB AMARYS. Undergraduate and younger students (including high school and junior high school students) who participate in the meeting as audiences (not as presenters) are exempt from registration fees. Applicants should not apply for prior registrations but claim for the exemption by showing student ID cards at the registration desk. Printed book of abstracts will not be issued. All abstracts will be available through the official website (<http://www.esj.ne.jp/meeting/63/english.html>) as HTML files.

Parking: There is an underground toll parking lot at the venue (Sendai International Center), while the

parking spaces are limited. Using public transportation services is recommended. It takes 5 min by subway Tozai Line or 30 min by walk from JR Sendai station to the venue. Please see Access to main venue (Sendai International Center) for the details.

General meeting: General meeting will be held on Wed., Mar. 23, 9:30 in Sendai International Center (<http://www.aobayama.jp/english/>). General meeting is open only for the society members. After the General meeting, the award ceremony and the award lectures will be held at the same place.

Banquet: Please enjoy the banquet starting at 18:30 (Doors open at 18:00) on March 23, 2016 at Sendai Kokusai Hotel (25 min walk from the venue, 10 min walk from the subway Sendai sta.). Applications for the banquet are available on the official website until Feb. 29, 17:00 (JST). On-site applications will not be accepted, and prior online applications are required.

Nursery: A nursery for babies and infants will be available during Mar. 21–24. Reservations are required beforehand. Details on the available time, costs, and entry method is shown in Japanese (<http://www.esj.ne.jp/meeting/63/takuji.html>). The deadline of the entry is Feb. 19, 2016, 15:00 (JST). Please ask Nursery Charge of Executive Committee of ESJ63 (nursery@mail.esj.ne.jp) as soon as possible.

Break room for parents and children (family room): A break room for parents accompanying babies, infants, or elementary school students will be available during Mar. 21–24. Reservations are not required. The room can be used for having lunch, nursing and breast-feeding by parents with their children. However, it is not open for the children without parental care. Details on the available time and so on will appear in Japanese on the website of the ESJ63 (<http://www.esj.ne.jp/meeting/63/takuji.html>).

Accommodation: Participants are responsible for booking accommodation by themselves. A directory of hotels is provided by the JTB AMARYS. There are a lot of accommodations in Sendai City, but most hotels are expected to be full because of the other academ-

ic meeting or events before and after our schedule. We recommend booking accommodations as soon as possible. We also recommend to book the last day (the night of Mar. 24), since the Workshops etc. are scheduled until the evening of the last day.

Cafeteria: There is a small restaurant at the venue, but is expected to be crowded. In addition, since there are no other restaurants around the venue, please go out to the downtown for lunch by subway or bring your lunch. Also we plan lunch sale at the venue. Details of the lunch sale will be appeared in the official website (<http://www.esj.ne.jp/meeting/63/english.html>). Please use Rest Corner for having lunch around the reception desk in the Exhibition Building. In the lunch time, you are allowed to eat and drink at other lecture rooms, but not at the poster hall. We are asking for bringing the trash back.

Connection to networks: Wireless LAN is available in the venue. Account and password will be informed at the reception desk. However the accessibility is not guaranteed. Please download the program and abstract before you come to the ESJ63.

Inquiry during the annual meeting: If you have any questions during the meeting, please come to the head office or use the inquiry form on the website (<http://www.esj.ne.jp/meeting/63/inquiry.html>).

Public lecture: We have a public lecture "Changes in ecosystems after the 2011 Tohoku earthquake and tsunami" at 5th floor of AER of Sendai City Information & Industrial Plaza on Sunday, 20 March. Every ESJ member is welcome and free to join the public lecture. Details are shown at official website. By the way, audiences who come to the public lecture will receive a book entitled "Changes in ecosystems after the 2011 Tohoku earthquake and tsunami" written in Japanese edited by ESJ Tohoku Branch Association, which related to the public lecture, on the first-come-first-served basis.

NOTICES FOR PARTICIPANTS

The ESJ63 meeting will be held subject to the rules written in the bylaw for the ESJ meetings (Printed in the program in Japanese). All the participants should keep the bylaw and notices below, and follow instructions by members of the organizing committee, chairpersons, and session managers.

NOTICE TO ALL PARTICIPANTS

Caution for copyrights and portrait rights: Permission by presenters is required for taking photographs or video images of oral and poster presentations. Be careful not to disturb other audience members when taking photographs or videos.

Food, drinks and smoking in the venue: There is a Resting Corner around the reception desk of the Exhibition Building, where you can use for having lunch etc. Smoking is prohibited in the whole venue. Smoking is permitted in designated areas outside the building. Eating and drinking are not allowed in the poster hall. At all the time excluding lunchtime, eating and drinking are not allowed in the other lecture halls. We are asking for bringing the trash back. Regulations set by Sendai International Center should also be observed.

NOTICE TO PRESENTERS

Career explorer mark: If you are a student or a post-doctoral fellow searching for a research job, you may indicate "Career Explorer Mark" on your oral or post-

er presentation. Download Career Explorer Mark file from The Japan Society of Applied Physics Website (<http://www.jsap.or.jp/activities/annualmeetings/CEmark.html>) and indicates it at the title page of your oral presentation or near the title of your poster. Permission to use the mark has been accorded to the participants of the ESJ63.

Oral presentation: Session rooms are equipped only with an LCD projector and a personal Computer. (OS: Windows 7), and Microsoft PowerPoint 2013 and Adobe Reader are installed on the PC. The use of your own PC is not acceptable.

Instruction for preparing presentation file: Please pay full attention to the above equipment. In preparing presentation file, you should understand that your presentation file will be registered in advance and pre-loaded on the PC in your presentation room. You should also follow the instructions below. Your PowerPoint file should be compatible to **Microsoft PowerPoint 2013 on Windows 7**. To use only the standard font sets on this OS or embed fonts into the file are recommended. A file made on Mac OS should be converted to a Windows file and its validity should be confirmed on a Windows PC before registration. Your presentation file (in the form of *.ppt, *.pptx, or *.pdf) should be united to a single file of less than **20 MB**. Make sure to avoid including high-resolution photos or graphics. It is possible to insert movie clips or so into

your presentation file, if the resultant file size does not exceed the limitation. However, we do not guarantee it works as you intended. **Deadline for submission of your presentation file is 17:00 (JST), Mar. 14, 2016.** Please upload your file on the official web site of ESJ63 (<http://www.esj.ne.jp/meeting/63/english.html>) before the deadline. The name of each file will be automatically generated. If your presentation file is not submitted by the deadline, you will not be able to use the projector in your presentation. If you do not use a PC and an LCD projector in your presentation, please notify the organizing committee from the inquiry page (<http://www.esj.ne.jp/meeting/forms/inquiry/index.cgi>) by 17:00 (JST), Mar. 14, 2016. Without the notification, your presentation will be canceled. Each presentation at the oral sessions should be 15 min long (12 min for presentation followed by a 3 min question and answer). Sounds of a bell will inform you of elapsed times from the start of your presentation; first at 10, second at 12 and finally at 14.5 min. Please be strictly punctual. At the start of your presentation, an operator in your session room will operate the PC and show the first slide of your presentation. Then, either you can operate the PC by yourself or you can ask him/her to operate the PC. Each presenter should chair the next presentation after his/her presentation. A member of the organizing committee will take the chair of the first presentation in a session.

English presentation award: The English Presentation Award (EPA) is launched since ESJ61 to promote scientific communication in English at ESJ annual meeting, and to provide an opportunity to share scientific ideas with international students and visiting researchers in Japan. The EPA is not an English speech competition. Each speaker is expected to pay serious effort to give a presentation effectively communicating the science to the audience. It is assumed that most of audience members are not native speakers of English, and that they have diverse scientific backgrounds. The effort should be made to make it easy for such an audience to clearly understand the research content and significance. Even when the communication between a speaker and the audience is not perfect, the effort to communicate will be also positively evaluated. The session chairs, EPA working group, reviewers, and audiences will keep a harmonious atmosphere in the sessions to avoid making speakers too nervous. Details of session organization and evaluation method are available on the official website (<https://sites.google.com/site/esj63engpre senawardjp/english>). The EPA sessions will be organized in the same methods as those for "oral presentation". Therefore, please pay full attention to the above notices in "oral presentation", e.g., the format of presentation file and the deadline for submission of your presentation file. The EPA working group member(s) will chair each session (which is different from "oral presentation"). The EPA will consist of the following six sessions and will be evaluated independently: Animal Behavior, Animal Ecology, Applied Ecology, Ecosystem Ecology, Plant Ecology, Plant-Animal Interaction. To promote these English sessions by increasing the number of talks, some oral presentations in English that were not nominated for the award are allocated to the sessions. We will have 75 presentations including oral presentations in English by award applicants and others. For details, please visit the website. All participants in ESJ63 are very

welcome to join the sessions for the English Presentation Award.

Poster presentation: Poster presentations will be held in the poster hall (Exhibition Building) on Mar. 22 and 24. The position of your presentation will be indicated by the number of presentation on the exhibition board set near the "Information Desk for Poster Presentations", and on the Poster Presentation Map at the poster room. If you cannot find the place of your presentation, please ask a staff at the information desk. Posters of the prize applicants will be posted on Mar. 22 and the other posters on Mar. 24. Those who have applied for poster prize should mount their poster by 10:00 on the day of presentation. Posters mounted later will be excluded from the judgment. If your poster is assigned on Mar. 24, please put your posters on the board before 11:00 on the presentation day. The poster hall will be open between 9:30 and 16:00. Each poster will be mounted on a 90 cm width by 210 cm height poster board. Each presenter should prepare pins or thumbtacks necessary for sticking his/her poster on the board. No Scotch tape or adhesive tape is permitted. During the core time of poster presentation (11:30–13:30), please stand by your poster and explain your paper on request of the audience. Posters should be removed before 16:00 of the presentation day. The remained posters will be kept at the reception desk until the end of the meeting (17:00 on Mar. 24), and will be disposed of afterward.

Poster prize: The Ecological Society of Japan (ESJ) awards Poster Prize to excellent poster presentations for encouraging young scientists. Policy of operation and the criteria for judgment will be found on the website (<http://www.esj.ne.jp/meeting/63/english.html#paward>). Please read it before preparing your poster for application, and take the suggestions in consideration. List of awarded posters will be posted from 10:00 on March 23 near the reception desk in the Exhibition Building. Award ceremonies will be

held at the Room A at 11:00 on March 23. Award winners should join the ceremony in this period. Award winners who cannot join the ceremony should receive the certificate of award at the reception desk after 13:00 on March 23. The best prize winning poster will be honorably posted on special boards in the Exhibition Building until 17:30, Mar. 23. We ask the potential best prize winners to leave their posters between 15:30 and 15:45 on Mar. 22. The best prize winners who would like to remove their posters before the end of the meeting should ask a staff in the reception desk and remove them. Those posters remaining after the end of the meeting will be disposed.

High school students' poster presentation: Guidance for the poster presentations by high school students will be sent to the guiding teachers from the contact person (Aya Nishiwaki).

Symposia, forums, organized Sessions, and workshops: The organizers of these sessions should manage the sessions to conclude within the scheduled time. No extension of time is granted. The Organizing Committee provides only an LCD projector. The organizers should bring a PC which preloads presentation files of all the speakers. No operator will stand by for Organized Sessions and Workshops. If any trouble occurs, please inform the head office.

Flyers and pamphlets: Organizations and companies that are intended to distribute flyers or pamphlets of the project publicity and information place them on a desk around the Rest Corner at the poster hall in Exhibition Building as the ESJ members feel free to take them. Placing is free, but please make harmonize with each other, since the desk space is limited. However, flyers or pamphlets that were not suitable for the ESJ will be removed. In addition, the remaining pamphlets will be taken away by 17:00 on March 24. Otherwise, pamphlets will be discarded.

日本生態学会大会規則

目的

第1条 この規則は、一般社団法人日本生態学会(以下「本法人」)が開催する学術集会である年次大会(以下「大会」)について必要な事項を定める。大会は生態学の振興に寄与するためにその研究成果を発表する場とする。同時に生態学研究者の交流の場を広く提供することを目的とする。

名称

第2条 大会の名称は「日本生態学会大会」とする。
2. 本法人の成立に伴い、大会実施に関する円滑な移行を図るために、以下の条項を適用する。
①大会の回数については、1953年に開催された大会を第1回とし、法人成立後も年次ごとに回数を加える。

②各大会の名称は回数を冠して、「第60回 日本生態学会大会」などとし、略称を「ESJ60」などとする。

周期

第3条 大会は年1回開催する。

運営

第4条 大会は本規則第10条で定める大会企画委員会(以下、企画委員会)と第11条で定める大会実行委員会(以下、実行委員会)によって運営される。

開催地区

第5条 大会の開催地区は、理事会の議を経て総会で決定する。
2. 大会会場は実行委員会が企画委員会との協議のもとに定め、理事会の承認を得る。

日程

第6条 大会日程は実行委員会が企画委員会との協議のもとに定め、理事会の承認を得る。

参加費

第7条 大会参加費と懇親会費は実行委員会が企画委員会の協議のもとに定め、理事会の承認を得る。

行事

第8条 大会開催期間中に以下の各号に掲げる行事を実施する。

1. 本法人会員(以下「会員」)による学術論文の一般講演(口頭発表及びポスター発表)
2. シンポジウムをはじめとする研究集会
3. 定時代議員総会(以下「総会」)
4. 各種専門委員会
5. 本法人が定める各賞の授与式
6. 懇親会
7. その他、総会が必要と認めたもの

参加者、発表者

第9条 大会には本大会の目的を理解し、所定の手続きを経たすべての者が参加できる。会員資格は問わない。

2. 一般講演、研究集会(以下、一般講演と研究集会を合わせて「学術セッション」という)の論文発表者は、会員に限る。ただし、企画委員会、実行委員会が認めた場合、発表者の会員資格は問わない。

大会企画委員会

第10条 大会の準備および運営のため、本法人は常設専門委員会である大会企画委員会を設ける。大会企画委員会は、主に学術セッションの準備・運営を担当する。

大会実行委員会

第11条 大会開催の準備および運営のため、開催地となる地区会は大会実行委員会を組織する。大会実行委員会は、会場管理・会計事務等大会運営に必要な事項を担当する。

会計

第12条 大会の会計は本法人会計の事業関係経費として処理される。

参加者の義務

第13条 大会参加者は大会参加費を支払わなければならない。ただし、企画委員会、実行委員会が認めた場合、大会参加費の支払いは免除される。大会参加者は「大会規則」・「注意事項」等の大会運営に関わる諸規定を遵守しなければならない。

退場

第14条 実行委員会委員長あるいは企画委員会委員長が大会の運営に支障をきたすと判断した場合は、会長の下承を得て、参加者に大会会場からの退去を求めることができ、過去に退去を求められた者の大会への参加を拒否することができる。

プログラム、要旨集

第15条 企画委員会はプログラムおよび要旨集を編集する。プログラムおよび要旨集の著作権は本法人に帰属する。投稿された原稿に、公序良俗に反する内容が含まれると判断した場合、企画委員会は著者に内容の修正を求めることができる。著者が修正に応じない場合は掲載を差し止めることができる。

改正

第16条 この規則の改訂は理事会の承認を得なければならない。

別規則

第17条 この規則の施行に必要な事項については、企画委員会の議決を経て別に定める。

附則

1. この規則は、2014年第61回大会から適用する。

仙台へのアクセス ACCESS TO SENDAI CITY



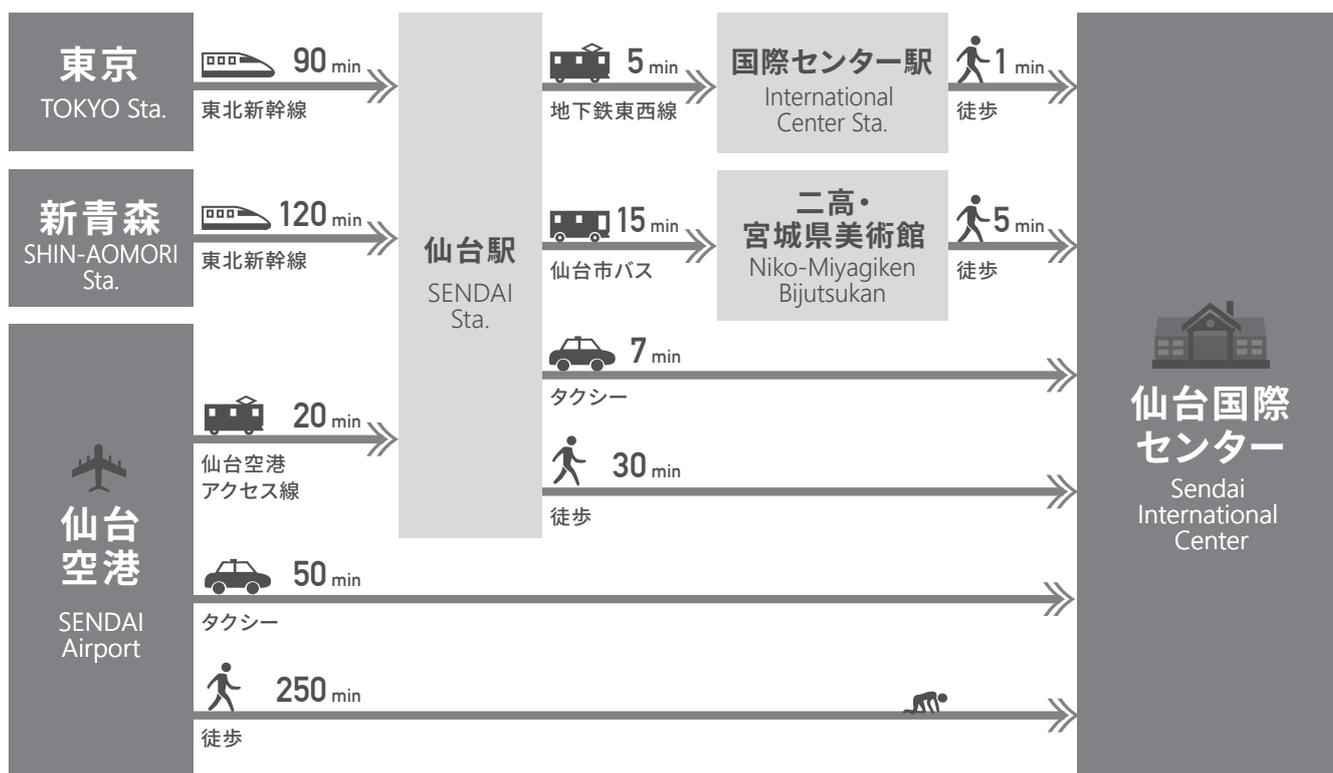
仙台空港には、全国の主要な空港から直行便でお越しいただけます。東北新幹線を利用すれば、東京駅から仙台駅まで最短 90 分です。

Connecting flights from Seoul and Beijing are scheduled daily to connect Sendai with other countries. Passengers landing at Narita, Chubu or Kansai can directly connect to Sendai by a domestic flight.

You can get to Tokyo Station from Narita Airport by using the Narita Express.

From Tokyo Station, take the Tohoku Shinkansen (super express) to Sendai Station. It takes 90 min.

会場へのアクセス ACCESS TO MAIN VENUE



Shinkansen Super Express
 Train or Subway
 City bus
 Taxi
 On foot

会場周辺地図 MAP AROUND VENUES



主会場の仙台国際センターは、仙台駅の西側の広瀬川のほとりに位置します。東北大学川内キャンパスのすぐそばです。公開講演会等が開催される仙台市情報・産業プラザは、仙台駅前の商業ビル「AER」の中にあります。繁華街(国分町通り周辺)の最寄り駅は、青葉通一番町駅です。会場間の移動は、地下鉄東西線が便利です。

Subway Tozai-line is the most useful for traveling between venues. Aobadori-Ichibancho Sta. is the nearest station to downtown area.

仙台駅から会場 FROM SENDAI STATION TO MAIN VENUE

地下鉄 By Subway

乗車駅	仙台駅(東西線)
行き先	八木山動物公園
降車駅	国際センター駅
料金	片道 200 円 200 Yen/one way
所要時間	5 分 5 min

The closest station to the main venue is International Center Station, which is a 5-minute ride from Sendai Station on the subway (Tozai-Line) bound for Yagiyaama Zoological Park.

バス By Bus

乗り場	仙台駅西口 バスプール 15 番のりば
行き先	730「交通公園・川内」(毎時 1 本) 739「交通公園循環」(毎時 1 本)
下車	二高・宮城県美術館前
料金	片道 180 円 180 Yen/one way
所要時間	15 分 + 徒歩 5 分 15 min + 5 min walk

Take the city bus (No. 730 or 739) at the bus stop #15 of Sendai station bus terminal, and get off at "Niko-Miyagiken Bijutsukan." Each bus runs hourly!

会場案内 MAP OF MAIN VENUE

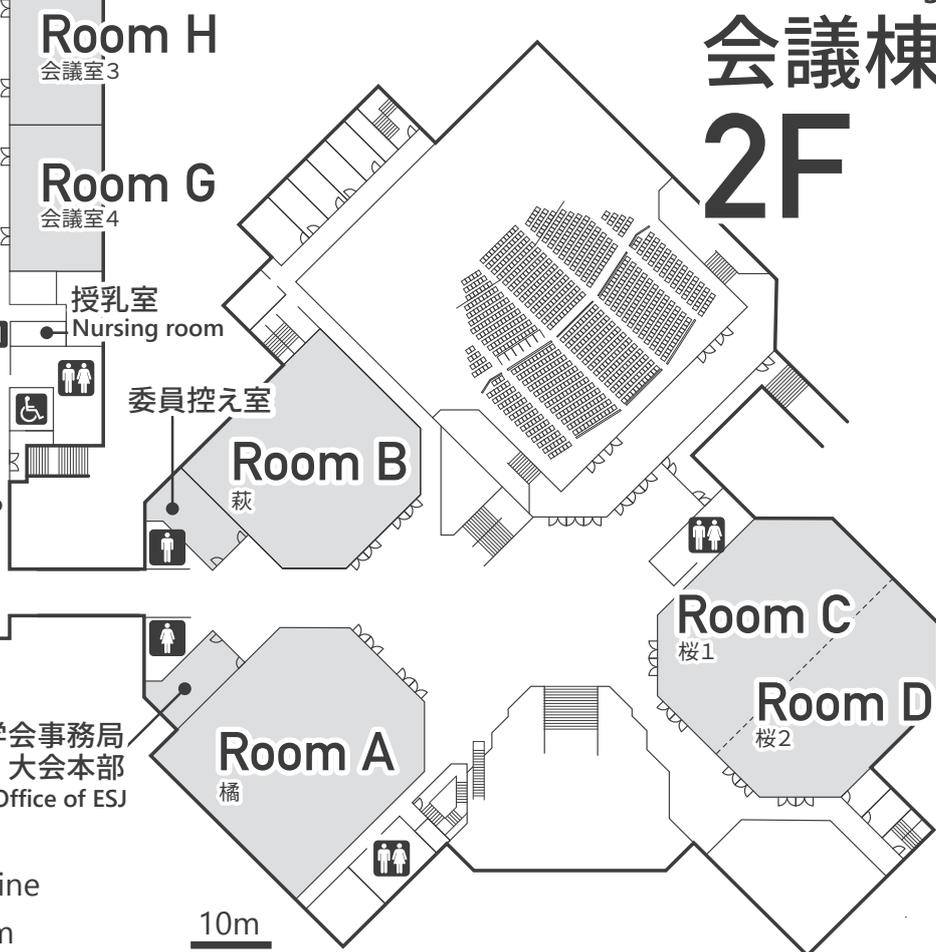
Exhibition Bldg
展示棟
1F



Conference Bldg
会議棟
1F



Conference Bldg
会議棟
2F



自動販売機 Vending machine

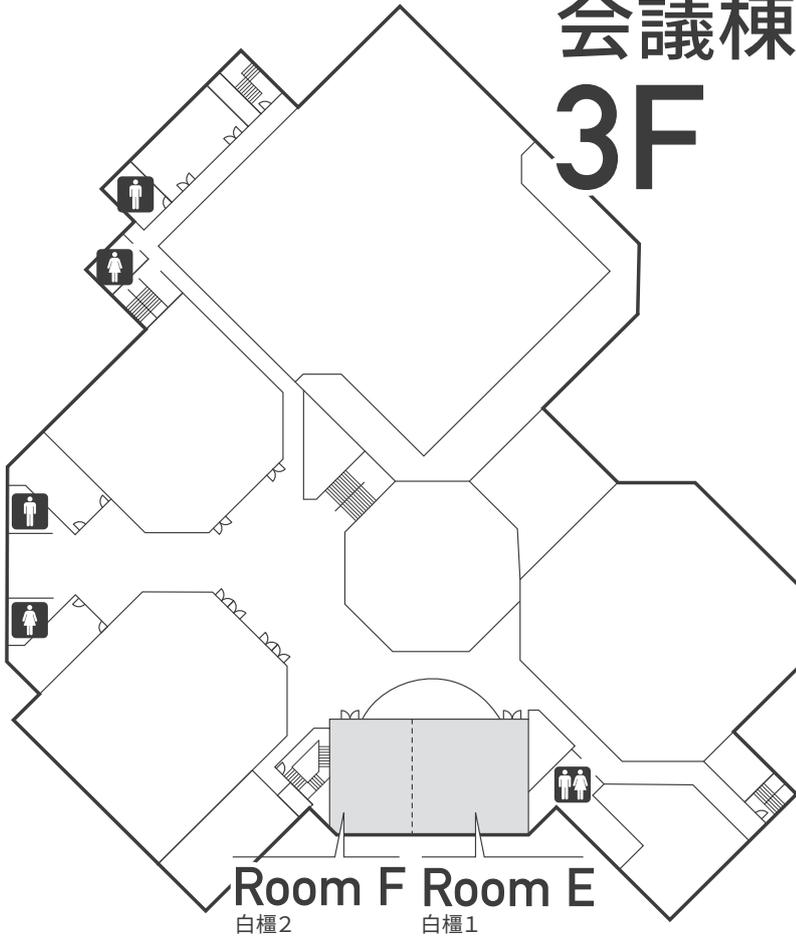
トイレ Toilet or Restroom

10m

Conference Bldg

会議棟

3F



注意事項

- 展示棟受付周辺には、休憩コーナーを設けていますので、昼食等にご利用ください。
- 建物内は全館禁煙です。喫煙の際は、屋外に設置されている喫煙コーナーをお願いします。
- ポスター会場での飲食は禁止です。昼食時にポスター会場以外の会場では飲食できます。ゴミは極力持ち帰るようご協力をお願いします。

懇親会会場

ACCESS
TO BANQUET



懇親会は仙台国際ホテルで開催されます。JR仙台駅あるいは地下鉄仙台駅「南2出口」より徒歩で5分程度です。シャトルバス等は運行されません。The conference banquet will take place at Sendai Kokusai Hotel. Five minutes on foot from JR Sendai Station and Subway Sendai Station.

● **学会各賞授賞式・受賞記念講演** 3月23日（水）仙台国際センター RoomA（橘）

授賞式 11:00～12:00

第14回 日本生態学会賞受賞記念講演

北山 兼弘（京都大学大学院農学研究科） 13:00～13:15

曾田 貞滋（京都大学大学院理学研究科） 13:15～13:30

第20回 日本生態学会宮地賞受賞記念講演

高橋 一男（岡山大学大学院環境生命科学研究科） 13:30～13:50

「モデル生物で挑む生命システムのロバストネスと進化可能性研究」

仲澤 剛史（国立成功大学生命科学系） 13:50～14:10

「新たな生物群集観：個体成長とニッチシフトの重要性」

松田 一希（京都大学霊長類研究所） 14:10～14:30

「テングザル研究：パワーエコロジーに未来はあるか？」

第4回 日本生態学会奨励賞（鈴木賞）受賞記念講演

立木 佑弥（九州大学大学院理学研究院） 14:40～14:55

「生理-生態-進化を数理で結ぶ ～次世代の Janzen を目指して～」

長谷川 克（総合研究大学院大学先導科学研究科） 14:55～15:10

「異性獲得のための多様な手段とツバメの地域差形成」

山尾 僚（弘前大学農学生命科学部） 15:10～15:25

「なぜ植物はアリと共生するのか？ -生育条件に応じた可塑的な防御と成長への投資-

● **高校生ポスター発表会「みんなのジュニア生態学」**

高校生ポスター発表会「みんなのジュニア生態学」は、生態学の社会への普及のため、日本生態学会によるアウトリーチ活動の一環として企画します。大会会期中に高校生（中学生も歓迎です）にポスター発表をしていただき、生態学に関連する諸分野の研究者や学生との交流を通して、生態学全般への関心をもっていただくのが本企画のねらいです。生き物の生態や環境に関わる生物学の内容であれば、どのような分野や題材の発表でも大歓迎です。なお、高校生ポスター発表会での発表は、大会参加費は不要（無料）です。昨年度より、「みんなのジュニア生態学講座－高校生と研究者の交流会」を新たに企画しました。気鋭の若手生態学者による高校生向けのトーク（話題提供）と高校生と研究者の交流会を行います。詳細は随時、大会公式ホームページなどでお知らせします。

2016年3月21日[月・祝] 仙台国際センター（ポスター発表：展示棟 Poster hall, 交流会・表彰式：RoomA（橘））
開場／9:00

発表コアタイム（発表・審査）／10:30～12:30（遠方の高校は11:30～12:30）

交流会：みんなのジュニア生態学講座／13:45～15:15

成績発表・表彰式／15:30～16:00

参加費／無料。発表者の全員（人数に制限なし）および引率者は、大会参加費が免除されます。

発表資格／原則として、高等学校または高等学校に相当する教育機関に在籍する生徒であること。国籍は問いません。

○ **みんなのジュニア生態学講座－高校生と研究者の交流会**

日本生態学会で現在大活躍中の若手3名に、ご自身の研究内容だけでなく、生態学の研究を目指したきっかけや中学～高校の様子を語って頂きます。一般の参加者の方もご参加いただけますが、会場が込み合った場合は、高校生に優先的に席を譲って下さるよう、お願いします。

講演 細 将貴（京都大学）：右利きのヘビと左巻きのカタツムリ

岡本朋子（岐阜大学）：匂いで虫をよぶ花と、花の匂いを進化させる虫

角谷 拓（国立環境研究所）：生物分布の変化を予測し保全に活かす

「生態学から見た東日本大震災」

2016年3月20日（日）13時00分～16時00分

仙台市情報・産業プラザ 多目的ホール

2011年3月11日の東北地方太平洋沖地震および津波は、特に東北地方の太平洋沿岸の広範な地域に甚大な被害をもたらしました。この地震と津波により、この地域の沿岸生態系にも様々な変化が起きました。また、福島第一原子力発電所周辺では放射性物質が大量に放出され、今なお広い地域が立ち入り禁止となっており、そこでは里地の植生の変化や、特定の野生動物の増加が大きな問題となっています。本講演会では、東北沿岸で地道な調査を続けてきた研究者が東日本大震災発生からの5年間で振り返り、大地震と津波によって生態系に何が起こったのか、その後どのように変化してきたのかということを一一般に向けて報告いたします。その報告を踏まえ、将来の震災に対し、生態系サービスや生物多様性を維持していくために、どのような努力が我々に可能なかを参加者とともに考え、議論を深める予定です。

プログラム

開会の辞 中静 透（東北大学）

講演

1. 震災などの自然災害と生物多様性
横山 潤（山形大学）
2. 豊かさの持続：よみがえる海浜生態系に学ぶ
平吹喜彦（東北学院大学）
3. 震災後の植物多様性と復旧事業：希少種の繁茂とその運命
黒沢高秀（福島大学）
4. 津波が干潟生物に与えた影響とその後の回復ならびに問題点
鈴木孝男（東北大学）
5. 原発事故由来の放射性セシウムによるイノシシの汚染の実態
小寺祐二（宇都宮大学）

司会 松政正俊（岩手医科大学）

○参加費：無料

講演者が執筆した図書『生態学が語る東日本大震災 自然界に何が起きたのか』を、非会員を優先して、先着350名様に1冊謹呈します。

○参加申込み方法

事前の申し込みは不要です。当日は、公開講演会用の受付で手続きをしてください。生態学会大会参加者の方も、当日の受付での手続きが必要です。

主催：日本生態学会

後援：環境省東北地方環境事務所・仙台市・東北大学（その他申請中）

※平成27年度科学研究費補助金（研究成果公開促進費）補助事業です。

S01 Plant-soil interactions to maintain biodiversity and functions of tropical forest ecosystems

Organizer Kazumichi Fujii

Unique features of tropical forests are their high biodiversity and productivity on strongly-weathered soils, which contrast with temperate forests that support much lower diversity on more fertile soils. Patterns and processes of plants, soils, and their interactions are diverse among tropical forests. New data are recasting the existing image of tropical forest-soil systems and raise new question: to what extent do plants, soils, or their interactions determine variation in biodiversity and functions among tropical forest ecosystems? To answer this question, different viewpoints of plant ecology and soil ecology, and those from different research sites are needed. We invite tropical soil scientists and plant ecologists from tropical America, Africa, and Southeast Asia to discuss the needs and possibilities of a cross-continental comparison.

- S01-1 Introduction: How to solve mysteries in plant-soil interactions in tropical forests
Kazumichi Fujii (FFPRI)
- S01-2 Soil phosphorus and the ecology of lowland tropical forests
Benjamin L. Turner (Smithsonian Tropical Research Institute)
- S01-3 Nitrogen and phosphorus dynamics in contrasting soil types under Cameroon tropical forests: challenges from a viewpoint of Africa
Makoto Shibata (Kyoto Univ.)
- S01-4 Latitudinal and altitudinal gradients of silicon accumulation by forest trees: the potential importance of plants in silicon cycling in lowland tropical forests
Kaoru Kitajima (Kyoto Univ.)
- S01-5 Mechanisms of reproduction of dipterocarp trees in tropical rain forest in Southeast Asia
Tomoaki Ichie (Kochi Univ.)
- S01-6 Diversification of tropical rain-forest ecosystems in association with the biogeochemical asymmetry of phosphorus and nitrogen
Kanehiro Kitayama (Kyoto Univ.)

S02 保全科学が挑む情報のギャップ

企画者：天野達也（ケンブリッジ大学），大澤剛士（農業環境技術研究所），赤坂宗光（東京農工大学）

科学が生物多様性の保全に直接貢献するためには、データを集積し、そこから科学的知見を得て、その知見を現場で活用するという情報利用の過程を経る。しかしながら、これまで集積されてきたデータの量や種類は、科学的研究の需要とは必ずしも一致しない。また、科学が蓄積してきた知見と、保全活動や政策の現場が必要とする情報が一致しないこともよく知られている。こういった情報利用の過程に存在するいくつもの「ギャップ」は、生物多様性の保全に対して科学が貢献する際の障壁となっている。IPBESによる評価やJBO2などを通して科学の果たす役割が国内外で問われる今、まさに我々はこの情報のギャップに能動的に挑んでいく必要があるだろう。

このシンポジウムでは、まず「保全科学」が直面している情報のギャップの詳細とそれを生み出す要因に

ついて説明する。次に情報のギャップを克服するための取組みとして、(1) 情報が少ない種や地域を対象とした一次データの集積、(2) 情報の欠如を補うモデリング、(3) 研究 - 実務間ギャップの克服、という3つの側面から具体的な取組みについて講演を行う。

S02-1 保全科学における情報のギャップと3つのアプローチ

天野達也 (ケンブリッジ大学)

S02-2 情報が欠如した種の分布をどうモデリングするか

石濱史子 (国立環境研究所)

S02-3 生態学的データの空間的・分類群間偏りを解消するための取組み

大澤剛士 (農業環境技術研究所)

S02-4 研究 - 実務間ギャップ1: 政策が必要とする科学的情報・知見とは

大澤隆文 (環境省)

S02-5 研究 - 実務間ギャップ2: 保全活動の現場が必要とする科学的情報・知見とは

高川晋一 (日本自然保護協会)

シンポジウム

3月22日 13:30-16:30

会場 RoomA

S03 豊かな国づくりに向けた生物多様性の活用政策

企画者: 西田貴明 (三菱UFJ), 岡野隆宏 (環境省)

近年、我が国の生物多様性政策は、従来の「自然環境の保護」に加え、「生態系を活用した豊かな国づくり」の視点が加わり、生物多様性の経済社会における主流化に向けた施策が展開されつつある。平成27年には、新たな国土計画(国土形成計画、国土利用計画)の策定とともに、社会資本重点整備計画の改定、気候変動適応計画の策定が行われ、これらの政府計画において「生態系を活用した豊かな国づくり」の考え方が盛り込まれている。例えば、生態系の機能を発揮させる社会基盤整備である“グリーンインフラ”や、生態系を活用した防災減災である“Eco-DRR”など、生態系の保全をツールと捉えた生物多様性政策の概念形成、計画策定が進められてきた。国土利用や社会資本整備に関する政府計画に「生態系の活用」が明確に盛り込まれたことは注目に値する。そこで、本シンポジウムでは、本年度に示された政府計画における生物多様性の位置づけを明らかにした上で、生態系を活用した経済社会における生物多様性の主流化に向けた政策動向を紹介しつつ、「豊かな国づくりに向けた生態系の活用」をテーマに研究開発、普及啓発、資金動員の観点から、今後政府計画に基づく、施策展開に向けて必要となる取組について議論をおこなう。なお、本シンポジウムは、生物多様性に関わる多様な主体の一層の連携、交流を目的としており、生態学の研究者だけでなく、行政担当者、民間企業、他分野の研究者、学生からの参加を募り、幅広い視点から具体的なテーマのもと実際の議論を進めたい。

テーマ: 生物多様性保全をツールとした社会課題解決に向けた生態学研究

コーディネーター: 西田貴明、岡野隆宏

コメンテーター: 中静透 (東北大)、岡部貴美子 (森林総研)、鎌田磨人 (徳島大学)、吉田丈人 (東京大)、奥田昇 (地球研)、大澤剛士 (農環研)、飯島勇人 (山梨県森林研)

S03-1 生物多様性を活用した新たな国づくりに向けて

* 岡野隆宏 (環境省)

S03-2 グリーンインフラ関連施策の国内外における動向
* 西田貴明（三菱 UFJ），加藤麻理子（国土交通省）

S03-3 地方自治体における生物多様性の保全と活用に関する司令塔人材の登用の必要性
* 橋本佳延（兵庫県博）

S03-4 生物多様性を活用したインフラ整備と地方創生の可能性
* 上野裕介（国土交通省・国総研）

シンポジウム 3月24日 13:30-16:30 会場 RoomC

S04 環境 DNA による生態学研究の新たな展開

企画者：土居秀幸（兵庫県大院・シミュレーション），山中裕樹（龍谷大・理工）

環境 DNA とは，水中や土壌など生態系内に存在する DNA 断片のことである。かつては微生物の調査・研究などに用いられてきたが，近年，湖沼や河川，海洋などの水中に存在する環境 DNA を利用して魚類などの大型生物の分布や生物量などを推定する新たな手法が開発されつつある。環境 DNA 手法は水をすくって分析するだけで調査できることから，既存の採捕などの手法と比べて低コストで多くの調査地を調査できることや，生息場所を破壊せずに調査できるなど多くのメリットがある。本シンポジウムでは，ここ数年で日本の研究グループが開発してきた，環境 DNA に関連する様々な技術について紹介する。具体的には，定量 PCR 法を用いた環境 DNA による生物分布，SNP 解析，デジタル PCR を使った解析，そして，ユニバーサルプライマーによる環境 DNA メタバーコーディングなどの手法と野外での適用例を紹介する。そして，今後の環境 DNA がどのように，生態学のツールとしての活用できるかについて議論したい。

S04-1 趣旨説明：環境 DNA による生物分布推定
土居秀幸（兵庫県大院・シミュレーション）

S04-2 種特異的プライマーセットとリアルタイム PCR による魚類の分布推定
山中裕樹（龍谷大・理工），櫻井翔，本澤大生，本郷真理，辻冴月（龍谷大・院・理工）

S04-3 SNP の定量的解析による遺伝子型頻度の推定
内井喜美子（大阪大谷大・薬），土居秀幸（兵庫県大院・シミュレーション），源利文（神戸大・発達），山中裕樹（龍谷大・理工）

S04-4 デジタル PCR を用いた生物分布・生物量推定
土居秀幸（兵庫県大院・シミュレーション），内井喜美子（大阪大谷大・薬），高原輝彦（島根大・生物資源），松橋彩衣子（兵庫県大院・シミュレーション），源利文（神戸大・発達），山中裕樹（龍谷大・理工）

S04-5 魚類の環境 DNA メタバーコーディング：データ主導型・発見探索型アプローチがもたらす新たな展開
宮正樹（千葉県立中央博物館）

S04-6 魚類環境 DNA シークエンスデータに対応する種判別・多様性解析パイプラインの開発と展望
佐藤行人（東北大・ToMMo）

S04-7 野外水域でのメタバーコーディング：MiFish をつかった舞鶴湾での環境 DNA 解析
山本哲史（神戸大・発達）

フォーラム

3月21日 10:00-12:00

会場 RoomB

U01 生態学者よ、街に出よ！ Part 12 企業と生物多様性～企業と地域で再生する循環のしくみ～

主催：理事会 責任者：可知直毅（首都大学東京）、足立直樹（(株)レスポンスアビリティ）

企業活動を含めた人間社会は、自然のめぐみによって支えられています。「自然のめぐみ」のメカニズムを科学的に解明することは、生態学の重要な研究テーマです。また、最近はこの自然のめぐみを定量的に評価しようとする動きも加速しています。

しかし、過去数十年間、人間活動が巨大化するに伴い、自然のめぐみを支える生態系やそのつながり、あるいはその中における様々な循環が分断され、自然のめぐみが失われる状況も急増しています。この状況は、生態系にとっても、また人間社会にとっても危機的です。

一方で、近年はこれを真摯に反省する動きが高まりつつあり、企業は地域社会と協働して、分断された循環を再生しようという試みも生まれてきています。また、環境省も2014年12月に「つなげよう、支えよう 森里川海」というプロジェクトを省内で立ち上げ、2015年からは本格的にそれを展開しています。

こうした機運のもと、本大会が開催される宮城県における先進的な事例を紹介し、今後、研究者が企業や行政のこうした動きとどう協働できるかを考え、議論したいと思います。

[プログラム]

以下の3つの取り組みについて関係者の方々にご紹介いただいた後、総合討論をいたします。

- ・南三陸町でのバイオガス、木質ペレット等の様々な取り組み
（株）アミタ持続可能経済研究所 代表取締役 佐藤博之
- ・東松山市の復興街づくりにおける木を軸とする「木化都市」の実現
住友林業（株）森林・緑化研究センター長 中村健太郎
- ・「つなげよう、支えよう 森里川海プロジェクト」
環境省・生物多様性施策推進室 室長補佐 岡野隆宏

※演題はいずれも仮題、話題提供者は交渉中です。確定後、jeconet MLでお知らせします。

フォーラム

3月21日 12:15-13:45

会場 RoomB

U02 男女共同参画ランチョンフォーラム 「ライフイベントと研究生活：どうやって両立してますか？」

主催：キャリア支援専門委員会 責任者：キャリア支援専門委員会

日本生態学会は会員の25%が学生会員で、しかもその半数が女性です。年大会におけるシンポジウムの企画者や講演者に若い世代が多いことから、若手の活躍が目覚ましい活気ある学会と言えます。しかしながら、多くの若手は学位取得前後～安定したポストを得るまでの一番不安定な時期に、複数のライフイベント（結婚、妊娠・出産、育児）を抱えるケースが多く、様々な悩みや不安を抱えているのが現状です。今回のフォーラムでは、若手が直面する課題・問題に関して以下の4つのテーマを設け、それぞれのテーマにおける悩みや・問題点・課題、解決のためのアイデア・支援制度などを、グループディスカッション形式でざっくばらんに話し合いたいと思います。

<テーマ>

①別居婚 ②出産・育児との両立 ③管理職との意思疎通 ④男性の育児参加

<全体の進行>

1. 趣旨説明
2. 学会からの男女共同参画に関する情報提供
3. 各テーマに分かれてグループディスカッション
4. まとめ：各グループからの報告

ライブイベントまっただ中の若手会員の皆様、育児が一段落した中堅会員の皆様、そろそろ管理職・既に管理職の中堅・シニア会員の皆様の参加をお待ちしています。人生と研究における先輩・後輩・同輩の間で、知恵と課題を共有する機会にいただければと思います。ランチは各自持参してください。お子さん連れの方、男性も歓迎です。お気軽にご参加ください。

フォーラム

3月21(12:15-), 22, 24日(11:45-)

会場 RoomE

U03 ビブリオバトル @ 生態学会 2016 仙台

主催：理事会承認 責任者：岡部憲和（九大院シス生）、矢原徹一（九大院理学研究院）

ビブリオバトルとは、発表者が面白いと思った本を持ち寄り、5分間の紹介とその後のディスカッションを通じて、聴衆を含めた参加者が「どの本が一番読みたくなったか？」を基準に投票して競う書評イベントです。大学生を中心に、近年全国的な広がりを見せています。

本大会では、生態学会初の試みとしてビブリオバトルを実施します。テーマは「生態学に興味をもてる本」です。

発表は事前登録が必要です。事前登録の方法などの詳細は、以下のtwitterアカウントに掲載しています。

<https://twitter.com/seitaibiblo1>

見事優勝した方には、豪華景品を用意しております。皆様の参加をお待ちしています。

参考：

知的書評合戦 ビブリオバトル公式ウェブサイト：<http://www.bibliobattle.jp/>

フォーラム

3月21日 14:00-17:00

会場 RoomC

U04 生態学を活かしたキャリアパスを開拓するために

主催：キャリア支援専門委員会 責任者：キャリア支援専門委員会

環境産業市場の拡大や最近の新卒採用・キャリア採用の活発化もあり、生態学に関連する専門知識・技術が要求される求人もしばしば見られるようになった。その一方で生態学は、フィールド調査・実験・理論・統計解析等、多様な手法・技術を扱う学問であり、対象や手法が多様で広いがゆえに専門性を活かしたキャリアパスを描くのが難しいという現状がある。これは、2013年度に実施した「生態学者の就職先アンケート調査」の結果で、若手（特に学部卒・修士了）の7割以上が生態学とは関係のない職に就いていることから言えるだろう。本フォーラムでは、将来、生態学を活かしたキャリアパスを志向する若手に向けて、まず就職活動の心構えや企業の視点を解説する。続いて、生態学に関連する企業を招き、各企業の紹介および担当者との交流会を開催する。

<全体の進行>

1. 趣旨説明
2. 専門を活かした職に就くために：企業の視点、若手の心構え等 八代裕一郎（株式会社アカリク）

- 3. 参加企業によるショートプレゼンテーション（環境コンサル・ベンチャー・メディア・NGO等を予定）
- 4. 企業との交流会（ブース形式）

（協力：株式会社アカリク）

フォーラム 3月21日 17:30-19:30 会場 RoomF

U05 アクティブ・ラーニングを考える

主催:生態学教育専門委員会 責任者:西脇 亜也（宮崎大・農）、中田 兼介（京都女子大）、平山 大輔（三重大・教育）、三宅 崇（岐阜大・教育）

司会：宮田理恵（神戸女学院中学部高等学部、アンケート担当：平山大輔（三重大・教育）

次期学習指導要領ではアクティブ・ラーニングが重視されますが、生態学会会員の多くはアクティブ・ラーニングについてよく知らないと言う現状があります。生態学教育専門委員会でも、アクティブ・ラーニングについて議論したところ、アクティブ・ラーニングは生徒や学生のモチベーションを上げ、教わった内容の定着度が高い長所がある一方、座学より時間がかかる、多様な教材の準備に手間がかかる、教員の質・やる気に大きく左右されるなどの短所もあるのではないかと意見も出されました。実際にはどうなのでしょう？

アクティブ・ラーニングが本格的に導入された場合、「生態」の教育現場でも大きな変化が生じる可能性があると思われます。「生態」分野はアクティブ・ラーニング向きであり、昨年公開した生態教育支援データベースは、アクティブ・ラーニングの教材として有効かもしれません。一方、場合によってはアクティブ・ラーニングの利点を発揮できないかもしれません。

そこで、このフォーラムでは、アクティブ・ラーニングをフラットにとらえ、アクティブ・ラーニングとは何か？生態教育ではアクティブ・ラーニングをどのように扱えば良いのか？について、生態学会員に加えて専門家である、元文科省教科調査官の田代直幸氏と、高校現場でアクティブ・ラーニングを実践されてきた鍋田修身氏をお招きして議論したいと思います。

多くの方々のご参加をお待ちしております。

「アクティブ・ラーニングを考える」の趣旨説明

西脇 亜也（宮崎大学）

今後の生物教育の方向性と高大連携

田代 直幸（常葉大・教育）

中等教育現場でのアクティブ・ラーニング

広瀬 祐司（大阪府教育センター）

アクティブ・ラーニングの高校現場への導入と進捗の状況

鍋田 修身（島根県立隠岐島前高等学校）

コメント1 アクティブ・ラーニングの功罪

嶋田 正和（東大・総合文化・広域）

コメント2 アクティブ・ラーニングは必要か？

中田 兼介（京都女子大学）

フォーラム

3月22日 9:30-11:30

会場 RoomB

U06 生物多様性及び生態系サービスの総合評価における国内外の動向 —自然は人々の幸せにどう関わっているのか—

主催：理事会推薦 責任者：中静透，大澤隆文

2010年5月に公表された「生物多様性総合評価報告書」（環境省生物多様性総合評価検討委員会）（以下「JBO」）は、我が国の社会及び環境が大きく変容を遂げた過去50年間の生物多様性の状況の評価をまとめたものである。JBOはわが国初の生物多様性総合評価で、生物多様性の大きな状況とその問題点が示された。この結果は、生物多様性国家戦略2012-2020（以下「国家戦略」）の策定等、政策決定にも活用されている。一方、科学的なデータが一部の分野で少ないことや生態系サービスの評価が十分でないなどの課題が残された。

国際的な動きとしては、生物多様性と生態系サービスに関する動向を科学的に評価し、科学と政策のつながりを強化する政府間組織である「生物多様性及び生態系サービスに関する政府間科学-政策プラットフォーム」（IPBES）が、2012年4月に設立された。IPBESでは、2019年までに地球規模の生物多様性及び生態系サービスに関する評価が実施される予定となっている。

これらの流れを踏まえ、環境省生物多様性及び生態系サービス総合評価検討会では、昨年度から2年間かけて生物多様性及び生態系サービスの総合評価（JBO2）の作業を行い、わが国における生物多様性と生態系サービスの状況と傾向、それらが人間の福利にもたらす効果の評価を試みた。今後、JBO2は生物多様性の状況を国民に分かりやすく伝え、政策決定を支える客観的情報としても活用される予定。

本集会では、JBO2の結果を海外における類似評価や関連研究の動向とともに紹介し、JBO2の成果を生物多様性に係る政策にどう活用するか、また生態学の研究にどう活用するか、さらにはJBO2を通じて明らかになった課題も踏まえ、将来同等の総合評価の実施を想定した場合、今後どんな研究の発展が期待されるかなどについて討論を行う。

なお、フォーラムの趣旨説明は中尾文子（環境省）が行う予定。

生物多様性を巡る国内外の動向

岡野隆宏（環境省）

日本の生物多様性の総合評価結果

中静透（東北大学）

日本の生態系サービスと人間の福利への貢献に係る総合評価結果

齊藤修（国連大学）

海外における生物多様性・生態系サービスの総合評価の状況及び課題

大澤隆文（環境省）

フォーラム

3月22日 11:45-13:15

会場 RoomB

U07 若手が暴く Ecological Research 都市伝説：トレンド分析からとらえる本誌の真相

主催：Ecological Research 編集委員会 責任者：久米篤（九州大学）

・主催：英文誌編集委員会 楠本聞太郎、岡田慶一、角田智詞（英文誌次世代育成型エディター）

・概要：このフォーラムは、英文誌編集委員会が主催し、Springer Japan が協賛するランチョンフォーラムとして開催します。

Ecological Research (ER) 誌は、日本生態学会が発行する公式国際誌です。現在、日本生態学会は科研費（研究成果公開促進費）「国際情報発信強化」の補助を受け、ER 誌を通じた国際的な研究展開の誘導と成果発信の促進を目指しています。この目的を達成するためには、ER 誌が「生態学雑誌」としてどのような特色を持ち、現在どのような状況にあるかを、創刊からの時代的変遷をふまえて把握しておく必要があります。

ER 誌に対する一般会員のイメージは旧態依然としているかもしれません。「ER 誌は植生学の雑誌だ」、「日本人の投稿者数が減っている」、「最初の投稿は問答無用でリジェクトされる」といった、都市伝説的なうわさが流布しているものの、これまで客観的な分析が共有されてきたとは言えません。

そこで、本フォーラムでは、過去の掲載論文のトレンド分析に基づき、ER 誌に関する都市伝説を検証しつつ、現状評価を行います。また、国際情報発信強化へのこれまでの取り組みを紹介するとともに、今後の課題についても議論したいと考えています。日本生態学会・ER 誌のさらなる発展のためには、会員の皆さんの支えが不可欠です。ER 誌編集長などを招いたパネル討論も予定していますので、来場者の積極的なご質問・ご意見をお待ちしております。

なお、本フォーラムは、シュプリンガー・ジャパン社の協力を得て、ランチョンフォーラムとして開催します。先着 100 名の方にシュプリンガー・ジャパンにより弁当が提供されます。事前登録は不要で、会期中にランチョンフォーラム整理券を配布予定です。

フォーラム 3 月 22 日 13:30-16:30 会場 RoomB

U08 次世代長期研究：JaLTER10 周年企画第 1 弾

主催：大規模長期生態学委員会 責任者：日浦 勉（北大・苫小牧研究林）

長期に観測して初めて明らかになるトレンド、大スケールで比較して初めて分かるその場所の特質など大規模長期研究の魅力は計り知れない。しかしこのような研究は、生態学を始めて間もない若手にとっては敷居が高いこともまた事実である。このフォーラムでは、このような敷居を軽々と（？）乗り越えた若手研究者に自身の経験を語って頂く。森林、陸水、海洋など様々なフィールドステーションでそのインフラや長期データを活用することで自身の研究の枠組みを広げたり、共同研究者と新たな研究を進展させることの面白さや意義を共有し、今後の大規模長期研究の展開を議論したい。

大規模長期研究にたずさわること研かれるキャリア・視点とは

松下通也（林木育種場）

大規模長期研究が大学院生にもたらす研究リソースとしてのメリットー小川試験地における修士研究を例にー

森英樹（筑波大）

データベースやプロジェクト研究をつかった長期、大規模な研究の始め方：沿岸を例に

山北剛久（JAMSTEC）

観測からわかること、蓄積されたデータを広域で集めてわかること～長期生態学研究の果たす役割と課題～

松崎慎一郎（国立環境研）

Monitoring the future: long-term biodiversity monitoring in Southeast Asia

中村彰宏（中国科学院・XTBG）

U09 みんなで使おう、京大生態研の共同利用・共同研究拠点

主催：理事会 責任者：中野伸一（京大・生態研）、工藤洋（京大・生態研）

京都大学生態学研究センター（以下、京大生態研）は、平成3年度に全国共同利用機関として創設され、平成22年度からの第二期中期計画期間中は共同利用・共同研究拠点（以下、拠点）として文科省に認定され、我が国の生態学および関連学問分野の研究者の支援を通して、当該学問分野の発展に貢献してきました。この度、文科省により第三期中期計画期間中の拠点としても認定され、京大生態研は我が国だけでなく国際的な当該学問分野の発展のために、全力で拠点事業に取り組む所存です。共同利用・共同研究拠点制度とは、文科省が、我が国や世界の諸事情に鑑みて当該学問分野の重要性を認め、当該学問分野の更なる発展のために支援を行うものです。生態学および関連学問分野は大変広範囲に渡るため、生態学および関連学問分野の研究者コミュニティにはあといくつかの拠点があるべきかもしれません。しかし、少なくとも第三期中期計画の最初の数年間は、我々京大生態研は、当該学問分野における我が国唯一の拠点と言えます。このため、生態研が拠点であることは重要であり、またそれだけに我々には大きな責務があるでしょう。平成28年度からの6年間を迎えるに当たり、我々は拠点について研究者コミュニティの皆様にさらにご認知いただきたいと考えております。本フォーラムでは、研究者コミュニティの皆様に拠点継続のご報告を差し上げると共に、皆様のご意見を賜りながらさらに利用し易い、利用してより活性化する拠点として活動してまいりたいと考えております。拠点をご利用の際の問題・課題や、今後の京大生態研拠点に期待すること・やって欲しいこと、更には国内外の生態学・関連学問分野のために当拠点はどうか等々について、議論を深めたいと考えております。

京大生態研の拠点が歩んできた道とこれから歩む道

中野伸一、工藤洋（京大・生態研）

琵琶湖調査船「はす」の魅力と利用可能性

鏡味麻衣子（東邦大・理）、熊谷道夫（立命館大・琵琶湖Σ研）

安定同位体分析で教えていただいたこと、これから教えていただきたいこと

富永修（福井県大・海洋生物資源）

次世代シーケンシングを活用した生態・保全研究

井鷲裕司（京大・農）

安定同位体共同利用・共同研究の展開について

木庭啓介（京大・生態研）

U10 野外調査に初めて行く人のための安全講習

主催：野外安全管理委員会 責任者：鈴木準一郎（首都大・理工）

生態学の研究において野外調査は非常に重要であり、多くの研究者が野外調査に従事しています。しかし、野外調査には危険が常に伴い、生命を失うような事故が調査中に起こる可能性もあります。実際に、生態学の調査中にも死亡事故が起きています。そこで、野外調査の初心者をおもな対象に、野外調査を安全に行う方法の講習を実施します。

講習では、野外調査に従事する研究者が、自分と自分の周りの人の安全を確保するために知っておかなければ

ればならないことを厳選して紹介します。紹介するのは、調査に際しての心構え、調査に行く前にしておかなければならないこと（計画、保険、装備など）、調査中に注意すべきこと（健康、天候など）、事故への対処法などです。卒研究生やM1の方など野外活動の経験に乏しい方の参加を特に歓迎します。参加者の皆さんからの質問をいただく時間も設けます。

さらに、野外調査をより安全に行うために注意すべき点をまとめたポスターを、ポスター会場で展示し、野外安全管理委員が質問に答える時間も設ける予定です。

皆さんの参加をお待ちしています。

フォーラム 3月24日 11:45-13:15 会場 RoomB

U11 国外で研究職に就くには (3) How to apply to jobs abroad? (3)

主催：将来計画専門委員会 責任者：辻 和希（琉球大学）

広島大会以来好評開催中の企画の第3弾です。研究職への道はいぜん厳しい限りですが、視野を国外へと広げると職業研究者ポストが意外なほど多く用意されているのに気づきます。アジアの経済発展とも関連し、近隣諸国の大学に日本の生態学者が就職するケースも増えました。そこで本フォーラムでは、海外で職を探すときに役に立つ情報を提供します。研究職人事に関する考えや制度の国ごとの違いなどを、国外で就職経験のある方に解説いただいています。今回は、欧米で就職経験のある2名をお招きしました。乞うご期待。

海外で研究職に就くということ：survival of the fittest?

荒木仁志（北海道大学農学研究科）

欧米での就職における推薦状とインタビューの重要性：雇う側の目線から

北島薫（京都大学農学研究科）

フォーラム 3月24日 13:30-16:30 会場 RoomB

U12 生態学の展望

主催：日本学術会議生態科学分科会 責任者：巖佐 庸（九大理）、矢原徹一（九大理）

日本学術会議生態科学分科会では、第22期と23期にわたって、日本の生態学の現状をレビューし、さらなる発展の障害となっている事項について検討を重ね、急速に発展すべき分野についての議論を進めてきた。今回、文書にとりまとめるにあたり、関連学会にも回覧してコメントを求め意見を集約してきた。本フォーラムは、日本学術会議生態科学分科会の公開シンポジウムとして開催するものである。

文書ではとくに注目すべきものとして、若手研究者の育成、社会的課題への貢献、研究体制と研究費、急速な進展が予想される研究領域、に集中してとりまとめている。

本フォーラムでは、最初に「生態学の展望」の内容を紹介し、そのあと急速な進展が予想される生態学の研究領域として、[1] 地球環境変化の科学としての生態学、と [1] 生命科学（分子生物学・生理学を中心とした）と生態学の融合、の2つをとりあげ、学会員だけでなく広く市民の参加を得て議論する。

『生態学の展望』について

巖佐 庸（九大理）

Futher Earthなどの国際共同研究プロジェクトと日本の研究体制

矢原徹一（九大理）

海洋生態系研究の最新動向と展望について

仲岡雅裕（北大厚岸）

開花制御の生理学と陸上植物の環境適応

工藤 洋（京大生態セ）

ミクロ生物学分野が取り組む生態学の課題

河田雅圭（東北大理）

フォーラム

3月24日 13:30-16:30

会場 RoomJ

U13 生物多様性のホットスポットに押し寄せる開発計画とそれを再考させる論理

主催：自然保護専門委員会 責任者：加藤 真（京都大学・人間・環境）

日本列島にはきわめて多くの生物多様性のホットスポットが存在するが、それぞれの地域のさまざまな政治・経済的状況を背景にして、さまざまな開発計画が次々と押し寄せ続けている。とりわけ、海岸や河川といった、人の生活圏に近接した場所では、ただでさえ残り少なくなった特徴ある生態系が、このような開発計画の犠牲になって失われようとしている。辺野古・大浦湾の埋立計画、西表島浦内川の取水施設建設計画など、自然保護専門委員会が要望書提出などでかかわってきた問題について、ホットスポットとしての価値を再評価しつつ、開発計画を再考させる論理を議論したい。

辺野古・大浦湾の生物多様性と埋め立て計画の問題点

安部真理子（日本自然保護協会）

ゆんたく会：西表島浦内川の魚を考える

鈴木寿之（日本魚類学会自然保護委員会）

企画集会

3月21日 10:00-12:00

会場 RoomA

T01 階層的なプロセスをモデル化する：階層モデルによる生態データ解析

企画者：深谷肇一（統数研）、飯島勇人（山梨県森林研）、伊東宏樹（森林総研）、正木隆（森林総研）

本集会は、生態学で「階層モデル」と呼ばれている統計モデルを主題としたものである。私たちが研究対象とするシステムにはプロセスの階層性があり、観測されるデータは階層的なデータ生成プロセスの産物である。データの背景にあるプロセスの階層性を本質的なものと捉え、これを明示的にモデル化した統計モデルが階層モデルである。階層モデルでは、関心があるが直接的には観測できない量は潜在的な状態変数として扱われ、状態変数の変動を決定する生態プロセスと状態変数に依存した観測のプロセスが区別される。こうした階層性の概念に基づくモデル化は非常に強力な解析アプローチであり、状態変数や生態プロセスに関する偏りの少ない推定や、モデルに基づく仮説検証、異なるデータを統合した推測を実現できるだけでなく、調査計画を検討する上でも大きな意味を持つ。階層モデルの概念は主に個体群研究で発達してきたものであるが、そのアイデアは生態学の幅広い分野で有用であると考えられる。

本集会ではまず、階層モデルの概念と生態学研究における利点を整理し、階層モデルの体系を概観する。続いて、階層モデルの適用例として、昆虫や樹木を対象とした個体群生態学研究、鳥類を対象とした行動生態学研究を紹介する。プロセスの階層性を考慮した階層モデルの実用性の高さと、その生態学における適用可能性の広さについて議論したい。

コメンテーター：宮下直（東大）

- T01-1 生態学における階層モデル：その概念と利点
* 深谷肇一（統数研），飯島勇人（山梨県森林研），伊東宏樹（森林総研），正木隆（森林総研）
- T01-2 発見率を考慮したヒメボタルの発消長動態解析
* 飯島勇人（山梨県森林研），梯公平（自然教育研究セ）
- T01-3 発見率を考慮した、ナラ枯れ・シカ増加後の下層植生の変化の解析
伊東宏樹（森林総研）
- T01-4 ヒヨコの餌場選択行動の解析—学習パラメータの環境依存的調節
川森愛（統数研），中村光宏（総研大）

企画集会 3月21日 10:00-12:00 会場 RoomC

T02 種の境界：進化学と生態学、分子遺伝学から種分化に迫る

企画者：山口諒（九大院・システム生命）

生物学的な”種”は生態学のみならず、多くの分野で研究対象の選択時に考慮される大切な概念である。種分化は生物多様性の創出要因として重要であり、そのメカニズムは Darwin や Wallace の時代から注目を浴びてきた。一方で種の境界は時に、亜種やエコタイプなど様々な階層を含め非常に曖昧な場合が存在する。本企画集会では、種分化や特定の分類群の多様化メカニズムを対象に研究を進める方々を招き、種分化研究のこれまでとこれからについて議論する。特に、集団が”種”として確立される際に重要である生殖隔離機構に焦点を当て、野外や実験下での観測から、その分子遺伝学的基盤や系統、理論までを取り上げる。さらに、これらの多角的なアプローチが種分化という1つテーマに対して連携する土台としたい。以下の講演者の他に河田雅圭氏（東北大学）をコメンテータに招き、総合討論の時間を設けて、種分化研究の最先端と種の境界のあり方について野心的に議論したい。

- T02-1 連続的な変化がもたらす”種”の分かれ目
山口諒（九大院・システム生命）
- T02-2 “種”のちがいを量る：生物学的種は幻か？
松林圭（九大・基幹教育）
- T02-3 種分化と適応の遺伝学：モデル生物の利点
高橋文（首都大・理工・生命）
- T02-4 花の匂いが導く種分化 - 化学生態学と遺伝学の統合的手法が拓く新たな世界
* 岡本朋子（岐阜大・応用生物），奥山雄大（国立科学博物館）

企画集会 3月21日 10:00-12:00 会場 RoomD

T03 植物の識別能力から考える植物間相互作用

企画者：山尾僚（弘大・農生），深野祐也（農工大）

群れで生活する動物の中には、血縁者を識別し、様々な適応的な行動を示す種が知られる。このような行動は、個体群動態や群集構造を決定する重要な要因となる。植物もまた、血縁者を含む集団内に生育する生き物である。固着生物である植物では、動物とは異なり隣り合った株と永続的に相互作用する。このことから、

植物は、近接個体の血縁度に応じてそのふるまいを変える事が適応的であると予測される。今日では、植物が環境の変化を受容して様々な可塑性を示すことは、多くの研究者に受け入れられてきた。しかし、彼らの血縁識別能力とそれに基づく応答に関する研究は、長らく検証されてこなかった。その背景には、血縁識別能力が、複雑な情報処理を可能とする中枢神経系を備えた動物のなかでも、限られた種にしか認められていない現状であろう。また、動物のような中枢的な情報処理器官がみられない植物には、血縁を識別することはできず、また識別に基づく柔軟な応答も困難であると考えられてきたこともあるのかもしれない。

しかし、近年になって、植物が、近接個体の血縁を識別し、動物の社会行動のような様々な可塑性や動きを示すことが明らかにされつつある。本集会では、植物における血縁識別に基づく可塑性についてレビューすると共に、3人の演者に話題を提供していただく。山尾は、種間競争において血縁識別が有利に働くことを報告する。向井は、他種との競争環境下で種子が示す血縁識別と発芽応答について報告する。そして深野は、つる植物の自己識別と巻きつき反応について報告する。植物の巧みな識別応力と柔軟な応答の面から、植物間相互作用を見つめなおし、今後の展望について考えたい。

T03-1 種間競争における血縁個体間の協調的ふるまい

山尾 僚 (弘大・農生)

T03-2 種子における血縁識別：他種の存在で迅速な同期発芽を成し遂げる

向井 裕美 (森林総研)

T03-3 つる植物のホスト選択における識別能力と多様なまきつき反応

深野 祐也 (農工大)

企画集会

3月21日 10:00-12:00

会場 RoomF

T04 巨大攪乱の生態学的帰結をどう理解するか：巨大地震が岩礁潮間帯生物群集に及ぼした影響を例に考える

企画者：野田隆史 (北大・地球環境)

生態系への攪乱の影響を深く理解し正確に予測するためには、当該イベントの時空間的特性や物理的作用についての正しい情報が不可欠である。巨大地震のような稀にしか生じない攪乱の場合は、その生態学的帰結についての知識が不足しているばかりか、攪乱の時空間的特性や物理的作用についても生態学者は殆ど無知であるといっても過言ではない。そこで本企画集会では、地震学者を招き、巨大地震の時空間的特性や無機環境への作用について専門家の立場から説明していただく。ついで、巨大地震が生物群集に及ぼした影響について岩礁潮間帯における事例研究を紹介する。総合討論では、これらの情報を組み合わせることで巨大地震が岩礁潮間帯生物群集に及ぼす影響についてのより深い理解をめざすとともに、地震をはじめとする大規模ながら稀にしか生じない攪乱の生態系への影響を明らかにする上での研究の方向性や展望について議論したい。

コメンテーター：近藤倫生 (龍谷大)

1. 趣旨説明：大規模攪乱の生態学的帰結についての理解の意義と現状
2. 巨大地震と津波の発生メカニズムおよび沿岸環境への影響
3. 岩礁潮間帯生物群集への津波と沈降のインパクト
4. マルチレベル攪乱：巨大地震が局所攪乱後の遷移に及ぼす影響

T04-1 趣旨説明：大規模攪乱の生態学的帰結についての理解の意義と現状

野田隆史 (北大・地球環境)

T04-2 巨大地震と津波の発生メカニズムおよび沿岸環境への影響
後藤和久（東北大・IRIDeS）

T04-3 岩礁潮間帯生物群集への津波と沈降のインパクト
* 岩崎藍子（北大院・環境）、野田隆史（北大・地球環境）

T04-4 マルチレベル攪乱：巨大地震が局所攪乱後の遷移に及ぼす影響
* 胡之陽（北大院・環境）、野田隆史（北大・地球環境）

企画集会 3月21日 10:00-12:00 会場 RoomG

T05 新たな市民科学の到来に生態学者は何をなすべきか？ ー日本型の市民科学の実現を目指してー

企画者：小堀洋美（東京都市大学）

市民科学は科学の発展に長年貢献してきた。しかし、科学研究の専門家（科学者）の登場とその後の科学の高度化・細分化により、科学は市民にとって理解し難く遠い存在となった。さらに日本では、福島原発事故や科学者によるデータの捏造などにより、市民の科学に対する信頼は大きく揺らいでいる。しかし、過去20年間に欧米で急速に発展した市民科学では、市民がデータ収集だけでなく、科学研究の多くのプロセスに参加することにより、再び市民が科学研究において大きな役割を果たす道を拓いた。

市民科学の急速な普及には2つの要因がある。第1には市民科学は学際的な分野であり、科学研究、市民教育、社会の課題解決を同時に実践できること。第2には、webの普及により市民が広域的・長期的データを取得し、科学者の厳密で限定的な研究を補完し、ビッグデータを取得・活用することが可能となったことである。

しかし、日本では進展がほとんど見られていない。そこで、市民科学への認識を深めるため、本企画者らは第61回の日本生態学会大会において、米国の市民科学の先駆者である Prof. Dickinson（コーネル大）を基調講演者に招聘し、市民科学のシンポジウムを開催した。また生態学会英文誌（Ecological Research）には、本学会の会員への提言とし、査読論文を投稿した（2016年1号に掲載予定）。

市民科学は発展途上の分野でもあり、多くの課題を抱えている。本企画では、その課題を明らかにすると共に、既に優れた事例を実践している演者にその手法を紹介いただき、日本の市民科学の実現に向けた提案を行う。

T05-1 日本の市民科学の課題から見える“あるべき市民科学”とは？
小堀洋美（東京都市大学）

T05-2 市民科学運営における協働
鷺谷いづみ（中央大学）

T05-3 社会学的アプローチの導入とその意義
桜井良（立命館大学）

T05-4 市民科学の成果の活用
小松直哉（東京都市大学）

T05-5 国際連携による課題解決のwebプロジェクトの推進
巖網林（慶應義塾大学）

企画集会

3月21日 10:00-12:00

会場 RoomH

T06 生態系における地球温暖化研究を適応策の実装化につなげる

企画者：中尾勝洋（森林総研），高野（竹中）宏平（東北大・生命）

温暖化を始めとする気候変動によると考えられる影響が生態系においても顕在化しつつある。IPCCは、今後、最大限の努力を行い温室効果ガスを抑制しても、様々な分野で影響が生じる可能性が高いと報告している。このため、温室効果ガスの排出を抑制する緩和策に加え、気候変化に伴う影響に備える適応策の重要性が増している。国内では、政府が策定を進める温暖化適応計画を契機として、今後、自治体レベルでの温暖化適応策の作成が進むと考えられる。これまで、生態系に関する分野では、温暖化影響の観測や予測に主眼が置かれたきた。しかし、このような社会的ニーズが高まる中で、研究成果を適応策の実装化にどのようにつなげるかが喫緊の課題として持ち上がってきた。

本集会では、日本国内を対象とした温暖化影響予測、温暖化に伴う生態系への影響の経済評価、さらに、地方自治体における温暖化適応の事例として、先進的に取り組まれている長野県の事例について講演頂く。さらに、各講演の中では、成果を適応策の意思決定の場面でどのように活かせるのか、また、実際の現場では何が問題なのか等について紹介頂く予定である。その上で、国の温暖化政策を進めている環境省の担当者、IPCC報告書の執筆にも関わられた研究者をコメンテータとして交え、適応策実装化に向けた今後の展開について議論したい。

司会：中尾勝洋

コメンテータ：

橋本和彦氏（環境省自然環境局自然環境計画課）国の適応計画の概要と生態系分野への要望

高橋潔氏（国環研）IPCCにおける適応策をめぐる今後の展望

T06-1 森林生態系への気候変動影響評価

* 高野（竹中）宏平・中静透（東北大学・院・生命）

T06-2 気候変動が生態系・生物多様性に与える影響の経済評価

* 馬奈木俊介（九州大学・工学研究院）・今村航平（東北大学・院・生命）

T06-3 気候変動を考慮に入れた自然保護対策の構想－長野県における検討状況－

陸 斉・須賀 丈・浜田 崇・* 堀田昌伸・尾関雅章（長野県環境保全研究所）

企画集会

3月21日 10:00-12:00

会場 RoomI

T07 Dynamic traits and ecological dynamics in populations and communities

Organizer Takehito Yoshida (Univ of Tokyo)

Dynamic nature of traits has been increasingly recognized as a key but previously overlooked element when we try to advance our understanding of populations and communities. Traits are temporally and spatially dynamic due to various mechanisms and processes including phenotypic plasticity, rapid evolutionary change, gene flow, local extinction, geographic mosaic of coevolution, etc. Ecological dynamics of populations and communities can lead to the dynamic changes of traits, which in turn have strong influences on the population and community dynamics. This feedback between trait dynamics and ecological dynamics has been a growing topic in ecology, yet our understanding of the feedback is still limited and we don't know much about when and how much the eco-evolutionary feedback is important in populations and communities. In this session, we will explore the frontier of our understanding of the eco-evolutionary feedback by several talks including the invited one by Dr. Ellen van Velzen from University of Potsdam,

Germany. Also, Dr. Masato Yamamichi (Kyoto University) will give a comment on this topic.

The session will be composed of a session introduction by Yoshida, four talks listed below (25 min each) and a comment by Dr. Yamamichi (10 min).

- T07-1 Mechanisms driving phase dynamics in predator-prey models with mutual adaptation
Ellen van Velzen (Univ of Potsdam, Germany)
- T07-2 Stability of adaptive hybrid community
Akihiko Mougi (Shimane Univ)
- T07-3 Timescale of environmental fluctuation determines the competitive advantage between phenotypic plasticity and rapid evolution
Minoru Kasada (Univ of Tokyo)
- T07-4 High-throughput DNA sequencing and network science for designing eco-evolutionary feedback research
Hirokazu Toju (Kyoto Univ)

企画集会 3月21日 10:00-12:00 会場 RoomJ

T08 東アジアを含む全球スケールにおける生態系への温暖化影響研究の最前線

企画者：大橋春香（森林総研）、伊藤昭彦（国環研）

IPCC 第5次報告書によると、過去100年間の気候システムの温暖化に疑う余地はないとされている。また、各地で温暖化に起因すると考えられる生態系の変化も観測されつつある。今後、地球温暖化の進行に伴い、生態系に深刻かつ広範囲にわたる影響が生じる可能性があり、適応策および緩和策の検討が喫緊の課題となっている。

気候および生態系の長期観測と、広域（全球）を対象とする影響評価モデルは、温暖化により顕著な影響が生じる場所の特定や、生態系から気候システムへのフィードバックの定量化を行ううえで重要な役割を果たしている。しかし、モデルによる推定結果には大きな不確実性が残されており、高精度の観測データの収集とモデル改良の両面から信頼性を高めることが重要な課題となっている。

本企画集会では、東アジアを含む全球スケールを対象として実施されている温暖化影響研究のなかでも、生態系への影響の観測および将来予測にフォーカスを絞り、講演者から紹介していただく。その上で、今後の研究課題、さらに生態系を活用した緩和策や適応策に向けた課題を議論したい。

- T08-1 統合的観測解析システムの構築による全球・アジア太平洋の炭素循環の変化の早期検出
三枝信子（国環研）
- T08-2 ブルーカーボン（沿岸生態系）による緩和策と適応策
桑江朝比呂（港湾研）、井上智美（国環研）
- T08-3 広域生態系モデルを用いた影響評価
仁科一哉（国環研）、伊藤昭彦（国環研）
- T08-4 長期気候変動予測：生態系・炭素循環への温暖化影響とそのフィードバックの重要性
羽島知洋（JAMSTEC）、佐藤永（JAMSTEC）

T09 不確実性下の哺乳類管理：管理施策の選択とその課題

企画者：横溝裕行（国環研）、鈴木牧（東大・新領域）

生態系への悪影響や社会的軋轢をもたらしている野生動物については、適切な個体群管理によってこれらの問題に対応する必要がある。対策に当たっては、限られた人的資源や予算の枠内で最大限の効果をあげることが要求される。しかし、効果的な対策を選択するために必要である個体数や繁殖率、生態系や農作物に与える被害などの情報が十分そろっている事は稀である。効果的な対策を行うために必要な情報をどのように収集し、限られた情報に基づいてどう判断を下せばよいだろうか。

本集会では、房総半島、北海道、兵庫県をフィールドとして、限られたデータから管理施策の決定に資する研究や、情報収集・対策・効果検証を繰り返しながら科学的管理を進めようと努力を続けている研究を紹介する。科学的に管理戦略を策定することにより、危機的な野生生物による被害の軽減が期待できる。得られる情報をいかに活用して管理施策を選択するか、選択の後にどのような課題が残っているのかを議論したい。

コメンテーター：飯島勇人（山梨県森林研）、宮下直（東大・農）

T09-1 状態空間モデルによるアライグマの個体数推定と空間明示的な作物被害許容密度の推定
栗山武夫（東邦大・理）

T09-2 個体数密度と土地利用から農業被害を予測する：房総半島のニホンジカとイノシシにおけるケーススタディ
* 鈴木牧，香川幸太郎（東大・新領域）

T09-3 空間明示モデルによる複数種の哺乳類を統合した管理戦略の構築
* 横溝裕行（国環研）、長田穰（地球研）

T09-4 北海道のエゾシカ個体数推定：ベイズ推定に伴う問題を回避する方法について
山村光司（農環研）

T09-5 ツキノワグマの被害防止対策から得られるデータを生かした個体群の保全管理
横山真弓（兵庫県大 / 兵庫県森林動物研究センター）

T10 環境中を「移動」する放射性セシウム

企画者：高田 モモ（広島大 総科）

2011年の福島第一原子力発電所事故により、大気中に多量の放射性物質（放射性セシウム）が放出され、今なお森林をはじめとする自然生態系に蓄積している。放射性セシウムは土壌鉱物に強固に吸着する性質を持っており、一度吸着したセシウムはほとんど脱着しない。そのため、事故後、環境中に放出された放射性セシウムは徐々に土壌に固定され、事故後5年経た現在、森林・草地・農地・湖沼等、各生態系に存在する放射性セシウムが、他の生態系へ移動することはまれであると考えられている。

しかしながら、近年の研究によって、植物体や地下水から、微量ではあるものの、放射性セシウムが検出される等、大部分の放射性セシウムは土壌に強固に固定されているが、一部の放射性セシウムは土壌鉱物に固定されず、現在も環境中を移動していることを示す事例も報告され始めている。この移動性の高い放射性セシウムは、放射線防護の観点から非常に重要な存在形態であり、その動態は早急に解明しなければならない

い課題である。

本企画集会では、森林土壌、湖底堆積物、植物体内、地下水で観察される移動性の高い放射性セシウムの動態について、各専門分野の研究者に話題提供をお願いし、環境中に存在する放射性物質の動態解明に関する今後の課題などについて議論する予定である。

コメンテーター：奥田敏統（広島大 総科）

T10-1 森林林床における溶存態放射性セシウムの移動

* 高田モモ（広島大）、山田俊弘（広島大）、保高徹生（産総研）、奥田敏統（広島大）

T10-2 樹木における放射性セシウムの経皮吸収の影響と経年変化

* 田上恵子（放医研）、内田滋夫（放医研）、石井伸昌（放医研）

T10-3 山岳湖沼における放射性セシウムの循環

* 野原精一（国立環境研究所）、鈴木究真（群馬県水産試験場）、横塚哲也（栃木県水産試験場）、角田欣一（群馬大学）

T10-4 地下水から検出される福島事故由来の放射性セシウム

* 静間清（広島大 工）、藤川陽子（京大原子炉）、桜井雄志（NPO 法人ふるさと）

企画集会

3月22日 9:30-11:30

会場 RoomD

T11 新しい群集生態学：理論 - 実証間ギャップを飛び越える

企画者：近藤倫生（龍谷大・理工）

群集生態学、とくに種間相互作用からの群集理解は行き詰まっているように見える。現在主流となっている群集理論は、「種間相互作用によって個体群動態が駆動される」、したがって「群集動態はつながった多種個体群動態である」という仮説に基づいている。この仮説は、競争関係や栄養関係が駆動する個体群動態のモデリングを可能にし、群集構造 - 動態関係の理論的理解に一定の役割を果たしてきた。しかし、同時に、このアプローチには様々な困難、特に実証研究に関する困難がある。第一に、個体群動態やその特性（たとえば安定性）を自然生態系でモニタリングすることの困難さ。第二に、種間相互作用を特定したり定量したりすることの困難さ。第三に、複雑な自然生態系における、非線形性から生じる群集パターンやメカニズムの状況依存的な変化と、これに由来する一般理論構築の困難さがはっきりしてきた。さらに、生物群集の予測・制御といった応用的課題への取り組みは大きく遅れている。これらの困難さを克服し、真の理論 - 実証間の協働を可能にするような「新しい群集生態学」を構築することが求められている。そこで、この企画集会では、この困難を克服する武器となるいくつかの新しい群集へのアプローチを紹介するとともに、「新しい群集生態学」はどのようなものになるかを議論したい。

T11-1 群集生態学における種間相互作用論とその限界

近藤倫生（龍谷大・理工）

T11-2 環境 DNA 分析によってどのような情報が得られるのか？

源利文（神戸大院・人間発達環境）

T11-3 食物網研究に同位体は有用か？解決すべき問題点と可能性

長田穰（地球研）

T11-4 生物群集の存続に果たす密度依存の重要性：非線形時系列解析を用いた枠組みの提
川津一隆（龍谷大・理工）

T11-5 野外生態系での変動する相互作用強度と局所安定性の定量化
潮雅之（龍谷大・理工）

企画集会 3月22日 9:30-11:30 会場 RoomF

T12 ネオニコチノイド農薬による生態影響～何が、どこまで分かったのか？

企画者：林岳彦（国立環境研），五箇公一（国立環境研）

現在、ネオニコチノイド系農薬が生物多様性に与える影響が世界的に懸念されている。ネオニコチノイド系農薬は、90年代から主力農薬として普及してきたクロロニコチル系殺虫剤の総称であり、国内外で広く普及している。

本系統剤の登場により、省力化など農業生産に大きく貢献する一方で、欧米を中心にミツバチ類への影響が問題視された。特に北米で話題となった蜂群崩壊症候群 CCD の原因物質としてネオニコチノイド系農薬が疑われるようになった。また国内でも野生トンボ類の急激な減少が本系統剤の影響によるとする報告が相次いだ。

2013年、ヨーロッパ連合 EU は、ネオニコチノイド系農薬 3 剤を含む農薬 4 剤について 2 年間の時限付きの使用禁止措置を決定した。この禁止措置を一つの契機として、日本においても生態学者はもちろん一般市民の間でもネオニコチノイド系農薬のリスクを懸念するとともに、その使用規制についての議論が急速に高まっている。

国立環境研究所では他研究機関と共同で、環境省環境研究総合推進費をはじめとするプロジェクト研究予算に基づき、ネオニコチノイド系農薬の生態リスク評価を進めている。本講演会では、これまでに得られた最新知見を紹介するとともに、国内外の情報と統合して、今後の農薬リスク管理の方向性について議論する。

コメンテーター：永井孝志（農業環境技術研究所）

T12-1 特別講演：ネオニコチノイド農薬によるハナバチ類への影響～世界と日本の最新情報
中村純（玉川大学）

T12-2 ネオニコチノイド農薬の花粉を介したマルハナバチコロニー毒性
* 江川知花（農環研），五箇公一（国立環境研）

T12-3 ネオニコチノイド農薬のニホンミツバチ生態リスク
* 滝久智，安田美香，永光輝義（森林総研）

T12-4 ネオニコチノイド農薬の陸域昆虫類に対する影響評価
* 相澤章仁，野村昌史，中牟田潔（千葉大学）

T12-5 ネオニコチノイド農薬による水田生物多様性影響評価から見えたもの
林岳彦（国立環境研）

T12-6 ネオニコチノイド農薬規制の今後
五箇公一（国立環境研）

T13 環境保全型林業：保残伐施業の日本における展開に向けて

企画者：山浦悠一（森林総研・植生）、尾崎研一（森林総研・北海道）、長坂有（道総研・林業試験場）

どんな強度の自然攪乱でも、樹木は枯死させるが除去しない。生物遺産（biological legacy）と呼ばれる立ち枯れ木や生立木、倒木は、攪乱跡地の生物多様性や攪乱後の生態系の回復に重要な役割を担っていることが、セントヘレンズ山の噴火やイエローストーンの山火事を扱った研究から明らかにされてきた。これにより、森林伐採が生物多様性や生態系サービスに及ぼす負の影響を低減するための一手法として、立ち枯れ木や生立木を伐採地に戦略的に維持する保残伐（retention forestry）が提案され、現在世界的に注目されている。例えば、スウェーデンではすべての皆伐地で保残伐は採用すべきとされている。

日本では戦後造成された人工林が伐期を迎える中、森林の多面的機能を維持向上させるための森林施業が求められている。北海道道有林では2013年から、保残伐施業の有効性を検証する大規模な操作実験が開始された。本実験は人工林を対象とした世界的に稀有な実験で、混交している広葉樹を保残対象としている。保残木の本数や配置が伐採後の生物多様性・生態系サービスに及ぼす影響を明らかにするため、各処理（皆伐、単木少量保残、単木中量保残、単木大量保残、群状保残、人工林非伐採区、天然林非伐採区）につき3つの繰り返しを用意し、伐採前調査を行ない、各処理区（林分）は5ha以上としている。

本企画集会では、保残伐施業の歴史と北海道の実験の概要をまず報告する。その後、保残伐に関する国内外の既往研究を紹介する。最後に保残伐を普及させるための方法について社会経済学的から議論し、日本における保残伐の展開について考えたい。

コメンテーター：

長池卓男、森章、中村太士

T13-1 保残伐のレビューと北海道での大規模実験の概要

尾崎研一（森林総研・北海道）

T13-2 カナダ西海岸における保残木施業と溪流・溪畔域生態系への影響評価

五味高志（東京農工大学）

T13-3 保残木の植栽木への影響

吉田俊也（北大・北方フィールドセンター）

T13-4 保残伐は日本で有効か？複層林施業に学ぶ

* 伊藤哲，光田靖，平田令子（宮大・農），正木隆（森林総研・植生）

T13-5 保残伐をどう普及させるか：社会経済学的視点から

庄子康（北大・農）

T14 「空間」からクローナル植物を捉え直す：タケ・ササ類の生態と進化

企画者：立木佑弥（九大・理）、富松裕（山形大・理）

有性生殖に加えて栄養生殖を行うクローナル植物は、森林の林床や草原、湿原などにおいて優占し、侵略的外来種にも多く見られる。クローナル植物の効率的な分布拡大を可能にする要因の一つとして、地下茎や枝によって連結したラメット間で資源を転流する生理的統合がある。生理的統合は、不均質に分布する資源環境に対する適応だと考えられている。

一方、地下茎などの伸長様式はクローンの空間分布を規定するため、競争や繁殖に関わる形質とも互いに影響を及ぼし合いながら進化することが期待される。例えば、地下茎が短い「ファランクス型」は、周囲に同一クローンのラメットを密に配置することで持続性を高められるが、自家受精が生じやすくなるため、大きなクローンを発達させるコストは大きい。一方、地下茎を長く伸ばす「ゲリラ型」は繁殖におけるコストが比較的小さく、広範囲で資源を探索できるが、分布範囲に不適な環境をも含む可能性があるだろう。

熱帯から温帯にわたって広く分布するタケ・ササ類には、地下茎の伸長様式や開花周期に種間で大きな変異があり比較生態学研究の良い材料である。また、一回繁殖性の植物で、しばしば広域にわたって同調開花・枯死するため、枯死後の更新過程は分布拡大に関わる問題について検証する良い機会となりうる。本集会では、タケ・ササ類の個体群動態に注目して理論と実証の両面から話題を提供し、不均質な資源環境下における空間の獲得戦略や生活史形質の進化について議論したい。

T14-1 地下茎伸長が開花周期を決める!? ササ・タケ類の空間明示的モデリング

立木佑弥 (九大・理)

T14-2 半島マレーシア熱帯丘陵林におけるタケ類の株内 ramet 動態と genet サイズ分布の推定

* 藤沼潤一 (北大・環境), 甲山隆司 (北大・環境)

T14-3 光環境が不均質な林床におけるチシマザサの長期的動態

* 富松裕 (山形大・理), 松尾歩 (秋田県大・生物資源), 陶山佳久 (東北大・農), 蒔田明史 (秋田県大・生物資源)

T14-4 O から始まったクローナル植物の「空間」構造研究

鈴木準一郎 (首都大・理工・生命)

企画集会

3月22日 9:30-11:30

会場 RoomI

T15 精子からみる生態学

企画者：香月 雅子 (筑波大・生命環境系), 小長谷達郎 (京大・院・理)

精子は、古くから様々な分野の研究者から重要な材料として扱われてきた。例えば、その運動機能や形成や受精メカニズムに関する研究から、不妊治療や環境問題、少子化に至るまで、精子は大切な研究材料である。これまで蓄積された精子学の知見は、現在の生態学にも活かされている。

有性生殖をおこなう動物では、受精が次世代の生産に不可欠である場合が多い。そのような種では、メスの適応度は産んだ子供の数(卵数)に、オスの適応度は受精できた卵数に依存する。一般に、多くのメスと交尾したオスほど、受精できる卵数も多くなる。ただし、メスが複数のオスと交尾する場合は、卵を巡る精子競争も考慮しなければならない。オスは交尾前も交尾後も競争するのである。一方、メスは交尾相手を選び好みするだけでなく、交尾後に利用する精子を選別したり、受精のタイミングを変えたりすることがある。精子は、雌雄の適応度を左右する重要な存在といえ、各種の生活史や配偶様式の下で、雌雄の繁殖に関わる生理・形態・行動と密接に関連して進化してきただろう。

本集会では、魚類と昆虫を対象とし、「精子」とそれに関連する形質に注目した研究を行っている方々に話題を提供していただき、それぞれの研究の共通性や今後の展望に関して議論する。

T15-1 アリ科女王の長期間にわたる精子貯蔵メカニズム

後藤彩子 (甲南大学理工学部生物学科)

- T15-2 **オサムシの精子競争と多型的な集合精子の謎**
高見泰興（神戸大・人間発達環境）
- T15-3 **成虫越冬に関連したキタキチョウの繁殖戦略と精子の重要性**
* 小長谷達郎（京大・院・理）・渡辺 守（筑波大・生命環境）
- T15-4 **精子競争をもたらすクモハゼの特異な受精様式**
竹垣毅（長崎大院水環）
- T15-5 **交尾前後の性選択圧に応じたオスの繁殖成功**
香月雅子（筑波大・生命環境系）

企画集会 3月22日 9:30-11:30 会場 RoomJ

T16 これからの生態学における土壌動物の位置づけ

企画者：長谷川元洋（森林総研四国）、兵藤不二夫（岡山大 異分野コア）、小林真（北大 FSC）

2015年は国際土壌年とされ、研究者から広く一般にも土壌の重要性が再認識された年であった。土壌には地上に比べると遙かに多様で、量も豊富な土壌動物が生息しており、生態系の中で様々な役割を持つとされる。一方、土壌動物の生態研究は、分類の難しさや、土のなかで対象が見えないといった困難さのため、生態学の中でも難解なテーマでありつづけたが、現在では、新たなツールや切り口を得た研究がなされつつある。

本年2016年の8月には、国際土壌動物学会議および無翅昆虫学会議が奈良で開催される予定となっている（http://soilzoology.jp/icsz_ica2016/）。同大会では、「地球の将来のための土壌生物多様性」という表題をきっかけ、人類の持続可能な生活の基盤となる植物の成長を支える土壌動物の働きを明らかにすることを目的としている。そこで、本集会では、同大会で開催される「多様性と種分化」「生態及び生態系機能」「地球環境変動」の3つのセッションの中における国内の代表的研究者を集め講演を行い、国際大会の予告編として、その研究の魅力をつたえ、きたる大会への参加を促したい。また、土壌動物を専門としない、研究者の方から寄せられる土壌動物への関心についてコメントを頂く予定である。

コメンテーター

森章（横浜国大）、大園享司（京大 生態研センター）、金子信博（横浜国大）

- T16-1 **趣旨説明 土壌動物をめぐる生態学的関心について**
長谷川元洋（森林総研 四国）
- T16-2 **山地の森林に生息する大型土壌動物の群集形成プロセス**
* 池田紘士（弘前大）、福森香代子（国環研）、加賀谷悦子、高橋正通（森林総研）、伊藤雅道（駿河台大）、酒井佳美（森林総研）、松本和馬（国際環境研究協会）
- T16-3 **森林土壌性トビムシの群集構造の特徴と今後の展望**
菱拓雄（九大 農）
- T16-4 **同位体が解き明かす土壌動物の食性と生態系機能**
兵藤不二夫（岡山大 異分野コア）
- T16-5 **生態系改変者ミミズが土壌炭素動態に及ぼす影響**
金田哲（国）農環研）

T16-6 分解系における土壌小型節足動物の機能を問う

藤井佐織（アムステルダム自由大）

T16-7 気候変動が土壌-植物系のもつ生態系機能へ及ぼす影響 - 大型土壌動物を介したプロセス

小林真（北大FSC），金子信博（横浜国大環境情報）

企画集会

3月24日 9:30-11:30

会場 RoomA

T17 植物と微生物の資源利用戦略から物質循環を考える：分子生物学と生態系生態学の接点

企画者：佐竹 暁子（九大・理）

植物が落とした葉は、土壌微生物による分解を経て、多様な生物へ物質を供給するとともに、植物自身の養分源として再利用され繁殖や成長を制御する因子となる。このような、一次生産系（植生）と分解系（土壌）との相互作用によって生まれる物質循環は、植物と微生物における資源利用戦略の進化を稼働する場であるとともに、地球環境維持の基盤でもある。近年の分子遺伝学の発展によって、窒素やリンなどの栄養塩が植物の繁殖、成長戦略を制御する分子メカニズムが明らかとなってきたが、こうした知見を陸上生態系の物質循環と結びつけ、植物と微生物の資源利用戦略を明らかにする試みはこれまでなかった。そこで、本企画集会では、森林生態学と土壌微生物学、そして植物分子生物学の分野から、植物の開花とゲノム多様性、窒素循環を稼働する微生物、栄養シグナル伝達の分子機構など最先端の研究を紹介し、物質循環をキーワードに研究間の接点を見いだすことで生態学の新展開の糸口を探りたい。

T17-1 一斉開花研究のフロンティア：気象と栄養シグナルに対して植物は遺伝子レベルでどのように応答しているか？

* 佐竹暁子（九大・理），韓慶民（森林総研・北海道支所），沼田真也（首都大学東京・観光），市栄智明（高知大・農），谷尚樹（JIRCAS）

T17-2 森林生態系における微生物群集と窒素循環過程の時空間的変動

磯部一夫（東大・農）

T17-3 一年草における栄養利用の分子レベルでの制御 ～根と地上部との情報伝達～

三輪京子（北大・地球環境）

T17-4 同一樹木個体内における体細胞間ゲノム変異の探索

陶山佳久（東北大・農）

企画集会

3月24日 9:30-11:30

会場 RoomB

T18 都市住民 にとっての生物多様性保全：現状と課題、今後の展望

企画者：保坂哲朗（首都大・都市環境），曾我昌史（東大・工）

世界人口の半数以上が都市部に集中する現在、都市の生物多様性の保全は生態学における重要なテーマである。都市域は本来人間の生活や経済活動が円滑に行われることを目的に設計・管理されているため、生物多様性の保全においても都市住民の合意や協力が不可欠である。これまで都市の生物多様性保全は、生態系サービス（都市住民の利益）の考え方に基づいて実施されてきたが、都市の生物多様性は必ずしも正の効果を与えるわけではなく、害虫や害獣の増加など負の効果を与える可能性も指摘され始めた。また、生物多様性に対する住民の価値観や好みは多様であり、多くの住民の合意に基づき意思決定が行われる都市においては、生物多様性保全の考えは必ずしも受け入れられるものではない。加えて、このような人間社会と野生

物の関係は一般に不安定で、センセーショナルなキャンペーン等によって生物多様性への印象はネガティブなものへと一変する可能性がある。

これまで都市の生物多様性に関する生態学的研究は生態学的パターンを考察するものが多く、社会の需要や受容については社会科学系の研究に委ねてきた。しかしながら、都市の生物多様性保全を効果的に推進するには、このテーマに関して生態学者も積極的に関わり、生物多様性保全がもたらす生態学的、社会経済的インパクトを都市住民や社会の視点から明らかにする必要がある。そこで、本企画集会では、都市住民と生物多様性の相互作用の問題に取り組む生態学研究者と環境経済学研究者による研究紹介を通じて、都市における生物多様性保全のあり方について議論を行う予定である。

コメンテーター：沼田真也（首都大）、丑丸敦史（神戸大）

T18-1 都市化が哺乳類に与える影響と人間社会との関わり

* 斎藤昌幸（農工大・農）

T18-2 都市の生物多様性保全と害虫問題

* 保坂哲朗，沼田真也（首都大・都市環境）

T18-3 都市における子供の自然体験が生物多様性保全意識に及ぼす影響

* 曾我昌史（東大・工），Kevin J Gaston（Exeter Univ.），山浦悠一（森林総研），栗栖聖（東大・工），花木啓祐（東大・工）

T18-4 都市生活と生態系サービス

* 佐藤真行（神戸大・発達科学），青島一平（神戸大・発達科学）

企画集会 3月24日 9:30-11:30 会場 RoomC

T19 里地里海の普通種の行方～多様な環境変化と生態系レジリエンス

企画者：日鷹一雅（愛媛大・農），嶋田哲郎（伊豆沼財団）

里地里海の生態系は、人間の管理下にあり、様々なインパクトを受けるのが特徴である。たとえ、人間の管理圧の強くない自然生態系であっても、近年の地球温暖化や大災害のような攪乱のような劇的な環境変化を受けており、個々の種個体群に目を向ければ、通常密度変動を大幅に超えるように減少する種、または増加する種もあり、また環境の変化があっても変わらない密度レベルの種もあるであろう。最近、日本の各地において身近な生物で減少が取沙汰されており、典型的な例としては、赤とんぼ、すずめ、春の七草……などがマスコミを賑わしている。私たちは減少種ばかりに目を奪われがちである一方で、絶滅危惧と考えられている種が、息を吹き返したような密度回復を見せることもある。このような場合に、個体群動態を中長期に見て、本当に低密度レベルに減少し、絶滅の心配がされる密度レベルまで到達しているかどうか、あるいは絶滅の危機を脱したかどうかの適切な判別は容易ではないであろう。本集会では、あまり風評には流されずに、定点での確かなモニタリング・データや操作実験などによる因果関係の解析を通じた事象について探求しているフィールド研究者に登壇いただく。ある里地里海の種個体群や群集が、なぜ衰退したり、勢いを増すのかについて、多様な環境要因との因果関係に焦点を合わせながら生態系のレジリエンスについても考慮した考察を行い、身近な生きものの動態の変遷と今後の行方、人間社会の管理のあり方について議論する。

コメンテーター 嶋田哲郎ほか 「地域の多様な種群に対応している生態系保全管理の現場から」
司会 日鷹一雅

T19-1 津波被害を受けた岩手の干潟における底生動物群集の回復状況

* 木下今日子（岩手大学・三陸復興），松政正俊（岩手医科大学・生物）

- T19-2 「赤とんぼの行方」：アカネ属を増やす水田管理に向けて
神宮字 寛（宮城県立大）
- T19-3 「田んぼのただの草の行方」：伝統的無農薬農法の水田植生から見えてくるもの
嶺田拓也（農研機構・農村工学研究所）
- T19-4 里地の減る種・増える種・変わらない種：発生変動の逆問題を解くには？
日鷹一雅（愛媛大学大学院・農学研究科）
- T19-5 コメント：地域の多様な種群に対応している生態系管理の現場から
嶋田哲郎（（公財）宮城県伊豆沼・内沼環境保全財団）

企画集会 3月24日 9:30-11:30 会場 RoomD

T20 環境 DNA が開く、生態学の未来

企画者：荒木仁志（北大・農）、高原輝彦（島根大・生物資源）

生物環境媒体から DNA を抽出してその遺伝情報を解析する「環境 DNA」が脊椎動物に適用されるようになって7年が経とうとしている。当初は特定の生物種の在・不在検出に限られていたこの手法も、PCRの定量技術向上や次世代シーケンサーのハイスループット化といった DNA 解析技術の急激な進歩により、目覚ましい発展を遂げつつある。この企画集会では環境 DNA 研究に携わる若い演者にその最前線の研究成果を紹介してもらい、今後の生態学における環境 DNA 研究の可能性について議論する。

- T20-1 環境 DNA 研究の実践と課題：生態学フロンティアへの挑戦
* 荒木仁志, 神戸崇, 鎌田頌子（北大・農）, 源利文（神戸大・発達）, 佐藤行人（東北大）, 宮正樹（千葉中央博）
- T20-2 環境 DNA を用いた流水環境におけるアユの生物量の推定
* 高原輝彦（島根大・生物資源）, 森下大悟（福島県内水試）, 土居秀幸（兵庫県立大・院・シミュレーション）, 山中裕樹（龍谷大・理工）, 源利文（神戸大・発達）, 川田暁（福島県内水試）
- T20-3 環境 DNA と音響ビデオカメラから見るイトウ遡上量の経日変化
* 水本寛基（北大・農・動物生態）, 荒木仁志（北大・農）, 福島路生（国環研）, 卜部浩一（恵庭内水試）
- T20-4 マルチプレックス PCR を用いた兵庫県内のため池における在来魚と外来魚の分布状況の把握
* 福岡有紗, 丑丸敦史, 源利文（神戸大・発達）
- T20-5 環境 DNA 手法の感染症生態学への応用：タイ肝吸虫 *Opisthorchis viverrini* の検出
* 橋爪裕宜（神戸大・発達）, サトウ恵（新潟大・保健）, Marcello Otake Sato（獨協医科大・医学）, T. Yoonuan, S. Sanguankiat（Mahidol Univ., Trop Med）, T. Pongvongsa（Savannakhet Malaria Station）, 門司和彦（長崎大・国際健康開発）, 源利文（神戸大・発達）
- T20-6 環境 DNA 分析によるアユのミトコンドリア DNA ハプロタイプの検出
* 辻冴月（龍谷大・院・理工）, 宮正樹（千葉中央博）, 佐藤行人（東北大）, 山本哲史, 源利文（神戸大・発達）, 山中裕樹（龍谷大・理工）

企画集会

3月24日 9:30-11:30

会場 RoomG

T21 熱帯地域社会における生物多様性保全と利用－炭素排出権取引によるインセンティブの視点から－

企画者：奥田敏統（広島大学・総合科学研究科）、山田俊弘（広島大学・総合科学研究科）

深刻化する熱帯域での森林減少・劣化を抑止することによる温室効果ガス削減活動として2020年から開始予定のREDD+（森林減少・劣化由来の温室効果ガス削減活動）が注目を集めているが、その実施に当たっては、生物多様性や先住民の権利への配慮が必要とされ、これらがセーフガードの重要項目として盛り込まれている（COP16カンクン合意）。

世界の遺存的生態系となった熱帯林とその生物多様性を保全するには、拘束性の強い抜本的な保全対策を急ぐべきという主張がある一方で、生物資源をよりうまく利用することで、循環型農林業を促し、ひいては、それが森林減少や劣化の予防・抑止に繋がるという考え方もある。この立場からみれば、REDD+とセーフガードは森林資源の持続的利用と生物多様性保全の両立のための仕組み作りを進めるうえでまたとない機会ともいえる。

本シンポジウムでは熱帯アジアや南米の農山村社会を含む生態系で、住民便益と生物多様性のバランスに焦点を当てた研究や保全活動事例を紹介し、持続的自然資源利用と森林劣化・減少抑止活動がどの程度有効に機能するか、またそのためにはどのような「基準・指標」が必要かについて議論する。

- 1 趣旨説明 REDD+セーフガードと森林保全 奥田敏統
- 2 ラオス熱帯域における森林利用と地域住民の生活 天野正博
- 3 ペルーとカンボジアにおけるコミュニティ参加型の森林保全の取組 浦口あや
- 4 生物多様性の住民利用の可能性 山田俊弘

司会：山田俊弘（広島大学・総合科学研究科）

総合討論：奥田敏統（広島大学・総合科学研究科）

コメンテーター：中静透（東北大学・生命科学研究科）

T21-1 趣旨説明 REDD+セーフガードと森林保全
奥田敏統（広島大学・総合科学研究科）

T21-2 ラオス熱帯域における森林利用と地域住民の生活
天野正博（早稲田大学・人間科学学術院）

T21-3 ペルーとカンボジアにおけるコミュニティ参加型の森林保全の取組
浦口あや（コンサベーション・インターナショナル・ジャパン）

T21-4 生物多様性の住民利用の可能性
山田俊弘

企画集会

3月24日 9:30-11:30

会場 RoomH

T22 絶滅危惧鳥類と末永く上手に付き合う方法－見せながら守れるの？－

企画者：早矢仕 有子（札幌大学）

絶滅危惧種の持つ「珍しさ」はそれ自体が価値を高め、「見ることの喜び」や「写真を撮る喜び」をもたらす。とくに大型捕食者の猛禽類は人気が高く、接近しやすい生息地では一旦生息情報が広まると訪問者が急増し、営巣地や採餌場所へのヒトの接近による個体への悪影響が懸念される。そのような猛禽類を対象とする研究

者は各々の調査地で個別対応に苦慮しているが、お互いの情報交換の機会が乏しく、絶滅を加速させる要因としての一般的認識も低い。

また、ヒトの野外活動が、意図せぬまま絶滅危惧種への過度な接近を引きおこし、その生存や繁殖を妨げることもある。知床半島に生息する海鳥のケイマフリは、生息海域と営巣地が観光船航路と重なったことで採餌や繁殖への妨害がおこり、個体群存続が危ぶまれた。しかし、ケイマフリの観光資源としての価値を観光業者に気づかせたことで、保全への認識を共有することに成功している。現在、ヒトの接近に悩むイヌワシやシマフクロウでも、関心の高さを利用することで、「見たいから守らねばならない」という認識を呼び起こすことも可能なはずだ。そこからさらに「守るために見ることを我慢」できる段階へ移行させるのも、研究者の役割かもしれない。

一方、野生絶滅したコウノトリの再導入事業では、市民や観光客に個体や生息地を見せつつ、地域が主体となり生息環境復元に取り組んでいる。コウノトリが呼び水となり地域の価値が高まり、保全への意欲が増大する好循環が生まれている。

もちろん、生態特性が大きく異なる絶滅危惧鳥類を共通の方法で「見せて守る」ことは不可能であろう。しかし、見せて守るためには、地域住民・行政・研究者による合意形成が必要なことは共通しているはずである。ここでは4題の事例を紹介し、絶滅危惧種の保全と利用の両立可能性を検討する。

コメンテータ：松田裕之（横浜国立大学）

T22-1 絶滅危惧種保全とツーリズムは共存できるのか？

早矢仕 有子（札幌大）

T22-2 イヌワシを見せて守る・・・理想と現実

須藤 明子（(株)イーグレット・オフィス）

T22-3 知床におけるケイマフリおよび海鳥の保全活動

福田 佳弘（知床海鳥研究会）

T22-4 研究者の眼、行政の力、地域住民の思い：絶滅危惧種保全をめぐる順応的ガバナンス

菊地 直樹（総合地球環境学研究所）

企画集会

3月24日 9:30-11:30

会場 RoomI

T23 生態学における因果推論：convergent cross mapping とその周辺

企画者：中山新一朗（中央水研）、阿部真人（国立情報研）

生態学者はしばしば、複数の時系列間に因果関係があるかどうかを推定する必要に迫られる。例えば、二種の個体群の時系列データのみを手がかりにそれらの間に種間関係があるかどうかを推定するというのは保全生態学や個体群生態学、群集生態学においてしばしば見られる状況だろう。しかし生態学における時系列からの因果関係推定は時系列の長さやデータに内在する非線形性など、いくつかの理由から非常に困難であった。

Convergent cross mapping (CCM) は、比較的短い、非線形構造をもつ時系列データに対して適用可能な因果関係推定法として2012年にScience誌上で発表され (Sugihara et al., 2012)、注目を集めている。この手法は生態学における因果関係推定に広く応用可能であり、漁業データや環境DNAデータ、動物の歩行軌跡データ等に適用されつつある。しかし、基盤となる理論が比較的難解であるため、この方法を用いることを躊躇してしまう生態学者も多いと考えられる。本集会では、4名の講演者がCCMの原理（中山）、CCMを用いた研究例（阿部）、CCMの限界と注意点（鈴木）、既存の方法との比較（山道）について発表する。これらを踏まえたうえで、これからの生態学における因果関係推定のありかたやそれを意識したデータの取り方、推定された因果関係に基づいたモデリング、予測および管理への応用の可能性などについて幅広く議論できる場としたい。

- T23-1 **Convergent cross mapping : 原理、実装、研究例について**
中山新一朗 (中央水研)
- T23-2 **CCM の応用例 : 動物の集団行動の解析**
阿部真人 (国立情報研)
- T23-3 **力学系理論から見た CCM : 何ができて、何ができないのか?**
鈴木健大 (国立環境研)
- T23-4 **CCM と移動エントロピーの比較**
山道真人 (京大・白眉 / 生態研)

企画集会 3月24日 9:30-11:30 会場 RoomJ

T24 生物が形作る生態系 : ミクロ (単細胞生物) レベルでの不均一性が解く生態系物質循環過程

企画者 : 横川太一 (海洋研究開発機構), 松井一彰 (近畿大・理工)

生物を観察対象とした多くの生態学研究では、環境の不均一性を測定することのできない不確定要因として扱う傾向にあった、しかし、近年の、対象生物以外に「環境を計る」という新たなアプローチから、「環境の物理化学的構造や資源となりうる物質の不均一性」が生態系の基礎生産者や細菌生産者など低次栄養段階の生物組成を決定する要因となることがわかってきた。さらに、その効果は生態系全体に波及することも明らかになってきている。この企画集会では、環境の物理化学的構造や資源となり得る物質の変動と、それらに関わる低次栄養段階生物との相互作用、あるいはこれら非生物要因によって決定される生態系物質循環過程について議論する。

- T24-1 **土壌システムの空間的不均一性と物質の循環 : 有機物動態を団粒構造から捉え直す**
和穎朗太 (農環研)
- T24-2 **水圏環境における有機物 - 微生物連鎖系の相互作用プロセス**
高巢裕之 (東大・大気海洋研)
- T24-3 **海底堆積物の環境パラメータと底生生物との関連**
野牧秀隆 (海洋研究開発機構)
- T24-4 **海洋水塊構造と有機物量によって決定される微生物を介した物質循環過程**
横川太一 (海洋研究開発機構)

3/21 口頭発表

Time	Room E	Time	Room E	Room F	Room G
	Ecosystem Ecology (1)		Ecosystem Ecology (1)		
10:00	[E1-01] Applicability of optical scanner method for fine root dynamics in a Bornean tropical rainforest T Kume (NTU), M Ohashi (Hyogo Univ), Lip Khoon Kho (MPO), N Makita (JSPS), A Katayama (Kyushu Univ), K Matsumoto (Ryukyu Univ)	11:30	[E1-07] Effects of phosphorus and nitrogen addition on CO ₂ , CH ₄ , and N ₂ O fluxes with and without root exclusion in tropical lowland forests in Mt. Kibnabalu, Borneo *Taiki Mori, Daiki Yokoyama, Kanehiro Kitayama		
10:15	[E1-02] Net ecosystem production of an old-growth beech-oak forest in central Japan *Suchewaboripont, V., Yoshitake, S., Ohtsuka, T. (Gifu Univ.)	11:45	[E1-08] A Simulation of the Carbon Circulation between Forest and Social Ecosystem in Arida and Hidaka river basin *Tatebayashi K. (Osaka Univ.), Matsui T. (Osaka Univ.), Ooba M. (NIES), Machimura T. (Osaka Univ), Tani U. (Wakayama Univ.), Nakao A. (Wakayama Univ.), Yamamoto Y. (Wakayama Univ.)		
			Plant Ecology	植物個体群	行動
10:30	[E1-03] Temporal changes in CO ₂ efflux from fruiting bodies of fungi *Nakagawa, Y., Ohashi, M. (Univ. Hyogo)	14:00	[E1-09] Competitive hierarchy drives both community overdispersion and clustering during plant succession *Tatsumi, S., Mori, A.S. (Yokohama Natl. Univ.)	[F1-01] 開葉期の積雪と光環境がミズナラ稚樹の生存に及ぼす影響 *石田清(弘前大・農), 平松咲子(フリーキッズ・ヴィレッジ)	[G1-01] 河川中の濁りの変化がアユの行動に及ぼす影響に関する検証 *宮川幸雄(土木研究所), 小野田幸生(土木研究所), 堀田大貴(土木研究所), 萱場祐一(土木研究所)
10:45	[E1-04] Annual fluxes of dissolved organic carbon (DOC) in a cool-temperate deciduous forest of central Japan Siyu Chen*, Shinpei Yoshitake, Toshiyuki Ohtsuka, 岐阜大学応用生物科学研究科	14:15	[E1-10] Short-term dynamics of the entire post-germination populations of a rain forest tree species in a 50 ha plot *Sugiyama, A. (UCLA/FFPRI), Masaki, T. (FFPRI), Hubbell, S.P. (UCLA/STRI)	[F1-02] ブナのマスティングと葉フェノロジーの関係 *山浦攻(信州大院・教), 井田秀行(信州大・教)	[G1-02] ヤギの体重変化と排泄量を基にした採草量の推定 浅風祥子(高知大・理), *加藤元海(高知大・黒潮)
11:00	[E1-05] Variation in ecosystem silicon cycling via plants with elevation and bedrock on Mount Kinabalu, Sabah, Malaysia *Nakamura, R., Ishizawa, H., Kajino, H., Suzuki, S., Kitayama, K., Kitajima, K. (Kyoto Univ.), Wagai, R. (NIAES)	14:30	[E1-11] Changes in functional composition along forest degradation in different types of tropical forests in Thailand *Panida KACHINA, Hiroko Kurokawa, Masahiro Aiba, Lamthai Asanok, Dokrak Marod, Tohru Nakashizuka.	[F1-03] 植物のアルカロイドを介した生物間相互作用の空間的・時間的効果 *井田崇(京大・生態研), 高梨功次郎(信大・理), 大串隆之(京大・生態研)	[G1-03] カツオクジラの立ち泳ぎ採餌 *岩田高志(東大・大海研), 赤松友成(水研セ・中央水研), 佐藤克文(東大・大海研)
11:15	[E1-06] The cloud forest ecosystem in Taiwan is facing severe drought stress Shin-Hao Chen, Hsin-Lin Wei*, Masaki Sano, Takeshi Nakatsuka, I-Ching Chen	14:45	[E1-12] Habitat structures controlling the spatial distribution of vascular epiphytes *Nakanishi, A., Tanaka, M. (Kyoto Univ.), Sungpalee, W., Sri-ngernyuang, K. (Maejo Univ.), Kanzaki, M. (Kyoto Univ.)	[F1-04] テリハボクの初期成長特性における家系間差:母樹の生育環境による早生型・晩生型は存在するか? 松下通也, 花岡創, 加藤一隆, 板鼻直榮, 楠城時彦, 千吉良 治(森林総研・林育セ)	[G1-04] ニホンザル野生群におけるinfant handlingの機能検証 *関澤麻伊沙, 沓掛展之(総研大・先導研)
				植物生理生態	
		15:00	[E1-13] The effects of stem damage on sex allocation in a wind-pollinated plant Ambrosia artemisiifolia *Nakahara, T. (Kyushu Univ.), Fukano, Y. (Tokyo Univ. of Agri. and Tech.), Yahara, T. (Kyushu Univ.)	[F1-05] 針葉樹には光呼吸に必須な葉緑体型グルタミン合成酵素(GS2)が存在しない 宮澤真一(森林総研)*, 宮尾光恵(生物資源研), 二村典宏(森林総研)	[G1-05] 鳥たちに心はあるか? 表象を介した情報伝達の実験的検証 鈴木俊貴(総研大・先導科学)

Time	Room H	Room I	Room J
11:30			
11:45			
	進化	保全	群落
14:00	[H1-01] メダカ属魚類における体色の多様化をもたらす生理生態メカニズム(I) *藤本真悟(琉球大・熱生研), 持田浩治(慶応大・生物), 杉内信哉, 松井久実(麻布大・獣医), 北野潤(遺伝研・生態遺伝), D. F. Mokodongan(琉球大・理), 石川麻乃(遺伝研・生態遺伝), R. K. Hadiaty(LIPI), A. K. W. Masengi(Sam Ratulangi Univ.), 山平寿智(琉球大・熱生研)	[I1-01] 植生の長期モニタリングに向けたRGBデータ解析方法の開発 *水野 晃子(名古屋大), 田邊優貴子	[J1-01] 北海道東部火山性噴気孔周辺の土壌環境と植物の分布 *南佳典(玉川大・農), 野口侑璃奈(玉川大・農)
14:15	[H1-02] メダカ属魚類における体色の多様化をもたらす生理生態メカニズム(II) *持田浩治(慶応大・生物), 杉内信哉, 松井久実(麻布大・獣医), 北野潤(遺伝研・生態遺伝), 藤本真悟(琉球大・熱生研), D. F. Mokodongan(琉球大・理), 石川麻乃(遺伝研・生態遺伝), I. F. Mandagi, A. K. W. Masengi(Sam Ratulangi Univ.), R. K. Hadiaty(LIPI), 山平寿智(琉球大・熱生研)	[I1-02] 立山アルペンルート除雪が道路沿線の森林に及ぼす影響 *石田 仁(岐阜大・応), 中島春樹(富山県森林研), 大宮徹(富山県森林研)	[J1-02] 火山性ガスが高山植生に及ぼす影響 - 立山での事例 - *和田直也, 佐澤和人(富大・極東), 吉松美咲, 樋口開渡, 松田大地(富大・理), 川村健介(広島大・国際)
14:30	[H1-03] トランスクリプトーム進化の環境依存的制約 *石川麻乃(遺伝研), 日下部誠(東大), 吉田恒太(遺伝研), Mark Ravinet(遺伝研), 牧野能士(東北大), 豊田敦(遺伝研), 藤山秋佐夫(遺伝研), 北野潤(遺伝研)	[I1-03] 排水の影響を受けた歌才湿原の植物群落の分布 *イ・アヨン(北大農学院), 富士田裕子(北大FSC植物園), 小林春毅(北大FSC植物園), 井上京(北大農学研究院)	[J1-03] 旧熱帯区山地林の組成と気候条件の比較および全北区との関係性について 目黒伸一
14:45	[H1-04] トガリネズミ目のミトコンドリアDNAにおける系統特異的な正の選択 *佐藤真(大町山岳博物館), 玉手英利(山形大・理), 横山潤(山形大・理)	[I1-04] 高山市における絶滅した集団由来のサクラソウ個体の探索、および由来推定に重要な条件 *吉田康子(神戸大院・農・食資源セ), 中澤宏介(高山市役所), 本城正憲(東北農研), 大澤良(筑波大院・生命環境)	[J1-04] 生物多様性評価のためのMODISデータによる日本全土の植生現況図作成 *原慶太郎, 原田一平, 富田瑞樹, 朴鐘杰, 長谷川大輔, 浅沼市男(東京情報大), 原正利(千葉県立中央博), 平吹喜彦(東北学院大), 藤原道郎(兵庫県立大)
15:00	[H1-05] 小笠原諸島に侵入したグリーンアノールの進化的変化の検出と集団ゲノム解析 *玉手智史(東北大・院・生命), 森英章(自然環境研究センター), Brian J. Composano(University of Florida), Kenneth L Krysko(University of Florida), 舟山亮(東北大・医・附属創生応用医学研究センター がん医学コアセンター 細胞増殖制御分野), 中山啓子(東北大・医・附属創生応用医学研究センター がん医学コアセンター 細胞増殖制御分野), 牧野能士(東北大・院・生命), 河田雅圭(東北大・院・生命)	[I1-05] キンラン属3種の保全手法確立にむけた好適生育環境と生存戦略の推定 *長谷川啓一, 上野裕介, 大城温, 光谷友樹, 瀧本真理, 井上隆司(国交省・国総研), 遊川知久(国立科学博物館)	[J1-05] 分布北限域におけるイラモミ林の種組成と分布 星直斗(栃木県博)

Time	Room E Plant Ecology	Room F 植物生理生態	Room G 行動	Room H 進化
15:15	[E1-14] Robust regulation by histone modifications as the long-term memory of the environment *Nishio, H. (Kyoto Univ.), Buzas, D. (Tsukuba Univ.), Iwayama, K. (Ryukoku Univ.), Nagano, A.J. (Ryukoku Univ.), Kudoh, H. (Kyoto Univ.)	[F1-06] 垂高山帯針葉樹シラビソで冬季にみられるの枝木部の通水阻害は枝齢に依存する 大條弘貴, 大塚晃弘, *種子田春彦(東京大・理), 小笠真由美, 矢崎健一(森林総研), 丸田恵美子(東京農大・理)	[G1-06] 風環境に合わせて最適な飛行速度を選択するヨーロッパヒメウ *佐藤克文(東大大海研), 綿貫豊(北大水産), Sarah Wanless(CEH), Francis Daunt(CEH)	[H1-06] 小笠原諸島の外来性グリーンアノールにおける集団間形態差とその生態的要因の検討 *安西航(東大・理), 高橋洋生, 戸田光彦(自然研), 遠藤秀紀(東大・博物館)
15:30	[E1-15] Variation of transpiration among trees of various size composing a tropical rainforest in Borneo *Saito, T. (Nagoya Univ.), Oren, R. (Duke Univ.), Kho, L.K. (Malaysian Palm Oil Board), Kume, T. (Taiwan Univ.), Takahashi, A., Hamada, S., Koboyashi, N., Fujii, S., Kumagai, T. (Nagoya Univ.)	[F1-07] 植物概日時計の季節変化への同調メカニズムとその適応的意義 *大原隆之(北大院・環境), 関元秀(九大・工), Webb A.A.R.(Cambridge Univ.), 佐竹暁子(九大・理)	[G1-07] 何が放鳥トキの生存に影響を与えるのか? *永田尚志1, 山田宜永2, 中津弘1, 油田照秋1 (1:新潟大CTER, 2:新潟大・自然科学)	[H1-07] ミジンコの捕食者に誘導される表現型多型の制御におけるイオンチャネル共役型グルタミン酸受容体の役割 *宮川一志(宇大・バイオ), 井口泰泉(基生研)
15:45	[E1-16] The spatial distribution of water loss in the stems of two widely planted Japanese conifers related to fatal drought stress *Umebayashi, T. (Hokkaido Univ.), Fukuda, K. (Univ. of Tokyo), Utsumi, Y. (Kyushu Univ.), Kusumoto, D. (Univ. of Tokyo)	[F1-08] 自己間引き則下にある森林の林分呼吸量の経年変化に関するモデル解析 小川一治(名古屋大学)	[G1-08] 野生トキの群れと単独での行動の比較 *油田照秋, 中津弘, 永田尚志 (新大・CTER)	[H1-08] 昆虫の翅多型における密度依存性の進化: 数理モデルにより生理学と生態学の融合を目指す 上岡駿宏*, 巖佐庸(九大・理・生物)
遷移・更新				
16:00	[E1-17] Respiration and anatomical characteristics of Moso bamboo culms *Uchida, E.M.(Kyushu Univ.), Katayama, A.(Kyushu Univ.), Utsumi, Y.(Kyushu Univ.), Enoki, T.(Kyushu Univ.), Koga, S.(Kyushu Univ.), Otsuki, K.(Kyushu Univ.)	[F1-09] プナにおける稚樹と親木のハビタットの違いに基づく更新適域の時空間変動予測 *小出大(国環研), 比嘉基紀(高知大), 中尾勝洋, 大橋春香, 津山幾太郎, 松井哲哉, 田中信行(森林総研)	[G1-09] 分散可能な環境におけるハダニとカブリダニの攻防(1) *大槻初音, 矢野修一(京大院・農・生態情報)	[H1-09] 密度依存的な推移行列と弾力性: 寄生蜂2種の競争実験 *嶋田正和, 長瀬泰子, 小林祐一郎(東大・総合文化・広域)
16:15	[E1-18] Intrinsic drivers controlling intra- and interspecific variation of nutrient demands in tropical tree species *Ryota Aoyagi, Kanehiro Kitayama (Kyoto Univ.)	[F1-10] 開花年のずれたササの枯死がブナ林の動態に与える影響: 十和田湖畔のチシマザサー斉開花の事例 *蒔田 明史・高木 豊大・松尾 歩・佐藤 朋華・阿部みどり(秋田県大・生物資源)	[G1-10] 分散可能な環境におけるハダニとカブリダニの攻防(2) *矢野修一, 大槻初音(京大院・農・生態情報)	[H1-10] 周期ゼミ(素数ゼミ)の周期性進化メカニズムの解明 *伊東啓(静岡大・創造), 柿嶋聡(静岡大・創造), 上原隆司(名古屋短大), 守田智(静岡大・工), 小山卓也(京都大・理), 曾田貞滋(京都大・理), John R. Cooley(コネティカット大), 吉村仁(静岡大・創造)
16:30	[E1-19] (A)biotic factors underlying variation in Cs-137 concentration among shoots within a Japanese fir (<i>Abies firma</i>) distributed in forests in Fukushima, Japan *Oba, Y., Yamada, T., Shizuma, K., Okuda, T. (Hiroshima Univ.)	[F1-11] 東日本大震災の津波で水生昆虫は復活するのか? -福島県相馬市の沼における水生昆虫相の変化- *三田村敏正(福島農総七浜), 平澤桂(アクアマリンふくしま), 吉井重幸(福島虫の会)	[G1-11] 捕食者の存在は被食者の卵の孵化を早める? ~岩礁潮間帯に生息するカサガイの対捕食者戦略~ 和田 葉子*, 岩崎敬二, 遊佐 陽一	[H1-11] 新しい種が次々と創出されるメカニズムの数理的研究 *巖佐庸(九大理)・山口 諒(九大理)
16:45	[E1-20] Cline in flowering time response to long- and short-day photoperiods in <i>Arabidopsis kamchatica</i> across a 3000-m elevational range *Kenta T (SMRC, Univ. Tsukuba), Yamada A (Toho Univ.), Onda Y (CSRS, RIKEN), Wakazuki Y (CRIED, Univ. Tsukuba)	[F1-12] 群集集合: 空間的および時間的ニッチ分化の重要性 *平賀優大, 岩崎藍子, 大平昌史, 金森由妃, 胡之陽, 立花道草(北大・院・環境), 奥田武弘(水研セ・国際水研), 深谷肇一(統教研), 野田隆史(北大・地球環境)	[G1-12] 木登りカタツムリが木に登らないとどうなるのか? 佐伯いく代*(筑波大), 丹羽慈(自然研), 長田典之(北大), 兵藤不二夫(岡山大), 太田民久(地球研), 大石善隆(北大), 日浦勉(北大)	[H1-12] 個体群分岐の原理 大森浩二(愛媛大学・沿岸)

Time	Room I	Room J
	保全	群落
15:15	[I1-06] 生物的防除が非農耕地の生物の保全に及ぼす影響の数理モデル *池川 雄亮, 江副 日出夫, 難波 利幸(大阪府大院・理)	[J1-06] ブナ科のすみ分け 広木 詔三(愛知大学)
15:30	[I1-07] マルチプレックスPCRによる環境DNA試料を用いた複数魚種同時検出手法の開発 *本澤大生(龍谷大・院・理工), 山中裕樹(龍谷大・理工)	[J1-07] 植物群集の非ランダムな花色構成: 互いに異なる在来種・その和を乱す外来種 *牧野崇司(山形大・理), 横山潤(山形大・理)
15:45	[I1-08] 耕作放棄地は湿地性生物種の代替生息地となりうるか? -耕作放棄地の時空間特性が湿地性オサムシの定着に与える影響- 山中聡(北大・農)*, 赤坂卓美(帯畜大・生命科学), 藪原佑樹(北大・農), 中村太士(北大・農)	[J1-08] 照葉樹林帯におけるカタクリ個体群の動態 中西 正(愛知県環境審議会専門調査員)
16:00	[I1-09] 環境DNA分析を用いた水棲生物の河川における移動分散の把握 櫻井翔*, 本澤大生(龍谷大・院・理工), 三宅倫太郎, 山中裕樹(龍谷大・理工)	[J1-09] 温暖化と雪解け時期に対する冷温帯草原植生の反応 *鈴木亮(筑波大・菅平セ)
16:15	[I1-10] 広域スケールのパラメータから河川性魚類の個体数推定は可能か? *石山信雄, 照井慧, 中村太士(北大・農)	[J1-10] 山火事跡地の種子発芽個体 *津田智, 増井太樹 岐阜大流域圏センター
16:30	[I1-11] オガサワラゼミの系統的位置と遺伝的多様性 *長太伸章(科博・標本資料セ), 大林隆司(首都大 / 都小笠原亜熱帯農セ), 林正美(埼玉大名誉教授)	[J1-11] アンコール地域の北パライにおける水生植生の分布パターン *大山央人(埼玉大・院・教育), 荒木祐二(埼玉大・教育), Sin Pisey(APSARA), 大八木英夫(日大・文理), 塚脇真二(金沢大・環日本海域環境研究センター), Hang Peou(APSARA)
16:45	[I1-12] 固有属種アジマイナゴの生態と系統保存技術の開発 *苅部治紀, 森英章(神奈川県立博物館、自然環境研究センター)	

Time	Room E Animal Behavior	Time	Room D 動物と植物の相互関係	Room E Animal Behavior	Room F Applied Ecology
9:30	[E2-21] Demographic cost of selfish behavior in social insects TSUJI, Kazuki (Univ. Ryukyus), DOBATA, Shigeto (Kyoto Univ.), KIKUCHI, Tomonori (Chiba Univ.)	13:30	[D2-01] 花は訪花者に正直であるべきか? 花蜜の有無を示すシグナルの進化動態 *伊藤公一(九大・理)、鈴木美季(筑波大・生命環境)、望月昂(京大・生態研セ)	[E2-29] Male Desert Locusts exhibit endurance sexual-selection *Koutaro Ould Maeno (Kyoto Univ.), Satoshi Nakamura (JIRCAS), Mohamed Abdallahi Ould Babah (CNLA)	[F2-13] Data assimilation experiments with MODIS LAI observations and the dynamic global vegetation model SEIB-DGVM RIKEN AICS
9:45	[E2-22] Caste-specific and sex-specific expression of chemoreceptor genes in a termite *Mitaka, Y., Kobayashi, K. (Kyoto Univ.), Mikheyev, A., Tin, M.Y.M., Watanabe, Y. (OIST), Matsuura, K. (Kyoto Univ.)	13:45	[D2-02] 光合成をやめたラン科植物の種子散布 *末次健司(神大院・理)	[E2-30] Quantitative analysis of the frass kicking behavior of Orthopteran insects. *今坂英介(九大院・シス生・生態研)、粕谷英一(九大・理・生物)	[F2-14] Diet Analysis of <i>Cervus nippon yakushimae</i> from stomach contents based on next-generation sequencing *Kuroiwa, A., Kuroe, M., Morita, Y. (Kyushu Univ.), Matsuki, Y., Suyama, Y. (Tohoku Univ.), Yahara, T. (Kyushu Univ.)
10:00	[E2-23] Personal immunity and collective immunity of monogamous pairs in termite colony foundation: low-resistance individuals drag down high-resistance partners *Takashima, R., Matsuura, K. (Kyoto Univ.)	14:00	[D2-03] アカネズミの種子捕食がミズバショウ個体群に及ぼす影響 *富士田 裕子・市川秀雄(北大・FSC・植物園)	[E2-31] Two incompatible defensive strategies against predator in land snails *Morii, Y. (Hokkaido Univ.), Chiba, S. (Tohoku Univ.)	[F2-15] Quantitative estimates of food resources of a newly-established magpie <i>Pica pica</i> population using stable isotope analysis. *Oyake, N. (Univ. Tsukuba), Fujioka, M. (Univ. Tsukuba), Nakashita, R. (FFPRD), Furuki, K. (Tsukuba City), Mori, S. (Rakuno Gakuen Univ.)
10:15	[E2-24] Can sex difference in movement patterns really enhance mating encounters? Yes! *Nobuaki Mizumoto (Kyoto Univ.), Ryota Sato (Hachinohe Inst. Tech.), Naohisa Nagaya (Kyoto Sangyo Univ.), Masato S. Abe (Natl. Inst. Inf. JST), Shigeto Dobata (Kyoto Univ.) and Ryusuke Fujisawa (Hachinohe Inst. Tech.)	14:15	[D2-04] リーフモンキーは種子散布者として機能しているか? Yamato Tsuji*, Jenni Indah, Kanthi Arum Widayati, Bambang Suryobroto	[E2-32] The effects of light environment during the growth on the expression levels of cone opsin genes and behavioral spectrum sensitivity in the guppy, <i>Poecilia reticulata</i> *Yusuke Sakai, Hajime Ohtsuki (Tohoku Univ.), Satoshi Kasagi, Shoji Kawamura (Univ. Tokyo) and Masakado Kawata (Tohoku Univ.)	[F2-16] How does urban land use affect hornet species abundance? A case of Nagoya city *Azmy M.M., Numata S., Hosaka T. (Tokyo Metropolitan University)
10:30	[E2-25] Seasonal changes of energy gain and consumption in a honeybee colony *YOSHIDA, M., OHASHI, M., KIMURA, T., OKADA, R., IKENO, H. (Univ. Hyogo)	14:30	[D2-05] 鳥類の種子散布における群集間ネットワークの長期的動態 *大河原恭祐(金沢大・自然システム・生物)、木村一也(金沢大・地域連携センター)、庄藤瑞英(金沢大・自然システム・生物)、松平有加(金沢大・自然システム・生物)	[E2-33] Moving in dangerous situations: What wild Asian elephants do when crossing roads? *Mizuno, K. (Kyoto Univ.), Sharma, N. (Indian Institute of Science), Sukumar, R. (Indian Institute of Science), Idani, G. (Kyoto Univ.)	[F2-17] Assessing the Impact of Climate Change on Proposed Restoration of the Lynnhaven River Ecosystem in Virginia, USA Hershner, C. (VIMS- William & Mary Coll.), Brush, M. (VIMS- William & Mary Coll.)
10:45	[E2-26] Host manipulation by an ichneumonid spider-ectoparasitoid, taking advantage of preprogrammed web-building behaviours for its cocoon protection *Takasuka, K. (Kobe Univ.), Yasui, T. (Kobe Univ.), Ishigami, T. (Kobe Univ.), Nakata, K. (Kyoto Women's Univ.), Matsumoto, R. (Osaka Museum of Natural History), Ikeda, K. (Kobe Univ.), Maeto, K. (Kobe Univ.)	14:45	[D2-06] 登山家グマが温暖化の危機からサクラを救う: 彼らの垂直方向の種子散布に注目して 直江将司*(森林総研)、陀安一郎(地球研)、酒井陽一郎(琵琶研セ)、正木隆(森林総研)、小林和樹、中島晶子(日大)、佐藤喜和(酪農大)、山崎晃司(東京農大)、清川紘樹(東大)、小池伸介(東京農工大)	[E2-34] Why does Japanese little horseshoe bat retain spermatozoa in cauda epididymis throughout hibernation period? *Sato, T. (Niigata Univ), Hoshi, N. (Kobe Univ), Sekijima, T. (Niigata Univ)	[F2-18] Reef rehabilitation using transplanted hard corals at Con Co Island, Quang Tri Province, Vietnam. Vu, Trieu-Duc
11:00	[E2-27] Genetic link between moving activity and male reproductive strategies, in the red flour beetle. *Kentaro Matsumura, Takahisa Miyatake (Evolutionary Ecology, Okayama university)	15:00	[D2-07] 花蜜に生息する真菌群集の多様性とネットワーク構造 *平尾章, 山田宗樹, 出川洋介(筑波大・菅平セ)		[F2-19] Do urban squirrels distinguish risk levels exposed by different potential predators? *K.Uchida(Hokkaido univ.), K.Suzuki, T.Shimamoto(Iwate univ.), H.Yanagawa(Obihiro univ.), I.Koizumi(Hokkaido univ.)
11:15	[E2-28] Phototaxis behavior of ambrosia beetle <i>Platypus quercivorus</i> before and after flight *Pham Duy Long, Michimasa Yamasaki (Kyoto Univ.), Yasuto Ito (Hyogo Prefect.), Ryuichi Okada, Hidetoshi Ikeno (Univ. Hyogo)				

Time	Room G 行動	Room H 進化	Room I 保全	Room J 物質循環
13:30	[G2-13] タンチョウのつがいダンスと繁殖との関係 *武田浩平、沓掛展之(総研大・先導研)	[H2-13] テングザルの鼻はなぜ長い? *松田 一希(京大・霊長研); John Sha(京大・霊長研); Ismon Osman(シンガポール動物園); Sen Nathan(サバ州野生生物局); 清野悟((公財)横浜市緑の協会 横浜動物園); 香田啓貴(京大・霊長研)	[I2-13] 風力発電施設建設の環境影響評価におけるガン・ハフチョウ類の渡り調査手法の検討 *森口紗千子, 小町亮介, 向井喜果, 坂本大地, 山田新太郎, 佐藤あやめ, 倉橋彩百合, 清水英人, 佐藤雄大, 鎌田泰斗, 関島恒夫(新潟大・自然)	[J2-12] 日本の農業生態系での栄養塩類循環と問題点 *三島慎一郎(農環研)
13:45	[G2-14] ギンメッキゴミグモのメスはなぜ配偶相手を選ばないか? *中田兼介(京都女子大学), 繁宮悠介(長崎総合大・総合情報)	[H2-14] 左巻きは右利きヘビを威嚇する *浅見崇比呂(信州大), Patchara Danaisawadi, Chirasak Sutcharit, Somsak Panha(Chulalongkorn Univ)	[I2-14] 沖縄からの新しい社会連携型環境モニタリングプロジェクト、「OKEON 美ら森プロジェクト」の始動 *吉村正志, 芳田琢磨, 小笠原昌子, Evan Economo(OIST)	[J2-13] 里山の陸域水域移行帯における落葉の分解 *河内香織(近大農), 渡部友貴(近大農)
生態系管理				
14:00	[G2-15] 良き夫は良き娘をもうけるか? : ホソヘリカメムシにおけるgood genes仮説の検証 *洲崎雄(京大・院・理), 香月雅子(筑波大・生命環境系), 岡田賢祐(岡山大・院・環境生命)	[H2-15] 餌サイズと繁殖干渉を淘汰圧としたヒメオサムシの体サイズ分化 *奥崎穰(北大・FSC), 曾田貞滋(京大・理)	[I2-15] データマイニングで河川魚類の産卵期における重要な環境要因を特定する *梁 政寛(東工大・工/Eawag・Aquatic Ecology), 吉村千洋(東工大・工)	[J2-14] ヒノキ林における土壌窒素動態と真菌・細菌バイオマスの季節的変動の関係 *横部智浩(京大院・農), 兵藤不二夫(岡大・異分野先端コア), 徳地直子(京大・フィ)
14:15	[G2-16] ショウジョウバエの種特異的なフェロモン嗜好性を決める神経回路の進化 *石川 由希(名古屋大・院理), 上川内 あづさ(名古屋大・院理), 山元 大輔(東北大・院生命)	[H2-16] 河川昆虫の体色斑は隠蔽色として機能する *田村繁明, 加賀谷隆	[I2-16] 揖斐川における河道掘削前後のインガイ類生息環境の形成と変遷 *永山滋也(土研・自然共生C), 原田守啓(岐阜大院・流域研C), 佐川志朗(兵庫県大院・地域資源), 萱場祐一(土研・河川生態)	[J2-15] ボルネオ熱帯低地の自然林・二次林生態系における地上部純一次生産の窒素・リン施肥への応答 *今井伸夫(京大・霊長研), 北山兼弘(京大・農・森林生態)
14:30	[G2-17] シダクロズズマバチの女王の交尾回数と巣の規模の関係について *佐賀達矢(東大院・総合文化), 岐阜県立大垣桜高, 嶋田正和(東大院・総合文化)	[H2-17] アリにおける社会寄生の化学戦略: 擬態か隠蔽か? *里居伸祐, 巖佐用(九大, 理)	[I2-17] 河床の石への土砂の堆積がアユの摂食に及ぼす影響 *小野田幸生(土木研究所), 堀田大貴(土木研究所), 高木哲也(応用地質株式会社), 萱場祐一(土木研究所)	[J2-16] フィリピンバタン湾における食物網構造の空間比較 *小川裕也(京大・農), 神崎護(京大・農), 岸野友子(筑波大・下セ), 岡本侑樹(京大・地球環境学室), Resurreccion B. Sadaba(フィリピン大学ヴィサヤ校)
		外来種		数理
14:45	[G2-18] 性役割の逆転したカワズメ科魚類における攻撃の性差 *伊藤宗彦, 山口素臣, 沓掛展之(総研大・先導科学)	[H2-18] グリホサート抵抗性ヒユ属外来雑草の侵入 *下野綾子(東邦大・理), 浅井元朗(農研機構・東北)	[I2-18] 中禅寺湖周辺河川における福島原発事故の放射性セシウム放出による水生昆虫等の汚染について *吉村真由美(森林総研), 赤間亮夫(森林総研)	[J2-17] 3栄養段階の生物群集モデルに基づく環境汚染の生態リスク評価手法 田中嘉成(国環研・環境リスク)
15:00	[G2-19] 派手なメスの進化論: 性特異的な警告色の適応価 櫻井麗賀*(兵庫県立大), 鈴木俊貴(総研大)		[I2-19] 表土ブロック移植による道路法面緑化の新技法について *中村誠宏(北大・北方生物), 福原英之, 千葉学, 今野秀一, 荒木大輔(開発局・旭建), 孫田敏, 伊藤徳彦(北開技センター)	[J2-18] 食物網モデルの種個体数分布 時田恵一郎(名大・情報)

3/22

Time	Room D 動物と植物の相互関係	Room E Animal Ecology (1)	Room F Applied Ecology	Room G 行動
15:15	[D2-08] Phenology structure in the fly world: flowering pattern of alpine plant communities in New Zealand *Gaku KUDO, Yuka KAWAI, Hiroshi ISHII	[E2-35] Identifying associations between populations from population time-series data *Fujiwara, M. (Texas A&M Univ.), Zhou, C. (Chinese Academy of Fisheries Sciences)	[F2-20] Conflict mitigation by agroforestry and profit sharing in tropical forests. *Yuki Kubo, Joung-Hun Lee, Yoh Iwasa (Kyushu University)	[G2-20] オカダトカゲの視覚的捕食者認知機構 *鈴木 翔 (東邦大・院), 長谷川 雅美 (東邦大)
15:30	[D2-09] 外来植物セイタカアワダチソウの抵抗性の進化の時間的な動態 *坂田ゆず (京大・生態研), Timothy Craig, Joanne Itami (Univ. Minnesota), 山崎理正 (京大院・農), 大串隆之 (京大・生態研)	[E2-36] Evolution of dispersal and the avoidance of transmission among kin Ryosuke Iritani (Kyushu University)	[F2-21] Regional differences in range shifts of butterflies to climate change and implications for protected areas in Japan *Misako Matsuba, Minoru Kasada, Tadashi Miyashita (University of Tokyo)	[G2-21] アノールトカゲにおける高温センサーTRPA1チャンネルと高温忌避行動との関連 *赤司寛志 (東北大・生命), Antonio Cádiz Díaz (ハバナ大), 齋藤 茂, 富永真琴 (生理研・細胞生理), 牧野能士, 河田雅圭 (東北大・生命)
15:45	[D2-10] 植食者を介した頻度依存選択がハクサンハタザオの細毛多型の維持を促す *佐藤安弘 (京大生態研), 工藤洋 (京大生態研)	[E2-37] Evolutionary linkage between reproductive division of labor and endoreduplication in termite *Nozaki Tomonari, Kenji Matuura (Insect Ecology, Kyoto University)	[F2-22] Individual or environmental factors : Which effects on nature attractiveness satisfaction of tropical urban park? Mohamad Muslim H.F1., Yahya, N.A2., Numata, S1., Hosaka, T.1 1Department of Tourism Science, Tokyo Metropolitan University, Minami-Osawa 1-1, Hachioji, 192-0397, Tokyo, Japan 2. Forest Research Institute Malaysia, FRIM, 52109, Kepong, Malaysia	生物多様性 [G2-22] シミュレーションと系統解析から探る、淡水魚の朝鮮半島からの侵入と拡散 *谷口昇志 (東京大・農), 岡崎登志夫 (東京大・院農学生命科学), 田祥麟 (祥明女子大学), 岸野洋久 (東京大・院農学生命科学)
16:00	[D2-11] 匂による植物の血縁認識の進化を考える *塩尻かおり, 上杉あかね, Andre Kessler	[E2-38] By-product of adaptation: effects of color polymorphism on distribution range in <i>Colias butterflies</i> *Noriyuki, S (Rissho Univ.), Takahashi, Y. (Tohoku Univ.)	[F2-23] Assessment of protected area networks for bird biodiversity in Taiwan *Chen, H., Nagai, S. (中央水研), Kishino, H. (東大院・農)	[G2-23] 更新世の日本海隔離で生じたアゴハゼ2グループの交雑帯のRAD-seq解析 平瀬祥太郎 (東大・水実), 手塚あゆみ (龍谷大・農), 永野惇 (龍谷大・農, JSTさきがけ, 京大・生態研), 岩崎渉 (東大院・理)
16:15		[E2-39] Upper and lower elevational range limits set by interspecific competition. Shih-Fan Chan (Biodiversity Research Center, Academia Sinica, Taiwan), *Wei-Kai Shih (Cheng Kung Univ., Taiwan), Sheng-Feng Shen (Biodiversity Research Center, Academia Sinica, Taiwan), I-Ching Chen (Cheng Kung Univ., Taiwan)	[F2-24] Life history traits and exploitation affect the spatial mean-variance relationship in fish abundance Kuo, T.C. (National Taiwan Univ.), Mandal, S. (Public Health Foundation of India), Yamauchi, A. (Kyoto Univ.), *Hsieh, C.H. (National Taiwan Univ.)	[G2-24] 汽水域に生息するカニ類の種多様性は河川の流域特性に左右されるのか? *小山彰彦 (九大院農), 乾隆帝 (山口大理工), 鬼倉徳雄 (九大院農)

Time	Room H	Room I	Room J
	外来種	生態系管理	数理
15:15	[H2-20] ダム貯水池におけるオオクチバスの繁殖抑制:水位操作パターンへの対応 *中井克樹(琵琶湖博), 笹田直樹(ウエスコ), 沖津二郎, 浅見和弘(応用地質), 大杉奉功(ダム水セ)	[I2-20] 全国の植物におけるシカ嗜好性と中山間地の都市における被食圧の分布 小池文人(横浜国大・環境情報)	[J2-19] 互いに類似したサブネットワークで構成される相互作用ネットワーク上での種個体数分布 *大浦健志(阪大・サイバー), 時田恵一郎(名大・情報)
15:30	[H2-21] 那珂川水系における特定外来生物カワヒバリガイの初記録:現状と対策 伊藤健二(農環研・生物多様性)	[I2-21] ステークホルダーの多様性が生態系のレジリエンスを担保する条件 *谷内茂雄(京大・生態研), 脇田健一(龍谷大・社会)	[J2-20] 種における排他的優占モードとカオスマードの識別 *足立隼(徳島大・医)
15:45	[H2-22] 沖縄島に生息する国内外来種サキシマハブの食性 *寺田考紀(沖縄県衛生環境研究所), 松井創(沖縄県公衆衛生協会)	[I2-22] 自然草原における植物種の消失が複数の生態系機能に及ぼす影響 吉原佑*, 二階莉紗, 高橋昌也, 陶山佳久(東北大・農), Nyambayar Dashzeveg(モンゴル国大), 佐々木雄大(千葉大・理)	[J2-21] 第一原理から導かれるダイナミクスの安定性について *佐藤一憲(静岡大学)
16:00	[H2-23] 日本産タンゴムシ・ワラジムシ類の分布データベースの構築:とくに外来種の分布域について *唐沢重考(福岡教育大学), 中田兼介(京都女子大学), 吉野広軌(東京大学)	[I2-23] 湿地再生にむけた古代から現代のシードバンクの解明 *森本淳子, 小林慶子(北大院・農), 鈴木玲(ひと自然つながり工房), 木村浩二, 三輪哲哉(雪印種苗), 志田祐一郎(野生総研), 中村太士(北大院・農)	[J2-22] ペアエッジ法の拡張による2次元格子空間上の集団存続可能性の評価 *鹿山大輔(静岡大学), 佐藤一憲(静岡大学)
16:15	[H2-24] 環境DNA分析におけるリアルタイムPCRとデジタルPCRの検出率の比較 *十河勇樹(龍谷大・院・理工), 土居秀幸(兵庫県大院・シミュレーション), 山中裕樹(龍谷大・理工)	[I2-24] 気候変動で消失する砂浜の経済評価 *今村航平, 高野宏平(東北大・生命), 有働恵子(東北大・工), 森信人(京大・工), 今村文彦(東北大・工), 中静透(東北大・生命), 馬奈木俊介(九大・工)	[J2-23] 報告件数から考えるマリアの数理モデル *布野孝明(九大・理・生物), 岩見真吾(九大・理・生物, さきがけ, INSERM)

Time	Room E Animal Ecology (2)	Room F Ecosystem Ecology (2)	Time	Room E Plant-Animal Interaction
9:30	[E3-40] Challenges for sika deer adaptive management using ecological indices of deer performance. *Takeshita, K., Kaneko, M., Kaji, K. (Tokyo University of Agriculture and Technology)	[F3-25] Using BIOLOG plates for long-term monitoring of microbial multifunctionality *Miki T (National Taiwan Univ.), Ke P-J (Stanford Univ.), Hsieh I-F (Boston Univ.), Chang C-W, Cheng W-H (Academia Sinica), Hsieh C-H, Kume T (National Taiwan Univ.)	13:30	[E3-46] Ecology and evolution of the association between bryophytes and herbivorous insects *Imada, Y., Kato, M. (Kyoto Univ.)
9:45	[E3-41] Rapid adaptive morphological change of native frog induced by invasive alien mongoose *Hirota Komine (TUAT), Noriko Iwai (TUAT), Koichi Kaji (TUAT)	[F3-26] Resource availability determines seasonal variation of phytoplankton size structure in the Kuroshio east of Taiwan *Lin, F.-S. (National Taiwan Univ.), Chen, C.-C. (National Taiwan Normal Univ.), Gong, G.-C. (National Taiwan Ocean Univ.), Jan, S. (National Taiwan Univ.), Hsieh, C.-h. (National Taiwan Univ.)	13:45	[E3-47] Effects of Birch Genotypic Diversity on Ecosystem Functions and Insect Community Structure *Shan, B. (Hokkaido Univ.), Nakamura, M. (Hokkaido Univ.)
10:00	[E3-42] Nonlinear breeding performance of <i>Nicrophorus nepalensis</i> across temperature gradients *Tong-Chang Ni (National Cheng Kong University), Shih-Fan Chan (Biodiversity Research Center, Academia Sinica), Sheng-Feng Shen (Biodiversity Research Center, Academia Sinica), I-Ching Chen (National Cheng Kong University)	[F3-27] Compound-specific radiocarbon analysis for ecological research: A case study using ¹⁴ C composition of chlorophyll a from stream periphyton *Ishikawa, N.F. (JAMSTEC), Yamane, M. (Univ. Tokyo), Suga, H., Ogawa, N.O. (JAMSTEC), Yokoyama, Y. (Univ. Tokyo), Ohkouchi N. (JAMSTEC)	14:00	[E3-48] Effects of "light:nutrient balance" and herbivorous zooplankton community: an experimental study *Kazama, T. (Tohoku Univ.), Tokita, K. (Tohoku Univ.), Yamamichi, M. (Kyoto Univ.), Katano, I. (Univ. Hyogo), Doi, H. (Univ. Hyogo), Yoshida, T. (Tokyo Univ.), Hairston, N. G. (Cornell Univ.), Urabe, J. (Tohoku Univ.)
10:15	[E3-43] Geographic Variations of Acoustic Traits in Japanese Tree Frog (<i>Buergeria japonica</i>) in East Asian Archipelago *Wang, Y.H. (NTU), Lin, Y.P. (TESRI), Tseng, H.Y. (NMNS), LIN, Y.K. (NTU), Lin, S.M. (NTNU)	[F3-28] The Effects of Microplastics on Benthic organisms *Hiromi Sugai (Hokkaido Univ), Myriam Perschke (Univ Oldenburg), Mark Lenz (GEOMAR), Masahiro Nakaoka (Hokkaido Univ)	14:15	[E3-49] Mass emergence of a specialist sawfly species on unpalatable herbs under severe feeding pressure by sika deer Nakahama, N., Yamasaki, M., Takayanagi, A. (Kyoto Univ.)
10:30	[E3-44] Biological barrier to larval dispersal into a marine protected area in marine fishes: Top-down control exists? Masaaki Sato (FRA), Kentaro Honda (FRA), Wilfredo H. Uy (Mindanao State Univ.), Darwin I. Baslot (Mindanao State Univ.), Tom G. Genovia (Mindanao State Univ.), Yohei Nakamura (Kochi Univ.), Hiroyuki Kurokuchi (Univ. Tokyo), Allyn Duvin. S. Pantallano (Kochi Univ.), Chunlan Lian (Univ. Tokyo), Masahiro Nakaoka (Hokkaido Univ.)	[F3-29] Predator and prey biodiversity relationship and its consequences on trophic interaction – Interplay of marine nanoflagellates and bacterioplankton *Jinny Wu Yang, Chih-hao Hsieh (Taiwan Univ.)	14:30	[E3-50] An ontogenetic change in interaction type from antagonism to mutualism stabilizes ecological community Po-Ju Ke (Dept Biol, Stanford Univ.), *Takefumi Nakazawa (Dept Life Sci, Natl Cheng Kung Univ)
10:45	[E3-45] The latitudinal variation in thermal stress tolerance in sea anemones *YAMAGUCHI Haruka (Hokkaido Univ.), SCHULLER Carola (TUM), LENZ Mark (GEOMAR), NAKAOKA Masahiro (Hokkaido Univ.)	[F3-30] Hidden diversity and host specificity of parasitic fungi infecting phytoplankton in Lake Inba *Maiko Kagami, Daiki Nozaki, Takaki Nakamura, Wakana Hirano (Toho University, Faculty of Science)	14:45	[E3-51] Functional significance of inconspicuous petals in scent-attracted flowers *KATSUHARA, K., USHIMARU, A. (Kobe Univ.), KITAMURA, S. (Ishikawa Prefectural Univ.)
11:00		[F3-31] Biochemical mediation of microbe-metazoan interactions Monika Trienens, Marko Rohlf, Katharina Pfohl, Petr Karlovsky, Gerrit Holighaus (Goettingen University), *Andrew J. Davis (ICE-MPG Jena), Silvia Caballero-Ortiz (Goettingen University)	15:00	[E3-52] Flower visit and possible co-pollination by a stonefly species in <i>Corylopsis gotoana</i> (Hamamelidaceae) *Wong, S.A., Kato, M. (Kyoto Univ.)
11:15		[F3-32] Bottom-up impacts across ecosystems: riverine eutrophication mediates terrestrial ecosystem functioning through spatial subsidies Terui A*, Negishi JN, Watanabe N, Nessa B, Imai H, Nakamura F (Hokkaido University)	15:15	[E3-53] Prey attraction to trap leaves of carnivorous plant species by flowers of coexisting plant species by Kazuki Tagawa* (Kyushu Univ.), Mikio Watanabe (Aichi Univ. of Edu.), Tetsukazu Yahara (Kyushu Univ.)

Time	Room F 動物群集	Room G 生物多様性	Room H 植物繁殖	Room I 生態系管理	Room J 数理
13:30	[F3-33] 植食動物および肉食動物の生物量を具体的に予測する新食物網数理モデルから予測される諸現象と諸関係 *今野浩太郎(農業生物資源研究所)	[G3-25] 食肉類における咀嚼筋形態を用いた比較機能形態学的検討 *伊藤海1,2, 遠藤秀紀1,2(1東大・院農, 2東大総合研究博物館)	[H3-25] シオジ人工林における26年間の開花周期 崎尾均(新潟大・農)	[I3-25] ゲーム的狀況における海洋保護区の導入 高科直(琉球大・熱生研)	[J3-24] 双方向性転換における時間非対称性の解明: ホルモン-酵素動態によるアプローチ 山口幸(神奈川大・工)
13:45	[F3-34] パッチ状環境における生物多様性の維持機構 門脇 浩明	[G3-26] 瀬戸内海島嶼アカネズミの味覚受容体遺伝子の多様性とDNAバーコーディングによる食性の分析 *佐藤淳, 田坂由里奈, 山本祐哉, 白石裕樹, 前田康平, 田坂僚也, 稲森千章, 郡司健太郎, 三浦大器, 山口泰典(福山大・生物)	[H3-26] 風媒の雌雄異株植物スイバの形態に性的二型性はあるか *松久聖子, 丑丸敦史(神戸大・人間発達環境)	[I3-26] なぜこの魚は乱獲されるのか? 乱獲資源の特徴抽出 市野川桃子*, 岡村寛(水研セ・中央水研)	[J3-25] 共生シグナルの複雑さと特異性の進化 内海邑(総研大・先導), *佐々木頭(総研大・先導)
14:00	[F3-35] キーストーン種はどのような生態系で現れやすいのか *今井愛理(龍谷大・理工), 高嶋あやか(龍谷大・理工), 近藤倫生(龍谷大・理工)	[G3-27] Comparative analysis of three global hyperdiverse ant radiations Economo, E. P. (OIST)	[H3-27] アズマイチゲとキクザキイチゲにおける繁殖特性と地下形態の比較 *大原佑太(自然研), 武生雅明(東農大・森)	[I3-27] 豊平川のサケの放流数を決める管理方式の検討~サケを減らさずに野性味を増すために~ *森田健太郎(水研セ・北水研), 有賀望(札幌市公園緑化協会)	[J3-26] 情動伝染の進化条件 中橋 渉(総研大・先導科学), *大槻 久(総研大・先導科学)
14:15		[G3-28] Reorganization of taxonomic, functional, and phylogenetic ant biodiversity after conversion to rubber plantation Okinawa Institute of Science and Technology Graduate University	[H3-28] コナラ種子形質(種子サイズ, タンニン含有率)における樹木個体間変異と個体内変異 *島田卓哉(森林総研・東北), 高橋明子(京大・野生動物研究センター), 柴田鏡江(森林総研)		[J3-27] 形質マッチングに基づく互恵関係の方向性淘汰の下での進化条件 *山内淳(京大・生態研センター)
14:30	[F3-37] Testing the strength of trophic cascades in a detritus-based food web in a subtropical upstream system in Taiwan *Tsay, CW (Providence Univ.), Shieh, SH (Providence Univ.), Huang, YH (Providence Univ.), Lai, MY (Providence Univ.)	[G3-29] 河川における人為的な影響は生物群集の均質化をもたらすか? *森照貴(東大・総合文化), 内田圭(東大・総合文化), 萱場祐一(土研・河川生態)	[H3-29] 過剰な花生産の適応的意義 江副日出夫(大阪府大・院・理)	[I3-29] ハイマツ葉内生菌の種組成とその地理的分布パターン *三村琢磨(筑波大・環境科学), 広瀬大(日大・薬), 下野綾子(東邦大・理), 廣田充(筑波大・生命環境系)	[J3-28] モデル選択で選ばれたモデルを使って検定するという方法は妥当か *粕谷英一(九大・理・生物), 日室千尋(九大・理・生物)
14:45	[F3-38] 岩礁潮間帯固着生物群集における季節性のパターンとプロセスの垂直勾配に沿った変化 *金森由妃(北大・院・環境科学), 深谷肇一(統数研), 野田隆史(地球環境)	[G3-30] 水田に設置された小水路「ひよせ」の果たす役割 星野 滋(広島総研農技セ)	[H3-30] Demographic shifts and fitness related to mycoheterotrophy in two <i>Cephalanthera</i> species *Shefferson, R.P. (Univ. Tokyo), Roy, M. (Univ. Paul Sabatier), Puttsepp, U (Estonian Univ. of Life Sciences), Selosse, M.A. (Museum National d'Histoire Naturelle)	[I3-30] 低線量被ばくがアカネズミ精巣における酸化ストレス応答に及ぼす影響 *石庭寛子, 岡野司, 大沼学(国環研), 遠藤大二(酪農大・獣), 吉岡明良, 玉置雅紀(国環研)	[J3-29] 絶滅リスク評価の信頼性: 信頼区間は(0,1)で意味がないという誤解 箱山洋(水研センター/東京海洋大)
15:00	[F3-39] 気仙沼・舞根湾における定例潜水調査から見た津波後の魚類群集の遷移過程 *益田玲爾(京大・フィールド研舞鶴), 畠山信(NPO森は海の恋人), 横山勝英(首都大・都市環境), 田中克(国際高等研)	[G3-31] 全国規模での種多様性保全に重要な空間スケール: 半自然草原の植物群集での検討 *小山明日香(森林総研), 小柳知代(東京学芸大), 赤坂宗光(東京農工大), 楠本良延(農環研), 平館俊太郎(農環研), 高田雅之(法政大), 岡部貴美子(森林総研)	[H3-31] クロウン成長の推移行列モデル-地下茎伸長のダイナミクス *荒木希和子(立命館大・生命), 島谷健一郎(統数研), 大原雅(北大・地球環境)	[I3-31] 雄の給餌貢献度が雌の複数回繁殖率を増加させるか? *乃美大佑(北大・環境科学), 油田照秋(新潟大), 小泉逸郎(北大・地球環境科学)	[J3-30] 低密度下でのシカと植生の関係: 屋久島のヤクスギ林の場合 半谷吾郎(京都大霊長研)*
15:15	[F3-40] 海底湧水が魚類の食性, 成長に与える影響~水温と栄養の効果から *小路淳・宇都宮達也・秦正樹・富山毅(広島大), 杉本亮(福井県大), 堀正和(瀬戸内水研)	[G3-32] 富士北麓の植林伐採地と半自然草原のチョウ群集 大脇淳*, 中野隆志, 北原正彦(山梨県富士山研)	[H3-32] 島嶼の生物・文化的景観 *中越 信和(広大院国際協力), 洪 善基(韓国・国立木浦大)	[I3-32] 成長に伴うヨウワイメンのろ過機能の変化 *保坂美沙子(横浜市大・国際総合), 椿玲未(JAMSTEC), 出口茂(JAMSTEC)	[J3-31] 森林開発と移入種マンガースの分布拡大がアマミノクロウサギの遺伝的多様性を減少させた *大西尚樹(森林総研・東北), 小林聡(電中研), 永田純子(森林総研), 山田文雄(森林総研)

菌類・微生物

植物生活史

動物繁殖

動物個体群

景観

動物生活史

Time	Room E Plant-Animal Interaction	Room F 動物群集	Room G 生物多様性	Room H 景観	Room I 動物生活史	Room J 動物個体群
15:30	[E3-54] Legacy effects of insect herbivore-plant interaction on reproductive performances of plants Mito Ikemoto, Takashi Y. Ida, Takayuki Ohgushi	[F3-41] 露地ナス圃場周辺における土着カブリダニ類の生息実態の解明 *浜崎健児, 柴尾 学(大阪環農水研)	[G3-33] 東京都武蔵野市の都市近郊林における市民による保全活動と植生モニタリング 島田和則(森林総研・多摩森林科学園)	[H3-33] 豪雪中山間地域に成立する里山ブナ林の伝統的森林管理 井田秀行(信州大・教)	[I3-33] ウグイの降海性と緯度クラインの検証 *山田健太郎(北大・環境科学院), 白井平(オホーツクミュージアムえさし), 小泉逸郎(北大・地球環境)	[J3-32] 紀ノ川水系におけるナガレトビケラ属 <i>Rhyacophila</i> およびツメナガナガレトビケラ <i>Apsilochorema sutshanum</i> 幼虫の流布と生息環境 平 祥和* 大阪府立大学 高等教育推進部門
15:45	[E3-55] Pollinator-driven ecological speciation in plants: a greater reward to pollinators from plants adapted to divergent growth environments drives reproductive isolation *Takimoto, G., Kagawa, K. (Univ. of Tokyo)	[F3-42] シロアリの交雑と腸内共生原生動物群集の進化 北出 理(茨城大・理)	[G3-34] 東南アジア熱帯林の多様性指標としての新種比率 ~クヌキ科シロダモ属の事例~ *満行知花, 田金秀一郎, 遠山弘法, 間瀬慶子, 矢原徹一(九大・理・生態)	[H3-34] 南三陸町における里山・里海の資源管理をめぐる新たな動向 *深町加津枝(京大院・地球環境), 計彬嫻(京大院・地球環境)	[I3-34] ケヤキの害虫、ヤノナミガタチビタムシの個体数変動とその要因 大澤正嗣(山梨森研)	[J3-33] 温暖化とアメリカシロヒトリの化性変化 *都野展子/金沢大学
16:00		[F3-43] 日本のホロミジンコ: その正体を探る *山元綾弥香, 牧野渡, 占部城太郎(東北大学・生命科学)	[G3-35] DNAバーコーディングによる <i>Balanophora</i> の宿主探索と2種の新種記載 九大・理・生物	[H3-35] ツキノワグマによる選択確率が高い生息地パッチ分布の季節変動 *高島千尋(信州大・山岳科学研究所), S.E. Nielsen(アルバート大学・資源管理学科), 泉山茂之(信州大・山岳科学研究所)	[J3-34] 殺虫剤のローテーション散布は抵抗性発達を遅延させるか *須藤正彬, 山中武彦(農環研), 高橋大輔(Umeå universitet), 鈴木芳人(京都市)	
16:15		[F3-44] 水田におけるコモリグモ科種組成の地理的勾配に沿った変化 *田中幸一, 馬場友希, 楠本良延(農環研)	[G3-36] 遺伝資源へのアクセスと利益配分 (ABS) の法的検討 * 神山 智美 / 富山大学経済学部	[H3-36] 最終氷期最盛期における植生復元の基礎資料としてのチョウセンゴヨウ花粉生産量 三宅悠平, *高原 光(京都府大・生命環境), 中村琢磨(九州大・北海道演), 杉田真哉(京大・農)	[J3-35] Effect of predator-prey size balance on density-dependent mortality of prey *Kazila, E., Takatsu, K., Kishida, O. (Hokkaido Univ.)	

ポスター発表 3月22日(火) 10:00-16:00

(展示棟 Poster Hall # : ポスター賞対象発表)

群落・遷移・更新

- P1-001#** Species abundance changes in a tropical rainforest fragment *Ngo, K.M. (Tokyo Metrop. Uni.), Lum, S. (Nanyang Tech. Uni.), Hosaka, T., Numata, S. (Tokyo Metrop. Uni.)
- P1-002#** 奄美大島の島内における海岸植生の比較 鹿児島大学大学院 理工学研究科 *米森由紀, 五十嵐恵美, 永田ちはる, 鈴木英治
- P1-003#** 岩礁潮間帯における固着生物群集の時空間変異性 *立花道草 (北大院・環境), 野田隆史 (北大・地球環境)
- P1-004#** 風穴地における高山植物の定着要因一局所環境が与える影響一 *和久井彬実 (北大・農), 末吉正尚 (自然共生研究セ), 下川部歩真 (北海道庁), 工藤岳 (北大院・地球環境), 森本淳子 (北大院・農), 中村太士 (北大院・農)
- P1-005#** 鹿児島県本土における小規模な半自然草地の種組成と種多様性 *安部真琴, 川西基博 (鹿児島大・教育)
- P1-006#** 自然撓乱としてのシカ採食の役割一林床植物の群集集合プロセスからの評価 *西澤啓太, 辰巳晋一 (横浜国大・環境情報), 北川涼 (森林総研), 森章 (横浜国大・環境情報)
- P1-007#** 中部山岳冷温帯針広混交林におけるイラモミ優占林の更新動態及び成長と地形要因との関連性 安田圭佑 (筑波大・生命環境科学), 清野達之 (筑波大・生命環境系)
- P1-008#** 諏訪湖周辺の河川及び水路における水生植物群落の分布及び構造と立地環境条件との関係 *福村友 (信大・農), 大窪久美子 (信大・学術院農)
- P1-009#** 規則的な葉群モデルにおける群落生産の推定 *佐々木駿 (東京大・理)
- P1-010#** 火入れ後の地温変化を考慮した草索性植物の発芽特性 *増井太樹, 津田智 岐阜大 流域圏センター
- P1-011#** 無肥料無農薬水田における雑草群集構造の決定要因 *細谷啓太 (岩手連大農), 杉山修一 (弘前大農)
- P1-012#** 八王子市松木に残存する都市の植物群集構造の解析 *松澤琢 (首都大・理工・生命), 可知直毅, 鈴木準一郎 (首都大・理工・生命)
- P1-013#** 安定成熟林における萌芽樹形 *瓜生真也, 鄭 欣怡 (横国大・院・環境情報), 武生雅明 (東農大・地域環境), 磯谷達宏 (国士館大・地理), 吉田圭一郎 (横国大・教育), 酒井暁子 (横国大・院・環境情報)
- P1-014#** 北岳 (南アルプス) において絶滅危惧コケ植物はどこに生育しているか? 分布と生育状況に関する知見 *佐藤匠, 山口富美夫 (広大院・理)
- P1-015#** 河川砂礫堆上の植物群落の組成と構成種の種特性の関係 築地孝典 (高知大・院・理)・比嘉基紀・石川慎吾 (高知大・理)
- P1-016#** モンゴルのステップ草原における家畜食害はアーバスキュラー菌根菌群集に影響を与える *日下部亮太 (千葉大院・教育), 谷口武士 (鳥取大・乾地研), Jamsran Undarmaa (モンゴル国立農業大), 山中典和 (鳥取大・乾地研), 大和政秀 (千葉大・教育)
- P1-017#** 屋久島 春田浜の15年間の植生変化 鹿児島大学大学院 理工学研究科 *川原大基, 鈴木英治
- P1-018#** 春日山原始林における樹木群集構造の変化及び地形に関連する分布・成長特性 *村田沙耶, 松井淳 (奈良教

育大学)

- P1-019#** 草索性植物のデモグラフィの種間・集団間比較 - ゲノミクスによる草原の歴史の再構築 - *成田あゆ (京大・院・農), 山浦悠一 (森林総研・植生), 楠本良延 (農環研), 井鷲裕司 (京大・院・農)
- P1-020#** 閉鎖林冠下のチシマザサ一斉更新過程における面的クローン成長の役割 *工藤恵梨, 松尾歩 (秋田県大・生物資源), 金子悠一郎, 富松裕 (山形大・理), 蒔田明史 (秋田県大・生物資源)
- P1-021#** ナラ枯れ被害林分における低木の動態と高木生実生の更新 *高橋沙也香 (新潟大・農), 本間航介 (新潟大・農)
- P1-022#** 樹冠と後生枝から考察する大径化したコナラの萌芽規定要因 *松本薫 (明大院・農), 倉本宣 (明大・農)
- P1-023#** ササの一斉枯死と林冠構造の違いがブナ林の更新動態に与える影響 *高木豊大・佐藤朋華・松尾歩・阿部みどり・井上みずき・星崎和彦・蒔田明史 (秋田県立大・生物資源)
- P1-024#** フタバガキ科樹木における種子散布距離と実生動態 *鈴木詩織 (名大院・生命農), 稲永路子 (秋田県大・木高研), 竹内やよい (国環研), 戸丸信弘 (名大院・生命農), 中川弥智子 (名大院・生命農)
- P1-025#** 湿原内部に成立した矮性ハンノキ群落の動態と養分利用 *見原悠美 (北大・環境科学院), 矢部和夫 (札幌市大・デザイン), 植村滋 (北大・FSC)
- P1-026#** 熱帯降雨林における伐採に対するレジリエンスの空間変異 - Landsat 時系列解析を用いて - *園田隼人, 藤木庄五郎, 青柳亮太, 北山兼弘, (京大, 農, 森林生態)
- P1-027#** タイ熱帯山地林における大面積調査区を用いた林冠ギャップと下層木の生残推定 *長谷川一穂 (京大院・農), 水野貴司 (京大院・農), 高橋絵里奈 (鳥根大・農林生産), Witchaphart Sunpalee (メジョ大), Kriangsak Sri-Ngernyuan (メジョ大), 神崎護 (京大院・農)
- P1-028#** 3次元シミュレーションによる樹木モデリングと森林形成 野々山朋信 (東北大学・生命)
- P1-029#** 植物生産モデルによる潜在生産力の将来予測 *渥美和幸, 太田俊二 (早稲田大・人間科学)

植物個体群・繁殖・生活史

- P1-030#** オオバタネツケバナ溪畔・潮汐集団の遺伝的差異 *曾我江里, 才木真太郎, 石田厚, 工藤洋 (京大・生態研)
- P1-031#** オオバナノエンレイソウの分布域の決定要因: 緯度勾配に沿った適応度成分の比較 *佐々木駿, 川村弥司子 (山形大・理), 山岸洋貴 (弘前大・白神), 大原雅 (北海道大・地球環境), 富松裕 (山形大・理)
- P1-032#** 森林における雪害と伐採による撓乱がもたらす下層植生の違い *野田佳愛, 倉本宣 (明治大・農)
- P1-033#** 崩壊法面に自生するモウセンゴケの個体群動態 *須貝凌 (新潟大・自然科学), 中田誠 (新潟大・農)
- P1-034#** ハイマツ実生の発生と生存に作用する要因 *雨谷教弘, 工藤岳 (北大院・環境), 和田直也 (富大・極東)
- P1-035#** 都市に生育する絶滅危惧植物の繁殖生態: 大阪で再発見された絶滅危惧植物アイナエ (マチン科) *小原昌之 (大阪教育大:院), 岡崎 純子 (大阪教育大:教員養成), 植松 千代美 (大阪市大院:理)

ポスター発表 3月22日(火) 10:00-16:00

(展示棟 Poster Hall # : ポスター賞対象発表)

- P1-036#** 植物種の生育域環境多様性を決定する遺伝的・生態的形質 *香取拓郎, 牧野能士, 河田雅圭 (東北大・生命)
- P1-037#** 春植物が生えていた場所は他の季節にどうなっているのか - 光と植生の視点から - *大塚勇哉 (明大・農), 倉本宣 (明大・農)
- P1-038#** 下層を優先する半寄生植物ツクバネの分布と光環境 *桂友里枝, 小見山章, 加藤正吾 (岐阜大・応生)
- P1-039#** 異なる森林タイプに分布するオオミスミソウ個体群の生息環境 *武藤公樹, 崎尾均 (新潟大・農)
- P1-040#** ミャンマー農山村地域におけるタケ類2種の個体群構造と動態パラメータ - 持続可能なタケ資源の利用を目指して *上田健太, 堀金司, 三浦麻由子, 山田俊弘, 奥田敏統 (広島大・総合科学), Ei Ei hlaiing (ミャンマー森林研究所)
- P1-041#** 葉と根を人工的に切除した植物の成長様式は、給水頻度によって変化するか。 *首都大・理工 / 木村ひかり (*), 可知直毅, 鈴木準一郎
- P1-042#** 木本性ツル植物フジの当年生実生の空間分布と環境要因の関係 *森英樹 (筑波大学・生命環境), 直江将司 (森林総研), 上條隆志 (筑波大学・生命環境), 正木隆 (森林総研)
- P1-043#** 多雪地におけるブナの年輪幅に影響する気象要因と生態学的要因 *名取史晃 (弘前大・院・農生), 石田清 (弘前大・農生)
- P1-044#** 天然スギ集団の北限域におけるクローン構造および繁殖戦略 *初谷慶太 (弘前大・院・農生), 石田清 (弘前大・農生)
- P1-045#** 遮光のパラドックス: なぜ弱光下で植物プランクトンは増えるのか *時田紘太郎 (東北大・理), 風間健宏 (東北大・生命), 山道真人 (京大・白眉 / 生態研), 片野泉 (兵庫県立大・環境人間), 土井秀幸 (兵庫県立大・シミュレーション), 吉田丈人 (東大院・総合文化), Hairston, N. G. (Cornell Univ.), 占部城太郎 (東北大・生命)
- P1-046#** タカクマヒキオコシ群の交雑帯における遺伝的・形態的変異 *荻嶋美帆 (東北大・院・生命科学), 堂園いくみ (学芸大・教育・生物), 星野佑介 (首都大・院理工・牧野標本館), 山城考 (徳島大・院・SAS研究部), 堀江佐知子 (東北大・院・生命科学), 牧雅之 (東北大・植物園)
- P1-047#** 連続的標高勾配に沿ったアキノキリンソウ (広義) の遺伝構造の検出: 垂直分布における遺伝的障壁は何か? *木村拓真 (東北大・院・生命), 阪口翔太 (京大・院・人環), 伊藤元己 (東大・院・総合文化), 永野惇 (龍谷大・農, JST さきがけ), 京大・生態研セ), 工藤洋 (京大・生態研セ), 牧雅之 (東北大・植物園)
- P1-048#** 休耕田におけるミズナラの分布要因とその保全方法 *相澤直 (明大農), 倉本宣 (明大農)
- P1-049#** 気象要因が北方針広混交林の40年間の動態に与える影響 *佐藤郷 (北海道大学環境科学院), 日浦勉 (北海道大学北方生物圏フィールド科学センター)
- P1-050#** 亜高山帯針葉樹林にブナは侵入するか? *伊豆凜太郎, 中静透 (東北大・院・生命科学)
- P1-051#** 水生植物ヒメガマの種子発芽特性における集団間変異 *倉園知広, 角野康郎 (神戸大・院・理)
- P1-052#** フクジュソウの花の形質の多様性とその要因 - 戦略は雪解け直後に咲き、花卉の重なりを増やすこと!?!~ *近藤菜々美 (横浜国立大・地球生態), 近藤博史 (横浜国立大・環境情報), 酒井暁子 (横浜国立大・環境情報)
- P1-053#** 強度のシカ食害下にある冷温帯落葉広葉樹林における不嗜好性植物アシウテンナンショウの個体群構造 *松本哲也, 宮崎祐子, 赤路康朗, 廣部宗, (岡山大・院・環境生命)
- P1-054#** ツクサ属2品種における雄花生産の季節変化とその要因 *邑上夏菜, 勝原光希, 丑丸敦史 (神戸大学・発達科学部)
- P1-055#** 琵琶湖産クロモの生育特性と花粉干渉 川畑幸樹 滋賀県大・院・環境
- P1-056#** ナニワズの性的二型性: 両性株と雌株の表現型と繁殖成功度の比較 *柴田あかり (北大・環境科学), 工藤岳 (北大・地球環境), 亀山慶晃 (東京農大・地球環境)
- P1-057#** 花はなぜ夜眠るのか 中川佳真*, 今村彰生 (北教大)
- P1-058#** Seedling functional traits and carbon allocation in Malaysian tropical rain forest *Sasaki, R. (Kyoto Univ.), Iida, Y. (Kyoto Univ.), Tamaki, Y. (Kyoto Univ.), Y. Y. Chen (National Dong Hwa Univ.), Ishii, R. (Kyoto Univ.), Kitajima, K. (Kyoto Univ.)
- P1-059#** 海産緑藻エゾヒトエグサにおいて新たに発見した生活史経路 *堀之内祐介, 杉井優太郎, 若菜雄, 茂呂竜太郎, 富樫辰也 (千葉大・海洋バイオ)
- P1-060#** 複数幹樹木にみられる株構造の性差と雌雄株間の分布相関: 山地渓谷林のチドリノキについて *田畑早紀, 小山 (中井) 亜理沙, 鳥丸猛, 万木豊, 木佐貫博光 (三重大院・生資)
- P1-061#** ブナにおける標高傾度上での成長速度、繁殖開始・最大到達サイズの変化—競合種の有無による違い— *中川宏記・近藤博史・酒井暁子 (横浜国立大学・院・環境情報)
- P1-062#** 北タイ熱帯山地林における着生シダの機能形質と資源分配戦略 *田中美澄枝, 中西晃 (京大院・農), Sungpalee W., Sri-ngernyuang K. (Maejo Univ.), 北島薫, 神崎護 (京大院・農)
- P1-063#** UV 蛇ノ目紋のコントラストに対する送粉者の嗜好性 *三木望 (九大・生態研), 廣田峻 (九大・生態研), 矢原徹一 (九大・生態研)
- P1-064#** モモグロオオイエバエの幼虫が外生菌根菌に与える影響 *北林慶子 (金沢大・自然), 都野展子 (金沢大・自然)
- P1-065#** 生育可能期間の異なる2箇所でのシモフリゴケのフェノロジー比較 *丸尾文乃 (総研大・極域), 内田雅己 (総研大, 極地研), 伊村智 (総研大, 極地研)
- P1-066#** 東南アジア熱帯雨林における樹木の繁殖フェノロジー *森本彩夏 (首都大・都市環境), 沼田真也 (首都大・都市環境), 保坂哲朗 (首都大・都市環境), Mazlan Hashim (UTM・INSTeG), 谷尚樹 (JIRCAS), 佐竹暁子 (九大・理), 市栄智明 (高知大・農), Nashatul Zaimah Noor Azman (FRIM), Noraliza Alias (FRIM)
- P1-067#** 藻類ブルームによって形成される空間パターンとその安定性 *尾崎透 (静岡大学), 佐藤一憲 (静岡大学)

植物生理生態

- P1-068#** 早池峰山・蛇紋岩地帯のヒバ実生における内生菌の関与したNi耐性メカニズム *沖村沙耶佳, 山路恵子 (筑波大学大学院・生命環境), 森茂太 (山形大学), 櫃間岳 (森林総研)
- P1-069#** 屋上緑化に用いられるCAM植物の生育特性 *松岡達也, 大黒俊哉 (東大院・農学生命)
- P1-070#** 街路樹であるイチョウの炭素安定同位体比及び光合成機能の季節変化 *木下智光 (京工織), 半場祐子 (京工織), 西田圭佑 (京工織), 清水啓史 (京工織)

ポスター発表 3月22日(火) 10:00-16:00

(展示棟 Poster Hall # : ポスター賞対象発表)

- P1-071#** 硫黄荒原における植物の分布パターン：低 pH およびアルミニウム耐性で説明できるか？ *山本晃弘（広島大・院・生物圏），和崎淳（広島大・院・生物圏），船津勇一（大分鶴崎高），中坪孝之（広島大・院・生物圏）
- P1-072#** アキタブキの葉の形態の可塑性 *長瀬泰代，小山耕平（帯広畜産大・生命科学）
- P1-073#** 葉脈は互生か対生か？葉身内の側脈の左右のズレ 増田輝久，*山崎大地，小山耕平（帯広畜産大・生命科学）
- P1-074#** 乾燥による樹木枯死の水欠損仮説と糖制限仮説の検証 *甲野裕理，才木真太郎（京大生態研），吉村謙一（森林総研関西），白井誠，木村美久，丸山温（日大生物資源），松山泰（北里大），矢崎健一（森林総研），中野隆志（山梨県富士山研），相川真一（首都大），石田厚（京大生態研）
- P1-075#** アズマネザサの刈り取りが林床植物の生育と光合成能力に与える影響 *中島宏昭（東農大・院・農），鈴木真次郎（東農大・地域），亀山慶児（東農大・地域）
- P1-076#** 遅延蛍光の測定による 4 種の蘚類の乾燥耐性の評価 *家倉凌，今西純一（京都大・農）
- P1-077#** 標高傾度にもなう樹木根形質の種間・種内変異 *前田瑞貴（横浜国大・理工），藤井佐織（アムステルダム自由大），森章（横浜国大・環境情報）
- P1-078#** Examining the theories of branch autonomy and correlative inhibition in the crowns of Sakhalin spruce, *Picea glehnii* (F.Schmidt) Mast. Chen Lei 北大低温研
- P1-079#** Trophic strategies and photosynthetic traits of three coexisting Pyroleae species under different light conditions in subalpine coniferous forests on Mt. Fuji *賈 舒征，奈良一秀（東大・新領域），中野 隆志（富士山研）
- P1-080#** Comparison of two species of *Azolla* in Taiwan *Mei-Chen, Chang (Taiwan Univ.), Wen-Yuan, Kao (Taiwan Univ.)
- P1-081#** Floral morphs of *Oxalis corymbosa* under different temperature regimes *Meng-Ying Tsai (Natl. TWN Univ.), Su-Hwa Chen (Natl. TWN Univ.), Wen-Yuan Kao (Natl. TWN Univ.)
- P1-082#** 鉢山跡地に自生するクサレダマ (*Lysimachia vulgaris* L. var. *davurica* (Ledeb.) R. Knuth) の Cd 解毒機構の解明と内生細菌の影響 *竹島綾乃，中村隼人，山路恵子（筑波大学大学院・生命環境）
- P1-083#** 自作型 HRM の開発とそのナラ枯れ罹患木への適用 *山本遼平（京大・地球環境），檀浦正子（京大・地球環境），小南裕志（森林総研），吉村謙一（森林総研）
- P1-084#** 温帯広葉樹の葉内における部位ごとのケイ素分布とその種間差 *梶野浩史（京都大・農），北島薫（京都大・農）
- P1-085#** 冷温帯落葉広葉樹林床の光環境の時空間的変動に対する林床低木の応答 *大橋千遼，Irina Melnikova，長尾彩加（岐阜大・応用生物），斎藤琢，村岡裕由（岐阜大・流域圏センター）
- P1-086#** 付着根型つる植物 2 種の負の光屈性に成長はともなうのか？ *秋吉由佳（岐阜大院・応生），川窪伸光，小見山章，加藤正吾（岐阜大・応生）
- P1-087#** 落葉広葉樹林冠木の葉群フェノロジーの年変動と温暖化応答 *長尾彩加，大橋千遼（岐阜大・応用生物），斎藤琢，村岡裕由（岐阜大・流域圏センター）
- P1-088#** ポリアミンによる光合成促進機構の探索 *松山泰，杉村尚倫，末弘宗滉，白沢駿，安元剛，神保充，渡部終五（北里大学海洋生命科学部），坂田剛（北里大学一般教育部）
- P1-089#** 地上、地下部呼吸バランスから見た陸上植物の生き方 *芳士戸啓（山形大・農），王莫非（山形大・農），相澤拓（山形大・農），Juan Pedro Ferrio（リエイダ大），森茂太（山形大・農）
- P1-090#** 重力が左右する生物個体呼吸スケールリング *相澤拓（山形大・農），芳士戸啓（山形大・農），王莫非（山形大・農），森茂太（山形大・農）
- P1-091#** Estimation of Leaf Area Index in a deciduous broad-leaved forest at Takayama site: advantages and disadvantages of different methods. Irina Melnikova (Graduate school of Applied Biological Sciences, Gifu University), Chiharu Ohashi (Graduate school of Applied Biological Sciences, Gifu University), Ayaka Nagao (Graduate school of Applied Biological Sciences, Gifu University), Taku M. Saitoh (River Basin Research Centre, Gifu University), Hiroyuki Muraoka (River Basin Research Centre, Gifu University)
- P1-092#** タケノコと樹木の呼吸スケールリングは何故似ているか？ *王莫非，芳士戸啓，相澤拓，森茂太（山形大・農）
- P1-093#** ウワミズザクラの異なる種類のシュートにみられる構造的、機能的な違い *阿部 亜里紗（京都大，農），岡田直紀（京都大，地球環境）
- P1-094#** 日立鉢山跡に自生するツルウメモドキ (*Celastrus orbiculatus* Thunb.) 実生の AI 耐性 *山野大樹，山路恵子，江並一成（筑波大学大学院・生命環境）
- P1-095#** *Juniperus sabina* における異なる乾燥強度下での樹体内の水分布と水輸送 *佐藤佳奈子，三木直子（岡大院・環境生命），小笠真由美（森林総研），粟飯原友，楊靈麗（岡大院・環境生命），松尾奈緒子（三重大院・生資）
- P1-096#** 落葉広葉樹における木部通水機能の回復と樹体の生理活性 *粟飯原友，三木直子（岡大院・環境生命），小笠真由美（森林総研）
- P1-097#** 異なる標高の亜高山帯湿原における異なる機能群の植物の窒素利用効率 *金子麻里（東北大・院・生命科学），神山千穂（UNU-IAS），彦坂幸毅（東北大・院・生命科学）
- P1-098#** 葉の水利用・力学特性は内部のコンパートメント化とどう関係しているか？ *河合 清定，三好 林太郎，岡田直紀（京大院・農）
- P1-099#** アカガシのナラ菌に対する抗菌物質 *染谷沙織，原若輝（筑波大学・生物資源），山路恵子（筑波大学大学院・生命環境），市原優（森林総研関西）
- P1-100#** 近縁な在来種と侵入種における耐凍性と低温順化能力の集団間分化 *上林真実・小口理一・尾崎洋史（東北大・院・生命科学）・森長真一（日大・生物資源科学）・彦坂幸毅（東北大・院・生命科学）
- P1-101#** ユーカリにおける EcHb1 遺伝子過剰発現が光合成能力や葉の形態に与える影響 *佐々木恵相（京都工繊大・応用生物），半場祐子（京都工繊大・応用生物），河津哲（王子製紙・森林研）
- P1-102#** シダ植物における光合成能力と通水組織の比較 *藤居 慧，西田 圭佑，半場 祐子（京都工繊大・応生）
- P1-103#** 都市環境下に生育する街路樹の光合成応答 *清水啓史 半場祐子 木下智光 京都工芸繊維大学大学院
- P1-104#** フルンボイル草原における放牧ストレス強度の異なる環境に生育する *Allium polyrhizum* の化学的防御能と内生微生物 *石橋直佳，山路恵子，田村憲司（筑波大学大学院・生命環境），*烏云娜，宋彦涛（大連民族学院），*上條隆志，川田清和（筑波大学大学院・生命環境）
- P1-105#** Comparisons of the physiological traits of *Bidens*.

ポスター発表 3月22日(火) 10:00-16:00

(展示棟 Poster Hall # : ポスター賞対象発表)

pilosa L. var. *radiata* Sch. Bip. and two native species of Taiwan *Hung, Li-Jhih (Natl. TWN Univ.), Kao, Wen-Yuan (Natl. TWN Univ.)

P1-106# Comparisons of the nutrient relationships between holoparasitic and host plants in Taiwan *Wang, Yi-Min. (Natl. TWN Univ.), Kao, Wen-Yuan.(Natl. TWN Univ.)

P1-107# クロロフィル蛍光パラメータによる冷温帯林の光合成機能の解明 *辻本克斗, 川島在悟, 加藤知道 (北大・農), 斎藤琢, 村岡裕由 (岐阜大・流域圏), 秋津朋子, 奈佐原顕郎 (筑波大・生命環境)

P1-108# 熱帯降雨林における土壌への供給前の新鮮落葉リターが持つ有機態リン分解酵素の活性について *竹原巧 (京大・農), 横山大稀 (京大・農), 辻井悠希 (京大・農), 北山兼弘 (京大・農)

P1-109# ダイズの栽培化に伴う形質の変化: 何を不得何を失ったのか? *富樫絢夏, 及川真平 (茨城大学理工学研究科)

P1-110# リョウブ葉内内生菌へのNi, Coの影響 *山口毅志, 竹中千里, 富岡利恵 (名大院・生命農)

P1-111# 重金属濃度の異なる地域に自生するタカノツメ葉内生菌の物質生産能評価 *岡野由季, 富岡利恵, 竹中千里, 竹本大吾 (名大院・生命農), 山路恵子 (筑波大院・生命環境)

動物と植物の相互関係

P1-112# ギンリョウソウの昼夜で異なる訪花昆虫: モリチャバネゴキブリは送粉者なのか? *川上隼人, 北村俊平 (石川県立大)

P1-113# 都市化が送粉ネットワークにもたらす影響 清水健将*, 丑丸敦史

P1-114# 第3の花の存在が、マルハナバチの訪花行動を介して無報酬花と報酬花の関係性に与える影響~人工花を用いた閉鎖系実験~ *辻本翔平, 徳江誠, 石井博 (富山大)

P1-115# ツリガネニンジンの花生態: 昼と夜の送粉者の貢献度 船本大智* (筑波大・生物), 大橋一晴 (筑波大・生命環境系)

P1-116# Keep regulars, attract vegabonds: 行動的に多様なポリネーターを利用するための花色変化 *鈴木美季 (筑波大・生命環境), 大橋一晴 (筑波大・生命環境)

P1-117# 高山帯で採餌するマルハナバチは高山帯で営巢しているのか?: フィーダーを用いた営巣場所の推定と各標高帯における花資源利用フェノロジーからの考察 *中村友香・増田光・久保田将裕・居村尚・石井博 (富山大・理)

P1-118# 小笠原諸島における送粉生態系攪乱が固有種シマザクラの繁殖成功と遺伝的特徴に与える影響-対照的な2島の比較解析- *津田優一 (京大院・農), 加藤英寿 (首都大・牧野標本館), 井鷲裕司 (京大院・農)

P1-119# 盗蜜頻度の時間的・空間的変異がウツボグサの雌適応度におよぼす影響 *江川信 (信州大・理), 市野隆雄 (信州大・理・山岳研)

P1-120# 鳥類各種による種子散布環境の推定と散布貢献度の評価 *加藤大貴, 小池伸介 東京農工大学

P1-121# 千代田区の小公園における鳥散布植物実生の分布 *宮田真生, 明治大学千代田学研究グループ (明大・農)

P1-122# 竹林内における鳥散布型樹種の種子散布と実生発生 *瀧川裕介, 野間直彦 (滋賀県立大・環境)

P1-123# ニホンザルは種子散布者か捕食者か?~体サイズ、性別、個体間での糞中ヤマモモ種子破壊率の比較~ *武

真祈子, 五明浩子, 石塚真太郎, 徳重江美 (京都大・霊長研), 檜森弘志, 日野恭兵 (京都大・理), Aini Mutalib (University Sains Malaysia), Aditi (Indian Institute of Science), 栗原洋介 (京都大・霊長研), 西川真理 (京都大・理), 鈴木崇文 (京都大・WRC), 横山慧 (京都大・理), 田島知之 (京都大・理), 井上英治 (京都大・理), 高橋明子 (京都大・WRC)

P1-124# クモタケはオカダンゴムシの食資源となりうるのか? *小林一樹 (千葉科大・危機管理), 安藤裕萌 (筑波大院・生命), 小野文子 (千葉科大・危機管理), 柴原壽行 (千葉科大・危機管理), 吉川泰弘 (千葉科大・危機管理), 糟谷大河 (千葉科大・危機管理)

P1-125# 北海道に同所的に生息する3種の野ネズミにおけるタンニン摂取量の季節変化 *秋元 佑香 (北大・環境科学院), 小野寺 緑也 (北大・環境科学院), 島田 卓也 (森林総合研究所), 齊藤 隆 (北大・FSC)

P1-126# (仮) 寄主植物ウマノスズクサを共有する2種のチョウの共存機構 *橋本洗哉, 大串隆之 (京大生態研)

P1-127# 果実様の花香を放つチェリモヤ: ケシクスイを利用した送粉戦術 *菱川雄紀, 堀本栄枝, 秋野順治 (京工織大), 塚田森生 (三重大), 樋口浩和 (京大)

P1-128# エゾシカによる樹皮食害の頻度は樹皮形質で予測可能か? *松本洋平 (東北大・生命), 饗庭正寛 (東北大・生命), 黒川絃子 (森林総研), 揚妻直樹 (北大・北方生物圏), 日浦勉 (北大・北方生物圏), 中静透 (東北大・生命)

P1-129# カワウの営巣が森林動態に与える影響 *李屋貴士 (東北大・生命), 中静透 (東北大・生命), 亀田佳代子 (滋賀県立琵琶湖博物館)

P1-130# 虫害堅果を透視してネズミの選好性を探る 一幼虫の有無、種・サイズ、摂食率に着目して一 *柏木晴香 (名古屋大・院・生命農), 木下峻一 (ウィーン大・古生物), 佐々木 理 (東北大・博物館), 梶村 恒 (名古屋大・院・生命農)

P1-131# 送粉者の行動実験から探る花色変化の生態的機能: 色のみの変化がもたらす効果の解析 *土田洋子 (山形大・院・理工), 牧野崇司 (山形大・理), 横山潤 (山形大・理)

P1-132# 花は被食に対して事前防御なのか、誘導防御なのか: 複数種の草本を用いた食害実験 *若林加枝, 板垣智之, 小黒芳生, 酒井聡樹 (東北大・生命)

P1-133# 植物群集の機能的多様性とその食物網への影響 - 福井県三方湖流域における検証 - *篠原直登 (東大・農), 内田圭 (東大・総合文化), 吉田丈人 (東大・総合文化)

P1-134# グルコシノレート側鎖長の多様化とアブラナシロチョウ相互作用における役割 岡村悠*, 村上正志 (千葉大・理)

P1-135# Colonization and inter-specific competition of epibionts on *Turbo* shells *Yumiko OSAWA (Kyushu Univ., AMBL), Mutsunori TOKESHI (Kyushu Univ., AMBL)

P1-136# 森林の物質循環に与えるシカとササの影響 *天野創, 日浦勉 (北海道大学)

P1-137# 森林帯・高山帯エコトーンにおける訪花昆虫群集の季節動態と開花フェノロジー構造との関連性 *水永優紀 (北大・環境科学), 工藤岳 (北大・地球環境)

P1-138# ナラ枯れ発生後の里山におけるツキノワグマの出現パターンにブナ科堅果類の豊凶が与える影響について 今川未悠* (長岡技大・工), 望月翔太 (新大・農), 小林誠 (キョロロ), 鈴木誠治 (北大・農), 今村舟 (Wiron), 山本麻希 (長岡技大・工)

P1-139# 熱帯低地林における実生更新に野生ブタ攪乱が及ぼす影響 *玉置祐芸 (京大・農), 飯田佳子 (京大・農), 佐々

ポスター発表 3月22日(火) 10:00-16:00

(展示棟 Poster Hall # : ポスター賞対象発表)

木瞭太 (京大・農), Luskin, M (UC berkeley), Fletcher, C (FRIM), 北島薫 (京大・農)

P1-140# 植食者の消化応答からみた藻類多様性の生態系機能 松谷祐一郎*, 占部城太郎, 牧野渡 (東北大院・生命)

P1-141# 無傷のマンゴーはミバエの寄主植物なのか *藤井暢之, 本間淳, 沢田裕一, 西田隆義 (滋賀県大・環境科学)

P1-142# 生育初期の食害による誘導抵抗性が植食者の季節動態に与える影響 *古谷祐平, 太刀川翼, 石崎智美 (新潟大・院・自然研), 中山椋希 (新潟大・理)

P1-143# 孤島におけるオガサワラヤモリの訪花行動 *村上勇樹 (首都大・生命), 辻村美鶴 (首都大・生命), 加藤英寿 (首都大・生命), 林文男 (首都大・生命)

P1-144# 雌性両全性異株カワラナデシコの性比に影響を与える要因 *鈴木陽花, 堂園いくみ (学芸大・院・環境科学), 別宮有紀子 (都留大)

P1-145# 同所的に生育する近縁植物2種の生殖隔離と形質分化 *木村真美子, 堂園いくみ (学芸大・院・環境科学)

P1-146# 非破壊的な盗蜜者による植物の繁殖への影響: サワギキョウでの訪花行動と蜜報酬の変化 *松原 豊, 酒井聡樹 (東北大・生命科学)

P1-147# 堅果の防衛シグナル処理はどのように実生の運命を変えるか? *芳賀真帆 (北大・環境科学院), 高林純示 (京大・生態研), 内海俊介 (北大・FSC)

P1-148# 植物間コミュニケーションにおけるドナーとレシーバーの比較 *太刀川翼, 石崎智美, 古谷祐平, (新潟大・院・自然研), 塩尻かおり (京大・白眉センター)

P1-149# *Sargassum* habitat structure and its associated benthos: ecological relationships. *Hotta, T. (Kyushu Univ.), Tokeshi, M. (Kyushu Univ.)

進 化

P1-150# ナガゴミムシ属2種 (Coleoptera: Carabidae) における過去の繁殖干渉がもたらした一方向性の遺伝子浸透と形質置換 *小須田修平 (弘前大・農), 笹川幸治 (千葉大・教), 池田紘士 (弘前大・農)

P1-151# 日本産カエデ属を利用するハマキホソガ属 14 種の食性進化と多様化 *中臺亮介, 川北篤 (京大・生態研)

P1-152# 著しい種内形質多様化による広域ニッチ獲得プロセスの解明 *伊津野彩子, 北山兼弘, 小野田雄介, 辻井悠希 (京大院・農), 永野惇, 手塚あゆみ (龍谷大・農), 本庄三恵, 工藤洋 (京大・生態研セ), 井鷲裕司 (京大院・農)

P1-153# 採餌適応と口器形態の進化: ハシリハリアリ属の多様化要因 *有本晃一 (九州大院・生資環), 丸山宗利 (九州大・博), 伊藤文紀 (香川大・農), 山根正気 (鹿児島市)

P1-154# 対捕食者適応による昆虫の外部形態の進化: 捕食パターンの違いによる影響の検証 *篠原忠, 高見泰興 (神戸大・人間発達環境)

P1-155# 形態・生態・遺伝から考えるヤブツバキとユキツバキの種分化 *三浦弘毅 (新潟大・自), 上野真義 (森林総研), 阿部晴恵 (新潟大・FC)

P1-156# タナゴ亜科魚類における繁殖寄生と関連した卵形質の遺伝的分化 *林寿樹 (福井県大・海洋), 北村淳一 (三重県博), 永野惇 (龍谷大・農), JST さきかけ, 京大・生態研セ), 手塚あゆみ (龍谷大・農), 小北智之 (福井県大・海洋)

P1-157# アオモンイトトンボにおける雌特異的な色彩多型間での発現変動遺伝子の検出 *高橋迪彦 (東北大・理),

高橋佑磨 (東北大・学際研), 牧野能士, 河田雅圭 (東北大・生命)

P1-158# 内部寄生蜂の発育に影響する宿主の体内環境プロファイリング: 寄生蜂の表現型と宿主のゲノム変異の関連解析 *山下晋平 (岡大・農), 滝ヶ平智博 (岡大・環境生命), 高橋一男 (岡大・環境生命)

P1-159# イカダモにみられる二段階の可塑的防衛とその生態学的意義 *櫻澤 孝佑, 吉田 丈人 (東大・総合文化)

P1-160# 長野県深見池のミジンコに見られる繁殖戦略の系統間比較 *小田切悠, 永野真理子, 吉田丈人 (東大・総合文化)

P1-161# 形態と遺伝的組成からみたミズナラとミヤマナラの違い *増井悠人 (弘前大・院・農生), 石田清 (弘前大・農生)

P1-162# ミスミンソウにおける訪昆虫の色彩認識能力と花色多型の関係 *亀岡慎一郎 (京大院・人環), 崎尾均 (新潟大・農), 阿部晴恵 (新潟大・農), 村井良徳 (科博・植物), 大橋一晴 (筑波大・生命環境), 瀬戸口浩彰 (京大院・人環)

P1-163# 細胞内共生者は増殖を自粛するか *内海 邑, 大槻久, 佐々木顕 (総研大・生命共生体進化)

P1-164# 日本列島内で遺伝的に細分化する日本固有科・ガガンボカゲロウ科の分断要因の究明~特殊な生態を中心に~ *竹中將起 (信州大学院理工学系研究科), 東城幸治 (信州大学理学部生物科学学科)

P1-165# ヒラマキミズマイマイ類における殻形態の多様性 *齊藤匠 (東北大・生命), 福田宏 (岡山大・農), 千葉聡 (東北大・東北アジア)

P1-166# 転移因子によるゲノム改変は宿主個体群の適応進化を促進するか *樋口拓人 (東邦大・理), 小沼順二

P1-167# ゲノムワイド SNP を用いた小笠原諸島ムラサキシキブ属の種分化における遺伝的背景の解明 *成田智史 (京大院・農), 鈴木節子 (森林総研), 加藤英寿 (首都大・生命), 井鷲裕司 (京大院・農)

P1-168# モクセイ科における二対立遺伝子型自家不和合性と異花柱性への進化 *平野友幹 (京大・生態研), Shixiao Luo (South China Botanical Garden), 川北篤 (京大・生態研)

P1-169# 群島構造を持つ生態系での種分化と適応放散のモデル *清水裕矢 (東京大・総合文化・広域), 嶋田正和 (東京大・総合文化・広域)

P1-170# ミジンコにおける T2A ペプチドを用いたパイシストロニック発現システムの構築 *熊谷仁志, 加藤泰彦, 松浦友亮, 渡邊肇 (大阪大・工)

生 物 多 様 性

P1-171# 琉球諸島におけるリュウキュウマツ林の外生菌根菌群集 *伊藤光沙 (東大院・新領域), 寺嶋芳江 (琉大・熱生研), 奈良一秀 (東大院・新領域)

P1-172# アカマツ母樹からの距離が実生の外生菌根菌群集に及ぼす影響 *丸山紗也可 (三重大院・生資), 松田陽介 (三重大院・生資)

P1-173# 樹木多様性に基づく土砂災害リスク削減の可能性 *小林勇太 (横国大・環境情報), 森章 (横国大・環境情報)

P1-174# 道の駅で販売される山菜・野生キノコの地理的パターンとその要因 *佐々木春佳, 饗庭正寛, 小黒芳生, 中静透 (東北大・院・生命)

P1-175# 日本沿岸域における潮間帯性貝類イシダミ属の分子系統 *山崎大志, 千葉聡 (東北大・生命), 池田実, 木島明博 (東北大・農)

ポスター発表 3月22日(火) 10:00-16:00

(展示棟 Poster Hall # : ポスター賞対象発表)

- P1-176# シダ植物種組成類似度に対する空間的自己相関の影響** *松浦亮介(信大・総工), 佐藤利幸(信大・理)
- P1-177# How much life can dead wood support? - Biodiversity of Invertebrates in Down Woody Debris with Different Decomposition Levels** Tsai, M.S. (Univ. Bristol), Chiou, J. S. (Ishou Univ.), Chen, Y. S. (Univ. Tainan), Yeh, H. R. (Univ. Dong Hwa)
- P1-179# カンヒザクラ地域集団と早咲きのサクラ品種の遺伝的関係** *金澤弓子(東農大・地域), 亀山慶晃(東農大・地域), 李景秀(昆明植物研究所), 濱野周泰(東農大・地域), 鈴木貢次郎(東農大・地域)
- P1-180# 水田における「ただの虫」の多様性と天敵アシナガグモ類の動態** 筒井優*(東大・農), 馬場友希(農環研), 田中幸一(農環研), 宮下直(東大・農)
- P1-181# 環境DNAメタバーコーディングを用いた淀川の魚類相モニタリング** *稲波璃香(神戸大・発達), 山本義彦, 近藤美麻, 上原一彦(大阪環水研・水生セ), 佐藤行人(東北大・ToMMo), 宮正樹(千葉県博), 山本哲史, 源利文(神戸大・発達)
- P1-182# 韓国白頭大幹における環境変動に応じた歩行虫群集の変化** *Yong Hwan Park(神戸大, 人間発達環境), Tea Woong Jang(江原大, 山林環境保護), Jong Kuk Kim(江原大, 山林環境保護), Hee Mun Chae(江原大, 山林環境保護), Yasuoki Takami(神戸大, 人間発達環境)
- P1-183# 茅葺屋根に集団営巣するサイジョウハムシドロバチの遺伝構造** *佐藤豪士(茨大院・理), 諸岡歩希(茨大・理), 小島純一(茨大・理)
- P1-184# 霧ヶ峰の異なる立地条件の草原におけるチョウ類群集の構造と植物との関係** *小椋球(信大・農), 大窪久美子(信大・大学院農)
- P1-185# Detecting range shifts of freshwater biodiversity in and around Japanese reservoirs over the last 20 years** *Park, K.J. (Univ. Tokyo), Mori, T. (Univ. Tokyo), Yoshida, T. (Univ. Tokyo)
- P1-186# 長野県佐久市の水田地域における水生昆虫群集と立地環境及び農法との関係** *大澤崇季(信大院・農研), 大窪久美子(信大・大学院農), 渡辺太一(信大院・総合工)
- P1-187# 伊勢湾周辺域におけるアカハライモリの遺伝的集団構造** *伊藤玄(岐阜大院・連農), 北西滋(岐阜大・地域), 古屋康則(岐阜大・教育), 向井貴彦(岐阜大・地域)
- P1-188# The value of degraded habitats to maintaining amphibian diversity in Ranomafana Madagascar** Ramamonjisoa Noelikanto, Natuhara Yoshihiro / Nagoya University
- P1-189# Life-form comparison of Southeast Asia plant diversity by the transect method** *Kanemitsu, H. (Kyushu Univ.), Tagane, S. (Kyushu Univ.), Yahara, T. (Kyushu Univ.)
- P1-190# 日本産タニシ科貝類の分子系統** *平野尚浩, 齊藤匠, 千葉聡(東北大・生命科学)
- P1-191# 千葉県野田市の水田環境におけるコウノトリ餌動物量を決定する要因** *桑原里奈, 山崎響子, 坂入一瑛(東邦大), 大見享子, 遠藤立, 朝見清孝, 大矢篤, 長尾雅代((公財)日本生態系協会), 佐川志朗(兵庫県立大), 長谷川雅美(東邦大)
- P1-192# ネオニコチノイドの予期せぬ効果** *小橋 興次, 森美穂, 早坂 大亮(近畿大院・農・環境管理)
- P1-193# 森林管理により生物多様性はどのように変化するか: 国内既存文献の網羅的解析** *矢納早紀子(京大・森林生態), Rebecca Spake (University of Southampton), 小野田雄介(京大・森林生態), 北山兼弘(京大・森林生態)

- P1-194# Waste-cleaning ability of ants in urban parks of Tokyo** *Di, L., Numata, S., Hosaka, T. (TMU)
- P1-195# 高知県中部における草原生植物の分布特性と保全に向けた課題** 高橋瑛乃(高知大・院・理)・比嘉基紀・石川慎吾(高知大・理)
- P1-196# カメラトラップを用いて確認された奈良県大峯山系弥山・前鬼の中・大型哺乳類相** *深川幹(奈良教大・教), 辻野亮(奈良教大・自然セ)
- P1-197# 動物プランクトンから見た農薬による生物多様性影響** *原田(近畿大学)小橋(近畿大学)森(近畿大学)早坂(近畿大学)
- P1-198# 八丈島におけるヤシ類に着生する着生シダの分布特性** 松井美咲*(明治大院), 倉本宣(明治大農)
- P1-199# 環境DNAの断片長による見た目の分解速度の違い** *徐寿明(神戸大・発達), 村上弘章(京都大・フィールド研舞鶴), 坂田雅之(神戸大・発達), 益田玲爾(京都大・フィールド研舞鶴), 山本哲史, 源利文(神戸大・発達)
- P1-200# メガシティにおける植物および植食性昆虫の機能的多様性評価** *藤本泰樹(京大院・地環), 丑丸敦史(神戸大院・人間発達), 内田圭(東大院・総合文化)
- P1-201# 鳴く虫から見た都市のエコロジカルネットワーク** 平林 由莉・明治大学千代田学研究グループ(明大・農)

動物群集

- P1-202# 腸内細菌叢の種個体数分布とその特徴** 高安伶奈*, 須田互, 高安美佐子, 高安秀樹, 服部正平
- P1-203# シロアリの腸内原生動物群集にみられる性差** *稲垣辰哉, 松浦健二(京大院・農・昆虫生態)
- P1-204# 分断化景観における鳥類多様性の季節変化: 生息地ネットワークと河畔林に注目して** *藪原佑樹(北大院農), 赤坂卓美(帯広畜産大), 山浦悠一(森林総研), 山中聡(北大院農), 中村太士(北大院農)
- P1-205# 分断化された二次草地におけるバッタ科昆虫の分布と個体群密度の規定要因** 中島 一豪, 清川 紘樹(東京大学・農), 長谷川 雅美, 坂入 一瑛(東邦大・理), 宮下直(東大・農)
- P1-206# 虎は死して皮を留め、カキは死して殻を残す** *戸祭森彦, 今孝悦
- P1-207# 本州中部におけるカラマツ人工林のコウモリ群集の特徴と周辺の植生が与える影響** *小松茉莉奈(筑波大・生命環境科学), 家根橋圭佑(東京大・農学生命科学研究科), 中村大地(筑波大・生命環境科学), 佐藤顕義(山梨県希少野生動植物種保護専門員), 安井さち子(つくば市大角豆), 上條隆志(筑波大・生命環境系)
- P1-208# 人工池における水生昆虫群集: メダ群集の形成過程** *鈴木真裕, 平井規央, 石井 実(大阪府大院・生命・昆虫)
- P1-209# Experimental warming effects on the population growth and composition of a crop pest (soybean aphid) and the consequences for pest colonization under biocontrol** *Wang, Y. J. (Natl. Taiwan Univ.), Nakazawa, T. (Natl. Cheng Kung Univ.), Ho, C. K. (Natl. Taiwan Univ.)
- P1-210# ツボフムシの対捕食者誘導防御への浮葉植物オニビシの影響** *大竹裕里恵, 鏡味麻衣子(東邦大・理), 吉田丈人(東大・総合文化)
- P1-211# The Effects of Greenfalls on Arthropod Community** *Chien-Lung Chen, Pei-Jen L. Shaner
- P1-212# 森林の特性と枯死木依存性甲虫群集の変化** *宮崎

ポスター発表 3月22日(火) 10:00-16:00

(展示棟 Poster Hall # : ポスター賞対象発表)

怜, 小池文人 (横国大・環リ)

環科院), 齊藤隆 (北大・北方圏FSC)

P1-213# 河川源流域における底生動物群集の流程による変化と河川環境 *井上光也, 山中萌 (高知大・理), 加藤元海 (高知大・黒潮)

P1-231# 社会的な一夫一妻制鳥類における抱卵調節機構 遠藤幸子 (立教大・理)

P1-214# 食物網における栄養転換効率の栄養段階依存性～21の水域食物網を比較して～ *高嶋あやか (龍谷・理工), 近藤倫生 (龍谷・理工)

P1-232# カメラトラップを用いた阿寒白糠地域のヒグマ個体群の繁殖実態の推定 石橋悠樹* (酪農学園大学), 鈴木晋悟 (浦幌ヒグマ調査会), 田中博子 (浦幌ヒグマ調査会), 柴田悟 (浦幌ヒグマ調査会), 佐藤喜和 (酪農学園大学)

P1-215# 魚で調べる島嶼生態学 *平拓也 (東北大・生命), 大槻潮 (東北大院・生命), 占部城太郎 (東北大院・生命)

P1-233# ショウジョウバエ寄生蜂の成長戦略 *鬼澤康太 (北海道大学・地球環境), 木村正人 (北海道大学・地球環境), 甲山哲夫 (北海道大学・地球環境)

P1-216# 夏季の仁淀川と四万十川の上流域における大型底生動物群集の体長, 個体数, 生物量の関係 *山中萌 (高知大理), 井上光也 (高知大理), 加藤元海 (高知大黒潮)

P1-234# ヤマトシジミにおける *Wolbachia* 感染密度の周年変化 *角拓人 (岡大院・環境生命), 三浦一芸 (NARO), 宮竹貴久 (岡大院・環境生命)

P1-217# Complex habitat structure does not always protect mesograzers in eelgrass bed *Teranishi, T., Yorisue, T., Isaka, Y., Ahn, H., Nakaoka, M. (Univ. Hokkaido), Bayne C. (SDSU), Tanatitivarapong R. (Univ. Kasetsart)

P1-235# 屋久島における植生の垂直分布に着目した森林性野ネズミの種構成と生態特性の比較 *肥後悠馬 (名古屋大・農), 本田剛章 (京都大・霊長類研), 半谷吾郎 (京都大・霊長類研), 梶村恒 (名古屋大・生命農)

P1-218# 日本及び朝鮮半島に生息するモグラ類の消化管寄生蠕虫相と寄生蠕虫類の生物地理学的研究 *井出哲哉, 横畑泰志 (富山大・院・理工), 阿部 永 (元・北海道大・農)

P1-236# 回遊性ハゼ科魚類の淡水進出に伴う平行的種分化: 近似ベイズ法を用いた検証 *山崎曜 (京大院理), 武島弘彦 (地球研), 鹿野雄一 (九大決断), 大迫尚晴 (宜野湾市), 鈴木寿之 (川西緑台高), 西田陸 (琉球大), 渡辺勝敏 (京大院理)

P1-219# 河川に生息するトンボ目幼虫の微生物場を規定する要因 *高良真佑子, 河内香織 (近畿大・農)

P1-237# 安定同位体比分析によるヒグマのトウモロコシ利用の検証とその個体差を決める要因の解明 *秦彩夏 (帯畜大), 高田まゆら (東京大), 深澤圭太 (国環研), 中下留美子 (森林総研), 押田龍夫 (帯畜大), 石橋悠樹 (酪農学園大), 佐藤喜和 (酪農学園大)

P1-220# 摂餌選択性からみたトンボ幼虫の栄養ニッチ重複度～深泥池を例に～ 山田紗友美* (東北大 院 生命), 加藤義和 (総合地球環境学研究所), 辻野亮 (奈良教育大), 竹門康弘 (京大 防災研), 占部城太郎 (東北大 院 生命)

P1-238# ニホンジカの生息数増加が他の哺乳類の増減に与える影響 津野 きりこ (新潟大学・農)

P1-221# ブルガリア中央部の農業地帯における哺乳動物相の確認手法: カメラトラップとフィールドサインの比較 *伊藤海里, Evgeniy Raichev, 角田裕志, Stanislava Peeva, 金子弥生 / 東京農工大学食肉目動物保護学研究室

P1-239# 成体越冬は種内競争に有利か? - ハリナガミゾコ個体群の遺伝構造応答による解析 - 柳沼 康平* 東北大学理学部生物科, 相川 奈津美 東北大学院生命科学研究所, 牧野 渡 東北大学院生命科学研究所, 占部 城太郎 東北大学院生命科学研究所

P1-222# 日本産樹木の葉における防御形質と植食性昆虫の成長量の相関関係 *Jason Saihanna, 村上正志 千葉大学群集生態学研究室

P1-240# ストロンチウム安定同位体比からみた淡水型イトヨ (*Gasterosteus aculeatus*) の河川支流内移動性 *札本果 (京大生態研), 森誠一 (岐阜経済大), 久米学 (国立遺伝研), 西田翔太郎 (岐阜経済大), 申基澈 (地球研), 中野孝教 (地球研), 陀安一郎 (地球研)

P1-223# SSU rRNA の網羅的解析による シロアリ腸内微生物群集混合後の収束パターンの検証 *佐藤 渚 (茨城大 院・理), 北出 理 (茨城大・理), 野田 悟子 (山梨大・生命環境), 飯田 敏也 (理研・BRC), 大熊 盛也 (理研・BRC)

P1-241# 魚類からの環境 RNA 放出速度と温度依存性 *垣見直希 (龍谷大・院・理工), 河野吉将, 山中裕樹 (龍谷大・理工)

P1-224# 札幌市における雪堆積場からの融雪水が河川生態系に与える影響 *川尻啓太 (北大・農), 末吉正尚 (土木研), 石山信雄 (北大・農), 太田民久 (地球研), 福澤加里部 (北大・FSC), 中村太士 (北大・農)

動物個体群・繁殖・生活史

P1-225# 過去の環境要因が北総地域のジャノメチョウのメタ個体群動態に与える影響 *坂入一瑛, 長谷川雅美 (東邦大・理)

P1-243# 遺伝的多様性の年次変化と密度・分散の関係: 変動様式が違うヤチネズミ個体群の比較 *秋元佐紀 (北大・環境科学院), 山田敏也, 齊藤隆 (北大・環境科学院)

P1-226# モリアオガエル産卵フェノロジーの地域内変異 *高橋華江 (神大・理), 佐藤拓哉 (神大・理)

P1-244# 北海道十勝川水系における水生生物の比較系統地理 *大磯毅晃, 小泉逸郎

P1-227# スクミリンゴガイのメスに片寄った性比の意義 *熊谷菜摘 (奈良女子大学院), 遊佐陽一 (奈良女子大学)

P1-245# 止水性両生類における卵死亡率の個体群間変異と地理情報・遺伝学情報を用いた要因の解析 *岡宮久規, 志賀優, 菅原弘貴, 草野保 (首都大・生命)

P1-228# 負け組の性転換: 魚類における双方向性転換の数理モデル *澤田紘太 (総研大・先導研), 山口幸 (神奈川大・工), 巖佐庸 (九州大・理)

P1-246# トウキョウサンショウウオのメタ個体群における分布制限要因の解明 *高木香里, 宮下 直 (東大・農)

P1-229# カクレガニ類の寄生がカキ類の繁殖に与える影響 *安岡法子, 遊佐陽一 (奈良女子大・院・人間文化)

P1-247# Influence of plant community composition and human management on the population of an endangered butterfly, *Plebejus argyrognomon* at the Kinugawa river bank *ZHANG, X. (Univ. Tokyo), MATSUBA, M. (Univ. Tokyo), MIYASHITA, T. (Univ. Tokyo)

P1-230# マルチプルパタニティ頻度を用いた複数オス交尾頻度の推定 - エゾヤチネズミを例に - *若林絃子 (北大・

ポスター発表 3月22日(火) 10:00-16:00

(展示棟 Poster Hall # : ポスター賞対象発表)

P1-248# 琵琶湖水系産オイカワの遺伝的構造 ―”清流の女王”はなぜ止水域にも生息するのか― *北野大輔, 高倉耕一 (滋賀県大・環境)

P1-249# 石川県におけるサクラマスの遺伝的構造の解明 *北市仁, 柳井清治 (石川県立大・生物資源環境)

P1-250# ミジンコ (*Daphnia pulex*) 隠蔽個体群の維持機構 *八巻健有, 八巻圭佑, 大槻朝, 牧野渡, 占部城太郎 (東北大院・生命)

P1-251# ハリナガミジンコ (*Daphnia dentifera*) 集団は任意交配しているのか? *相川 奈津美 (東北大・院・生命), 占部 城太郎 (東北大・院・生命), 牧野 渡 (東北大・院・生命), 大槻 朝 (東北大・院・生命), 柳沼 康平 (東北大・理)

P1-252# 谷津田に生息するトウキョウダルマガエルの餌資源利用と分布の季節変化 *戸塚邦洋 (東大院・農), 藤田剛 (東大院・農), 宮下直 (東大院・農)

P1-253# 寄生の影響は種内競争により変化するか? ~ヤマメ・カワシンジュガイ系における検証~ *大上慧太 (北大・農), 照井慧 (北大院・農), 卜部浩一 (道さけます内水試), 中村太士 (北大院・農)

P1-254# 渓流棲昆虫における密度 - 面積関係 *天野浩美, 加賀谷隆 (東大院・農)

P1-255# ミズクラゲのストロビレーションのチオウレアによる阻害機構 *山守瑠奈 (京都市大・農), 前川真吾 (京都市大・情報), 豊原治彦 (京都市大・農)

P1-256# オオミジンコの混み合い応答における脱皮ホルモンおよび卵黄形成関連遺伝子の経時発現量解析 *高橋祥尚, 田辺祥子, 伴修平 (滋賀県大・環境)

P1-257# 琵琶湖産カイアシ類 *Eodiaptomus japonicus* における呼吸速度の温度関数: 馴化温度と体重の影響 *Liu, X., 伴修平 (滋賀県大・環境)

P1-258# 小笠原の海鳥は何を食べている? - 糞のDNA バーコーディングで探るその素顔 - *小村健人 (京都市大・農), 安藤温子 (国環研), 堀越和夫, 鈴木創 (NPO 法人小笠原自然文化研究所), 井鷲裕司 (京都市大・農)

P1-259# 下層植生が極度に衰退した芦生研究林における二ホンジカの餌環境評価 *池川凜太郎, 古田智博 (京大院・農), 鮫島弘光 (地球環境戦略研究機関), 中島啓裕 (日大生物資源科学部), 高柳敦 (京大院・農)

P1-260# 谷津田の湧水環境におけるオニヤンマ幼虫の生息密度と齢構成に及ぼす環境要因: アメリカザリガニとの相互作用 *伊勢崎泰 (東邦大学大学院), 長谷川雅美 (東邦大学)

P1-261# 丹後海舞鶴湾におけるスズキ仔稚魚の成育場の利用特性 *曾我部共生, 鈴木勇人, 笠井亮秀, 鈴木啓太, 山下洋

P1-262# 海を越えてやってきたウスバキトンボの産卵特性 *市川雄太・渡辺守 (筑波大・院・生命環境)

P1-263# 兵庫県内複数ため池におけるギンヤンマ属幼虫の生活史と餌環境 *森野光太郎 (兵庫県大院・環境人間), 片野泉 (兵庫県大・環境人間)

P1-264# イラガのまゆの模様とサイズは枝太さで決まる *古川真莉子, 中西康介, 高倉耕一, 西田隆義 (滋賀県大・環境)

P1-265# 窒素安定同位体比を用いたコガネムシ上科の食性解析 *柿添翔太郎 (九州大・システム生命), 矢原徹一 (九州大・理)

P1-266# カスミサンショウウオの飼育密度が成長に与える影響の地理的な比較 *増田萌子, 宗岡映里伽, 中村圭司 (岡

山理科大, 生地)

P1-267# 外来種ホソオチョウにおける集団形成の適応的意義 *新津伊織, 土田浩治, 岡本朋子 (岐阜大院・応用生物)

行 動

P1-268# Small-clawed otters in Indonesian rice fields: Latrine-site characteristics and visitation rates *Aadreaan (Kanazawa University), Usio, N. (Kanazawa University)

P1-269# なぜ派手な幼体が捕食者の攻撃から回避できるのか? ニホントカゲの体型変化と逃走パフォ-マンズの違い 原田龍一 滋賀県立大学環境科学部

P1-270# 誰についていこうか? - 野生ボノボ (*Pan paniscus*) における、遊動開始の意思決定 - *徳山奈帆子 (京都市大・霊長研), 古市剛史 (京都市大・霊長研)

P1-271# 林分構造の違いからみたヤマメの生息地選択 *羽方大貴 (筑波大・生命環境), 藤岡正博 (筑波大・生命環境系), 俵薫乃子 (筑波大・生命環境)

P1-272# 可動サンゴに棲み込む新たな共生者の発見~ムシノスチョウジガイ属・スツボサンゴ属のサンゴと共生するホシムシおよびヤドカリ~ 井川桃子*, 加藤真 (京大院・人環)

P1-273# 捕食者であるヤマカガシの存在によるツチガエルの distresscall の変化 *松尾遼馬 (九大院・シス生), 吉村友里 (九大院・農), 粕谷英一 (九大・理・生物)

P1-274# ハリガネムシに寄生されたカマキリの繁殖行動 *黒田剛広, 高見泰興 (神戸大・発達科)

P1-275# 2種のアメンボにおいて、他種の存在が産卵に与える影響 *直塚翔吾 (九大・システム生命・生態), 平山寛之, 粕谷英一 (九大・理・生態)

P1-276# ヤマガラとシジュウカラの巣の地域間比較 *南美月, 近藤 崇, 肘井直樹 (名古屋大・生命農・森林保護)

P1-277# メクラヘビによるシロアリ頭部切断行動 *水野尊文 (京工織大), 児島庸介 (京大・理)

P1-278# Sexual allocation of the barnacle, *Balanus rostratus* *Masami Tamechika (Kamo Aquarium), Satoshi Wada (Hokkaido University), Kohei Matsuno (National Institute of Polar Research)

P1-279# 網室内での社会性ネットワークは繁殖を説明できるか? : トキの場合 *越田智恵子 (筑波大・生命環境), 益子美由希 (農環研), 徳永幸彦 (筑波大・生命環境)

P1-280# 横風を相殺しつつ帰巢するオオミズナギドリ *後藤佑介 (東大・大海研), 依田憲 (名大・環境), 佐藤克文 (東大・大海研)

P1-281# ミツバチの採餌行動におけるエネルギー収支 *澤井穂高, 岡田龍一, 吉田滂, 大橋瑞江, 木村敏文, 池野英利 (兵庫県立大・環境人間)

P1-282# Does *Wolbachia* alter egg-laying behavior of host species? *Numajiri, Y. (Univ. of Tsukuba), Toquenaga, Y. (Univ. of Tsukuba)

P1-283# カラ類 3種の育雛行動における雌雄間の比較 *近藤 崇, 早瀬晴菜, 肘井直樹 (名古屋大・生命農・森林保護)

P1-284# シジュウカラ・ヤマガラにおける給餌様式と雛間競争 *早瀬晴菜, 近藤 崇, 肘井直樹 (名古屋大・生命農・森林保護)

P1-285# 屋久島に生息するニホンザルにおけるエネルギー

ポスター発表 3月22日(火) 10:00-16:00

(展示棟 Poster Hall # : ポスター賞対象発表)

バランスの季節変化 * 栗原洋介, 半谷吾郎 (京大・霊長研)

TANABE, Syoko, BAN, Syuhei

保 全

P1-286# 社会性昆虫の概日リズムと社会的相互作用 藤岡春菜 (東大・広域), 阿部真人 (国立情報研), 嶋田正和 (東大・広域), 岡田泰和 (東大・広域)

P1-287# 成長段階を通しての個性の観察: クローンヤモリを用いたアプローチ 酒井理 (京大・理)

P1-305# 沖縄本島陸生ホタル 街灯の有無と日消長 * 塚本康太 (東北地方環境事務所), 辻和希 (琉球大学農学部)

P1-288# 同所的に繁殖するトノサマガエル属 2 種における繁殖行動の違いと繁殖干渉の可能性 * 伊藤真 (京大院・理・動物行動), 本間淳 (琉球産経/滋賀県大・環境), 中西康介 (名大院・環境/滋賀県大・環境), 寺澤祐貴, 羽田野遥平, 西田隆義 (滋賀県大・環境)

P1-306# 絶滅危惧種ヒヌマイトトンボの生息地決定要因—ヒヌマイトトンボは静かに暮らしたい— * 寺本悠子 (筑波大院・生命環境)

P1-289# グッピーのメスの脳で発現する配偶者選好行動に関わる遺伝子 * 稲田垂穂 (東北大・生命), 佐藤綾 (群馬大・教育), 牧野能士 (東北大・生命), 河田雅圭 (東北大・生命)

P1-307# 水産物消費に由来する窒素汚染をフットプリント指標で評価する * 種田あずさ (横浜国大・環境情報), 永野一郎 (日水中研), 松田裕之 (横浜国大・環境情報)

P1-290# 高知県中土佐町におけるニホンザルの環境選択と食性 * 寺山佳奈 (高知大・理), 金城芳典 (四国自然史科学研究センター), 加藤元海 (高知大・黒潮)

P1-308# 炭素と通水と呼吸のストレスに関係した乾燥による樹木枯死の新しい生理メカニズム * 才木真太朗 (京大生態研), 吉村謙一 (森林総研関西), 矢崎健一 (森林総研), 石田厚 (京大生態研)

P1-291# 過採食環境下における防鹿柵の開閉がニホンジカの食物構成へ与える影響—DNA バーコーディングによる食性解析— * 古田智博, 池川凜太郎 (京大院・農), 鈴木節子 (森林総研), 高柳敦, 井鷲裕司 (京大院・農)

P1-309# 交通騒音による野生フクロウ類の餌食効率の低下 * 先崎理之 (北大農院), 山浦悠一 (森林総研植生), Clinton D. Francis (Cal Poly Univ), 中村太士 (北大農院)

P1-292# ヤマトシロアリの初期コロニーにおける攻撃行動と異なる条件下での比較 * 竹内智勇, 北出理 茨城大学

P1-310# 長野県ツキノワグマ個体群における集団遺伝学的研究 * 田村大也 (京大院・理・生物), 早川美波 (碧南海浜水族館・青少年海の科学館), 林秀剛 (信州ツキノワグマ研究会), 岸元良輔 (長野県環境保全研究所), 東城幸治 (信州大・理・生物)

P1-293# チクゼンハゼはアナジャコよりもスナモグリが好き? : ウキゴリ属魚類による巣穴利用のニッチ分化 * 遠見由美 (高知大・黒潮), 乾隆帝 (山口大・理工), 伊谷行 (高知大・黒潮)

P1-311# 熱ショックタンパク質 (Hsp) を指標としたオシロコマ個体群に対する河川水温上昇の影響を評価する * 倉橋 彩百合, 鎌田 泰斗, 関島 恒夫 (新潟大学・院・自然科学), 竹川 有哉 (徳島大学・院・先端技術), 谷口 義則 (名城大学・理工), 河口 洋一 (徳島大学・院・先端技術)

P1-294# オオアシトガリネズミの野生下及び飼育下における行動 * 黒田祐樹¹, 小森茜², 下井岳², 亀山祐一¹ 1: 東農大院生物 2: 東農大生物

P1-312# 環境 DNA 分析手法を用いたオオサンショウウオ (*Andrias japonicus*) の広域調査 * 日高舜介, 勝原光希, 富田勢, 丑丸敦史, 源利文 (神戸大・発達)

P1-295# なぜ嫌う? シカが回避するタヌキのため糞場 * 長野秀美 (京大・農), 福本繁 (自営業), 高柳敦 (京大・農)

P1-313# 多摩丘陵におけるヤマザクラ地域集団の遺伝的組成 * 野口翔 (東農大院・農), 亀山慶晃 (東農大・地域), 鈴木貢次郎 (東農大・地域)

P1-296# タンザニア・マハレ山塊国立公園における森林棲アフリカヒョウの生息数と他地域との比較 * 仲澤伸子 (京都大・野生研), 大谷ミア (京都大・野生研)

P1-314# クマガイソウ個体群の遺伝構造—断片化の遺伝的影響と種子繁殖の現状— * 山下由美 (福島大・共生システム理工), 伊津野綾子 (京大・農), 辻田有紀 (佐賀大・農), 黒沢高秀 (福島大・共生システム理工), 井鷲裕司 (京大・農), 兼子伸吾 (福島大・共生システム理工)

P1-297# 分割可能な餌を運ぶ種の給餌行動~シジュウカラとヤマガラを比較して~ * 石井絢子 (九大院・シス生), 粕谷英一 (九大・理・生物)

P1-315# 土地利用変化がトノサマガエルの食性に与える影響 * 青木香澄, 丑丸敦史 (神大院・人間発達), 兵藤不二夫 (岡山大・異分野コア)

P1-298# マングローブ林において底生生物の巣穴崩壊・新生を促す環境要因 * 江川遼平 (東工大・情報理工), Sharma, S. (ハワイ大), 安岡潤 (川崎重工), 田野倉佑介, Ratino, S., 灘岡和夫 (東工大・情報理工)

P1-316# 伝統的管理の実験的導入による里草地再生 * 長井拓馬, 丑丸 敦史 (神戸大院 人間発達環境), 内田 圭 (東京大総合文化)

P1-299# Behavioural observation of a commensal gastropod, *Syphopatella walshi*. * Tsujita, T. (Kyushu Univ., AMLB), Tokeshi, M. (Kyushu Univ., AMLB)

P1-317# ロードキル記録を用いた中大型哺乳類の日本全国の密度指標 * 立脇隆文, 小池文人 (横国大・環境情報)

P1-300# 野付半島に生息するシカは季節で行動は変わるのか? - 定住型個体の季節的行動変化 - * 佐藤瑞奈 (酪農学園大院・野生動物), 石下亜衣紗 (別海町観光開発公社), 吉田剛司 (酪農学園大院・野生動物)

P1-318# 広島県に自生するサクラソウのポリネーターの探索 * 知識重果音 (神戸大・農), 日下石碧 (神戸大院・人間発達環境), 吉田康子 (神戸大院・農・食資源セ)

P1-301# 河川におけるオイカワ (*Opsariichthys platypus*) の摂餌行動について 武村達也 (龍谷大・院理), 豊福晋作 (龍谷大・院理), 遊磨正秀 (龍谷大・理)

P1-319# サンショウウオ属を対象としたユニバーサルプライマーによる環境 DNA の検出 * 富田勢 (神戸大・発達), 神松幸弘 (立命大・グローバル), 山中裕樹 (龍谷大・理工), 永野昌博 (大分大・教育), 源利文 (神戸大・発達)

P1-302# スマートフォンを用いたイノシシ用箱ワナの稼働情報の取得に関する研究 * 岩本 彩 広大・院・生物圏科学, 谷田 創 広大・院・生物圏科学

P1-320# チャマダラセセリの生息地保全を目的とした 3 年間の植生管理の影響 * 新井隆介 (信大院・総合工/岩手林技セ), 大窪久美子 (信大・学院院農), 中村康弘, 永幡嘉之 (日本チョウ類保全協会)

P1-304# Trade-off between longevity and fecundity under crowding in *Daphnia magna* * WANG, Xiao-Hang,

ポスター発表 3月22日(火) 10:00-16:00

(展示棟 Poster Hall # : ポスター賞対象発表)

- P1-321#** 奄美大島の森林における樹洞：生物多様性指標としての可能性 *井上奈津美(東大院・農), 松本齊(東大院・農(現所属:株式会社ジーピーエス)), 鷺谷いづみ(中大・理工) *佐藤 悠(京大・野生動物), 前田 琢(岩手県環境保健センター), Rob Ogden (Royal Zoological Society of Scotland), 井上-村山美穂(京大・野生動物)
- P1-322#** 長野県上伊那地域の中山間水田地域におけるゲンゴロウ類群集の生息状況と立地環境条件との関係 *山地祥子(信大・農), 大窪久美子(信大・大学院農)
- P1-323#** 佐渡棚田ビオトープ群における散布体動態と棚田跡地の埋土種子組成について *藤彦 祐貴, 中田 誠(新潟大・自然科学)
- P1-324#** ミトコンドリア DNA とマイクロサテライト DNA による大阪府石津川水系のヌマムツ集団の遺伝解析 *松岡悠, 平井規央, 石井実(大阪府大院・生命)
- P1-325#** 山口県平生湾におけるカプトガニ幼生と地盤の関係性 *越智まどか, 岡浩平(広島工業大学・院・工学系研究科)
- P1-326#** 草刈り方法と土壌条件の不均一性が半自然草地における植物種の多様性に寄与する 丹野夕輝(静岡大・農, 岐阜大・院・連農), 山下雅幸, 澤田 均(静岡大・農)
- P1-327#** シカと外来樹種ナンキンハゼの在来樹種カラスザンショウの更新に対する影響 *森家 侑生, 名波 哲, 伊東明(大市大・院・理)
- P1-328#** 底質粒径が絶滅危惧種カワヤツメの初期幼生に与える影響〜ワンド地形が持つ有用性〜 *荒川裕亮, 柳井清治(石川県立大)
- P1-329#** 伊那盆地におけるナゴヤダルマガエルの生息状況の変化と他種との競合を含めた環境要因との関係 *日隈徳子(信大院・農研), 大窪久美子(信大・大学院農)
- P1-330#** MIG-seq 法によるゲノムワイド SNP 分析によって明らかになったレブナアツモリソウの遺伝的な島内分化 *伏見愛雄(東北大・農), 松木悠(東北大・農), 河原孝行(森林総研), 高橋英樹(北大・総合博), 伊澤岳師(北大・農), 陶山佳久(東北大・農)
- P1-331#** モンゴル南部における長距離移動草食獣モウコガゼルの生息適地推定と開発影響評価 *坂本有実(鳥取大・農), 伊藤健彦(鳥取大・乾地研), 衣笠利彦(鳥取大・農), 篠田雅人(名古屋大・環境), Lhagvasuren, B. (モンゴル科学アカデミー)
- P1-332#** 準絶滅危惧種マダラヤンマにおける生息場所利用と果樹園との関係 *阿部建太, 高橋大輔(長野大・環境ツーリズム), 早川慶寿(マダラヤンマ保護研究会)
- P1-333#** 千葉県北部に残る草原：植物種多様性に対する過去と現在の土地利用の影響 *野田顕(東邦大・理), 山ノ内崇志(東邦大・理), 小林翔(東邦大・理), 近藤昭彦(千葉大・環境リモセン), 西廣淳(東邦大・理)
- P1-334#** 亜熱帯照葉樹林における録音による鳥類モニタリングの可能性とその手法 *井上遠(東大院・農), 鷺谷いづみ(中大・理工)
- P1-335#** 干拓された湖沼における水生植物再生の可能性の検討 -印旛沼での事例- *館野太一(東邦大・理), *林紀男(千葉県立中央博物館), *山ノ内崇志(東邦大・理), *西廣淳(東邦大・理)
- P1-336#** 琵琶湖固有スジシマドジョウ種群の入れ替わり〜希少種が希少種に脅かされる?〜 *森井清仁, 中野光謙, 高倉耕一(滋賀県大・環境)
- P1-337#** 佐渡で推進される"生きものを育む農法"は水田に生息するトンボ類にやさしいか? *坂本大地(新大・農), 武山智博(岡山理科大院・総合情報), 関島恒夫(新大院・自然科学)
- P1-338#** 絶滅危惧種二ホンイヌワシの遺伝的多様性の解析 *佐藤 悠(京大・野生動物), 前田 琢(岩手県環境保健センター), Rob Ogden (Royal Zoological Society of Scotland), 井上-村山美穂(京大・野生動物)
- P1-339#** 房総半島南部におけるアライグマの捕食圧による在来種への影響評価 *山崎響子, 吉田和哉, 長谷川雅美(東邦大・理)
- P1-340#** 階層モデルを用いた淡水性カメ類の広域的個体数推定 *加賀山翔一(東邦大院・理), 栗山武夫(東邦大・理), 下藤章, 大竹海也(東邦大院・理), 長谷川雅美(東邦大・理)
- P1-341#** フロラの滝はどこにあるのか? -一種分布モデルからの検出- *橋本 寛治, 金子 正美, 星野 弘方(酪農大・院・酪農), 日野間 彰(イー・アイ・エル), 小野 理(道総研・環境研)
- P1-342#** 島嶼部における河川横断構造物の魚類相に与える影響 *脇谷量子郎(中央大・研究開発機構), 板倉光(東大院新領域・大海研), 海部健三(中央大・法)
- P1-343#** 奈良県吉野川水系におけるハコネサンショウウオ幼生の食性 前原千華*(大阪府立大学)
- P1-344#** 林床移植技術は開発により失われる自然生態系の保全に有効か *植竹倫子(北大・環境科学院), 矢原徹一(九州大・理)
- P1-345#** ゲンジボタル *Luciola cruciata* とヘイケボタル *Luciola lateralis* の樹木利用 *豊福晋作(龍谷大・院・理), 武村達也(龍谷大・院・理), 遊磨正秀(龍谷大・理)
- P1-346#** 耕起による半自然草原の保全：植物のガンマ多様性への効果 *小黒和也, 田中健太 筑波大学菅平高原実験センター
- P1-347#** 砂防・治山ダムによる物理環境の改変が魚類・底生動物・藻類群集に及ぼす影響 -人為的改変はトロフィックカスケードを引き起こすのか? - *竹川有哉(徳島大院・先端), 河口洋一(徳島大院・STS), 布川雅典(北大院・農学研究院), 岸大弼(岐阜県河川環境研究所), 谷口義則(名城大・理工)
- P1-348#** 都市公園における湿地再生の可能性〜東京都での検討〜 *白土智子(東邦大・理), 林紀男(千葉県立中央博物館), 山ノ内崇志(東邦大・理), 西廣淳(東邦大・理)
- P1-349#** 京都市街域におけるケヤキ・エノキ・ムクノキ樹林及び孤立木の変遷とその要因 *木村元則(京大・農学研究科), 今西純一, 深町加津枝, 柴田昌三(京大・地球環境学堂)
- P1-350#** 「AUN 長野大学恵みの森」におけるオオムラサキの生活史の解明：バタフライガーデンを活用した生態学教育の実践に向けて *中田功大, 高橋一秋(長野大・環境ツーリズム)
- P1-351#** 河川の付着藻類を用いた環境教育 *南部祐大朗(明治大・農), 岡田久子(明治大・農), 倉本宣(明治大・農)

生態系管理

- P1-352#** 家畜伝染病予防法による消石灰散布が土壤生態系に及ぼす影響評価 *南純一(近大院・農), 中谷剛(近大・農), 高橋和樹(近大・農), 坂上吉一(近大院・農), 森美穂(近大院・農)
- P1-353#** 淡路島における木の実利用の記録 奥井かおり(兵庫県立大・緑環境)
- P1-354#** モウソウチクの拡大が周辺樹林地に与える影響 山本啓介 千葉大・院・園芸
- P1-355#** 鳥取砂丘の植物群落と成立要因 *岩里実季(鳥取大学・院・地域), 永松大(鳥取大学・地域)
- P1-356#** 堆積物からの環境 DNA 検出 *坂田雅之, 山本哲史,

ポスター発表 3月22日(火) 10:00-16:00

(展示棟 Poster Hall # : ポスター賞対象発表)

源利文 (神戸大・発達)

- P1-357# 中国北部砂漠化地域の砂丘において植生回復に影響を及ぼす地形的要因** *飯伏香織, 甲野耀登 (東大・農), 吉川賢 (岡山大・環境生命), 山中典和 (鳥取大・乾地研), 山田晋 (東大・農), 小柳知代 (学芸大・環境教育研究センター), 大黒俊哉 (東大・農)
- P1-358# ミャンマー農山村地域における住民による林産物利用と森林減少・劣化** *三浦麻由子, 上田健太, 堀金司, 奥田敏統, 山田俊弘 (広島大・総合科学), 松崎咲慧, 浅野祐紀子, 天野正博 (早稲田・人間科学), Ei Ei Hlaing (ミャンマー森林研究所)
- P1-359# 里山ビオトープにおける水生動物の非破壊調査法の開発** *石栗祐太 (新潟大・農), 内田浩勝 (建設技術研究所), 吉川夏樹 (新潟大・農), 元永佳孝 (新潟大・農), 本間航介 (新潟大・農)
- P1-360# 関東平野に越冬する猛禽類は水辺の草地をどの程度利用しているか** *和田のどか, 倉本宣 (明治大・農)
- P1-361# トキの目線から「トキと暮らす郷づくり認証制度」の有効性を検証する** *小町亮介 新潟大学関島研究室
- P1-362# 中国北部砂漠化地域の流動砂丘における砂丘固定技術の適用と植物の侵入・定着** *甲野耀登, 飯伏香織 (東京大・農), 吉川賢 (岡山大・環境生命), 山中典和 (鳥取大・乾地研), 山田晋 (東京大・農), 小柳知代 (学芸大・環境教育研究センター), 大黒俊哉 (東京大・農)
- P1-363# 種多様に配慮したシバ・チガヤ型造成草地の植生分布と土壌環境** *白土晃一, 山田晋 (東大院・農), 根本正之 (明治大・農), 大黒俊哉 (東大院・農)
- P1-364# 森林伐採が里山に与える影響の数理的研究 ~環境価値・経済的価値をめぐるゲーム~** *高木俊甫 (北大・環境), 高田壮則 (北大・地環)
- P1-365# アライグマの水辺利用に影響を与える環境要因** *久保田涼平, 倉本宣 (明治大・農)
- P1-366# 積雪地におけるイノシシの胃内容物から見る生息地選択** *嶋本拓真 新潟大学農・, 望月翔太 新潟大学・自然研, 村上拓彦 新潟大学・農
- P1-367# Open-Top-Chambers による温暖化実験がコナラ根系の動態に与える影響** 新銀仁善 (鳥大院・農), 佐野淳之 (鳥大・農・森林生態系管理学研究室)
- P1-368# シカ柵をどこに設置する? : 有蹄類の嗜好性および有蹄類と植物の遭遇可能性に基づく優先設置区域を選定する枠組みの提案** *篠田悠心, 赤坂宗光 (農工大)
- P1-369# 食べ物か棲み家か? - ニホンジカの過増加に対する昆虫類群集の反応の違い -** *飯田泰地 (農工大・農), 曾我昌史 (東京大・工), 小池伸介 (農工大・農)
- P1-370# バイオチャー散布が与える森林土壌への影響—新たな森林管理法を目指して—** *酒井理恵 (神戸大学・農), 友常満利, 北村今日子, 藤嶽暢英 (神戸大学・院・農)
- P1-371# 生態系アセスメントにおける Maxent のパラメータ選択の評価** 西林直哉 (東京都市大学)*, 林悦子 (東京都市大学), 北村亘 (東京都市大学)
- P1-372# ヒグマ (Ursus arctos) の農作物利用における規定要因の解明 ~生息地環境と個体情報に着目して~** *崎山智樹 (北大農), 森本淳子 (北大院・農), 松林順 (地球研), 古川泰人 (北大院・農), 近藤麻実 (道総研), 釣賀一二三 (道総研), 間野勉 (道総研)
- P1-373# 利根川における河川堤防の造成履歴と植生の関係—土壌条件に着目して—** *松崎弘利, 小柳知代 (学芸大), 山田晋 (東大), 加藤裕一 (東京都文京区), 樋口利彦 (学芸大)

P1-374# ミャンマー農山村地域における森林のモザイク性と成立要因 *堀金司, 三浦麻由子, 上田健太, 山田俊弘, 奥田敏統 (広大院・総合科学), 松崎咲慧, 浅野祐紀子, 天野正博 (早稲田・人間科学), Ei Ei hlaing (ミャンマー森林研究所)

P1-375# 衛星から熱帯林樹木群集組成の時空間変化をとらえられるのか? *藤木庄五郎 (京大・農・森林生態), 青柳亮太 (京大・農・森林生態), 田中厚志 (日本森林技術協会), 今井伸夫 (京大院・霊長類), 鮫島弘光 (地球環境戦略研究機関), 北山兼弘 (京大・農・森林生態)

P1-376# 野川を利用する鳥類の環境利用状況 *金森充晃 (明大・農), 倉本宣 (明大・農)

P1-377# ニホンジカの個体数調整による生態系回復を鳥類で探る *上原裕世 (酪農大院・野生動物), 梶 光一 (東京農工大・野生動物), 吉田剛司 (酪農大院・野生動物)

P1-378# 道草プロジェクト~“いつもの道”に生える雑草の楽しみ方を探る~ *齊藤 真苗, 倉本 宣 明治大学農学部

P1-379# 世界自然遺産白神山地における自然的価値と文化的価値の統合 *外崎杏由子 (筑波大・人総), 吉田正人 (筑波大・人総)

外 来 種

P1-380# 北海道十勝地域におけるアライグマのトキソプラズマ感染と生息地景観の関連性 *山口英美 (岩手連大), 高田まゆら (東大院), 藤井啓 ((株) OAT アグリオ), 小林恒平 (千葉科学大), 門平陸代 (岩手連大)

P1-381# 外来水生植物オオバナイトタヌキモの繁殖生態 *野田智祥, 角野康郎 神戸大・院・理・生物

P1-382# 外来水生植物オランダガラシの繁殖生態 *石川和佳, 角野康郎 神戸大・院・理・生物

P1-383# Growth and Invasion Rate of Quinines (Cinchona spp.) in Protected Mountain Forests of Java. *Mutaqien, Z. (Kagoshima Univ), Suzuki, E. (Kagoshima Univ)

P1-384# 知床国立公園における道路に沿った外来および在来の植物群集の分布パターンと競合 *冲邑時代 (横浜国大・環境情報), 小出大 (国環研・地球環境), 森章 (横浜国大・環境情報)

P1-385# 小笠原諸島母島における外来トカゲと在来トカゲの分布 *上田亜衣, 小池文人 横浜国立大学

P1-386# タイワンジミの生息と水路の物理環境との関係、およびイシガイ類への影響 *中野光謙, 高倉耕一, 森井清仁, 浦部美佐子 (滋賀県大・環境)

P1-387# ウシガエル幼生による密度依存的な水域生態系への影響 *澤田彩香 (神戸大・理), 佐藤拓哉 (神戸大・理)

P1-388# 葉緑体 DNA を用いた雑種タンポポの起源地と分布拡大過程の推定 *特努恩, 横山亮介, 三好浩平, 名波哲, 伊東明 (大阪市大・院・理)

P1-389# 小笠原諸島に侵入したツヤオズアリによる陸産貝類の減少 *内田翔太 (東北大・生命科学), 森英章 (自然研小笠原), 児嶋翼 (環境省母島事務所), 葉山佳代 (小笠原環境計画), 坂入祐子 (小笠原環境計画), 千葉聡 (東北大・東北アジア/生命科学)

P1-390# 環境 DNA を用いた広域モニタリングによるチャネルキャットフィッシュの早期検出 *本郷真理 (龍谷大・院・理工), 山中裕樹 (龍谷大・理工), 加納光樹, 苅部甚一 (茨城大・水圏セ)

P1-391# 外来シダ植物、ホウライシダの分布拡大と鉄道

ポスター発表 3月22日(火) 10:00-16:00

(展示棟 Poster Hall # : ポスター賞対象発表)

*丹羽貴寛(横国大・理工)・小池文人(横国大)

P1-392# キタアメリカフジツボの侵入初期の局所個体群動態: 住み着き率と絶滅率の時間変化とその要因 *大平昌史, 岩崎藍子, 金森由妃, 平賀優大, 胡之陽, 立花道草(北大・院・環境), 深谷肇一(統数研), 野田隆史(北大・地球環境)

P1-393# ハクビシンは夏期にどのような果実を利用しているのか: 茨城県都市近郊地域の事例 *岩間正和(東京農工大・農), 山崎晃司(東京農大), 松山美帆(東京農工大・農), 星野義延, 金子弥生(東京農工大農学研究院)

P1-394# 外来生物の侵入要因: 国際的な淡水生物の導入及び定着について *伊藤雅浩(海洋大・海洋科), 箱山洋(海洋大・水研セ)

P1-395# 複数の経路で導入される他殖性ドクムギ属の砂浜への分布拡大プロセス *樋口裕美子, 下野嘉子, 富永達(京大・農)

P1-396# 山岳自動車道路の路傍植生への外来植物の侵入: 交通量および除草管理の影響 *紺野由佳, 山村靖夫(茨城大・理), 中野隆志, 安田泰輔(山梨県富士山研)

P1-397# シデコブシとコブシにおける種子段階の雑種形成と遺伝子浸透 *行年恭兵(名大院・生命農), 石田清(弘前大・農学生命科学), 戸丸信弘(名大院・生命農)

P1-398# 印旛沼流域における特定外来生物ナガエツルノゲイトウの分布拡大: 揚水機場を通じた河川から水田そして再び河川への拡散過程 *鈴木広美, 長谷川雅美(東邦大・理)

P1-399# 淡水性カメ類における甲板表面の年輪を用いた成長過程の推定 *下藤章, 宍倉慎一郎, 大竹海也, 加賀山翔一, 長谷川雅美

P1-400# 在来カタバミと近縁外来種の交雑過程と浸透性交雑の可能性 *深津美佐紀, 堂園いくみ(学芸大・院・環境科学), 堀江佐知子(東北大・院・生命科学), 牧雅之(東北大・植物園)

P1-401# 不妊化操作を用いたアメリカザリガニの個体数抑制に関する研究 *大野秀輔, 柴田昌三, 深町加津枝, 今西純一(京大・農・森林)

P1-402# 音声モニタリングで外来カエルの繁殖時期は推定できるか? *更科美帆, 吉田剛司(酪農学園大学院・野生動物)

P1-403# 北海道のウシガエル *Lithobates catesbeianus* の婚活日和 *貝塚萌華(酪農学園大学院・野生動物), 吉田剛司(酪農学園大学院・野生動物)

P1-404# セアカゴケグモの詳細スケールでの発見情報に基づく生息地分析 *前川侑子, 松井孝典, 町村尚

P1-405# 侵略的外来水草オオバナミズキンバイの分類と生活史特性 稗田真也(滋賀県大 環境科学) 金子有子(東洋大) 中川昌人(岡山農水セ) 野間直彦(滋賀県大 環境科学)

物質循環

P1-406# Aerobic methane production by planktonic microbes under phosphorus-starved condition in lakes *Khatun, S. (Univ. Yamanashi), Kojima, H. (Hokkaido Univ.), Iwata, T. (Univ. Yamanashi)

P1-407# 干潟における基礎生産の制限要因: 仙台湾東谷地での解析 *尾崎隼斗(東北大学・理・生物), 占部城太郎, 柚原剛(東北大学・生命)

P1-408# 陸域生態系モデルのデータ同化に関する研究 *池田成貴(京大・農), 伊勢武史(京大・フィールド研)

P1-409# 生態系を利用した管理による熱帯農地の急速な土

壤改善効果: 土壌炭素・窒素動態に着目して *木村純平(横国大院・環境), Ainin Niswati, Jamal Lumbaraja, Irwan Banuwa (Univ. Lampung), 藤江幸一, 金子信博(横国大院)

P1-410# エゾシカによるリター分解過程への影響 - 樹種選好性および葉と根の違いを考慮して - *笠原暢(横国大・環境情報), 藤井佐織(アムステルダム自由大), 谷川東子(森林総研関西), 森章(横国大・環境情報)

P1-411# ボルネオ熱帯低地林における NP 施肥に対する樹木細根・土壌のホスファターゼ活性の応答 ~ 樹木・微生物のリン獲得源としての多様な土壌有機態リン化学種の役割 ~ *横山大稀(京大・農・森林生態), 今井伸夫(京大・霊長研), 北山兼弘(京大・農・森林生態)

P1-412# ツボカビの寄生が珪藻 *Synedra* から産生する溶存有機物に与える影響 - 三次元励起蛍光スペクトル (EEM) - PARAFAC 法を用いた解析 - *矢部詩織, 中村昂樹, 鏡味麻衣子, 千賀有希子(東邦大・理)

P1-413# 山火事が植物多様性 - リター分解の係数にもたらす影響 *高木勇輔(横国大・理工), 藤井佐織(アムステルダム自由大), 田和佑脩(同志社大・理工), 谷川東子(森林総研・関西), 武田博清(同志社大・理工), 森章(横国大・環境情報)

P1-414# スギ人工林における長伐期化を目指した間伐の森林バイオマスに対する効果 広島大学総合科学部総合科学科 *都賢太郎, 奥田敏統, 山田俊弘

P1-415# 草地群落での藪類優占が土壌呼吸へ及ぼす影響 *久良祐紀子, 山田俊弘, 奥田敏統(広島大学総合科学部総合科学科)

P1-416# 富山県において窒素飽和・非飽和状態下にある落葉広葉樹林間の窒素動態の比較 *牧野奏佳香(京大院農), 徳地直子(京大フィールド研), 福島慶太郎(首都大工), 川上智規(富山県立大工)

P1-417# Root exudates mediate N decomposition by shaping microbial growth *孫麗娟(京大農森林生態), 小南裕志(森林総研関西), 安宅未央子(京大農森林水文), 吉村健一(森林総研関西), 北山兼弘(京大農森林生態)

P1-418# 温暖化はシバ草原における土壌微生物の機能を変化させる - 長期的な野外操作実験による検証 - *鈴木真祐子(早稲田大・院・先進理工), 吉竹晋平(岐阜大・流圏セ), 墨野倉伸彦, 田波健太(早稲田大・院・先進理工), 友常満利(神戸大・院・農), 小泉博(早稲田大・教育)

P1-419# マレーシアパソ保護林における低地熱帯林と湿地熱帯林の選択伐採後の現存量回復 *志摩兼(広島大・総), 奥田敏統(広島大・総), Saw Leng Guan (FRIM), 山田俊弘(広島大・総)

P1-420# 樹液流束密度の日変化と季節変化 - カラマツとアカマツの比較 - *宮嶋恵里花, 墨野倉伸彦(早稲田大・院・先進理工), 小泉博(早稲田大・教育)

P1-421# 中国黄土高原の草原植生において塩生植物タマリスク個体が土壌窒素動態および微生物群集に与える影響 *岩岡史恵(京大院・農), 今田省吾(京大・フィールド研, 環境科学技術研), 谷口武士, 山中典和(鳥取大・乾燥地研), 杜盛(中国科学院・水土保持研), 館野隆之輔(京大・フィールド研)

P1-422# 暖温帯コナラ林におけるバイオチャー散布による炭素動態への影響 *山田理香, 山田靖子(早稲田大・院・先進理工), 友常満利(神戸大・院・農), 坂倉光祐, 小泉博(早稲田大・教育)

P1-423# 暖温帯コナラ林における根圏滲出物の野外測定 新海恒, 墨野倉伸彦(早稲田大・院・先進理工), 友常満利(神戸大・院・農), 小泉博(早稲田大・教育)

ポスター発表 3月22日(火) 10:00-16:00

(展示棟 Poster Hall # : ポスター賞対象発表)

- P1-424# 暖温帯コナラ林の長期管理が炭素循環に及ぼす影響** *山田靖子, 山田理香, 新海恒 (早稲田大・院・先進理工), 友常満利 (神戸大・院・農) 小泉博 (早稲田大・教育)
- P1-425# 林齢の異なる5つのアカマツ林における炭素収支の比較** *鈴木英里 (早稲田大学・教育), 鈴木庸平, 宮嶋恵里花, 墨野倉伸彦, 鈴木真祐子, 新海恒 (早稲田大学・院・先進理工), 小泉博 (早稲田大学・教育)
- P1-426# 地力とは何か? ~地力の生態学的解析~** *安達陽一 (弘前大・農生), 杉山修一 (弘前大・農生)
- P1-427# 冷温帯シバ草原における温暖化操作実験 - 自動閉鎖チャンバー法による炭素動態の連続測定 -** *増田信悟 (早稲田大・教育), 墨野倉伸彦, 鈴木真祐子 (早稲田大・院・先進理工), 小泉博 (早稲田大・教育)
- P1-428# 森林生態系における埋没腐植土の地化学的・微生物学的特性** *Kaneko, M. (Rakuno-gakuen Univ.), Suetsugu, R. (Tokyo Univ.), Isobe, K. (Tokyo Univ.), Hobara, S. (Rakuno-gakuen Univ.)
- P1-429# 新手法を用いた草原生態系における土壌呼吸の非破壊計測 ~温暖化区の炭素収支の詳細な解析~** *墨野倉伸彦, 鈴木真祐子 (早稲田大・院・先進理工), 吉竹晋平 (岐阜大・流圏セ), 小泉博 (早稲田大・教育)
- P1-430# 温度、水分環境がもたらすブナ林の窒素循環への影響** *橋本桂佑 (東北大・院・生命), 新井(田中)孝尚 (福島大・共生), 黒川絃子 (森林総研), 上田実希, 中静透 (東北大・院・生命)
- P1-431# Altitudinal variation in soil respiration from a summer pasture on the Qinghai-Tibetan Plateau** *Wan, M.H. (Tsukuba Univ.), Nishimura, T. (Tsukuba Univ.), Du, M.Y. (NIAES), LI, Y.N. (NWIPB, CAS, China), Tang, Y.H. (NIES), Adachi, M (Tsukuba Univ.), Hirota, M (Tsukuba Univ.)
- P1-432# タイ北部落葉性チークの葉の安定同位体比の降水変動への応答** *落合拓朗, 松尾奈緒子 (三重大院・生資), 吉藤奈津子 (森林総研), 田中延亮 (東大院・農), 鎌倉真依, 山本心平 (京大・農), チャチャイ・タンタシリン (カセ大・林), 田中克典 (JAMSTEC)
- P1-433# 防鹿柵内外にみられる草本植生の窒素利用に関する考察** *立岩沙知子, 高柳敦 (京大院・農), 吉岡崇仁 (京大・フィールド研)
- P1-434# 森林集水域からの窒素流出要因の検討—安定同位体比など渓流水水質を用いて—** *松浦真奈 (京大・農), 木庭啓介 (農工大), 矢野翠 (農工大), 徳地直子 (京大・フィールド研)
- P1-435# 暖温帯アカマツ林とコナラ林における炭素動態の比較 ~根圏滲出物を考慮したバイオメトリック NEP~** *新海恒, 鈴木庸平, 鈴木真祐子 (早稲田大・院・先進理工), 友常満利 (神戸大・院・農), 小泉博 (早稲田大・教育)
- P1-436# 室内実験系においてバイオチャー散布がコナラ幼木と土壌微生物に与える影響** *坂倉光祐 (早稲田大・教育), 友常満利 (神戸大・院・農), 酒井理恵 (神戸大・農), 新海恒, 山田理香 (早稲田大・院・先進理工), 小泉博 (早稲田大・教育)

ポスター発表 3月24日(木) 10:00-16:00

(展示棟 Poster Hall # : ポスター賞対象発表)

群 落

- P2-001** Elevational phylogenetic diversity of tree species on Mt Bokor, a table shaped mountain in southwestern Cambodia. *Zhang, M. (Kyushu Univ.), Tagane, S. (Kyushu Univ.), Toyama, H. (Kyushu Univ.), Yahara, T. (Kyushu Univ.)
- P2-002** Vegetation zonation and conifer dominance along latitudinal and altitudinal gradients in humid regions of the western Pacific *Aiba, S. (Kagoshima Univ.)
- P2-003** 北スマトラ・レウサー山国立公園の植生 *鈴木英治 (鹿大理工), 河原大基 (鹿大理工), Bayu Arief Pratama (RCB-LIPI), Kusma Rahmawati (RCB-LIPI)
- P2-004** 函南原生林における樹種及び樹木サイズの空間分布特性 比嘉基紀 (高知大・理), 吉田圭一郎 (横国大・教育), 武生雅明 (東農大・地域環境), 磯谷達宏 (国土館大・地理)
- P2-005** Dipterocarp flora of Peninsular Malaysia: their floristic region and environmental correlates *Numata, S. (Tokyo Met Univ), Hosaka, T. (Tokyo Met Univ), Hashim, M. (Univ Tech Malaysia), Yamada, T. (Hiroshima Univ), Tani, N. (JIRCAS), Tsumura, Y. (Univ Tsukuba), Lee, S.L. (FRIM), Muhammad, N. (FRIM)
- P2-006** 森林における樹木の光獲得効率と光利用効率の関係: 異なる気候帯で比較する 小野田雄介 (京大・農), 市栄智明 (高知大・農), 田中憲蔵 (森林総研), 中川弥子 (名大・生命農), 阿久津公祐 (北大・地球環境), 相場慎一郎 (鹿大・理工), 日浦勉 (北大・北方生物圏FSC)
- P2-007** 雪食地形が溪畔林のβ多様性を増加させる: 福島県只見ユネスコエコパークにおける多雪型溪畔林の群落構造と地理的要因 *近藤博史 (横浜国大・環境情報), 齊藤真人 (東京都庁), 酒井暁子 (横浜国大・環境情報)
- P2-008** シカの影響を受けた草原群落における植生保護柵の設置年の違いが群落の回復プロセスに与える影響 *大津千晶, 長池卓男 (山梨県森林研)
- P2-009** 樹木群集における形質-優占度関係の気温勾配・遷移段階に沿った変化 *饗庭正寛 (東北大・生命科学), 黒川絃子 (森林総研), 小野田雄介 (京大・農), 正木隆 (森林総研), 中静透 (東北大・生命科学)
- P2-010** 八ヶ岳東麓の湿地林における立地環境の違いによる8年間の樹木更新動態パターン *清野達之, 宮田恵美, 高久朋子, 菊地亜矢子, 川田清和, 上條隆志 (筑波大・生命環境)
- P2-011** 小笠原諸島鳥島石門における湿性高木林の林分構造と植物の種多様性 *安部哲人 (森林総研九州), 田中知行 (森林総研), 清水善和 (駒澤大学)
- P2-012** キク科蛇紋岩植物のトランスクリプトーム解析 *石川直子 (東大院・総合文化), 西尾紗恵 (日本女子大・理), 横山政昭 (HORIBA), 阪口翔太 (京大・院・人環), 永野惇 (龍谷大・農, JST さきがけ, 京大・生態研), 手塚あゆみ (龍谷大・農), 工藤洋 (京大・生態研), 伊藤元己 (東大院・総合文化)
- P2-013** 島根県三瓶山東の原における草原の管理放棄に伴う種組成の変化 *横川昌史 (大阪自然史博), 井上雅仁 (鳥根県立三瓶自然館), 増井太樹 (岐阜大学・流域圏センター), 太田陽子 (NPO 法人 緑と水の連絡会議), 白川勝信 (高原の自然館), 堤道生, 高橋佳孝 (近中四農研センター)
- P2-014** 山陰海岸東部における砂浜・砂丘植生の成帯構造と希少海浜植物の出現位置 *黒田有寿茂 (兵庫県大・自然研), 鐵 慎太郎 (兵庫県大・環境人間)
- P2-015** トドマツの種子・実生の動態と斜面地形上の位置 *崧元道徳, 柳本順, 古田卓, 岡部芳彦, 勝山智憲, 林大輔,

山内隆之 (京大フィールド研)

- P2-016** 春日山照葉樹林における群落構造と開空度の関係 *前迫ゆり (大阪産大・院・人間環境), 稲田友弥 (京大・院・農), 渡部俊太郎 (滋賀県大・院・環境科学)
- P2-017** 稚樹萌芽力の種間差が熱帯雨林の群集動態に及ぼす影響 *伊東明, 堀田弘時, 名波哲 (大阪市大・院理), S Davies, S Tan (CTFS), M Mohizah (Forest Department Sarawak)
- P2-018** 南アルプスのシカ食害エリアにおけるマルバダケブキの管理と植生回復効果 *渡邊修, 竹田謙一, 三尾建斗, 渋谷美月 (信大農)
- P2-019** 北アルプス後立山連峰における高山植生の分布 *石田祐子 (長野県環境保全研), 松江大輔 (箱根湿生花園), 谷津倉勇太, 武生雅明, 中村幸人 (東京農大地域環境)
- P2-020** 上高地における氾濫原内のギャップ形成と植生変化 *若松伸彦 (横浜国立大学・環境情報), 鈴木重雄 (立正大学・地理)
- P2-021** 阿寒湖イベシベツ川湿地帯における植生と湿地の状況 *長倉 有理 (酪農学園大), 尾山 洋一 (阿寒湖畔エコミュージアムセンター), 鈴木 透 (酪農学園大)
- P2-022** 格子モデルによるナラ枯れシミュレーション *前川優衣, 中桐斉之
- P2-023** 生体インピーダンス方を用いたクローナル植物の地下接続の測定 *本間航介 (新潟大・農・フィールド科学), 元永佳孝 (新潟大・農)
- P2-024** 栃木県日光・足尾地域におけるイヌブナ林の種組成と分布 矢ヶ崎朋樹 (IGES-JISE), 星直斗 (栃木県博)
- P2-025** アフリカ・コンゴ盆地の熱帯林の植生: 大型類人猿の餌資源分布の定量化に向けて *寺田佐恵子 (環境省/京大・理), 湯本貴和 (京大・霊長研)
- P2-026** マレー半島丘陵フタバガキ林での長期森林動態と一斉開花 *新山馨 (森林総合研究所), 佐藤保 (森林総合研究所), 八木橋勉 (森林総合研究所東北支所), 田中憲蔵 (森林総合研究所), 飯田滋生 (森林総合研究所九州支所), 木村勝彦 (福島大学), Azizi Ripin (グリーン・フォレスト・リソーセス), Abd. Rahman Kassim (マレーシア森林研究所)
- P2-027** 外来水生植物であるチクゴスズメノヒエの増加に対する河川水辺植物の応答 *斎藤達也, 赤坂宗光 (農工大)
- P2-028** 岩手県沿岸の植生-大津波の影響による変化 (6) *竹原明秀, 中軽米聖花, 桜庭彩加 (岩手大・人社), 大上幹彦
- P2-029** 島嶼における北限、奥尻島ブナ林の種組成と葉緑体ハプロタイプとの関係について *並川寛司 (北教大・札幌・生物), 北村系子 (森林総研・北海道), 松井哲哉 (森林総研), 高橋 誠 (森林総研・林育セ)
- P2-030** 青海チベット高原における長期研究: 標高に着目した禁牧9年後の植生構造の変化 *西村貴皓 (筑波大・生命環境), 万銘海 (筑波大・生命環境), 廣田充 (筑波大・生命環境系), 下野綾子 (東邦大・理), 白石拓也 (アイシーネット (株)), 李英年 (中科院・西北高原生物研究所), 杜明遠 (農環研・大気環境), 唐艶鴻 (国環研・生物生態系環境セ)
- P2-031** 中部地域における複数の森林タイプに対する林床シダ植物の種組成の関係 *大杉周 (信州大・総工), 本間航介 (新潟大・フィールド科学セ), 佐藤利幸 (信州大・理)
- P2-032** What tree properties influence the distribution of lianas in a temperate broadleaf forest (Hokkaido)? *Orman, O. (Hokkaido Uni), Osada, N. (Hokkaido Uni), Hiura, T. (Hokkaido Uni)

ポスター発表 3月24日(木) 10:00-16:00

(展示棟 Poster Hall # : ポスター賞対象発表)

P2-033 植生調査データを用いた希少植物の生育環境類型化 阿部聖哉 (電中研・生物環境)

P2-034 ランダムフォレストによる森林復元：東南アジアの潜在植生の推定 * 小黒 芳生・饗庭 正寛・中静 透 (東北大・院・生命)

P2-035 見つけやすい種ほど食べられやすいのか？：樹木個体群密度と被食率の関係 * 高柳咲乃 (東北大・生命), 小黒芳生 (東北大・生命), 黒川紘子 (森林総研), 柴田嶺 (林野庁), 饗庭正寛 (東北大・生命), 中静透 (東北大・生命)

P2-036 植生帯境界域におけるアカガシとブナの肥大成長の気候応答とその標高変化 * 吉田圭一郎 (横浜国大・教育)

P2-037 滋賀県竹生島におけるタブノキ林の回復過程 - カワウ営業の効果に着目して - * 渡部俊太郎 (滋賀県大・環境科学), 稗田真也 (滋賀県大院・環境科学), 寫田知帆 (京都府立大院・生命環境), 松井淳 (奈良教育大), 高田研一 (森林再生支援センター), 野間直彦 (滋賀県大・環境科学)

P2-038 完新世後期における東北地方北部のスギ拡大時期 池田重人 (森林総合研究所)

植物個体群

P2-039 サイチョウ類が散布する樹木センダン科 *Aglaia spectabilis* の 15 年間の個体群動態 * 北村俊平 (石川県立大), Pilai POONSWAD (マヒドン大)

P2-040 伊豆から小笠原諸島におけるヒサカキの遺伝的構造 * 阿部晴恵 (新潟大・農), 須貝杏子 (森林総研), 松本悠 (東北大・農), 陶山佳久 (東北大・農)

P2-041 シデコブシの隔離集団における人為的要因が原因で生じた遺伝的分化とそれらの遺伝的多様性維持のための保全戦略 * 玉木一郎 (岐阜県森文ア), 鈴木節子 (森林総研), 戸丸信弘 (名大院・生命)

P2-042 石鎚山のシコクシラベ集団から採種した次世代の遺伝的多様性 * 岩泉正和, 笹島芳信, 河合慶恵 (森林総研林育セ関西), 磯田圭哉 (森林総研林育セ), 那須仁弥 (森林総研林育セ), 大谷雅人 (兵庫県立大・自然研)

P2-043 疑似一年生クローン植物のラメット生産におけるジェネット間差異：自然集団と移植実験による解析 * 辻本典顯 (京大・生態研), 荒木希和子 (立命館大・生命科学), 工藤洋 (京大・生態研)

P2-044 Genetic structure and differentiation of sea-drifted seed dispersal plant *Calophyllum inophyllum* in island populations of South Pacific area * So Hanaoka (FTBC), Cenon Padolina, Elina Young (SPC)

P2-045 湿地生低木ヘビノボラズにおける生育段階間推移確率にもとづく個体群動態の特徴 山口久美子, 鈴木一恵, 安藤裕子, * 肥後陸輝 (岐阜大・地域)

P2-046 温帯性木本ツルの初期登攀特性：宿主選択はあるのか？ 西尾孝佳, 早川咲樹, 森孝弘 (宇都宮大・雑草と里山セ)

P2-047 アキノキリンソウ土壌エコタイプにおける環境適応と生殖隔離 * 阪口翔太 (京大院・人環), 堀江健二 (旭川市北邦野草園), 石川直子 (東大院・総合文化), 永野惇 (龍谷大・農), JST さきがけ, 京大・生態研, 本庄三恵 (京大・生態研), 工藤洋 (京大・生態研), 伊藤元己 (東大院・総合文化)

P2-048 ヒマラヤ産シャクナゲ (*Rhododendron arboreum*) の標高傾度による遺伝的多様性の変化と遺伝的集団構造の解析 * 新井孝尚 (福島大・共生), 能城修一 (森総研), 池田博 (東大・博物館)

P2-049 ゲノム情報を利用した野生植物の適応力多様性評

価 * 久保田涉誠 (日大・生物資源, 東大・院・総合文化), 岩崎貴也 (京大・生態研), 三浦憲人 (ホシザキグリーン財団), 永野惇 (京大・生態研), 花田耕介 (九州工大, 理研 CSRS), 松葉史紗子, 宮下直 (東大・院・農), 彦坂幸毅 (東北大・院・生命), 伊藤元己 (東大・院・総合文化), 森長真一 (日大・生物資源)

P2-050 クローナル植物モウソウチクを用いた低線量放射線の遺伝的影響評価 * 兼子伸吾 (福島大・理工), 松本悠 (東北大・農), 猪瀬礼璃菜 (福島大・理工), 陶山佳久 (東北大・農), 井鷲裕司 (京都大・農)

P2-051 東日本大震災の津波が東北地方沿岸域のオオクグ個体群の遺伝的構造に及ぼした影響 * 大林夏湖 (東大・広域システム)・程木義邦 (京大・生態研)・今藤夏子 (国環研)・國井秀伸 (島根大・汽水研)・嶋田正和 (東大・広域システム)

P2-052 3年間の調査データを用いたキンラン (*Cephalanthera falcata*) の空間明示的な個体群動態予測モデル * 富田基史, 阿部聖哉 (電中研)

P2-053 ブナ実生の生残および生長と周辺成木との血縁度の関係 * 赤路康朗 (岡大院・環境生命), 宮崎祐子 (岡大院・環境生命), 廣部 宗 (岡大院・環境生命), 坂本圭児 (岡大院・環境生命)

P2-054 環境 DNA 技術を沈水植物に適用する：調査手法の検討と有用性の評価 * 松橋彩衣子 (兵庫県大・院・シミュレーション), 源利文 (神戸大・院・人間発達環境), 藤原綾香 (神戸大・院・人間発達環境), 渡邊園子 (広島大・院・国際協力), 山中裕樹 (龍谷大・理工), 土居秀幸 (兵庫県大・院・シミュレーション)

P2-055 Integral projection model を用いたマムシグサの生活史の解析 * 壺内巧馬, 木下栄一郎 (金沢大・植物園)

P2-056 関東山地におけるスズダケの一斉開花 森広信子, 多摩森林科学園

P2-057 種子散布形質と遺伝子流動パターンに変異をもたらすクサトベラの果実二型 * 栄村奈緒子 (京大生態研), 上田恵介 (立教大理), 傳田哲郎 (琉大理), 永野惇 (龍谷大農, JST さきがけ, 京大生態研), 本庄三恵, 工藤洋 (京大生態研), 井鷲裕司 (京大院農)

植物生理生態

P2-058 野外における分光測定の実験的意義 * 久米篤 (九州大・農), 秋津朋子・奈佐原顕郎 (筑波大・生命環境)

P2-059# 内生菌によるススキ (*Miscanthus sinensis*) の AI 耐性増強メカニズムの解明 * 春間俊克, 山路恵子 (筑波大学大学院・生命環境), 升屋勇人 (森林総研・東北支所)

P2-060 斜面雪圧の評価と落葉樹(ブナ)・常緑樹(スギ)への影響の比較 * 宮下彩奈 (東大・院理・日光植物園), 勝島隆史 (森林総研・気象環境研究領域), 館野正樹 (東大・院理・日光植物園)

P2-061 Measurement of a gradient of photosynthetic activity inside a leaf Riichi Oguchi (Tohoku University, Life Sciences)

P2-062 台風攪乱後の北方林生態系で見られた光合成機能応答 * 戸田求, 王新 (広島大・院), 中村誠宏, 福澤加里部, 吉田俊也 (北大・FSC)

P2-063 気孔を介するガス交換のメリットとデメリット * 澤上航一郎, 館野正樹 (東大・院・理・日光植物園)

P2-064 ヤマザクラの急性乾燥ストレス評価における遅延蛍光の有効性 * 今西純一 (京大・地環), 小林祐子 (浜松ホトニクス (株)), 勝又政和 (浜松ホトニクス (株))

ポスター発表 3月24日(木) 10:00-16:00

(展示棟 Poster Hall # : ポスター賞対象発表)

- P2-065** Tree demography and nutrient-use traits in tropical rain forests in Borneo in relation to podzolic and non-podzolic soils *Miyamoto, K (Shikoku Res. Ctr. FFPRI), Aiba, S.-I. (Kagoshima Univ.), Wagai, R. (NIAES), Nilus, R. (FRC, Sabah Forestry Dept.)
- P2-066** シンク-ソース比変化にตอบสนองした光合成ダウンレギュレーションの多様性 *杉浦 大輔 (東大院・理), John Evans (The Australian National University), 寺島 一郎 (東大院・理)
- P2-067** オナモミとイネ *廣瀬忠樹 (東北大生命)
- P2-068** チークの滞水ストレスによる成長抑制 *香山雅純, 米田令仁 (国際農研), Sutjaporn Hongthong, Suchart Nimpila, Woraphun Himmapan, Wilawan Wichienpparat, Tosporn Vacharangkura (Royal Forest Department), 野田 巖 (国際農研)
- P2-069** カラマツ、ミズナラを用いたグラニエ法のキャリブレーション *篠原慶規 (九大・農), 小田智基 (東大・農), 久米朋宣 (台湾大・森林), 飯田真一 (森林総研), 邱滇璋, 片山歩美, 大槻恭一 (九大・農)
- P2-070** 突起は何のため? ウツボカズラ襟部に共通するミクロ流路の謎 *町田悟, 太田理一郎, 市毛敬介, 植田忠伸, 田中秀典, 山田登, 細川洋一, 中野充 (豊田中央研究所)
- P2-071** 水生植物の気孔形成と塩ストレス応答 *飯田聡子・坂山英俊・角野康郎・小菅桂子 (神戸大・院・理)
- P2-072** 北方針葉樹種ポット苗における灌水停止後の生理生態特性の反応 原山尚徳 (森林総研北海道)
- P2-073** Annual variation in vertical branch structure influencing crown-top expansion in *Abies sachalinensis* Seki, T. (FFPRI, Hokkaido)
- P2-074** 植物の落葉タイミングは最適か: 野外での検証 黒川千晴, *及川真平 (茨城大・院・理工)
- P2-075** 日本福祉大学美浜キャンパス周辺のトウカイコモウセンゴケが生育する湿地の水質 *吉田耕治 (金城学院大・薬), 水野暁子 (日本福祉大・子ども発達), 榎本綾 (日本福祉大・企画政策), 川部竜士 (日本福祉大・施設), 岡尚男 (金城学院大・薬)
- P2-076** 葉の配置と向きが稚樹のガス交換に及ぼす影響の評価 Miyazawa, Y.* (Univ. Hawaii Manoa), Umeki, K. (Chiba Univ.)
- P2-077** 熱帯林床の光勾配が熱帯植物のサンフレック利用特性におよぼす影響 *富松元, 唐艶鴻
- P2-078** バイケイソウ偽茎はパイプモデル通りに出来ているか? 顧令爽, *紺野康夫, 佐藤禎稔 (帯広畜産大学)
- P2-079** マイクロPIXE法による熱帯林樹木のリン欠乏に対する葉組織内リン分布最適化の検証 *辻井悠希 (京大・農・森林生態), 及川将一 (放医研), 北山兼弘 (京大・農・森林生態)
- P2-080** 半島マレーシア熱帯雨林の林冠木で不均一な気孔閉鎖が起こる頻度と要因の検討 *鎌倉真依, 小杉緑子 (京大・農), 高梨聡 (森林総研), 奥村智憲, 谷誠 (京大・農), 上村章 (森林総研), Marryanna Lion (FRIM)
- P2-081** UV-induced DNA damage and UV tolerance mechanisms in species with different functional groups coexisting in moorlands plant communities *Wang, Q.-W. (Tohoku Univ.), Kamiyama, C. (Nations United Univ.), Hidema, J., Hikosaka, K. (Tohoku Univ.)
- P2-082** コケ植物・シダ植物・および被子植物の光合成におけるCO₂拡散コンダクタンス制御機構 半場祐子, 西田圭祐, 竹村香里 (京都工繊大・応用生物), 蒲池浩之 (富大・院・理), 久米篤 (九大・院・農), 藤田知道 (北大・院・理), 唐原一郎 (富大・院・理)
- P2-083** 光合成生産効率と力学的安定性から見た広葉樹シユートの3次元構造 *南野亮子, 村岡裕由 (岐阜大・流域圏七), 館野正樹 (東大・院・理・日光植物園)
- P2-084** ハワイフトモモにおける葉トライコームの適応的意義—熱収支に注目して— *甘田岳, 小野田雄介, 北山兼弘 (京大・農・森林生態)
- P2-085** Whole-tree pressure-volume 法によるスギの樹体内貯留水の測定 姫野早和, 玉泉幸一郎 (九大・農), *東若菜 (神戸大・農)
- P2-086** アブラナ科植物10種における防御形質の発現状態 *都築なつみ, 岡村悠, 村上正志 (千葉大・理)
- P2-087** A lognormal distribution of the size of terminal twigs on self-similar branches of elm trees *Koyama, K. (Obihiro Univ.), Yamamoto, K. (Chuo Univ.)
- P2-088** Does plants growing in semi-arid grasslands have high resistance to air pollution damage? *Shimizu, H. (NIES), An, P. (ALRC, Tottori Univ.), Zheng, Y.R. (Inst. Bot., CAS), Xu, Z.Z. (Inst. Bot., CAS), Chen, L.J. (Inst. Appl. Ecol., CAS), Gao, Y. (Inner Mongolia Agri. Univ.), Zou, C.J. (East China Normal Univ.), Qiu, G.Y. (Peking Univ.), Yu, Y.J. (SCIES, MEP)
- P2-089** 樹木600種を対象とした死環反応特性の評価: 系統的保守性はどの程度存在するか? *大谷雅人 (兵庫県大・自然研/兵庫県博), 佐伯いく代 (筑波大・人間総合科学), 指村奈穂子 (琉球大・理), 澤田佳宏 (兵庫県大・緑環境/淡路景観), 古本良 (森林総研・林育七), 横川昌史 (大阪自然史博)
- P2-090** 新潟県上越地域におけるオオウバユリの個体サイズ変異と水分生理特性 大滝知子, *谷友和 (上越教育大・理科)
- P2-091** 湿生植物における根内の酸素濃度とその温度応答 *中村隆俊, 中村元香, 新田矩譜流 (東農大・生物産業)
- P2-092** 健全木とナラ枯れ進行木における落葉後のコナラ生理活性の変化—一生から死に向かっての生理的レジームシフト *吉村謙一 (森林総研関西), 山本遼平 (京大地球環境), 安宅未央子 (京大農), 小南裕志 (森林総研関西), 衣浦晴生 (森林総研関西)
- P2-093** Photosynthetic capacity of Japanese ferns in gametophyte stage. K. Nishida, K. Takemura, Y. T. Hanba
- P2-094** 中国半乾燥地の常緑針葉樹 (*Juniperus sabina*) の葉からの吸水メカニズム *松尾奈緒子 (三重大院・生物資源), 磯部知世 (三重大・生物資源), 佐藤佳奈子, 三木直子 (岡大院・環境生命)
- P2-095** 季節に応じたクマイザサの葉の光合成活性や色素量の変化 *小野清美 (北大・低温研)
- P2-096** 網羅的に見る陸上生態系の呼吸スケールリング—菌類、草本、木本の共通点と相違点— *森茂太, 王莫非, 芳士戸啓, 相澤拓, 芳賀由晃 (山形大農学部)
- P2-097** ヒノキ樹冠部における鱗状葉の通水性維持-transfusion tissueの役割 新良貴歩美, 東若菜, 木原健雄, *石井弘明, 黒田慶子 (神戸大農)
- P2-098** タイ北部の落葉性チークの年輪同位体比に降水変動が及ぼす影響 早峯浩 (三重大・生物資源), 松尾奈緒子 (三重大院・生物資源), *高梨聡 (森林総研), 吉藤奈津子 (森林総研), 藤原健 (森林総研), 五十嵐康記 (名大・宇宙地球), 田中延亮 (東大・生水研), Chatchai Tantasirin (カセツアート大)

ポスター発表 3月24日(木) 10:00-16:00

(展示棟 Poster Hall # : ポスター賞対象発表)

P2-099 相互移植実験によるブナの展葉フェノロジーと気温の関係の緯度変異 *長田典之(北大FSC), 澤田晴雄(東大), 布川耕市(新潟地域振興局), 塚原雅美(新潟県森林研究所), 日浦勉(北大FSC)

P2-100 マイクロフォーカスX線CT装置による木部内水分の非破壊観察方法の検討 *矢崎健一(森林総研), 竹之内曉子, 渡邊誠(物質材料研), 渡辺憲, 小笠真由美, 飛田博順, 北尾光俊(森林総研), 福田健二(東大院・新領域)

P2-101 低温環境下におけるアカエゾマツの光合成能力に温度変化が及ぼす影響 藤野 匠, *小山里奈(京大院・情報)

P2-102 種子から実生の呼吸スケーリング *芳賀由晃 森茂太(山形大農学部)

P2-103 緑藻類(*Aegagropila linnaei*)球状コロニー中の光環境と光合成特性の解析 中島康成1), 若菜勇2), 小川麻理3), *鈴木祥弘1) (1) 神奈川大学 (2) 釧路市教育委員会 (3) 安田女子大学

P2-104 野外における遺伝子発現量の予測 岩山 幸治* (龍谷大), 本庄 三恵(京大), 岩崎 貴也(JSPS), 永野 惇(龍谷大/京大/JST さきがけ)

P2-105 高緯度北極ツンドラ生態系・スピッツベルゲンに優占する維管束植物の葉形質と光合成特性 関川清広*(玉川大・農), 村岡裕由(岐阜大・流域圏センター), 内田雅己(極地研・総研大)

植 物 繁 殖

P2-106 ミズナラ、コナラの豊凶の空間的同調性 水谷瑞希(信州大・志賀施設)

P2-107 エゾマツ種子の発芽タイミングの温度による変動 *生方正俊, 田村明, 山田浩雄(森林総研・林育セ)

P2-108 Flowering gene expression in masting *Fagus crenata* trees and related dynamics of nutrients in plants and soil *Qingmin Han (FFPRI), Daisuke Kabeya (FFPRI), Akiko Satake (Kyushu Univ)

P2-109 雌雄異株性低木種ヒメアオキのバッチの開花比・性比に影響を及ぼす要因 *鳥丸猛(三重大院・生資), 松下通也(森林総研・林木育種セ), 鈴木聖, 松山信彦(弘前大・農生)

P2-110 ブナ林冠下で低木として生きる高木種ヒバ *八木橋勉/森林総研東北支所, 櫃間岳/森林総研, 齋藤智之/森林総研東北支所, 高田克彦/秋田県大・木高研, 長谷川陽一/秋田県大・木高研

P2-111 ヒバ稚樹の枝は樹形改変と伏条繁殖を通じて耐陰性と長寿をもたらす *櫃間岳/森林総研, 森澤猛/森林総研, 八木橋勉/森林総研東北支所

P2-112 エゾヤマザクラにおける繁殖量が当年枝個体群の動態に与える影響 *長谷川成明(北大・低温研)

P2-113 低標高の小面積ブナ林の15年間の結実特性 小谷二郎(石川農林研)

P2-114 雌雄異株樹種ナギの雌雄判別DNAマーカーの開発 *名波哲, 神九千明(大阪市立大学・理), 永野惇(龍谷大学・農, JST さきがけ, 京大学生態学研究センター), 手塚あゆみ(龍谷大学・農), 伊東明(大阪市立大学・理)

P2-115 Growth phenology of *Fagus crenata* in a heavy masting year. *KABEYA Daisuke (FFPRI), INAGAKI Yoshiyuki (FFPRI), NOGUCHI Kyotaro (FFPRI Shikoku), HAN Qingmin (FFPRI Hokkaido)

P2-116 多胚種子植物ナガバジャノヒゲの繁殖戦略: 種子

あたり胚数や実生数が多いことは有利になるのか? *岡千尋, 板垣智之, 酒井聡樹(東北大・院・生命)

P2-117 ネムノキが持つ頂生花と側生花の形態と繁殖機能の分化 *加藤沙織(福島大・院・共生システム理工), 水澤玲子(福島大・人間発達文化), 黒沢高秀(福島大・共生システム理工)

P2-118 発熱植物における「花の匂い生産」についてのトランスクリプトーム解析 *恩田義彦(理研), 持田恵一(理研), 吉田拓広(理研), 櫻井哲也(理研), Roger Seymour (アデレード大), 梅川結(岩手大), Stergios Pirintzos (クレタ大), 篠崎一雄(理研), 伊藤菊一(岩手大)

P2-119 ヒサカキにおける花形質の雌雄差 辻かおる, 大串隆之 京大生態研センター

P2-120 ありふれた雑草ホトケノザの送粉者はありふれていない *高倉耕一, 遠藤耕平(滋賀県大・環境)

P2-121 オオバギ属植物(トウダイグサ科)の開花フェノロジー *山崎絵理, 清水健太郎(チューリッヒ大)

植 物 生 活 史

P2-122 サワシロギク土壌生態型における発芽と成長の蛇紋岩適応 *西野貴子, 松田明莉, 川上敬弘(大阪府大・理・生物), 阪口翔太, 石川直子, 伊藤元己(東大・院・総合文化)

P2-123 多雪地域における蕨類エゾスナゴケの生活史と生育環境の関連性 H. Shirasaki *Biological Lab. Niigata University of Pharmacy and Applied Life Sciences

P2-124 モンゴル国フスタイ国立公園におけるシラカンバ(*Betula platyphylla*)の立枯れの環境要因について 笹村尚司, 梅垣和幹, *星野仏方(酪農学園大), 北山あさみ, 杉本敦子(北大院環境)

P2-125 Seed germination rate and seedling growth of native and invasive *Solidago* species Rakotonnoely Harisoa, Tsuyuzaki Shiro / Hokkaido University

P2-126 Ontogenetic change of leaf trait associations in a lowland tropical rainforest *Iida, Y., Sasaki, R., Kodama, M. (Kyoto Univ.), Chen, Y. (National DongHwa Univ.), Fletcher, C., Kassim, A. (FRIM), Wright, J. (STRI), Kitajima, K. (Kyoto Univ.)

P2-127 沈水植物ヤクシマカワゴロモの分布維持機構: 種子散布者は存在するか? *黒江美紗子(長野県環境保全研究所), 廣田峻(九大・決断センター), 布施健吾(九大・決断センター), 古市生(水研センター・西海区水研)

菌 類 ・ 微 生 物

P2-128 ボルネオ島北部における多孔菌類の空間分布推定 *山下 聡(徳島大), Salleh, H (Forest Department Sarawak), 熊谷朝臣(名古屋大)

P2-129 亜熱帯林における落葉の漂白と菌類 *大園享司(京大生態研), 保原達(酪農学園大), 平舘俊太郎(農業環境技術研究所), 広瀬大(日大薬)

P2-130 植物病原菌 *Rhizyctis polare* がキョウチヤナギの光合成生産に与える影響 *増本翔太(極地研), 内田雅己(極地研), 東條元昭(大阪府大・生環), 伊村智(極地研)

P2-131 ヤクタネゴヨウ林分における外生菌根菌の埋土孢子群集 *村田政穂(東大院・新領域), 金谷整一(森林総研), 奈良一秀(東大院・新領域)

P2-132 ナメクジによるきのこの摂食部位の菌種による違い 澤島拓夫*, 富田晴名(近大農)

ポスター発表 3月24日(木) 10:00-16:00

(展示棟 Poster Hall # : ポスター賞対象発表)

P2-133 本邦シイ林における外生菌根菌群集構造の地理的パターン * 松岡俊将 (京大・生態研セ), 川口恵里 (京大・医), 大園享司 (京大・生態研セ)

P2-134 菌従属栄養植物サクライソウの分布は共生菌の優占度の影響を受ける * 大和政秀 (千葉大・教育), 高橋弘 (岐阜大・教育), 下野綾子 (東邦大・理), 日下部亮太 (千葉大・教育), 遊川知久 (国立科博)

P2-135 ブナ林において外生菌根菌群集は季節性を見せるのか * 杉山 賢子 (京大 理学部), 松岡 俊将 (京大 生態研センター), 大園 享司 (京大 生態研センター)

P2-136 RNA-Seq を用いたアブラナ科植物におけるウイルス・宿主相互作用の解析 * 神谷麻梨 (京大生態研), 永野惇 (龍谷大農, JST さきがけ, 京大生態研), 本庄三恵, 工藤洋 (京大生態研)

P2-137 水草堆肥を施した土壤中細菌菌根群集構造の変化と植物の生長 小林由紀*, 杉山賢子, 松岡俊将, 佐藤博俊, 岡崎友輔, 大園享司, 奥田昇

P2-138 ゲノム情報と生理生化学的性状から捉える新規硫黄酸化細菌の生態像 * 三浦彩, 渡邊友浩, 小島久弥, 福井学 (北大・低温研)

P2-139 Kernel Density Estimation 法による細菌群集サイズ分布の推定 * 吉山浩平 (滋賀県大・環境), 武藤啓悟 (岐阜大・応用生物)

P2-140 バイオログプレートによる砂浜汀線域のバクテリア活性の季節変化 高田宜武* (水研七日水研), 内田基晴, 手塚尚明, 辻野陸 (水研セ瀬戸水研), 石樋由香, 丹羽健太郎, 波部諭史, 寺本航 (水研セ増養殖研)

P2-141 雪氷圏におけるクラミドモナス科藻類の生物系統地理学 * 田中優穂, 村上正志, 竹内望 (千葉大・理)

P2-142 環境条件の変化による納豆菌コロニーの増殖拡大～実験とシミュレーション分析～ * 遠藤敏生 (兵庫県大), 波多拓哉 (兵庫県大), 榎原周平 (兵庫県大), 中桐齊之 (兵庫県大)

P2-143 湖沼の好気環境に出現するメタン極大の形成プロセス * 岩田智也 (山梨大・生命環境), 小林あい (山梨大・工), 内藤あずさ (山梨大・工), 小島久弥 (北大・低温研)

P2-144 枯草菌コロニーのパターン形成と破壊地 * 波多拓哉 (兵庫県大・環境), 遠藤敏生 (兵庫県大・環境), 榎原周平 (兵庫県大・環境), 中桐齊之 (兵庫県大・環境)

P2-145 環境条件が納豆菌 (*Bacillus subtilis* var. natto) コロニーのパターン形成に与える影響 萩野周平, 遠藤敏生, 波多拓哉 (兵庫県立大・環境人間), 向坂幸雄 (中村学園短大・幼児保育), * 中桐齊之 (兵庫県立大・環境人間)

景 観

P2-146 聞き取り調査による琉球列島の里山の復元一島々におけるシュロの消失— 盛口満, 沖縄大学人文学部

P2-147 高解像度航空写真画像を用いた野外調査：サンゴ礁におけるハマクマノミとタマイダキイソギンチャクの生息地の検出 服部昭尚 (滋賀大・教育・情報技術)

P2-148 摩周湖における樹木減少について 北海道立総合研究機構 環境科学研究センター * 山口高志, 野口泉

P2-149 土地利用履歴・土壌型・生物多様性が干ばつ時のEVIに与える影響 柳川亜季, 吉川沙耶花, 井芹慶彦 (東工大・理工学), Cho Jaehi (全南大学・農学), Kim Hyungjun (東大・生産研), 鼎信次郎 (東工大・理工学)

P2-150 南の猛禽サシバの分布北限での生息地評価モデル

と北の猛禽ノスリとの関係 * 藤田 剛, 東 淳樹, 宮下 直

P2-151 明治時代初期の関東地方土地利用データベースの公開 * 岩崎巨典 (農環研), デイビッド・スプレイグ (農環研), 藤田直子 (九大・芸工), 寺元郁博 (農研機構・近中四), 山口欧志 (立命館・衣笠)

P2-152 分断化された二次草地に生息する昆虫個体群の空間遺伝構造 * 宮下 直 (東大・農), 今藤夏子 (国立環境研), 谷川明男, 清川紘樹, 中島一豪 (東大・農), 陶山佳久, 松木 悠 (東北大・農), 坂入一瑛, 長谷川雅美 (東邦大・理)

P2-153 中部地方の市街地に生育するシダ類の温暖化による種組成変化予測 * 村上健太郎 (名古屋産業大・環), 森本幸裕 (京都学園大・バイオ環)

P2-154 北海道東部におけるカンバ属の分布と海霧 * 鎌内宏光 (金沢大・臨海), 赤坂宗光 (東京農工大・農), 寄元道徳 (京都大・フィールド研)

P2-155 遊水地計画のある北海道安平川湿原における鳥類の生息状況 * 玉田克巳, 島村崇志, 石川靖, 西川洋子 (道総研)

P2-156 デジタルカメラ画像を用いた植物プランクトンブルームの客観的識別手法の検討 * 中野 善 (水産総合研究セ), 永井 信 (JAMSTEC), 岡村和磨, 樽谷賢治 (水産総合研究セ)

P2-157 分断化景観における樹木群集の組成に履歴が与える影響 * 富田瑞樹 (東京情報大), 菅野洋 (東北緑化環境保全), 平吹喜彦 (東北学院大), 原慶太郎 (東京情報大)

P2-158 地域住民の被害防除行動がニホンザルの集落出没頻度に与える影響の空間的分析 * 上田羊介 (神戸大・農), 清野未恵子 (神戸大院・発達), 長野宇規 (神戸大院・農)

P2-159 沿岸域の底生生物を死滅させる二枚貝マットと大型海藻の堆積：局所空間形成パターンの抽出 * 山田勝雅 (水研セ・西海区), 宮本 康 (鳥取県・衛環研), 中野 善 (水研セ・西海区), 畠山恵介 (鳥取県・衛環研)

P2-160 ニホンアカガエルの遺传的構造と景観要素との関係 * 小林聡, 阿部聖哉, 富田基史, 松木吏弓 (電中研・生物)

P2-161 明るい林や林縁の広がり規定するクツワムシの分布：都市近郊と山間部における分布変遷の違い * 清川紘樹, 宮下 直 (東大・農)

P2-162 UAV-SfM による新植地の樹高計測 * 松浦俊也 (森林総研), 中尾勝洋 (森林総研), 佐野真琴 (森林総研), キョウ浩 (筑波大院)

P2-163 半自然草原地表部の微粒炭等炭化物についての基礎的研究 小椋純一 (京都精華大・人文)

P2-164 縄文時代以降の森林生態系と人の移ろい—琵琶湖地域における古生態学と考古学データの比較から * 林 竜馬 (琵琶湖博), 佐々木尚子 (京都府大・生命環境), 村上由美子 (京都大・総合博), 瀬口眞司 (滋賀県文化財保護協会)

P2-165 名古屋市東部における戦後の緑地の変遷 * 中川祐弥 (三重大・生資), 板谷明美 (三重大院・生資), 水野三正, 玉木一郎 (岐阜県立森林文化アカデミー)

遷 移 ・ 更 新

P2-166 東北地方の津波浸水域に出現した湿生・水生植物相の特徴 鈴木まほろ (岩手県立博物館)

P2-167 都市林・熱田神宮林における林冠樹種の約40年の変化 * 橋本啓史, 松浦文香, 多和加織, 今川公揮 (名城大・農), 長谷川泰洋 (森林総研)

P2-168 冷温帯二次林のSLA動態：Chronosequence、長

ポスター発表 3月24日(木) 10:00-16:00

(展示棟 Poster Hall # : ポスター賞対象発表)

期観察、形質データの統合 * 鈴木智之, 平尾聡秀 (東大・秩父演)

P2-169 ナラ枯れ後の海上の森のゆくえー種子・実生群集動態に着目してー * 渡辺直登, 岡田知也, 大谷奏恵, 中川弥智子 (名大院生命)

P2-170 北方林における優占針葉樹3種の肥大生長に関する樹種特性 * 西村尚之, 菊池明日香 (群馬大・社会情報), 赤路康朗 (岡大院・環境生命), 原登志彦, 隅田明洋, 長谷川成明, 小野清美 (北大・低温研), 加藤京子 (大沼流山森づくりNW), 坂本圭児 (岡大院・環境生命), 松井淳 (奈教大), 真鍋徹 (北九州自歴博), 鈴木智之 (東大・秩父演)

P2-171 高木限界の上昇に対する気候変動の影響と将来予測 * 岩井康平 (東北大学・生命), 小黒芳生, 高野宏平, 中静透

P2-172 小笠原諸島・父島列島における外来植物駆除後の植生変化ー大規模な面的駆除の成果と課題ー * 村尾未奈, 相川真一, 丸山文彦 (日本森林技術協会), 東京都小笠原支庁土木課

P2-173 大雨による斜面崩壊の跡地における冷温帯林構成樹種の更新初期過程 * 野口麻穂子 (森林総研東北), 杉田久志 (森林総研四国), 岡本隆 (森林総研東北), 高橋利彦 (木工舎ゆい), 篠宮佳樹 (森林総研東北)

P2-174 北海道渡島駒ヶ岳における1996年から2015年までの植生変化 露崎史朗 (j 北大・院地球環境)

P2-175 アフリカ熱帯山地雨林の拡大過程における止まり木効果の重要性 藤田知弘 / 京都大大学院

P2-176 スギ林に生育する木本種の種子散布と埋土種子集団の形成 山瀬敬太郎, 藤堂千景, 伊東康人 (兵庫農技総七)

P2-177 How large do soil properties differ according to combination of disturbance intensity and topographic locations? : Implication for natural regeneration practices * Yamazaki, H. (Hokkaido Univ.), Fukuzawa, K. (Hokkaido Univ.), Kobayashi, M. (Hokkaido Univ.), Yoshida, T. (Hokkaido Univ.)

P2-178 Tropical peat swamp exploitation changes phenology of tree species and seed predators' activity Tetsuya Shimamura (Ehime Univ.), Poesie S. Erna (Palangka Raya Univ.) and Ikuo Ninomiya (Ehime Univ.)

P2-179 シカ被害地に設置した1ha柵における植栽8年後の樹木の定着と成長 川嶋 淳史・永松 大(鳥取大・地域環境)

P2-180 千歳川遊水地群における施工後初期の植生遷移 * 小林慶子, 森本淳子, 古川泰人, 中村太士 (北大院・農)

P2-181 ヒノキ人工林における列状間伐1年後の下層植生の種特性と動態 * 渡邊仁志, 片桐奈々, 岡本卓也 (岐阜県森林研)

P2-182 宮城県沿岸における大津波後の海浜植生の再生過程 * 岡浩平 (広島工大・環境), 平吹喜彦 (東北学院大・教養)

動物と植物の相互関係

P2-183 高山帯と低地帯(里草地)で訪花昆虫相・送粉効率は異なるのか? * 日下石碧 (神戸大院・人間発達環境), 丑丸敦史 (神戸大院・人間発達環境), 石井博 (富山大・理)

P2-184 送粉者機能群多様性と送粉ネットワーク構造の関係 * 丑丸敦史, 平岩将良 (神戸大・人間発達環境)

P2-185 低い送粉者の機能的多様性が形態のミスマッチを引き起こす * 平岩将良, 丑丸敦史 (神戸大学・人間発達環境)

P2-186 双翅目媒花の見過されたシンドローム: 黒赤色花の適応的意義 望月昂 / 生態研, 川北篤 / 生態研

P2-187 果実食哺乳類による果実の持ち去り量の推定 * 小池伸介 (東京農工大)

P2-188 アメイロアリの種子散布には方向性が見られるか? 櫻木美里, 今村彰生 * (北教大旭川)

P2-189 ツキノワグマが9年間に作った小規模林冠ギャップは階層別の植生構造にどのような変化をもたらしたか? * 高橋一秋 (長野大・環境ツーリズム), 高橋香織 (被災地里山救済・地域性苗木生産ネットワーク), 吉田英正 (長野大・環境ツーリズム)

P2-190 三輪明神摂社三枝祭の御神花ササユリの花香とリーフワックスの機能 岩佐都, 近藤陽香, * 秋野順治 (京都市芸繊維大学), 柳川綾 (京都大学), 梶山慎一郎, 瀧川義浩 (近畿大学), 荒井滋 (大神神社)

P2-191 脂肪酸組成分析による土壌動物の摂食物評価: ドウガネブイブイ幼虫を用いた実験環境下での検討 * 角田智詞 1, 鈴木準一郎 2, 金子信博 1 (1 横国大・院・環境情報, 2 首都大・院・理工)

P2-192 ハイイロチョッキリの枝切り行動とブナ科樹木の新梢伸長および繁殖の関係 * 平山大輔, 岡田峰尚 (三重大・教育), 名波哲, 伊東明 (大阪大院・理)

P2-193 左右相称花はどれほど左右対称か?: オクトリカブトの花形質と蜜量の花内・花間バラつき 板垣智之・安藤美咲・酒井聡樹 (東北大・院・生命)

P2-194 イラクサの刺毛形質における世代間エピジェネティック遺伝の可能性 * 加藤禎孝 a, d, 石田清 b, 菊地淳一 c, 鳥居春己 d (a: 岩手大院連合農学研, b: 弘前大農学生命科, c: 奈教大教育, d: 奈教大自然環境教育センター)

P2-195 樹木の葉の糖濃度と葉食動物の嗜好性 * 伊藤陸実, 林文男 (首都大・生命)

P2-196 カンコノキ絶対送粉共生系における非共生性ハナホソガの進化 * 古川沙央里, 川北篤 (京大・生態研)

P2-197 捕食者と植食者が植物の形質を介して節足動物群集に与える間接効果 * 平野滋章 (京大生態研), 大串隆之 (京大生態研)

P2-198 二次林ではなぜカシノナガキクイムシに穿孔されても生き残る木が多いのか * 山崎理正, Pham Duy Long (京大院・農), 伊東康人 (兵庫農技総七), 安藤信 (京大フィールド研)

P2-199 新芽が赤いのはなぜか: 警告色仮説と隠蔽色妨害仮説の検証 * 井出純哉, 平野正樹 (久工大・工・教育)

P2-200 ナラ枯れ被害量の推移と分布拡大様式は森林の広域的な分布パターンで説明できるか * 伊東康人 (兵庫農技総七), 山崎理正 (京大院・農)

P2-201 葉への食害がミズヒキの成長・種子繁殖に与える影響 野中剛, 中山椋希, 佐藤泰介, 古谷祐平, * 石崎智美 (新潟大・院・自然研)

P2-202 北限マングローブ林における食物網構造: 生産者は? 一次消費者は? * 山本智子 (鹿児島大水産), 白澤大樹 (鹿児島大学院水産), 鹿野翔太 (鹿児島大水産), 山中寿朗 (岡山大院自然科学)

P2-203 The effects of N fertilization on plant-herbivory interaction across tree diversity gradients * LEE, J., Nakamura, M., Hiura, T. (Hokkaido Univ.)

ポスター発表 3月24日(木) 10:00-16:00

(展示棟 Poster Hall # : ポスター賞対象発表)

進 化

- P2-204** 海洋酸性化による巻貝の貝殻形成への影響 *清水啓介, 木元克典 (海洋研究開発機構)
- P2-205** 葉形状の3D表面データからの再構築と幾何学的解析 野下浩司 (東京大・農)
- P2-206** アズキゾウムシによる G matrix を用いた繁殖と寿命のトレードオフの検証 柳真一 (九大・博)
- P2-207** 種間相互作用が駆動する病原菌の進化動態変化 *山本京祐, 草田裕之, 鎌形洋一, 玉木秀幸 (産総研・生物プロセス)
- P2-208** 捕食リスクはメスの角の進化を促すのか: ウシ科における系統種間比較 *原野智広, 沓掛展之 (総研大・先端研)
- P2-209** ヤスデ類における種分化とミューラー型擬態を含む警告色の多様化 *田辺力 (熊本大・教育), 本間淳 (琉大・農), 持田浩治 (慶應大・経済), P. Marek (ヴァージニア工科大・昆虫), 曾田貞滋 (京大・院理), 桑原保正 (富山県大・生工科・生工研セ; JST, ERATO)
- P2-210** 表現型可塑性の種内変異: 動物プランクトンの誘導防衛から考える *永野真理子 (東大・総合文化), 吉田丈人 (東大・総合文化)
- P2-211** ミスミソウの種内多型はどのような歴史的背景で生まれたか: RAD-Seqによるゲノミック系統地理 *岩崎貴也 (京大・生態研), 永野惇 (龍谷大・農, JST さきがけ, 京大・生態研), 工藤洋 (京大・生態研)
- P2-212** スニーカー雄はいかにして生まれるのか: Does cryptic variation induce the divergence of male-dimorphism? *長谷和子 (東大院・総合文化)
- P2-213** ミツバツツジ節 3種の交雑帯における遺伝構造 *菊地賢, 渡邊定元
- P2-214** 東アジア島嶼間におけるベンガルヤマネコの採餌生態と頭骨形態変異 中西 希*, 伊澤雅子
- P2-215** When hybridization facilitate or inhibit adaptive diversification? Simulation of adaptive radiation in a hybrid zone. *Kotaro Kagawa, Gaku Takimoto (Univ. Tokyo)
- P2-216** キロショウジョウバエにおける寄生蜂抵抗性のゲノムワイド関連解析 *滝ヶ平智博 (岡大・環境生命), 山下晋平 (岡大・農), 高橋一男 (岡大・環境生命)
- P2-217** NGS を利用したチシマザサのジェネット内 SNPs 変異 岡野邦宏 (秋田県立大), 松尾歩 (首都大), 蒔田明史 (秋田県立大), 鈴木準一郎 (首都大), 陶山佳久 (東北大学), *井上みずき (秋田県立大)
- P2-218** 「RNA-Seq による鱗食魚の利きの発現に関わる脳内遺伝子の探索 *竹内勇一 (富山大・医), 北野潤 (遺伝研), 石川麻乃 (遺伝研), 小田洋一 (名古屋大・理)
- P2-219** エゾサンショウウオにおける表現型可塑性の地域集団比較 *松波雅俊 (北大・地球環境), 北野潤 (遺伝研・生態遺伝), 岸田治 (北大・FSC), 道前洋史 (北里大・薬), 三浦徹 (北大・地球環境), 西村欣也 (北大・水産)
- P2-220** コンパクトな保護区の背景にある群集構造 *竹中明夫, 石濱史子 (国立環境研究所)
- P2-221** 次世代シーケンサーを用いた生態調査と食性調査

*半田 佳宏, 勝又 啓史, 中島 章, 布藤 聡, 松平 崇弘 (ファスマック)

- P2-222** 潮下帯最上部の生物多様性に対する転石の貢献度 *井坂友一 (北大・FSC), 仲岡雅裕 (北大・厚岸)
- P2-223** ユスリカ多様性のため池環境との関係を解析する -DNA バーコーディングと OTU 区分- *高村健二, 上野隆平, 今藤夏子, 奥田しおり, 大林夏湖 (国立環境研)
- P2-224** Claident によるメタバーコーディング・環境 DNA バーコーディング解析: ノイズ・キメラ除去法の改善と分子同定用データベースの作成法 *田辺晶史 (水研セ・中央水研)
- P2-225** 日本のクスノキは外来種か? *亀山慶晃 (東農大・地域), 古道潤 (東農大・地域), Jingxiu Li (Kunming Inst. Bot.), Yen-Hsueh Tseng (Nat. Chung Hsing Univ.), 鈴木貞次郎 (東農大・地域)
- P2-226** アジア・ヨーロッパ産ブナ属植物 3種の根における真菌群のメタゲノム比較解析 正路淳也, 大久保美咲, *伊藤元己
- P2-227** 水辺の環境改善による水生生物の多様性の変化〜住友ベークライト(株)静岡工場のピオトープの事例〜 山田辰美 (常葉大・社会環境), *法月直也, 関川文俊 (富士常葉大環防研), 熊谷孝善, 永野晃 (住友ベークライト)
- P2-228** 東アジア海域におけるケハダエゴシの集団遺伝構造 *頼末武史/北学・厚岸臨海実験所
- P2-229** Characteristics of the diverse vegetation on termite mounds in mopane woodland in north-western Namibia Chisato Yamashina, CAAS Kyoto University
- P2-230** 断片化した広葉樹林における果実食鳥類の種数・個体数を規定する要因: 季節および鳥類機能群による違い *吉川徹朗 (森林総研), 原澤翔太 (環境省), 新倉夏美, 小池伸介 (東京農工大院), 直江将司, 正木隆 (森林総研)
- P2-231** 琵琶湖内にみられるコイの体形の地域間変異 渥美圭佑*, 馬淵浩司, 瀬能宏, 井上広滋
- P2-232** 斜面土砂移動地の未知なる地中生節足動物相: 多様性と生息地特異性 *小粥隆弘, 長澤亮, 田中健太 (筑波大・菅平セ)
- P2-233** 水田生態系における植物群落の種多様性に与える影響 *楠本良延 (農環研)
- P2-234** 亜寒帯林における植物-植食性昆虫-寄生蜂の群集構造解析 *阿部永 (千葉大学大学院理学研究科), 福島宏晃 (千葉大学大学院理学研究科), 阿部智和 (東京大学大学院), Rajesh Kumar (Central Muga Eri Research and Training Institute), Martin Volf (チェコ科学アカデミー), Martin Libra (チェコ科学アカデミー), 鎌田直人 (東京大学), Vojtech Novotny (チェコ科学アカデミー), 村上正志 (千葉大学大学院理学研究科)
- P2-235** 魚類絶対寄生者ウオノエ科等脚類の系統と寄生様式の多様化 *曾我部篤 (弘前大・農学生命), 川西亮太 (北大・地球環境), 畑啓生 (愛媛大・理工)
- P2-236** 温暖化による海藻のレンジフトへの海流の輸送・障壁効果 *熊谷直喜, 山野博哉, GARCÍA MOLINOS, Jorge (国環研), 高尾信太郎, 藤井賢彦, 山中康裕 (北大・地環研)
- P2-237** 極相林では、鳥の種数はいかにか少ないか?—和歌山県における鳥類相の林相間比較 岩本二郎 (和歌山県立自然博物館)
- P2-238** 河川希少生物カワシヅガイはカエルの越冬環境を創出するか? 三浦一輝 (北大院環境科学院), 渡辺のぞみ (同), 根岸淳二郎 (北大院地球環境科学研究所)

生物多様性

ポスター発表 3月24日(木) 10:00-16:00

(展示棟 Poster Hall # : ポスター賞対象発表)

- P2-239** コンブ目の重要海域の選定 - その多様性・将来分布予測をもとに * 渡辺健太郎 (北大・厚岸), 四ツ倉典滋 (北大・FSC), 山北剛久 (JAMSTEC), 仲岡雅裕 (北大・厚岸)
- P2-240#** Polypod シダ類における有性生殖種と無配生殖種の多様性 * 田中崇行 (信州大), Li-Yaung Kuo (National Taiwan Univ.), Dirk Nikolaus Karger (Univ. Zurich)
- P2-241** 霊長類の種間交雑群における形態的・遺伝的変異 * 伊藤毅 (琉大・医), 川本芳・濱田穰・若森参 (京大・霊長研)・木村亮介 (琉大・医)
- P2-242** 霞ヶ浦の環境 DNA から検出される生物多様性にフィルター濾過が与える影響 * 今藤夏子, 中川恵, 松崎慎一郎 (国立環境研・生物セ), 伊藤洋 (総研大)
- P2-243** 石垣島マングローブ河口域の底質特性と海草藻場分布 * 寺田一美 (東海大・工), 橋本真佑 (東海大・工)
- P2-244** 景観区分に着目した新しい生物多様性地域戦略の可能性 増澤直*, 荒尾章子, Chen Siew Fong, 彦坂洋信 (株式会社地域環境計画)
- P2-245** 形態的類似度の高い東南アジア産クスノキ科タブノキ属の ITS 配列を利用した種識別 * 間瀬慶子, 田金秀一郎, 遠山弘法, 矢原徹一

数 理

- P2-246** Fixation probability in a haploid-diploid population * Kazuhiro Bessho (Univ. British Columbia/JSPS), Sarah P. Otto (Univ. British Columbia)
- P2-247** 生物群集の固有値問題を解くことで説明する「食う-食われるもの」の間の相利 笠井敦 (国立環境研)
- P2-248** 歪んでいない形質空間は無い: 局所的平坦化による適応進化の記述 * 伊藤洋, 佐々木顕 (総研大・先導研)
- P2-249** 森林動態モデルの非現実化と計算簡約性: <空間明示型モデル→ギャップモデル→平均場モデル>の統計的性質 中河嘉明 (国立環境研究所), 伊藤昭彦 (国立環境研究所), 横沢正幸 (静岡大学), 原登志彦 (北海道大学)
- P2-250** 回遊性生物の資源管理と有効利用に関する考察 岩田繁英
- P2-251** 遊牧における4種(草本・灌木・ヒツジ・ヤギ)関係の動態と最適管理 山村則男 (同志社・文化情報)
- P2-252** 中心回帰的な行動プロセスを組み込んだ標識再捕獲モデル * 深澤圭太 (国立環境研究所), 東出大志 (早稲田大・人間科学)
- P2-253** 老齢樹とツノゴケとシアノバクテリアで創る有限の生態系の理論生態学的研究 I * 藤尾昭弘, 大西 勇 (広島大学(理)数理分子)
- P2-254** 生産者の構造の違いによる物質循環を通じた生態系機能への影響 福井真 (早稲田大・人科)

動物群集

- P2-255** 横浜市内における止水性水生昆虫相の特徴について 佐野真吾*・吉崎真司 東京都市大学
- P2-256** 環境 DNA 解析用ユニバーサルプライマー 'MiFish' を用いた広域河川魚類相調査 * 中川光 (広島大), 源利文 (神戸大), 山本哲史 (神戸大), 佐藤行人 (東北大), 宮正樹 (千葉中央博)
- P2-257** 新規干潟仙台湾東谷地干潟におけるマクロベント

スの時空間変動に及ぼす環境要因 * 柚原剛 (東北大院・生命), 尾崎隼斗 (東北大・理), 鈴木孝男, 占部城太郎 (東北大院・生命)

- P2-258** 千曲川中流域における魚類の資源利用パターン * 北野聡 (長野県保研), 小西繭 (信州大・理), 田崎伸一 (有・エコシス), 矢澤諒人 (信州大・理)
- P2-259** アフリカ熱帯林における自動撮影カメラを用いた偶蹄類の密度・バイオマス推定 * 中島啓裕 (日大・生物資源), 本郷峻 (京大・理), Akomo-Okoue E.F. (IRET), Nguelet, F.L. (IRET)
- P2-260** 奄美大島におけるトンボ相と景観構造との関係 * 境 優 (中央大・理工), 須田真一 (中央大・理工), 桶田太一 (中央大・理工), 鷲谷いづみ (中央大・理工)
- P2-261** 2011年大津波後の内湾における底生多毛類群集の回復過程 * 阿部博和 (水研七東北水研), 小林元樹 (東大院新領域), 大越和加 (東北大院農)
- P2-262** 種内競争と種間競争のトレードオフ構造がもたらす多種共存メカニズム 小林和也 (京大院・農・昆虫生態)
- P2-263** 小型回遊性淡水魚の群集構造と空間スケール 満尾世志人 (新潟大・CTER)
- P2-264** 地球温暖化とそれに伴う湖底の貧酸素化が琵琶湖深水層のベントス群集に与える影響の評価 * 酒井陽一郎 (琵琶湖研セ), 小坂橋忠俊 (京大生態研), 柴田淳也 (広島大学), 岡野淳一 (京大生態研), 谷内茂雄 (京大生態研), 中野伸一 (京大生態研), 奥田昇 (総合地球研)
- P2-265** 北海道の落葉広葉樹林における地表徘徊性甲虫類の活動性と気象要因の関係 丹羽 慈 (自然研)
- P2-266** 攪乱によるブナの形態変化が土壌動物のハビタットを増加させる * 吉田智弘 (東京農工大・農)
- P2-267** 仙台市沿岸部水田域の津波後の鳥類生息状況 平泉秀樹 (南蒲生モニタリングネット)
- P2-268** 日本の河川における魚類群集と攪乱レジームとの関係性 * 川西亮太 (北大院・地球環境), 吉村研人, 渡辺裕也, 三宅洋, 井上幹生 (愛媛大院・理工), 赤坂卓美 (帯広畜大)
- P2-269** 東南アジア熱帯雨林における一斉結実期に出現する種子食性昆虫群集構造の超年変動 * 浅野 郁 (京大・人環), 中川弥智子 (名大・生命農), 竹内やよい (国環研), 酒井章子 (京大・生態研), 市岡孝朗 (京大・人環)
- P2-270** Genetic Variation in the Riparian Foundation Tree Predicts Arthropod Community Structure in Wild * KAGIYA, Shinnosuke (Graduate School of Environmental Science, Hokkaido Univ.), UTSUMI, Shunsuke (Field Science Center for Northern Biosphere, Hokkaido Univ.)
- P2-271** How insects act adaptively in a tree canopy? Reciprocal interactions between contemporary evolution and community dynamics know an answer. * Onodera, H. (Hokkaido Univ.), Yasugi, M. (NIBB), Kudoh, H. (CER, Kyoto Univ.), Nagano, A. (Ryukoku Univ.), Utsumi, S. (FSC, Hokkaido Univ.)
- P2-272** マダガスカル of 流水性おたまじゃくしの食性の多様性 * 夏原由博, RAMAMONJISOA Noelicant

動物繁殖

- P2-273** ミドリイシ雑種体の繁殖特性の違いによる種分化と交配隔離両立の可能性 * 磯村尚子 (沖縄高専・生物資源), 岩尾研二 (阿嘉島臨海), 守田昌哉 (琉球大・熱生圏), 深見裕伸 (宮崎大・農)

ポスター発表 3月24日(木) 10:00-16:00

(展示棟 Poster Hall # : ポスター賞対象発表)

- P2-274 グッピーとカダヤシにおける共食いおよびギルド内捕食の回避戦略 * 鶴井香織 (琉大・戦略セ), 辻和希, 鈴木貴大 (琉大・農)
- P2-275 ヨツボシモンシデムシの発声行動 岸田 竜 佐大農
- P2-276 イチジクコバチのオスの花のうからの脱出 木下智章 (佐賀大・農), Jaco Greeff (Univ. of Pretoria)
- P2-277 the reproductive ability of male neotenic in Asian dry-wood termite, *N. koshunensis*. *Miyaguni, Y. (JSPS Research Fellow, Kyoto Univ.), Kobayashi, K. (JSPS Research Fellow, Kyoto Univ.)

動物個体群

- P2-278 MIG-seq を用いた集団遺伝学的解析: 動物プランクトンへの適用 * 牧野渡 (東北大院・生命), 松本悠 (東北大院・農), 陶山佳久 (東北大院・農), 占部城太郎 (東北大院・生命)
- P2-279 海水温の変動がマイワシの産卵場形成に与える影響 古市生 * 安田 十也・黒田 啓行・依田 真里・福若 雅章 (水研センター・西海区水研)
- P2-280 サキグロタマツメタ (*Euspira fortunei*) 集団の人為移動履歴を遺伝的構造から探る * 大槻朝 (東北大・生命), 鈴木孝男 (東北大・生命), 木下今日子 (岩手大・三陸復興), 金谷弦 (国環研・地域環境), 富山毅 (広島大・生物圏), 牧野渡 (東北大・生命), 佐藤慎一 (静岡大・理), 大越健嗣 (東邦大・理), 占部城太郎 (東北大・生命)
- P2-281 複数の植物指標種を用いたニホンジカの生息密度評価 * 稲富佳洋 (道総研環境研)・宇野裕之 (道総研環境研)・長雄一 (道総研環境研)・上野真由美 (道総研環境研)・明石信廣 (道総研林試)
- P2-282 サイズ依存共食いが及ぼす新規加入個体群への影響—捕食効・非捕食の相対的効果— 岡野淳一 (京大・生態研セ)
- P2-283 北海道の森林環境におけるライントランセクト法を用いたニホンジカ個体群密度の推定 * 宇野裕之, 上野真由美, 稲富佳洋, 長雄一 (道総研環境研), 明石信廣, 雲野 明, 南野一博 (道総研林試)
- P2-284 ニホンミツバチ (*Apis crane japonica*) の遺伝的多様性に影響する景観要因と遺伝構造 * 永光輝義, 安田美香, 滝久智, 岡部貴美子 (森林総研), 五箇公一 (国環研)
- P2-285 Ghost of an egret colony *Mashiko, M. (NIAES), Toquenaga, Y. (Univ. of Tsukuba)
- P2-286 ニホンジカ密度指標の再考 小平真佐夫 (富士山研)
- P2-287 クローン系統の頻度変化: 実験個体群におけるフナ対捕食者形質の変化と生き残り 児玉紗希江 (水研センター)・箱山 洋 (水研センター/東京海洋大)
- P2-288 奈良県高見川におけるアカザ (*Liobagrus reini*) の生息環境 * 鶴田哲也・山本健太郎・笹井聖将・安達祐貴 (大阪産大人間環境)
- P2-289 イモゾウムシ個体数密度の寄主植物による違い - ベイズ統計モデリングによる解析 - * 本間 淳 (琉球産経・沖縄県防技センター), 高倉耕一 (滋賀県大・環境)
- P2-290 南九州フジツボ類の蔓脚への波当たりの影響 * 吉田幸子・吉川朋子 (玉川大)
- P2-291 御食事処 川鶴 ~カワウが作り出すサギ類の採食機会~ 熊田那央 (NPO 法人バードリサーチ)
- P2-292 屋久島の低地・一次林と二次林における中大型哺乳類の密度比較 * 杉浦秀樹 (京大・野生動物)

- P2-293 外洋性海鳥の体サイズの種内地理変異 * 山本誉士 (名大院・環境), 河野裕美, 水谷晃 (東海大・沖セ), 依田憲, 松本祥子 (名大院・環境), 河邊玲 (長崎大・環東シナ海セ), 渡辺伸一 (福山大), 岡奈理子 (山階鳥研), 佐藤克文 (東大大気海洋研), 山本麻希 (長岡技大), 須川恒 (龍谷大), 狩野清貴 (網野高校), 塩見こずえ (極地研), 米原善成 (東大大気海洋研), 高橋晃周 (極地研)
- P2-294 琵琶湖産スジエビの体組成の季節変化と季節移動の関連について 鄒 倩倩, * 石川 俊之
- P2-295 北米西海岸の外來ホソウミナナ個体群の移入経路 * 伊藤萌 (東大大気海洋研), 三浦収 (高知大総合研究セ), 小島茂明 (東大大気海洋研)

- P2-296 捕食者-被食者系のカップリング: 非対称的な競争による安定化 * 稲葉優太, 谷内茂雄 (京大生態研)
- P2-297 生駒山におけるオオムラサキおよびゴマダラチョウの越冬幼虫数の5年間の動態 藤井太基 (近畿大農), 三日月茜 (枚岡樟風高), 澤島拓夫 (近畿大農), 桜谷保之

動物生活史

- P2-298 サクラマスの生活史分岐に対する遺伝性: ヤマメの子はヤマメ? * 山本俊昭 (日獣大), 北西滋 (岐阜大)
- P2-299 2014年日本海で同所的に採集されたカタクチイワシとマイワシの食性 * 馬場孝, 森本晴之, 後藤常夫 (水研セ・日水研), 南條暢聡 (富山県農林水産部), 尾田昌紀 (鳥取県水試), 上野陽一郎 (京都府農林水産技術センター海洋センター)
- P2-300 Life cycle of an endangered marine insect *Halovelletta septentrionalis* *Ikawa, T., Nakazawa, A. (Morioka Univ.)
- P2-301 孵化直後の両生類幼生は溶存アミノ酸を体組織に取り込む * 片山昇, 小林真, 岸田治 (北大・FSC)
- P2-302 エビヤドリムシの生活史を見直す: クリプトニクス幼生に寄生される宿主サイズから * 伊谷行, 前川愛子, 近藤佳澄, 清水綾乃, 上田いづみ, 毛利幸村 (高知大・教育), 久米洋 (愛媛県水研セ), Y. Wardiatno, 玉置昭夫 (長崎大・水産)
- P2-303 Change in stable isotope ratios in the epidermal mucus of slow-growing fish *Maruyama, A., Tanahashi, E., Hirayama, T. (Ryukoku Univ.), Yonekura, R. (Gifu Pref. Res. Inst. Fish. Aquat. Envir.)

行 動

- P2-304 タイリクモモンガの成長に伴う巢外活動時間の変化: 日中から夜間へ 鈴木 圭 (水研セ 国際水研), 眞本 樹 (岩大院 連合農学), 古川竜司, 柳川 久 (帯畜大)
- P2-305 ヒメボタルの発光数における時間変動と相関 小西哲郎, 中部大学工学部共通教育科
- P2-306 オオツノコクヌストモドキのメスにおける配偶者選択の利益と交尾のコスト 清瀬勝也 (岡山大学・院・環境生命), 香月雅子 (筑波大・生命環境系), 洲崎雄 (京大・院・理), * 岡田賢祐 (岡山大学・院・環境生命)
- P2-307 タイワンエンマコオロギのオスは血縁関係にある個体との闘争を控えるか? 鹿兒島大・教育・生物
- P2-308 グッピーにおけるメスのパーソナリティと配偶者選好性 * 佐藤綾 (群馬大・教育)
- P2-309 テナガホンヤドカリのオスによる配偶相手の変更

ポスター発表 3月24日(木) 10:00-16:00

(展示棟 Poster Hall # : ポスター賞対象発表)

もしくは横恋慕 *和田 哲, 小黒 歩, 守田安祐美, 石原 (安田) 千晶 (北大・水産)

P2-310 ゾンビディフェンスの効果 *奥野正樹 (岐大・応生・昆虫生態), 沖田一郎 (岐大・連農・昆虫生態), 土田浩治 (岐大・応生・昆虫生態)

P2-311 微量元素ルビジウムを用いたイモソウムシの交尾経験の推定 *熊野了州 (帯畜大・昆虫生態), 照屋清仁 (沖縄病害虫防技術セ), 鶴井香織 (琉大・戦略的研究セ), 豊里哲也 (琉球産経)

P2-312 コバネイナゴにみられる右利きでの交尾—その行動と形態との関係 三浦玄太, *藤山直之 (山形大・理)

P2-313 Bayesian スカウターで戦闘力を測定する *長谷川 克, 杵掛展之 (総研大・先導研)

P2-314 ハゼ科魚類トウヨシノボリの雌は雄の質に応じて婚姻色を変化させるのか? *高橋大輔, 矢島花波 (長野大・環境ツーリズム)

P2-315 ニホンミツバチとセイヨウミツバチにおけるアカリンダニに対するグルーミング行動の比較 *坂本佳子 (国環研), 前田太郎 (生物研), 芳山三喜雄 (畜草研)

P2-316 東南アジア熱帯雨林に生育する野生動物の人工塩場への応答 *太田彩葉 (首都大・都市環境), 安田雅俊 (森林総研・九州), 坂保哲朗 (首都大・都市環境), Mazlan Hashim (マレーシア工科大・INSTeG), 沼田真也 (首都大・都市環境)

P2-317 スズメにおける巣場所資源競争と胚の性特異的死亡 *加藤貴大 (総研大・先導科学), 酒井秀嗣 (日本大学・歯), 佐藤恵 (日本大学・歯), 杵掛展之 (総研大・先導科学)

P2-318 他種のカエルと比較したツチガエルのにおい〜皮膚分泌物のGC/MS分析〜 *吉村友里 (九大院・農), 粕谷英一 (九大・理・生物)

P2-319 日本周辺におけるウトウの越冬海域: 日本海側・太平洋側繁殖地の比較 *高橋晃周 (極地研), JB Thiebot (極地研), 綿貫豊 (北大水産)

P2-320 ユビナガホソヤドカリのオス間闘争: いつもハサミが大事 *石原 (安田) 千晶, 古賀庸憲 (和歌山大・教育)

P2-321 野生ニホンザルの腸内細菌叢はどのように変動するの? *澤田晶子, 栗原洋介, 早川卓志 (京大・霊長研)

P2-322 絶滅危惧淡水魚イトウの産卵遡上の特徴 *福島路生 (国環研), Rand, P.S. (Prince William Sound Science Center), 水本寛基 (北大), 荒木仁志 (北大)

P2-323 生物の動画を博物館の標本として収蔵登録する試みと想定される課題 *石田 惣 (大阪市立自然史博), 中田兼介 (京都女子大), 西 浩孝 (豊橋市自然史博), 藪田慎司 (帝京科学大)

P2-324 単独性ハナバチの越冬における集団形成順序とその意義—どの位置が最適な睡眠場所か— *横井智之, 渡辺守 (筑波大・院・生命環境)

P2-325 飼育下におけるアズマモグラの通路選択 *岩井美咲子, 井出哲哉, 横畑泰志 (富山大・院・理工), 氷見公一, 加茂川千枝 (富山大・理)

P2-326 ツキノワグマ行動圏の重複に個体間の血縁と食物の利用可能性が与える影響 *小坂井千夏 (神奈川県立生命の星・地球博・日本学術振興会特別研究員), 原口拓也, 根本唯, 中島亜美, 小池伸介 (東京農工大・農), 大西尚樹 (森林総研東北), 山崎晃司 (東京農大)

P2-327 カタツムリの外傷的交尾: 操作物質を送り込む量と感受性 *木村一貴, 千葉聡 (東北大・生命)

P2-328 トゲオオハリアリにおけるコロニーサイズに応じて変化する社会的強制力 下地博之 (北大)

保 全

P2-329 密漁されたボルネオバンテンの歯髄から完全長ミトコンドリア DNA の決定 *石毛太一郎 (東農大ゲノム), 覚張隆史 (金沢大学・人間社会), 半澤恵 (東農大・農), 松林尚志 (東農大・農)

P2-330 非モデル生物で利用可能な多検体 SNP 検出法 (改良版 RAD-seq) の開発と要約作製ツールの提供 *手塚あゆみ (龍谷大・農), 八杉 公基 (基生研・神経生理学), 永野惇 (龍谷大・農)

P2-331 山形県長井市不伐の森における保全活動と生態系調査 *渡邊潔, 上野満 (山形県森研セ), 布施敏道 (山形県不伐の森に親しむ会)

P2-332 小型哺乳類の聴覚に対するネオニコチノイド系農薬の影響 後藤裕子 (中部大・生命)

P2-333 歴史の長いゴルフ場が保全する植物群落 *松村俊和 (甲南女子大・人間科学), 橋本佳延 (兵人博), 澤田佳宏 (兵県大・緑環景)

P2-334 改訂版レッドリストと伝統行事の記録が示す長野県の生物多様性の危機の要因 須賀丈*, 堀田昌伸, 北野聡, 大塚孝一, 浦山佳恵, 石田祐子, 畑中健一郎 (長野県環境保全研), 尾関雅章 (長野県環境部)

P2-335 熱帯生態系保全とパームプランテーション経営を同時達成する残存林送粉サービスの評価 *近藤俊明 (広島大・国際協力), 谷 尚樹, 小杉昭彦 (国際農林水産業研究センター), Othman Sulaiman (マレーシア科学大学)

P2-336 四国山地におけるコマドリの生息密度にニホンジカの増加が及ぼす影響 *佐藤重穂 (森林総研四国)

P2-337 水俣湾における水銀の生物濃縮機構解明 - 遺伝子解析による魚類胃内容物の特定 - 森 敬介* (国水研), 小島茂明, 瀬尾絵理子, 新井谷梨鈴, 廣瀬公子, 伊藤 萌 (東大大気海洋研)

P2-338 奄美大島における稀少カエル 2 種の生息適地 *岩井紀子, 赤坂宗光 (農工大)

P2-339 単食性希少バツタの食樹シマイスノキの遺伝構造と植栽計画への提案 *須貝杏子, 鈴木節子 (森林総研)

P2-340 森林はニホンミツバチの営巣場所として機能しているか? *安田美香, 永光輝義, 滝久智 (森林総研)

P2-341 鳥類の絶滅リスクを抑えるための木材生産・消費シナリオの探索 *西嶋翔太 (横浜国大), 古川拓哉 (森林総研), 角谷 拓, 石濱史子 (国環研), T. Kastner (Univ. Klagenfurt), 松田裕之, 金子信博 (横浜国大)

P2-342 タコノキの遺伝構造からみる小笠原群島と硫黄列島の関係 *鈴木節子, 須貝杏子 (森林総研), 加藤英寿 (首都大・牧野), 吉丸博志 (森林総研)

P2-343 福井県北潟湖と周辺地域の植生の変遷と要因の分析 福井県・里山里海湖研

P2-344 類似度を考慮した景観不均一性指数の提案〜耕作放棄の影響の評価のために *吉岡明良 (国環研), 深澤圭太 (国環研), 三島啓雄 (国環研), 佐々木恵子 (ギョーセン大), 角谷拓 (国環研)

P2-345 The Evaluation of Mangrove Ecosystem Restoration Project for Shrimp pond in Vietnam *Kameyama, S. (NIES), Miyamoto, C. (ACTMANG), Suda, S. (ACTMANG), Asano, T.

ポスター発表 3月24日(木) 10:00-16:00

(展示棟 Poster Hall # : ポスター賞対象発表)

(ACTMANG), Nohara, S. (NIES)

立大・総合政策)

P2-346 イシガイ科二枚貝稚貝の底質での潜行行動 * 柿野亘 (北里大), 上杉翔太 (北里大), 篠井宏実 (北里大), 伊藤寿茂 (新江ノ島水族館), 眞家永光 (北里大), 丹治肇 (北里大)

P2-365 多摩川における橋梁建設とカワラノギク * 倉本宣, 徳吉御国, 岡田久子 (明大・農)

P2-347 日本の湖沼における水生植物相データの現状とモニタリングの課題 * 山ノ内崇志, 西廣淳 (東邦大・理)

P2-366 蓮田に飛来する水鳥の食物構成の解明 - メタバコーディングを用いたアプローチ - 安藤温子 (国環研), 成田あゆ (京大院・農), 石井淳子 (多摩動物公園), 会田清 (茨城県), 池野進 (日本野鳥の会), 井上智美 (国環研), 竹中明夫 (国環研)

P2-348 融雪剤 (CaCl₂) がキタサンショウウオに与える影響 * 照井滋晴 (NPO 法人 PEG), 長澤愛理 (北教大釧路), 伊原禎雄 (北教大釧路)

P2-367 豊岡盆地におけるコウノトリの採餌環境はどのように変わったか? * 田和康太 (兵庫県大院・地域資源), 佐川志朗 (兵庫県大院・地域資源 / 兵庫県立コウノトリの郷公園)

P2-349 白山におけるボランティアによる外来植物除去作業 * 野上達也 (白山自然保護センター), 稲葉弘之 (環白山保護利用管理協会)

P2-368 企業ビオトープによるヤリタナゴ・マツカサガイの保全~富士通ゼネラルビオトープにおける地域の生物多様性保全の試み~ * 関川文俊, 法月直也 (富士常葉大環防研), 岡孝嘉 ((株) 富士通ゼネラル), 大澤能孝 ((有) 富士山自然科学研究所), 山田辰美 (常葉大・社会環境)

P2-350 外来種スイセンハナアブと同属在来種カワムラモモブトハナアブの訪花植物及び訪花頻度の比較 須島充昭 (東大・総合文化)

P2-369 水田のカエルたちはどこへ? - 震災後の福島県東部地域の生息状況調査から - 松島野枝 (国環研・環境リスクC)

P2-351 寄生性ダニがニホンミツバチの越冬成功率を低下させる * 前田太郎 (生物研), 坂本佳子 (国環研)

P2-370 深泥池湿原に夜間出没するニホンジカ * 辻野亮 (奈良教大自然科学), 鄭呂尚 (日本工営), 松井淳 (奈良教大)

P2-352 草原生絶滅危惧植物ヒナヒゴタイのモニタリング調査経過報告 * 河野円樹 (綾町役場)

P2-371 東海地方における湧水湿地インベントリ作成の試み * 富田啓介, 高田雅之 (法政大), 上杉毅 (赤津自然観察会), 澤田與之, 早川しょうこ, 榎千江子 (シデコブシと自然が好き会), 籠橋まゆみ, 河合和幸, 横井洋文 (可見ネイチャークラブ), 大畑孝二 (日本野鳥の会), 小玉公明 (おかげさ湿地保護の会), 大羽康利 (渥美自然の会), 所沢あさ子 (はなのき友の会), 佐伯いく代 (筑波大), 山田祐嗣 (まるっと環境クラブ), 鬼頭弘 (日進岩藤川自然観察会), 鈴木勝己 (豊田植物友の会)

P2-353 耕作放棄水田におけるカスミサンショウウオ保全の取り組み * 藤田 宏之 / 埼玉県立川の博物館・兵庫・水辺ネットワーク, 安井 幸男 / 兵庫・水辺ネットワーク, 大嶋 範行 / 兵庫・水辺ネットワーク, 江川 由紀子 / 兵庫・水辺ネットワーク

P2-372 ニホンザルの保全・個体数管理に向けた顔認識システムの構築 * 大谷洋介 (大阪大・未来戦略), 小川均 (立命大・情報理工)

P2-354 三瓶山火入れ草原における絶滅危惧植物ヤマトキンウの生育環境 井上雅仁 (鳥根県立三瓶自然館)・高橋佳孝・堤道生 (近中四農研センター)

P2-373 東日本大震災に伴う津波は干潟の巻貝にどのような影響を与えたのか? * 三浦収 (高知大・総合), 金谷弦 (国環研), 中井静子 (日大・生物資源), 伊藤萌 (東大・海洋研), 牧野渡 (東北大・生命), 占部城太郎 (東北大・生命)

P2-355 関東北部の水田・畦畔における環境保全型農業を指標する植物種 * 池田浩明, 楠本良延, 西田智子 ((国) 農環研)

P2-374 河川域における樹木の侵入経路による分布拡大傾向のちがい * 宮脇成生 ((株) 建設環境研究所)・西廣淳 (東邦大・理)

P2-356 耕作放棄と鳥類群集の関係は景観構造によってどう変化するか * 片山直樹, 益子美由希, 越田智恵子 (農環研)

P2-375 共生環境に配慮したキンラン属の移植適地選定 * 渡部陽介, 米村惣太郎 (清水建設), 塩見直希, 奈良一秀, 清家剛, 福田健二, 徳永朋祥 (東京大・新領域), 丹下健 (東京大・農), 横張真 (東京大・工)

P2-357 エゾシカの生活史を考慮した潜在的事故地点の抽出 * 中山 大志 (酪農学園大), 野呂 美紗子 (北海道開発技術セ), 鈴木 透 (酪農学園大)

P2-376 キンラン属の移植手法に関する実験的検討 * 米村惣太郎, 渡部陽介 (清水建設), 塩見直希, 奈良一秀, 清家剛, 福田健二, 徳永朋祥 (東京大・新領域), 丹下健 (東京大・農), 横張真 (東京大・工)

P2-358 野生動物が出没する環境とは? ~札幌市の河畔林・防風林における哺乳類の利用状況~ * 福島 玲依 (酪農学園大), 赤坂 卓美 (帯広畜産大), 鈴木 透 (酪農学園大)

P2-377 トドマツ人工林における下層植生の皆伐による変化 * 明石信廣, 大野泰之 (道総研林試), 新田紀敏 (道総研森林研究本部)

P2-359 ライチョウの南限生息地で採集した哺乳類の糞の内容物 * 藤井直紀 (富士常葉大環防研, 静岡ライチョウ研), 朝倉俊治 (静岡ライチョウ研), 増田章二 (静岡ライチョウ研), 堀田昌伸 (長野環境保全研), 三宅隆 (NPO 静岡自然博ネット)

生態系管理

P2-360 奄美大島の異なるランドスケープにおけるニホンミツバチ野生群の花資源利用 * Fujiwara, A. (Tokyo Univ.), Yoshida, T. (Tokyo Univ.), Washitani, I. (Chuo Univ.)

P2-378 天水田地域における灌漑施設の導入による草本植物相および食用雑草への影響 * 今西亜友美 (近畿大・総社), 夏原由博 (名大院・環境), 今西純一 (京大院・地球環境), DUANGVONGSA, Inpeng (チャンパサック大), SOUTHAVONG, Sisomphone (チャンパサック大)

P2-361 東海地方におけるカワヒガイの遺伝的集団構造 鈴木美優, 北西滋*, 向井貴彦 (岐阜大地域科学)

P2-379 攪乱による底質環境の変化が底生動物群集に与え

P2-362 熱帯林の断片化景観における土地利用パタンが種多様性に与える影響 * 竹内やよい (国環研), 鮫島弘光 (IGES), Jason Hon (WWF, Malaysia), Bibian Diway (BRC, Malaysia)

P2-363 深泥池浮島におけるニホンジカの採食による湿原植物変動の種差 * 松井淳, 阪口京 (奈教大・生物), 鄭呂尚 (日本工営), 辻野亮 (奈教大・自然環境教育センター)

P2-364 岩手県の震災復旧工事に伴う砂浜植生保全策~野田村十府ヶ浦・山田町船越の事例報告 島田直明 (岩手県

ポスター発表 3月24日(木) 10:00-16:00

(展示棟 Poster Hall # : ポスター賞対象発表)

る影響 *長坂晶子, 長坂 有, 山田健四

P2-380 北海道北部深海底魚漁場における海中ロボットを用いた底魚資源観察調査 *濱津友紀(水研セ・北水研), 浦環, 西田祐也(九州工業大学), 岡本章裕, 稲葉祥梧(海上技術安全研究所), 濱田顕尚, 吉田星也(オキシテック), 石田修也, 池田和正(岡本硝子)

P2-381 生物多様性が駆動する栄養循環と流域圏社会 - 生態システムの健全性 奥田昇(地球研)

P2-382 浸水災害ハザードと生物多様性は関係しているのか? 一福井県三方五湖流域における検証一 内田圭・篠原直登・吉田丈人(東大院・総合文化)

P2-383 新潟県福島潟におけるオオヒシクイとコハクチョウの越冬地保全策の検討 *向井喜果(新潟大・自), 松隈詩織(地域環境計画・自), 布野隆之(兵庫県立人と自然の博物館), 石庭寛子(国立環境研究所), 石間妙子(福岡県保健環境研究所), 関島恒夫(新潟大・自)

P2-384 内モンゴフルンボイルの砂丘草原における丘間低地からの植生回復: 再生初期の動向に着目して *小柳知代(学芸大), 山田晋, 大黒俊哉(東大)

P2-385 海洋島における野生化ヤギによる攪乱に伴う土壌流出が植物群集に及ぼす影響 畑 憲治(首都大)・大澤剛士(農環研)・平館俊太郎(農環研)・可知直毅(首都大)

P2-386 衛星データによる土地被覆分類を活用した土壌呼吸変化の広域マッピング *井上智晴, 永井信, 鈴木力英(JAMSTEC)

P2-387 被災から5 成育期目の南蒲生 / 砂浜海岸エコトーンにおける多様な立地と更新樹木集団 *平吹喜彦(東北学院大), 菅野洋(東北緑化環境保全), 鈴木建司朗・佐藤愛実・鈴木大駿・佐々木将(東北学院大), 岡浩平(広島工業大), 富田瑞樹・原慶太郎(東京情報大)

P2-388 徳島県北の脇地区の海岸クロマツ林の利用変化と林分構造 *佐々木剛, 朝波史香, 吉川貴之, 藤永真人, 鎌田磨人(徳島大・工・建設)

P2-389 レーダを用いた樹木根系の非かく乱調査 一海岸クロマツ個体の水平根の広がり一 大橋瑞江*(兵県大), 池野英利(兵県大), 柿添哲也(兵県大), 山瀬敬太郎(兵森技セ), 谷川東子(森林総研), 檀浦正子(京大), 藤堂千景(兵森技セ), 平野恭弘(名古屋大)

P2-390 農地景観における鳥類の個体数と土地利用の関係の推定 一耕作放棄地に注目して一 *埴岡雅史(北大院・農), 山浦悠一(森林総研・植生), 先崎理之, 中村太士(北大院・農)

P2-391 Valuation of Ecosystem Services Provided by "Blue Carbon" *Rejaul Islam(横浜国立大学), Hiroyuki Matsuda(横浜国立大学)

P2-392 優占種の導入時期と導入方法が種多様性に配慮したチガヤ草地の成立植生を大きく変える *山田晋(東大・農), 根本正之(東大・農/明大・農)

P2-393 淡路島南部における過去 70 年間の生態系サービスの評価 *森野真理, 吉備国際大学

P2-394 石狩低地帯南部小河川における沈水性水生植物群落の復元 *櫻井 善文(札幌市立大院), 矢部 和夫(札幌市立大)

P2-395 土地利用履歴の違いが二次林の生物多様性に及ぼす影響 *原口岳, 滝久智, 長谷川元洋, 北岡哲, 松浦俊也, 服部力, 五十嵐哲也, 佐藤保, 岡部貴美子(森林総研)

P2-396 気候変動がモンゴルの社会一生態システムへ与える影響の評価 *柿沼薫, 柳川亜季(東工大・理工), 佐々木雄大(千葉大・理), 鼎信次郎(東工大・理工)

P2-397 海洋島のメタ生態系モデル: 土壌環境の不均質性の導入 *吉田 勝彦(国立環境研・生物), 畑 憲治(首都大院・理工・生命), 川上 和人(森林総研・野生動物), 平館 俊太郎(農環研・生物多様性), 大澤 剛士(農環研・農業環境インベントリーセンター), 可知 直毅(首都大院・理工・生命)

P2-398 沿岸域の水質改善に伴う生態系サービスの劣化対策 堀 正和・濱岡秀樹・佐藤允昭(水研センター・瀬戸内)・廣田将仁・牧野光琢(水研センター・中央)

P2-399 深海生態系を評価する指標の選択と解析手法について *山本啓之, 山北剛久, 内船芳江, 中嶋亮太, 藤倉克則(海洋研究開発機構)

P2-400 ナイロビ都市林における薬用樹木の多重利用の影響 *古川拓哉(森林総研), S. Kiboi, P.B.C. Mutiso(ナイロビ大), 藤原一繪(横浜市大)

P2-401 釧路地方中央部においてエゾシカの採食が森林植生に及ぼす影響 *松山周平(酪農大・環境共生), 館野隆之輔(京大・フィールド研), 今田省吾(環境技研・環境影響), 吉岡崇仁(京大・フィールド研)

P2-402 伊吹山頂草原植物群落(天然記念物)のニホンジカによる変化と対策 野間直彦, 橋本果奈, 安原 輝, 稗田真也, 渡部俊太郎(滋賀県大), 石田未基(琵琶湖博物館), 森小夜子(近江ウェットランド研究会), 高柳 敦(京大)

P2-403 放置里山林における森林再生を考慮した資源利用の検討 北川皓平, 堀田佳那, 木原健雄, 新良貴歩美, 石井弘明, *黒田慶子(神戸大・農)

P2-404 古土地利用図とプロセスモデルを用いた広域生態系サービス評価 *大場真(国立環境研), 林希一郎(名大未来材料・システム研), 伊東英幸(日大理工)

P2-405 鳥取砂丘におけるドローンを用いた動物調査手法開発の試み *伊藤健彦(鳥取大・乾地研), 門脇知弘(鳥取大・地域), 永松大(鳥取大・地域)

P2-406 長期植生モニタリングデータを用いた釧路湿原におけるシカの影響評価 *島村崇志, 稲富佳洋, 西川洋子, 宇野裕之(道総研環境研), 日野貴文, 宮木雅美, 吉田剛司(酪農学園大)

P2-407 天然更新を進めるためのササの抑制操作実験一実験開始3年間の結果一 *齋藤智之(森林総研東北), 酒井武(森林総研), 壁谷大介, 九島宏道(森林総研多摩), 杉田久志(森林総研四国), 久保喬之(木曾森林管理署)

P2-408 石垣島における生態系サービスの利用とその管理施策の差についての研究 石井誠一(横浜国大・環境情報), 牧野光琢(中央水研), 西嶋翔太, *松田裕之(横浜国大・環境情報)

P2-409 湿原におけるシカの季節移動と日周行動を解明し効果的な管理を目指す *吉田剛司, 日野貴文, 吉田遼人, 上井達矢, 五十嵐守, 佐藤温貴(酪農学園大), 村井拓也, 立木靖之, 赤松里香(EnVision), 小林聡(釧路公立大), 島村崇志, 長雄一, 稲富佳洋, 上野真由美, 宇野裕之(道総研環境研)

P2-410 在データを用いた生態系解析における異なるサンプル数における差異の研究 *林悦子(東京都市大), 西林直哉(東京都市大), 北村亘(東京都市大)

P2-411 生態系減災機能評価を目標とする生態系インフラストラクチャー環境情報システム構築の試み *土光智子(慶大), 陳文波(慶大), 佐々木恵子(ギーセン大), 古谷知之(慶大)

P2-412 林床植生の被度と種数は単調減少するのか - 大阪府内二次林におけるシカ生息密度との比較 - *幸田良介, 辻野智之, 土井裕介(大阪環農水研)

ポスター発表 3月24日(木) 10:00-16:00

(展示棟 Poster Hall # : ポスター賞対象発表)

P2-413 生物指標を用いた都市環境の評価—Citizen Scienceへの応用 大石善隆*, 日浦勉 (北大・研究林)

外 来 種

P2-414 琵琶湖における外来魚オクチバスの侵入が在来魚食魚ハスに与えた影響 * 角田裕志 (埼玉環境科学セ), 大平充 (農工大・農), 浦野隆弘 (元農工大・院・農)

P2-415 埼玉県の荒川及び新河岸川の感潮域で発見された特定外来生物イガイ科カワビバリガイについて * 金澤光 埼玉環境科学国際センター

P2-416 アメリカミンクの管理について 伊原禎雄 北教大

P2-417 アルゼンチンアリの好きな木、嫌いな木 瀬古祐吾, 西野博志, 澤島拓夫, * 早坂大亮 (近畿大・農・環境管理)

P2-418 侵略的外来樹木ストロベリーグアバが林床の有機物分解過程に及ぼす影響 * 榎木勉 (九州大・演習林), Drake DR (Univ. Hawaii)

P2-419 東京港埋立地における外来ハナムグリ類の生態 * 岸本圭子 (新潟大・CTER), 酒井香 (大田区), 太田祐司 (東京港埠頭(株)), 寺山守 (東大・農), 岸本年郎 (ふじのくに地球環境史ミュージアム), 高桑正敏 (横浜市)

P2-420# ダム有り河川におけるテレメトリデータを活用したチャンネルキャットフィッシュ小規模個体群の動態モデリング * 吉田誠, 佐藤克文 (東大大海研), 山本大輔 (矢作川研)

P2-421 特定外来生物ツマアカスズメバチの生態的特性にもとづいた防除戦略 * 岸茂樹, 五箇公一 (国立環境研)

P2-422 階層ベイズモデルを用いたセアカゴケグモによる海浜性昆虫への捕食圧推定 * 高木 俊 (兵庫人博)

P2-423 ニートリア対策の成果と課題—捕獲開始後13年目の状況から 森生枝 (岡山県自然保護センター)

P2-424 外来種アライグマ対策の現状と課題 * 池田透, 鈴木嵩彬 (北大・文)

物 質 循 環

P2-425 冷温帯落葉広葉樹林において個葉レベルの分光特性の季節変動が群落の分光反射率に与える影響の解析 * 野田響 (国環研・地球C), 奈佐原顕郎 (筑波大・生命環境), 村岡裕由 (岐阜大・流域圏セ)

P2-426 浅い湖沼におけるハス群落拡大がメタン濃度にあたる影響 * 鹿野秀一 (東北大・東北アジア), 迫裕樹 (東北大・生命), 嶋田哲郎 (伊豆・内沼環境保全財団)

P2-427 葉群フェノロジーの樹種特性が樹液流速の季節変化に及ぼす影響 * 斎藤琢 (岐阜大)・Otieno Dennis (バイロイト大)・梅林利弘 (北海道大)・野田響 (国環研)・Jung Eunyoung (バイロイト大)・村岡裕由 (岐阜大)・Tenhunen John (バイロイト大)・永井信 (JAMSTEC)

P2-428 高緯度北極ミツコビカモメ営巣崖の崖錐土壌の高い硝化・脱窒能 * 林健太郎 (農環研), 田邊優貴子 (極地研), 小野圭介 (農環研), Maarten JJE Loonen (フローニンゲン大), 内田雅己 (極地研), 早津雅仁 (農環研)

P2-429 冷温帯落葉広葉樹林における土壌CO₂フラックスと土壌CO₂濃度の関係 * 小野賢二 (森林総研東北), 安田幸生, 阪田匡司 (森林総研), 森下智陽 (森林総研四国)

P2-430 南極の貧栄養湖沼の湖底マット内への栄養塩困り込みメカニズム 田邊優貴子 (極地研), 水野見子 (名古屋大・地球水循環セ)

P2-431 降水量操作下における植物多様性—分解の関係性 * 岡田慶一 (横浜国大・環境情報), 藤井佐織 (アムステルダム自由大), 森章 (横浜国大・環境情報)

P2-432 粗大有機物分解研究における呼吸速度の扱い方 上村真由子 (日大生物)・小南裕志 (森林総研関西)

P2-433 北極ツンドラ湿地生態系における生態系純生産量の推定 * 内田雅己 (極地研・総研大), 廣田充 (筑波大・生命環境系), 岸本 (莫) 文紅 (農環研), 神田啓史 (極地研), 大浦典子 (農環研), 飯村康夫 (滋賀県立大・環境科学), 中坪孝之 (広大院・生物圏)

P2-434 37年間NP施肥を続けたトドマツ林における土壌CO₂フラックスとリター分解速度 * 橋本徹, 相澤州平, 伊藤江利子 (森林総研北海道)

P2-435 北浦生態系における水銀濃度分布調査 * 苅部甚一 (茨城大・広域水圏セ), 武内章記 (国環研)

P2-437 窒素施肥により落葉広葉樹林の土壌呼吸および地下部炭素動態はどう変化するか? * 片山歩美 (九大), 牧田直樹 (森林総研), 高木理恵 (北大), 李 眞 (北大), 安宅未央子 (京大), 中路達郎 (北大), 日浦勉 (北大)

P2-438 スギコンテナ苗における施肥が成長と養分収支に及ぼす影響 近藤晃, 袴田哲司 (静岡森林研セ)

P2-439 福島県の淡水水生生物における放射性セシウムの移行係数推定 石井弓美子, 仁科一哉, 林誠二 (国環研・地域セ)

P2-440 Incorporating mechanisms of atmospheric nitrogen into the canopy-soil continuum of an urban forest in Japan Shi, J. (Univ. Tokyo), *Ohte, N., Tokuchi, N. (Kyoto Univ.), Imamura, N., Nagayama, M., Oda, T.

P2-441 メコン川流域ダム貯水池の水質とその変動 * 広木幹也, 富岡典子, 福島路生, 村田智吉 (国立環境研), Tuanthong Jutagate (Ubon Ratchathani Univ.), 今井章雄, 小松一弘 (国立環境研)

P2-442 落葉樹41種のリターが土壌の炭素と窒素の無機化に及ぼす影響と植物の成長戦略の関係 * 上田実希 (東北大・生命), 黒川絃子 (森林総研), 川邊瑞穂, 中静透 (東北大・生命)

P2-443 溶存物質および生物の多元素同位体組成が示す生態系情報: 東北太平洋岸地域の例 * 陀安一郎, 由水千景, 松林順, 加藤義和, 長田穰, 奥田昇, 齊藤有, 申ギョウ, 中野孝教 (地球研), 神松幸弘 (立命館大), 近藤倫生 (龍谷大), 富樫博幸, 天野洋典, 栗田豊 (東北水研)

P2-444 ハス群落内部におけるユスリカ幼虫へのメタン食物連鎖の寄与の季節変動 * 安野翔 (仙台市), 迫裕樹 (東北大・院・生命), 鹿野秀一 (東北大・東北アジア研), 芦澤淳, 藤本泰文, 嶋田哲郎 (伊豆沼財団), 菊地永祐 (宮教大)

P2-445 間伐強度の異なるスギ林の表層土壌における放射性セシウムの分布状況: 3年間の変化 関根 綾・榎並麻衣 #・宇野 亨・田島亮介・伊藤豊彰・菅野均志・高橋 正・齋藤雅典 (東北大・農, #現・新潟県)

P2-446 高緯度北極湿原におけるCH₄, N₂Oフラックスの空間および季節変動 * 大浦典子, 岸本 (莫) 文紅, 米村正一郎 (農環研), 廣田充 (筑波大・生命環境), 飯村康夫 (滋賀県立大・環境科学), 内田雅己 (極地研・総研大), 増本翔太 (極地研), 中坪孝之 (広大院・生物圏)

P2-447 マングローブ林における有機物分解: 潮汐の影響を考慮した堆積物からの無機態炭素放出速度の測定 * 吉竹晋平 (岐阜大・流域セ), 友常満利 (神戸大・院・農), 大塚俊之 (岐阜大・流域セ)

P2-448 放射性炭素同位体による海草の大気由来CO₂同化

ポスター発表 3月24日(木) 10:00-16:00

(展示棟 Poster Hall # : ポスター賞対象発表)

の定量化 * 渡辺謙太, 桑江朝比呂 (港空研)

P2-449 自然レベル放射性炭素同位体を用いた北極永久凍土融解に伴う土壌炭素分解の実態解明 * 近藤美由紀 (国環研), 大塚俊之 (岐阜大・流研セ), 米村正一郎 (農環研), 吉川謙二 (アラスカ大), 田邊潔, 内田昌男 (国環研)

P2-450 茶園土壌からのN₂Oフラックスの季節変動とその要因の解析 * 廣野祐平 (農研機構), 佐野智人, 野中邦彦

P2-451 森林生態系における福島第一原発事故由来の¹³⁷Cs総量推定 * 宮田能寛 (千葉大・理), 村上正志 (千葉大・理), 石井伸昌 (放医研), 田野井慶太郎 (東京大・農), 大手信人 (京都大・情報)

P2-452 茶園における群落構造と植物現存量の関係 佐野智人, 松永明子, 廣野祐平, 野中邦彦, 堀江秀樹 (農研機構 茶茶研)

P2-453 スギーヒノキアスナロ林における物質収支 馬場光久*1・木村文哉1・井熊朋実2・眞家永光1・高松利恵子1・杉浦俊弘1 1: 北里大学獣医学部 2: 北里大学大学院獣医学系研究科

P2-454 屋久島森林生態系における土壌栄養塩可給性の標高変化に伴う根細動態 * 向井真那 (京大・農), 相場慎一郎, 澤田佳美 (鹿大・理工), 北山兼弘 (京大・農)

P2-455 石垣島吹通川河口マングローブ林堆積泥における有機炭素の蓄積量と起源推定 * 飯村康夫 (滋賀県大・環境), 大塚俊之 (岐阜大・流域圏)

P2-456 施肥条件と品種に着目したポット試験による水稲-土壌系の窒素収支の評価 * 荒井見和, 常田岳志, 長谷川利祐, 林健太郎 (農環研)

P2-457 N₂O発生と発生機構の短期的時間変化: 発生源としての作物残渣の重要性 * 山本昭範 (東京学芸大), 秋山博子, 中島泰弘, 星野 (高田) 裕子 (農環研)

P2-458 スギの植林が集水域内の金属イオン物質動態を変える * 太田民久, 日浦勉

P2-459 青海チベット高原における長期研究: 夏放牧区における群集レベルのCO₂フラックス特性 * 廣田充 (筑波大・生命環境系), 西村貴皓 (筑波大・院・持続環境学), 万銘海 (筑波大・院・環境科学), 杜明遠 (農環研), 李英年 (中科院・西北高原生物研究所), 唐艶鴻 (国環研)

P2-460 亜熱帯マングローブ林における粗大有機物(CWD)の分解呼吸特性 * 友常満利 (神戸大・院・農), 大塚俊之 (岐阜大・流研セ), 新海恒, 墨野倉伸彦 (早稲田大・院・先進理工), 小泉博 (早稲田大・教育)

P2-461 間伐とその翌年の新稈加入によりモウソウチクの林分蒸散に生じた変化 * 市橋隆自 (香大・農)

P2-462 立木密度の異なるスギ人工林における窒素利用様式の変動 * 稲垣善之 (森林総研四国), 野口享太郎, 平井敬三, 金子真司 (森林総研)

P2-463 土壌水中の無機態窒素の安定同位体分析による異なる土壌水分環境に生育するヒノキの窒素吸収源の推定 大石有美, * 佐藤和弥 (三重大・生物資源), 松尾奈緒子 (三重大院・生物資源), 矢野翠, 角和暁, 木庭啓介 (東農工大・農), 勝山正則 (京大・学際融合), 山本浩之, 鶴田健二, 小杉賢一郎, 小杉緑子 (京大・農)

P2-464 寄生虫の安定同位体比は寄生組織を反映しているか? 神谷英里 (滋賀県大・環境), * 浦部 美佐子 (滋賀県大・環境), 奥田昇 (京大・地環研)

P2-465 埋没腐植層の有機物は安定か? - 土壌微生物の分解活性ポテンシャルから読み解く - * 早川智恵 (東大院・農), 藤井一至 (森林総研), 妹尾啓史 (東大院・農)

P2-466 泥炭湿地で生業を営む村民のミネラル摂取-パブリックアニュアル東セビック州クラインビット村の事例から- * 梅村光俊, 竹中千里 (名大院・生命農), 村山伸子 (新潟県大・人間生活), 夏原和美 (日赤秋田看護大), 池口明子 (横国大・教育人間), 小野映介 (新潟大・教育), 小山智之 (海洋大院・海洋科学技術), 宮川修一 (岐大・応生), 野中健一 (立教大・文)

P2-467 どのような森林で土壌・枯死木の炭素プールは大きくなるのか? - 土壌インベントリデータの解析 - * 大曾根陽子 (森林総研), 南光一樹 (森林総研), 鶴川信 (鹿児島大) 田中永晴 (森林総研), 三浦寛 (森林総研), 大貫靖浩 (森林総研), 平井敬三 (森林総研), 石塚成宏 (森林総研), 酒井佳美 (森林総研), 酒井寿夫 (森林総研), 今矢明宏 (森林総研), 橋本昌司 (森林総研), 金子真司 (森林総研)

P2-468 森林生態系の栄養塩動態における火山灰加入の影響 源六孝典*, 小野田雄介 (京大・農・森林生態), 丹羽慈 (自然研), 饗庭正寛, 黒川紘子 (東北大・生命科学), 北山兼弘 (京大・農・森林生態)

P2-469 気仙沼湾沿岸における溶存態有機物の起源とその時空間変化 * 福島慶太郎, 富田遼平, 横山勝英 (首都大・都市環境)

P2-470 霧と雨による山地森林への水・物質流入量の空間変動解析 * 堅田元喜 (原子力機構), 山口高志 (道総研), 堀江洋佑 (兵庫環境研), 小林禱樹 (兵庫環境研), 藍川昌秀 (兵庫環境研), 平木隆年 (兵庫環境研)

生態学教育・普及

P2-471 生態学における社会コミュニケーション——理論と実践 多田満 (国立環境研)

P2-472 平成25年「博物館総合調査」に見る日本の自然史標本の現状とその研究・管理体制 大阪自然史博

P2-473 市民活動による里山の植物種多様性モニタリング～7年間から得た教訓 * 伊藤浩二 (金沢大・里山里海プロジェクト), 萩野由紀 (まるやま組), 中村浩二 (金沢大・里山里海プロジェクト)

P2-474 奄美大島の小学校校庭に生育する維管束植物の多様性 川西基博 (鹿児島大・教育)

P2-475 地域の生物情報ネットワーク構築における大学の取り組みと課題について * 山岸洋貴, 中村剛之, 石川幸男 (弘前大・白神)

P2-476 グーグルアースの画像を使って何が出来るか? - ダム湖の水の色を決める要因を探る - * 笹木 義雄・徳重 颯 (柳学園中学・高校)

P2-477# 北海道苫小牧市における市民参加型タンポポ調査の事例 * 小玉愛子 (苫美博), 村上隆 (苫博友の会), 2014 苫小牧タンポポ調査メンバー

P2-478 企業が取り組む地域の生物多様性モニタリングと保全活動への展開～横浜ゴム株式会社の活動を事例に～ * 北澤哲弥 ((株)エコロジーパス), 永石文明 ((株)エコロジーパス)

高校生ポスター発表 3月21日(月)12:00-14:00

(展示棟 Poster Hall # : ポスター賞対象発表)

- PH-001# 雑木林の土の中にはどのような種子があるか?** *後藤 遼太, *岡本 泰崇, *佐々木 洗大, 関口 伸一 (海城中学高等学校生物部)
- PH-002# 有機栽培水田におけるケイソウの個体数変化** *富加津 柚奈, 野崎 真史 (群馬県立高崎女子高校)
- PH-003# 観音山総合研究 1 観音山ニッコウキスゲはどこから来たか?** *橋本 実希, *太田 直輝 (埼玉県立熊谷西高校)
- PH-004# 動く植物の就眠運動の研究** *山岡 歩美, 青本 沙也, 國安 里衣 (ノートルダム清心学園清心女子高等学校)
- PH-005# 解明しよう!! マングローブの葉の不思議!! ~マングローブ植物の葉についての調査研究~** *下田 凜太郎, *菅野 琴 (東京都立科学技術高校スーパープロジェクト IRIOMOTE)
- PH-006# CO₂ をより多く吸収するのは天然林か人工林か?** *郷原 雪枝, 加茂 優奈, 秋山 繁治 (ノートルダム清心学園清心女子高等学校)
- PH-007# 伊豆大島の植生遷移と土壤動物との相関性** *勝島 可奈子, 近藤 美波 (東京都立国分寺高校)
- PH-008# 無葉緑植物ギンリョウソウと外生菌根菌の共生関係** *越智 匠海, *菅原 麻由, 佐藤 直, 中陣 遥香, 日下 真帆, 中桐 悠一郎, *岡田 和夫, 森本 建, 東 優樹 (立命館慶祥高等学校)
- PH-009# 矛盾する? タンポポ「環境指標性」日高地方のタンポポ調査より** 濱田 真衣子, 小山 桃葉, 佐藤 誠洋, *小林 美佑, *小出 明日香, *望月 春菜, 山下 二千愛, 花光明, 原 幸日, 清水 理 (和歌山県立日高高等学校)
- PH-010# 環境の違いにおけるヘマトコッカスの状態変化** 菅原 玲 (埼玉県立川越女子高校)
- PH-011# 土壌からみるマングローブ域の物質循環 ~マングローブ林土壌と林外土壌の比較研究~** 阿部 隼人 (東京都立科学技術高校スーパープロジェクト IRIOMOTE)
- PH-012# 竹粉を使ったきのこ栽培** *青本 沙也, *國安 里衣 (ノートルダム清心学園清心女子高等学校)
- PH-013# 変形菌の研究 変形体の「自他」を見分ける力** 増井 真那 (東京都立小石川中等教育学校)
- PH-014# 光は微生物の増殖に影響を与えるのか?** *保坂 京花, 野崎 真史 (群馬県立高崎女子高校)
- PH-015# 嗜好飲料の摂取によるハツカネズミの血糖値上昇の変化** 渡邊 葵乃 (横浜市立横浜サイエンスフロンティア高等学校)
- PH-016# 揖斐川水系支流におけるイワナとアマゴの属間雑種の解析** *森本 早稀, *北村 拓斗, 後藤 暁彦, 丹羽 大樹, 神戸 朱琉, 前田 晃太郎, 江崎 正英, 久富 匡皓, 小島 瑛希子, 後藤 那月, 佐賀 美月, 高山 あまね, 塩谷 祐貴, 岡田 翔吾, 鷺見 太樹, 坪井 玲, 八戸 啓太, 矢島 佳依 (岐阜市立岐阜高等学校)
- PH-017# 豊橋市の干潟に生息する底生生物の研究** *濱口 青空, 村本周平, *河合 団平, *谷川 琢磨, *坂本 さくら (愛知県立豊丘高校自然科学愛好会), 井上 亮太 (愛知県立豊丘高校)
- PH-018# 日本産サケ科魚類イワナ *Salvelinus leucomaenis* の背面部白色斑紋と地理的分布の関係** *松田 空, *門田 啓, *中村 彰甫 (成蹊高等学校), 荒井 靖志 (成蹊中学高等学校生物科研究室)
- PH-019# 日高地方のメダカの生態について** *中 光咲, 沼野 加奈, *濱田 真衣子, 小山 桃葉, 梶本 明宏, 松見 弦, 中井 大五, 橋本 佳多朗, 中前 勝吾, 清水 理 (和歌山県立日高高等学校)
- PH-020# 南日本における港のアリの地域間比較** *新有留 茜, *若松 良衣, 原田 豊 (池田学園池田高等学校)
- PH-021# 静岡県巴川流域におけるカメ類の生息状況とカメラと人との関わりについてのアンケート調査** *宮城 加菜, *佐野 瑞姫, 大塚 宗汰, 三浦 結 (静岡北高等学校)
- PH-022# 新河岸川の外来種カワリヌマエビ属の侵入** 菅原 玲, 伊藤 萌, *堀越 えみ, *富田 大愛, *中里 陽子, 安藤 華蓮 (埼玉県立川越女子高校)
- PH-023# 守れ! カスミサンショウウオ~保護活動の推進と生殖行動の解析~** *神戸 朱琉, *前田 晃太郎, *岡田 翔吾, 後藤 暁彦, 丹羽 大樹, 江崎 正英, 久富 匡皓, 小島 瑛希子, 後藤 那月, 佐賀 美月, 高山 あまね, 森本 早稀, 塩谷 祐貴, 北村 拓斗, 鷺見 太樹, 坪井 玲, 八戸 啓太, 矢島 佳依 (岐阜県立岐阜高等学校)
- PH-024# 埼玉県東部へのアライグマの広がり** 原田 愛華 (埼玉県立越ヶ谷高校)
- PH-025# 行動学的視点から考えるネズミの生態** 中武 泰成 (横浜市立横浜サイエンスフロンティア高等学校)
- PH-026# 狭山丘陵の谷戸におけるアメリカザリガニの生活史** *長井 孝彦, *吉野 舜太郎, *川口 建, *吉岡 凜太郎, 関口 伸一 (海城中学高等学校生物部)
- PH-027# 環境 DNA を用いたミシシippアカミミガメの生息分布調査** *千古 晴菜, *瓶内 ひなた, *松谷 朱莉, 安藤 一喜, 高橋 真, 藤井 大地, 藤江 祐哉, 脇外 真穂 (兵庫県立加古川東高校)
- PH-028# 伊豆大島の植生遷移と生息するアリ** *膳 若菜, 後長 加奈絵, 安川 優紀 (東京都立国分寺高校)
- PH-029# ヨモギタマバエの虫えいに多型現象はあるか?** *千葉 汀, *深堀 宗一郎, *佐藤 杏香 (宮城県仙台第三高校)
- PH-030# ムササビの活動時間の研究 -自作センサーを中心とした測定の試み-** *池谷 友佑, *梶谷 鞠江, *三宅 桃葉, 岡崎 弘幸 (中央大学附属高等学校)
- PH-031# ネオニコチノイド系農薬イミダクロプリドがミジンコに与える影響** 森永 康寛 (東京都立戸山高校)
- PH-032# ニホンザル群におけるグルーミングの影響 ~高崎山と幸島の比較~** *牧 尚澄, 古田 朋綺, *金田 海愛, 清嶋 美保子, 宮永 将喜, *深田 幸平 (大分舞鶴高校)
- PH-033# チャネルキャットフィッシュの環境嗜好性** *千葉 利久, 阿久津 春人 (東京都立国分寺高校)
- PH-034# チームアライグマのこれまでの活動~高校で連携して外来生物問題を考える~** *岩木 れん (埼玉県立越谷北高等学校), *黒田 峻平, *大塚 悠宇馬, *伊藤 太郎 (海城中学高等学校), 菅原 玲 (埼玉県立川越女子高等学校), 小川 岳紘 (埼玉県立熊谷西高等学校), 原田 愛華 (埼玉県立越ヶ谷高等学校), 佐藤 翔太 (埼玉県立坂戸西高等学校), 和知 英太 (埼玉県立所沢西高等学校), 中村 早希 (埼玉県立飯能高等学校), 高山 凌 (埼玉県立蕨高等学校)
- PH-035# サシバの秋の渡りにおける飛行戦略Ⅱ—飛行パターンから秋の渡りを考えた—** *松岡 朋寛, *橋本 悠平, 橋越 清一 (愛媛県立南宇和高等学校)
- PH-036# クラゲの生態** *秋田 陽美, *川尻 晴菜, 辰巳 綾理 (大阪府立住吉高等学校)
- PH-037# カワニナを通して考える地域の生態系Ⅱ** *櫻井 基樹, *中島 拓哉, *二村 勇輔, *細川 城太郎, *矢島 亮太 (岐阜県立岐山高校)
- PH-038# アリの道しるべフェロモンの分析** 今飯田 果歩 (横浜市立横浜サイエンスフロンティア高等学校)

高校生ポスター発表 3月21日(月)12:00-14:00

(展示棟 Poster Hall # : ポスター賞対象発表)

PH-039# アライグマが好む生息条件と周辺住民の意識調査

*佐藤 翔太, *渋谷 祐貴, *福田 龍, 石垣 翔大, 河野 和,
茂手木 信斗 (埼玉県立坂戸西高校)

PH-040# アブラムシ防除における最適条件 越智 匠海, 菅

原 麻由, *佐藤 直, 中陣 遥香, 日下 真帆, 中桐 悠一郎, 岡田
和太, *森本 建, *東 優樹 (立命館慶祥高等学校)

W01 植物と昆虫の共進化から生物群集の形成過程をさぐる

企画責任者：井坂友一（北大・FSC）、上田昇平（大阪府大・生命）、水澤玲子（福島大・人文）

生物群集とは特定の地域に生きる生物たちの集まりであり、それぞれの生物がどのような種で構成されるか？（群集構造）、どのようなつながりを持つか？（種間相互作用）を解明することは、群集生態学において最も重要な研究テーマのひとつである。群集構造と種間相互作用は互いに密接に関連しており、種間の競争・共生からうまれる相互適応（共進化）は群集を形成する種の構成に強い影響を与える。生物群集を構成する各種は周囲をとりまく環境への「適応」を経ているので、生物群集の形成過程をさぐる上で適応を問う進化生物学的なアプローチは重要である。生物は、多種との相互作用や環境の変化に対応した迅速な小進化により表現型を変化させ、小進化の積み重ねは長い時間スケールで生じる大進化へとつながる。本集会では、水澤ら・後藤らが群集生態学、井坂ら・上田らが分子系統学、鈴木らが分子遺伝学のアプローチといった、幅広い進化スケールの話題を提供し、植物-昆虫間の共進化が生物群集の形成過程にどのような影響を及ぼすかを議論する。

コメンテーター：大島一正（京都府大・生命環境）

クサギの花に集まる昆虫群集

* 水澤玲子（福島大・人文）、瀧本岳（東大・農）、山崎理正（京大・農）、井鷲裕司（京大・農）、長谷川雅美（東邦大・理）

花上捕食者相の季節変化

* 後藤柚香（福島大・人文）、水澤玲子（福島大・人文）

ハバチ上科の系統と種多様性

* 井坂友一（北大・FSC）、佐藤利幸（信州大・理）

アリ植物をめぐる生物たちのつながりの歴史

* 上田昇平（大阪府大・生命）、小松貴（九州大・熱農研）、乾陽子（大阪教育大・教養）、清水加耶（京都大・生態研）、市岡孝朗（京都大・人環）、篠田瑞生（信州大・理）、市野隆雄（信州大・理）、山岳研）

チョウ類のホストレンジを決定する遺伝的基盤

* 鈴木啓（東北大・生命）、牧野能士（東北大・生命）、尾崎克久（JT生命誌研究館）、矢嶋俊介（東農大・応用生物）、内山博允（東農大・ゲノム解析）、河田雅圭（東北大・生命）

W02 草原性生物の保全生態学 — DNA 情報がもたらす新たな保全の観点—

企画責任者：内田圭（東大院・総合文化）、山本哲史（神戸大院・人間発達）

草原性生物は、草原面積の減少およびその質の変化により減少し続けており、世界的に草原生態系の生物多様性は保全すべき対象として注視されている。日本においても激減する草原の保全は喫緊の課題となっており、草原性生物の保全を目的とした群集生態学や景観生態学など、多数の研究が進められている。

しかし、従来の野外調査のみの研究では、景観の変化にともなう集団の遺伝的多様性の変化や、捕食-被食といった相互作用などを明らかにすることは困難であった。DNA シーケンシングやジェノタイピングなどの分子手法はすでに生態学において一般化しており、さらに次世代シーケンサーを用いたメタバーコーディング

ィング解析も普及しつつある。これらの技術がもたらす情報は、生物集団の生態的・遺伝的・歴史的特性を明らかにすることができ、保全にも大きく貢献すると考えられる。

本集会では、これらの技術でもたらされた DNA 情報をもとに草原の減少およびその質の変化が草原性の植物および昆虫に与える影響を検証した研究を紹介する。さらには森林生態系で議論されている研究内容と比較することで、今後の草原性生物の保全には何が必要なのか、といった発展を視野に入れた議論を展開したい。

企画者：内田圭（東大院・総合文化）、山本哲史（神戸大院・人間発達）

まとめと討論 司会：山本哲史（神戸大院・人間発達）

半自然草地の現状とその生物多様性の減少

丑丸敦史（神戸大院・人間発達）

開花結実期の草刈りが絶滅危惧草本の遺伝的多様性を減少させる

中浜直之（京大院・農）、内田圭（東大院・総合文化）、丑丸敦史（神戸大院・人間発達）、井鷲裕司（京大院・農）

半自然草地の分断化と草原性マルハナバチの遺伝的多様性

田中洋之（京大・霊長類研究所）

絶滅危惧種アカハネバットの減少要因の解明—メタバーコーディングを用いた食草解析

内田圭（東大院・総合文化）、山本哲史（神戸大院・人間発達）

植物群集を対象とした遺伝的地域性の保全へ—比較系統地理からのアプローチ

岩崎貴也（京大・生態研）

自由集会

3月21日 17:30-19:30

会場 RoomC

W03 藻類の多様性から迫る生物進化と生態・環境

企画責任者：別所和博（ブリティッシュコロンビア大学/海外特別研究員）、富樫辰也（千葉大学）、城川祐香（東京大学/特任研究員）、吉山浩平（滋賀県大・環境）

藻類は光合成を行う様々な分類群の生物を含む多系統のグループであり、それ故一口に藻類といっても、体制、形態、生活史、生活環境などについて非常に幅広い多様性をもつ。このような特徴などから、藻類は従来の進化生態学で主な研究対象とされてきた陸上動植物では観察が難しい形質の進化・生態について考えるためのモデル生物として着目されてきた。

本集会では、藻類という分類群を対象として、進化生態学的な研究を行っている方に、対象としているシステムの特徴や、それらを理解する為の取り組みをご紹介頂き、藻類研究を通してこれからの進化生態学に、どのような発展がもたらされていくのかについて考えたい。

講演では、別所氏が大型藻類の生活環進化についてを、富樫氏が緑藻類における異型配偶子接合システムの進化についてを、城川氏が珪藻における性比調節と殻形態の量的形質の遺伝についてを、吉山氏が微細藻類における細胞サイズの進化について話題を提供する。

コメンテーター：山内淳（京大・生態研センター）

大型藻類生活環における haploid/diploid 世代相対サイズの進化についての理論的検討

* 別所和博（ブリティッシュコロンビア大学/海外特別研究員）、Sarah P. Otto（ブリティッシュコロンビア大学）

海産緑藻配偶システムの進化に見る偶然と必然

* 富樫辰也 (千葉大学)

細胞系譜がつくりだす異質性と進化：珪藻の有性生殖と量的形質の遺伝

城川祐香 (東京大学 / 特任研究員)

資源競争における微細藻類の最適細胞サイズ

* 吉山浩平 (滋賀県大・環境)

自由集会

3月21日 17:30-19:30

会場 RoomD

W04 かしこく使おう UAV & 空撮画像技術

企画責任者：岩崎亘典 (農環研), 古川泰人 (北大院・農)

UAV (Unmanned Aerial Vehicle)、マルチコプターまたはドローンと呼ばれる、小型軽量の飛行体の利用が、急激に進んでいます。これらの機器は、従来の航空写真撮影に比べて、安価かつ機動的な運用が可能であり、生態学を初め多くの分野での活用が期待されています。一方で、報道にもあるような事件や事故の発生、改正航空法による飛行可能範囲や時間の規制など、その利用にあたっては注意が必要になってきています。また、UAVに限らず、様々な手法で撮影された空撮画像をどの様に活用するかについても、まだまだ検討が必要です。

そこでこの自由集会では、マルチコプターの専門家や、取得した画像の処理の専門家、実際の生態学研究でUAVを使われている方に話題提供を頂き、UAVを問題を起こすことなく、かしこく使って、生態学研究に活用する方法について、意見交換を行いたいと思います。

なお、本自由集の詳細や資料については、以下のサイトで公開予定です。

<https://sites.google.com/site/2525gis/esj63>

UAV と飛行の際の注意点 (仮)

廣瀬清一 (そら工房ドットコム), * 岩井清彦 (そら工房ドットコム)

空撮画像技術と3次元リアルタイムデータの可視化について (仮)

和山亮介 ((株) ノーザンシステムサービス)

UAV を活用した農地周辺環境の植生観測

渡邊修 (信州大・農)

自然環境調査における UAV の利用例

水谷貴行 (株式会社エコリス, パーズアイ・リサーチ研究会)

3軸ジンバル機構とGoProを活用した植生モニタリングカメラ

* 古川泰人 (北大院・農), 森本淳子 (北大院・農), 小林慶子 (北大院・農), 中島夕里 (北大院・農), 卜部覚 (ウラベ科学株式会社), 中村太士 (北大院・農)

出張ついでに空撮を

三島啓雄 (国環研)

自由集会

3月21日 17:30-19:30

会場 RoomE

W05 博物館の生態学 11「地域の自然の変化を誰が記録するか ー大規模災害の後でー」

企画責任者：鈴木まほろ（岩手県博）、橋本佳延（兵庫県立人と自然の博物館）

2011年3月11日の大地震と津波は、東北地方太平洋岸の生態系にも非常に大きな変化をもたらした。おそらく数百年に一度しか起こらない自然の変化を記録しようと、様々な専門家が津波被災地を訪れたが、専門的研究機関の少ないこの地域では、アマチュアを含む地元の研究者たちが果たした役割も非常に大きかった。

地域の自然に何らかの変化が起きた時、それを記述するために欠かせないのは、比較対象となる「変化以前の状態」を記録した標本や観測データであり、それらを収集しているのは、主に地元の研究者や愛好家たちである。津波後も継続された彼らの調査活動は、学術論文として広く知られることはあまりないが、数多くの研究成果の中でも重要な位置を占めている。

博物館等の社会教育機関は、地域の人々が収集した自然史資料を蓄積し活用するとともに、新たな収集の担い手を育てていくという社会的役割を担っている。東北地方太平洋岸地域にも、数こそ少ないが自然史資料を収集する博物館があり、東日本大震災の発生後、それらが担っていた役割の大きさが改めて痛切に認識されることとなった。彼らは大震災で甚大な被害を受けながらも、その役割を再び担おうと今も奮闘中である。

この集会では、津波後の宮城県において生態系の調査がどのように行われたのか、地元の研究者や愛好家の方々から3つの事例を報告していただく。「地域の自然の変化を記録する」仕事の重要性と、大規模災害によって浮き彫りとなった社会的課題を改めて見つめ直す機会としたい。

事例報告予定者：太齋彰浩（南三陸町）、杉山多喜子・葛西英明・恵美泰子（宮城植物の会）、ほか1組を予定

自由集会

3月21日 17:30-19:30

会場 RoomG

W06 感染症の生態学

企画責任者：坂本佳子（国立環境研究所）

病原体がもたらす感染症は、今や人間社会のみならず生物多様性にとっても深刻な脅威となっているがその根底には病原体の多様性の攪乱がある。生物多様性科学国際協同プログラム *Diversitas Annual Report* (2006) は、人間が熱帯林のような生物多様性の高い地域に入り込み、開発を進めることは、生物学的「貯蔵庫」の秩序を攪乱し、人間を新興感染症の危険にさらすと報告している。生物多様性は人間にとって食糧や医薬品となる遺伝子資源を提供するだけでなく、様々な病原体から人間を保護する役割も果たしているという。

問題をもたらしているのは病原体ではなく、病原体を含む生態系の共生関係をかく乱している人間活動にある。自然環境が破壊され、病原体が移送されることにより、病原体はその生息場所を失い、宿主転換を図り、人間を含む生態系に対して重大な被害を及ぼさざるを得なくなっている。人間の安全で健康な社会を守るためにも、病原体の多様性と地域固有性の理解が重要であり、感染症対策にも生態学的な視点からのアプローチが必要とされる。

本集会では、近年話題となっている人や野生生物の感染症を対象として、現状把握とともに、生態学者が取り組むべき課題について議論する。

カエルツボカビからマダニ媒介性感染症 SFTS まで～生物多様性の崩壊と感染症

五箇公一（国立環境研究所）

なぜニホンミツバチでアカリダニが流行するのか？ーグルーミング行動の解析ー

坂本佳子（国立環境研究所）

デング熱を始めとする蚊媒介感染症の生態と対策

杉山隆史（フマキラー株式会社）

甲虫寄生ダニにみる景観と寄生生物の重要な関係

岡部貴美子（森林総合研究所）

自由集会

3月21日 17:30-19:30

会場 RoomH

W07 都市における生物多様性保全の生態学的意義—新たな視点の発掘—

企画責任者：松葉史紗子（東大院・農），笠田実（東大院・農）

世界規模で都市化が進行する中、2050年には「都市」に暮らす人々は世界人口の70%にのぼることが予測されており、新たな都市域の拡大による生物多様性への負の影響が懸念されている。また、2010年に開催されたCOP10での決議を受けて、国土交通省からは「都市と生物多様性」と題した保全管理の指針が発表され、生物相が貧弱とされる都市においても、積極的に生物多様性保全が期待されるようになってきている。調整サービスや文化的サービスの提供という文脈で語られることの多い都市での生物多様性保全だが、どのような生態学的な価値が認められるのかを改めて議論し、持続可能な都市生態系機能の保全に向けた新たな視点を見出すことは、都市における生物多様性保全の後押しになると期待する。本集会では、国土スケールからみた都市における生物の保全価値や、都市生態系での生物の機能的側面などの視点から都市の生物相を捉えるとともに、都市計画・アセスメントにおける生物多様性保全の現状を紹介し、これからの都市における生物多様性保全の展開や課題について議論する。これまでにない切り口を、都市の生物多様性保全に期待できるような建設的なご意見を賜りたい。

都市における生物多様性保全のこれから

松葉史紗子（東大院・農）

人にも生物にも価値のある場所はどこか：地価と生物多様性から考える新たな保全策の提案

* 笠田実，松葉史紗子，宮下直（東大院・農）

都市生態系での物質循環

* 藤田素子，小池文人（横国）

沿岸生物多様性の推定結果を文化的サービスの評価に生かす

* 山北剛久（JAMSTEC），辻野昌広（日本生態系協会），白山義久（JAMSTEC）

これからの都市の計画・デザインに求められる生態学的視点

* 飯田晶子（東大院・工），坂巻直子（株フィールドフォーデザインオフィス），土屋一彬（東大院・農），寺田徹（東大院・工），三島由樹（株FOLK）

City Biodiversity Index（都市と生物多様性指標）による都市・地域のアセスメント

* 香坂玲，内山愉太（金沢大）

自由集会

3月21日 17:30-19:30

会場 RoomI

W08 分光観測で解き明かす植物生理生態プロセス

企画責任者: 東若菜 (神戸大・農), 鎌倉真依 (京大・農), 杉浦大輔 (東大院・理), 吉村謙一 (森林総研関西)

植物体の化学組成や生理活性に応じて変化する分光特性をセンシングする技術は、非破壊的に植物の生理的狀態を観測できる点で有効である。葉や根などの器官の分光画像から生理活性を評価する「近接センシング」から、衛星や航空機を利用して、群落から全球スケールに至る陸域生態系の機能と構造を推定する狭義の「リモートセンシング」まで、対象とする時空間スケールは非常に幅広い。

植物生理生態学においては、幅広い波長域に及ぶハイパースペクトル画像を利用した代謝物質の解析や、太陽光誘発クロロフィル蛍光を利用した生理プロセスに準じた植生全体の光合成速度の推定が注目されており、分光測定と生理生態学を統合した研究の進展が今後も期待される。

これらの技術が植物生理生態学分野においてより一般的な手法として普及していくためには、測定原理や統計モデリングによる解析手法の体系的理解や、現状の問題点や解決方策、将来的な可能性の議論は必須である。本集会では、様々な時空間スケールにおいて分光技術を利用した植物機能の評価を行っている講演者にその内容をご紹介していただき、分光観測を用いた生理生態学研究の今後の発展性について考えていきたい。

コメンテーター: 中路達郎 (北大・FSC)

近接画像分光技術を利用した革新的樹苗生産に向けた取り組み

松田修 (九大院・理)

太陽光誘発クロロフィル蛍光による生態系光合成機能の観測

加藤知道 (北大・農)

植物の生理生態的特性のリモートセンシング—個葉レベルから衛星観測までを繋ぐ—

野田響 (国環研)

自由集会

3月21日 17:30-19:30

会場 RoomJ

W09 希少鳥類の再導入生物学: 現状と問題点

企画責任者: 永田尚志 (新潟大・CTER)

人間の経済活動による地球環境の改変によって、地球上の生物多様性の消失はかつてない速度で進行しており、2050年までに地球上の18～35%の生物種が絶滅すると予測されています。失われた生物多様性を回復させるために、最近20年間に世界中で約500種の動物で再導入が実施され、その約30%は鳥類である。今後は保全導入を含めた再導入事例、および、その研究は指数的に増えていくと考えられます。これに伴い、近年、基礎生物学から応用生物学までを統合した総合的アプローチで、保全目的で実施される再導入の成功を高める方法を研究する「再導入生物学」が発展してきている。

本集会では、世界の希少鳥類の再導入の実態をレビューした後で、日本国内で希少鳥類の再導入、および、その計画に取り組んでいる研究者に現状を報告してもらい、再導入がもたらす地域の生物多様性保全へ貢献や生態学的な問題点について整理し議論したい。

希少鳥類の再導入生物学とトキの野生復帰の現状

永田尚志 (新潟大)

コウノトリの持続的な野外個体群の確立に向けた取り組み

内藤和明（兵庫県立大）

希少ガン類の越冬個体群の回復（仮）

呉地正行（日本雁を保護する会）

ヤンバルクイナの飼育繁殖と再導入のための予備的研究

尾崎清明（山階鳥類研究所）

自由集会

3月22日 17:00-19:00

会場 RoomA

W10 我が国におけるリモートセンシング観測による生態系評価研究の現状・課題・将来性

企画責任者：永井 信（海洋研究開発機構）、斎藤 琢（岐阜大学流域圏科学研究センター）

全球規模での気候変動や人間活動にともなう著しい環境変動下において、陸域生態系の多面的な機能やサービス、生物多様性を高精度に評価するためには、リモートセンシングデータの解析による広域的なマッピングが有益である。我が国では、(1) 高山植生の分布縮小およびハイマツやチシマザサの分布拡大、(2) 耕作放棄地や竹林の拡大、(3) 異常・極端気象による生態系の攪乱、(5) 福島原発事故後の土地利用変化、(6) 植物季節（フェノロジー）の変化など植生の時空間分布に変動が生じている。これらの変動は、炭素固定能力や水源涵養能力、フェノロジーのミスマッチ、観光価値に影響をおよぼす。本集会では、上述（1）から（6）に関連した最新の研究を紹介し、リモートセンシングデータによる解析の有用性、課題点、リモートセンシングデータを利用した将来の気候・社会変動下における生態系予測評価研究の将来性や展望について議論する。

リモートセンシングによる植生フェノロジーの時空間分布変動の検出

永井 信（海洋研究開発機構）

衛星リモートセンシング観測による高精度な土地被覆図の作成

奈佐原顕郎（筑波大学）

生物多様性研究へのリモートセンシングの利用

鈴木力英（海洋研究開発機構）

リモートセンシングによる福島原発事故後の植生被覆分布変化の把握

市井和仁（海洋研究開発機構）

まとめと今後の展望

斎藤 琢（岐阜大学）

自由集会

3月22日 17:00-19:00

会場 RoomB

W11 「社会に向き合う生態学」——社会コミュニケーションの理論と実践

企画責任者：多田満（国立環境研）

福島第一原発事故を契機に、科学者（研究者）は「市民との対話と交流に積極的に参加する」こと、さらに科学には「社会に向き合う」ことが求められている（社会コミュニケーション）。一方で、地球温暖化など研究者だけでは対応できない問題の解決を目指し、研究者と市民などが協働する（ともに「学ぶ」「考える」）

ことが世界規模で議論され、実践されている。

社会コミュニケーションは、社会科学的方法による理論面と社会技術による実践面の2つに分けられる。そこで本集会では、まず、社会コミュニケーションの理論を説明し、その実践例として、企画者がおこなっている「環境カフェ」について紹介する。環境カフェについては、会場において『海辺』の生態学というテーマで実際に参加者とともに実践する。最後に、生態学における「環境カフェ」による今後の取り組みの展望について議論をおこなう。

社会コミュニケーションの理論

多田満（国立環境研）

社会コミュニケーションの実践——「環境カフェ」

多田満（国立環境研）

「海辺」の生態学——「環境カフェ」の実践例

多田満（国立環境研）、戸祭森彦（筑波大・下田臨海実験セ）

「環境カフェ」の今後の取り組み

多田満（国立環境研）、戸祭森彦（筑波大・下田臨海実験セ）

自由集会

3月22日 17:00-19:00

会場 RoomC

W12 熱帯林における球果植物優占のメカニズム

企画責任者：相場慎一郎（鹿児島大・院・理工）、宮本和樹（森林総研四国）

広葉樹が圧倒的に優占する熱帯でも、山地や特殊な立地条件（ヒース林など）には、マキ科とナンヨウスギ科の球果類（いわゆる針葉樹）樹木が優占する森林が見られる。これらの球果類樹木には、生活史や生理的特性について、多くの興味深い点が未解決で残されている。長命な先駆種という生活史を持ちながら、どのように個体群を維持しているのだろうか？地下部の根粒からは共生窒素固定細菌は見つかっていないが、それ以外に土壌栄養塩の獲得への特別な適応があるのだろうか？本集会では、特に生活史および土壌栄養獲得特性に注目し、熱帯林において広葉樹との競争に打ち勝って球果類樹木が優占するメカニズムを探ることを目的とする。

イントロ：熱帯針葉樹の生物地理

相場慎一郎（鹿児島大・院・理工）

北ボルネオ・キナバル山における球果類の分布と更新

* 澤田佳美・相場慎一郎（鹿大・理工）、清野達之（筑波大・生命環境）、北山兼弘（京大・農）

熱帯ヒース林における球果類の栄養塩利用特性

* 宮本和樹（森林総研四国）、相場慎一郎（鹿大・理工）、和颯朗太（農環研）、Reuben Nilus（サバ森研セ）

マキ科針葉樹の菌根菌・栄養塩獲得機構とボルネオ熱帯山地林の生態系動態

* 潮雅之（龍谷大・理工）、相場慎一郎（鹿大・理工）、竹内やよい（国環研）、飯田佳子（京大・農）、松岡俊将（京大・生態研セ）、北山兼弘（京大・農）

自由集会

3月22日 17:00-19:00

会場 RoomD

W13 海の保全生態学・資源管理

企画責任者：高科直（琉球大・熱生研），古市生（水研センター・西海区水研）

海の知識は陸に応用しうるだろうか。またその逆はどうだろうか。本集会における講演は生態学会において比較的少数である海洋・沿岸域の保全生態学，資源管理の研究に焦点を当てたものである。これらの分野を研究対象とする場合，しばしば他の生態学とはその性質を異にする。例えばサンプリングの困難性，密接な産業との関わり，対象となる空間スケールが時に非常に大きくなる事などが挙げられるだろう。それゆえ，用いられる手法や研究目的もしばしば異なる。

本集会では，これら海洋・沿岸域における保全生態学，資源管理の研究を紹介し，幅広い分野の研究者らと相互理解を深めることを目的とする。また，得られた知見の他分野への応用可能性や，発展性なども議論したい。

北西太平洋における魚種交替現象の因果関係推定：CCMを用いた解析

中山新一朗（中央水研）

反復駆除データから個体数を推定する：サンゴを食害するオニヒトデのMultinomial mixture model

熊谷直喜（国環研）

重要海域の特定方法とその応用可能性

山北剛久（JAMSTEC）

自由集会

3月22日 17:00-19:00

会場 RoomE

W14 小笠原諸島における自然再生の最前線：絶滅危惧種の進化と保全

企画責任者：川上和人

海洋島である小笠原諸島は、多くの固有種が進化している生態系の価値の高さから、2011年に世界自然遺産に登録されている。一方でこれらの固有種は人間の攪乱に対して非常に脆弱であり、多数の種が絶滅危惧種に指定されている。これまでに彼らは「生息地の減少」「外来生物の影響」という二つの危機にさらされてきた。特に外来生物の影響は大きな問題となっており、生態系保全のためヤギやネズミ、トクサバモクマオウなどの駆除事業が行われている。その結果、在来生態系が回復している一方で、「駆除事業による急速な生態系の変化」という第三の危機的状況を迎えている。たとえば、ヤギ駆除により食植者から解放された外来植物が増加し、かえって在来種の脅威となる事態が生じている。

外来種駆除は、生態系保全の手段として注目を浴びることが多い。しかし、その一方でそれぞれの絶滅危惧種の集団を積極的に維持しなければ、守るべき対象を喪失することになる。本集会では、小笠原諸島の絶滅危惧種の進化と保全の取り組みについて紹介する。

小笠原が迎えた第三の危機

川上和人（森林総研）

小笠原固有ボチョウジ属植物の性表現の多型性とその進化

* 菅原 敬（首都大・牧野標本館），渡邊謙太（沖縄高専）

消えゆく宝、亡びゆく王国：小笠原のカタツムリ

千葉聡（東北大）

小笠原の絶滅危惧昆虫数種の域内・域外保全の現状と再導入の試み

荻部治紀（神奈川県博）

幻の海鳥を探して：新たな保全研究の手法

堀越和夫（小笠原自文研）

自由集会

3月22日 17:00-19:00

会場 RoomF

W15 貝類を通して生命現象に迫る4：生活史

企画責任者：清水 啓介（海洋研究開発機構）、野下 浩司（東京大・農）

貝類（軟体動物）は非常に多様な生態や形態をもつ分類群である。そのため、生態学のみならず進化学や古生物学、発生生物学など幅広い分野の研究対象として扱われており、それぞれの領域において独自の目的、視点、手法によって研究が進められてきた。ある生命現象を深く理解するためには、様々な分野で培われた研究手法やそれらによって得られた知見をあわせて議論し、さらに分野を超えた学際的な研究を行う必要がある。貝類は、そのための有用な研究対象のひとつといえる。本集会では貝類（特に腹足類と二枚貝類）を対象にそれぞれ異なる目的、視点、手法により研究を行なっている若手研究者の講演を通し、各自がどのような目的意識と仮説検証方法をもって現象の理解に臨んでいるかを紹介する。第4回となる今回は貝類の不思議な生活史の研究から生態学研究にどのように貢献できるかを議論したい。

※発表スケジュール、要旨等はHPにアップします。

<http://www.molluscoida.org/>

コメンテーター：狩野泰則（東京大・海洋研）

川と海を旅する巻き貝：河川性アマオブネ科貝類の進化と種多様性

福森 啓晶（東京大・海洋研）

空を飛ぶ陸貝とあまり飛ばない陸貝の違い

和田 慎一郎（森林総研）

持ちつ持たれつカイメン暮らし—カイメン共生性二枚貝の生活史—

椿 玲未（海洋研究開発機構）

後生的に葉緑体を獲得するウミウシの生活とそのメカニズム

前田 太郎（基生研）

自由集会

3月22日 17:00-19:00

会場 RoomG

W16 社会性昆虫学の"進化可能性"

企画責任者：下地 博之（北大）、植松 圭吾（産総研）

社会性昆虫はコロニー内で分業をおこない、時には他種と共生することで複雑な生物社会を実現させており、現象の面白さ・実験の容易さから協力行動の進化・維持機構の核心に迫る多くの知見を与え続けている。近年では、コロニー内分業をもたらしたゲノム・遺伝子基盤などのミクロな視点、さらにはコロニーを取り巻く外の環境や他種との相互作用を含めたマクロな視点から多角的なアプローチが進められている。このような背景から、社会性昆虫は異なる階層の間にはたらく相互作用を紐解く上で好適な材料である。本集会では、種間共生関係や巣構造などのコロニーを取り巻く環境の形成・維持機構に関して、分子生物学や生理学、

自己組織化からのアプローチからそのメカニズムに迫る試みを紹介する。最後に分子進化及び進化生態学の立場からコメントをいただき、今後の進化生物学研究への方向性を議論する。

コメンテータ：松波 雅俊（北大）、土畑 重人（京大）

アリをめぐる相利共生の行動生理 - 社会行動の操作を介したシジミチョウ-アリ共生系の維持機構 -
北條 賢（神戸大）

兵隊アブラムシによる自己犠牲的なゴール修復 - 分子・細胞基盤と生物間相互作用 -
沓掛 磨也子（産総研）

シロアリにおける構造物形成の自己組織化 - 個体レベルの反応の違いが集団レベルの形質に与える影響 -
水元 惟暁（京大）

自由集会 3月22日 17:00-19:00 会場 RoomH

W17 生態学×国際貿易—国境を越える人間生活の生態影響

企画責任者：西嶋翔太（横浜国大・環境情報）、今井伸夫（京大・霊長研）

生態系の劣化や生物多様性の減少の直接的な原因はさまざまであるが、元をたどれば人間の消費活動が原因であることが多い。たとえば、農畜産物を食べることは、生産地での富栄養化や森林減少、それらに伴う生物多様性の減少といった生態影響を間接的に助長しているかもしれない。ここで重要なのは、消費の影響が国際貿易を通じて国境を越えるということである。特に我が国は農畜産物や木材の多くを輸入しているため、海外に与える環境負荷は概して大きい。

近年、データの充実や解析技術の進展により、国際貿易による生態系への影響を定量化する試みが増加している。本集会では、そうしたグローバルな試みにおける最新のアプローチと成果について紹介する。本集会の第一の狙いは、遠く離れた国で起こっている熱帯林や生物多様性の減少、窒素汚染といった環境問題が私たちの日々の生活と関係していることを知ってもらうことである。そのうえで、従来の生態学の枠を越えた視点から生態系や生物多様性の保全を考え、生態学者が貢献できる点について活発で有意義な議論をしたい。

コメンテーター：天野達也（ケンブリッジ大）

国際貿易に伴う環境負荷および生態系評価
金本圭一朗（九大・決断科学）

窒素フットプリント指標を用いた国際貿易による窒素汚染の評価
種田あずさ（横浜国大・環境情報）

熱帯林減少の駆動因のマルチスケール解析
今井伸夫（京大・霊長研）

鳥類の絶滅リスクに基づく木材貿易の生物多様性フットプリント
西嶋翔太（横浜国大・環境情報）

自由集会

3月22日 17:00-19:00

会場 RoomI

W18 IPBES アセスメントから示唆される生物多様性と生態系サービス研究の将来展望

企画責任者：鮫島弘光（地球環境戦略研究機関）

生物多様性及び生態系サービスに関する政府間科学政策プラットフォーム（IPBES）は、生物多様性と生態系サービスに関する動向を科学的に評価し、科学と政策のつながりを強化する政府間のプラットフォームとして2012年4月に設立された。IPBESでは対象とする地理的範囲やテーマ、科学・政策連携のための機能ごとに分かれたアセスメントやツール、方法論のカタログ等の作成が進められており、2019年に全ての完成を目指している。このうち、特にアジア・オセアニア地域における地域アセスメントには日本からも多くの研究者が執筆者として参画している。

この作業の中で、政策連携に必要な生物多様性と生態系サービスに関する科学的知見について、既に十分な蓄積があるものもあれば、逆になお不足しているものもあることが明らかになってきた。このため、本セッションでは様々なアセスメントのスコーピングに携わる専門家や執筆者にこれらの点についての所感を述べていただき、今後、政策連携に向けて必要とされる生物多様性及び生態系サービスに関する研究課題についての展望を共有したい。

またセッションの最後には、今後のアセスメントの枠組や作業スケジュールを説明し、IPBES アセスメントに対して研究成果のインプットが可能なタイミング等について解説する。

IPBES の概要および最新動向

土屋守雄（環境省・自然環境局生物多様性地球戦略企画室）

IPBES アセスメントを支える知識、データ、評価についてのガイド

山野博哉（国立環境研究所）

未定

百村帝彦（九州大学）

里山里海サブグローバルアセスメントから IPBES への貢献

湯本貴和（京都大学）

ポリネーターの国際評価を行う意義

* 五箇公一（国立環境研究所）、滝久智（森林総合研究所）

地球規模アセスメントと生態系サービス論

松田裕之（横浜国立大学・環境情報研究院）

生物多様性及び生態系に関する政府間プラットフォーム（IPBES）によるアセスメントの今後の展開と情報ニーズ

高橋康夫（地球環境戦略研究機関）

自由集会

3月22日 17:00-19:00

会場 RoomJ

W19 5分で自分をアピール！ 生態学ライトニングトーク@仙台

企画責任者：大西尚樹（森林総研・東北）、大澤剛士（農環研）、馬場友希（農環研）

ライトニングトークとは、ショートトークとも呼ばれる5分間のプレゼンです。Lightning（稲妻、電光石火）から取っていることからわかる通り、短時間でインパクトのある話をするのが基本コンセプトになって

います。5分間という限られた時間で、自分の大胆なアイデアを提示したり、始めたばかりの実験デザインを紹介したり、最近出版した論文を宣伝したり、生態学のトピックを自由に話してください。昨年度の関東地区会で行ったライトニングトークでは18名が発表に挑戦し、発表側、聴衆の双方から大好評を博しました。面白さは保証します！ぜひ演者として、あるいは聴衆としてご参加ください。

〈5分で発表なんかまとまらないよ〉 いえいえ、5分でまとめることが大事なのです。枝葉末節をそぎ落とす作業は、自分の研究の本質を見つめ直す良い機会になります。この作業は本当に伝えたいことを再認識でき、普段の口頭発表への良いトレーニングにもなります。さらに、就職や学振などの面接にも生きてくることでしょう。

〈自分の専門外の発表が5分じゃ理解できないよ〉 いえいえ、演者は要点のみに中身を搾ってくるので、むしろわかりやすくなっています。また、5分という短い時間なので1つ1つの発表に集中することができ、短時間で様々な分野を勉強できます。興味を持った内容があったら、ぜひ懇親会等で演者を捕まえましょう。

〈何を発表すれば良いの？〉 ご自由にどうぞ！最新のデータでも、最近発表された論文の宣伝でも、本大会の一般講演の宣伝でも一切お任せします。ただし、自身の研究や取り組みに関わる内容としてください。例えば他人の論文レビューや本の紹介だけではダメです。

〈発表プログラム〉 大会前にネット上で発表します。演題は15-20を予定しています。

自由集会 3月23日 15:30-17:30 会場 RoomB

W20 外洋域における重要海域特定への海鳥の利用とその課題

企画責任者：綿貫豊（北大水産）、高橋晃周（国立極地研）

外洋域における重要海域特定への海鳥の利用とその課題

オーガナイザー：綿貫豊（北大水産科学院）・高橋晃周（国立極地研）

我が国は2020年までに沿岸域および海域の10%を海洋保護区（MPA）にすることを目標としている。漁業資源保全などを目的とした“保護区”は沿岸部に集中しており、外洋域におけるMPAの設定が課題となっている。海洋生物多様性保全戦略によれば、保護区の設定にむけては、生態学的・生物学的重要海域（EBSA）がその候補とされる。EBSAとしては、藻場、珊瑚礁や海山は範囲の定義が比較的容易であり、詳細な調査が進められている。一方、海流がぶつかる移行領域・湧昇域は外洋域でのEBSAの候補であるが、変動性が激しく範囲として把握するのが困難である。また外洋域の調査は容易ではなく、生物分布の情報は限られている。そこで、その生活のほとんどを空中で過ごすため、海洋生物としては分布調査が格段に容易である海鳥を、外洋におけるEBSA抽出に役立てようというアイデアが出されている。そのため、BirdLifeなどを中心に各国で、海鳥にとっての重要海域（marine Important Bird Area, mIBA）が定められつつある。この自由集会では、我が国周辺の海域において、海鳥の繁殖地の分布や採食範囲からmIBAを定める手法について話題提供いただき、これらの手法の限界を明確にするとともに、EBSA、さらにMPAに活用する際の注意点について議論したい。

重要海域抽出における海鳥の利用

綿貫豊（北大水産）

コロニー分布を使った日本のmIBA

山本裕（野鳥の会）・佐藤真由美（BirdLife Japan）

オオミズナギドリの追跡データからみた重要海域

山本誉士・依田憲（名古屋大）

海鳥を利用する際の利点と限界：総合討論

高橋晃周（国立極地研）

自由集会

3月23日 15:30-17:30

会場 RoomC

W21 モニタリングサイト 1000 のとりまとめ成果から分かったこと Vol.2

企画責任者：中山隆治（環境省・多様性セ）

モニタリングサイト 1000 は、環境省生物多様性センターが平成 15 年度に開始した国内最大級の長期生態系モニタリング事業であり、わが国の代表的な生態系を長期的かつ定量的にモニタリングするとともに、成果を学術研究や保全施策に役立てることを目的としている。モニ 1000 では 5 年毎に成果をまとめており、事業開始から 10 年が経過したことから、平成 26 年度に生態系毎のとりまとめ報告書を作成・公表した。

各生態系の 10 年の調査成果からは、気候変動による影響や外来種の分布拡大等いくつかの変化傾向を把握できており、今後、愛知目標の進捗状況評価等様々な分野での活用が期待される。一方でとりまとめを通じモニタリング手法に関する問題点が見えてきたり、さまざまな主体により取得・蓄積されてきたデータをどのようにしてオープンデータ化していくのか等の課題も明らかになってきた。

本集会では、昨年企画集会では報告しきれなかった生態系での 10 年間の成果を紹介するとともに、10 年間で顕在化してきたモニタリングにおける課題やその解決方法について共有し、今後の長期生態系モニタリングの方向性や考え方について議論したい。

モニタリングサイト 1000 の概要

中山隆治（環境省・多様性セ）

高山帯調査を通じて見えてきた気候変動の一端

小出可能（自然研）

多様な主体による調査で明らかになった日本のサンゴ礁の現状

木村匡（自然研）

とりまとめを通じて判断した陸水域調査の見直しと再構築

横井謙一（WIJ）

モニタリングサイト 1000 で得られた結果のオープンデータ化について

高久宏佑（環境省・多様性セ）

自由集会

3月23日 15:30-17:30

会場 RoomD

W22 これからの生態学教育 ～ 2022 年度新学習指導要領で目指すもの～

企画責任者：関口伸一，奥津憲人，明星亜理沙

現行の学習指導要領において、ほとんどの高校生が履修している『生物基礎』に生態学分野が取り込まれたことは、生態学教育の快挙である。専門科目である『生物』の生態学分野では、生物多様性など新しい知見が取り込まれた。しかし高校教師からは「生態学分野は内容が羅列的で重点がわかりにくい」「どこまで新しい内容を扱っていいかわからない」「課題研究の指導法に苦心している」といった声も挙がっている。

現在、2022年の新学習指導要領に向けた議論が進められている。新学習指導要領では「何を学ぶか」というコンテンツだけではなく、「何ができるようになるか」というコンピテンシーを意識した改訂が進められている。教科別の議論では数学と理科を総合した『数理探求』という新科目の設置が検討され、課題研究活動の重要性は今まで以上に高まっていくと予想される。

これからの生態学教育において、どのような人物像を目指すべきだろうか。その実現に向けて、どのような内容をどのように習得させるべきだろうか。本大会では、高校教師と大学教員の双方の立場から話題提供をし、これからの生態学教育に関する意見交換をしたい。

主旨説明：これからの生態学教育
関口伸一（海城中学高等学校）

現学習指導要領を考える ～高校現場における生物基礎の実態と課題～
奥津憲人（文化学園大学杉並中学・高等学校）

新学習指導要領を考える ～2022年度新学習指導要領の状況～
関口伸一（海城中学高等学校）

菌類を生態分野でどのように学ぶか ～菌類と遷移の関係～
深澤遊（東北大学）

高校での生態学教育における課題研究のあり方
酒井聡樹（東北大学）

自由集会 3月23日 15:30-17:30 会場 RoomE

W23 生態系を基盤とした防災・減災の機能とその評価

企画責任者：一ノ瀬友博（慶大・SFC）、中村太士（北大・農）

近年の自然災害による被害の増大に伴い、生態系を基盤とした災害リスクの低減（以下Eco-DRR）の必要性が注目されるようになってきた。2015年3月に仙台市で開催された国連世界防災会議では、仙台防災枠組2015-2030が採択され、優先行動3の中にEco-DRRへの取り組みの推進が明示的に書き込まれた。また、2015年11月に閣議決定される予定の気候変動の影響への適応計画の案には、気候変動により高まることが予想される災害リスクに対し、工学的・生態学的手法、土地利用、社会的・制度的手法等の様々な手法を適切に組み合わせることの必要性が示される予定である。

Eco-DRRが注目される一方で、その機能を定量的に評価する方法を確立することの必要性も指摘されている。本自由集会では、2015年度から開始された二つの環境省環境研究総合推進費「ハビタットロスの過程に着目した生態系減災機能評価と包括的便益評価手法の開発」（研究代表者一ノ瀬友博）、「人口減少、気候変動下におけるグリーンインフラ-生物多様性・防災・社会的価値評価」（研究代表者中村太士）のこれまでの研究成果と狙いを紹介し、Eco-DRRの機能評価について議論することが目的である。

気仙沼市津波被災地におけるハビタットロスの過程に着目した生態系減災機能評価
* 一ノ瀬友博，板川暢（慶大・SFC）

Eco-DRRの評価分析のための時空間データベース構築
* 古谷知之，土光智子，陳文波（慶大・SFC），佐々木恵子（ギーセン大）

福井県における生態系インフラの評価
* 内田圭，吉田丈人（東京大・総合文化）

人口減少・気候変動下におけるグリーンインフラと自然再生ー北海道における可能性を探る

* 中村太士, 小林慶子 (北大・農)

多様な主体の参画による既存インフラの『グリーン化』: 静岡市麻機遊水地での取り組み

西廣淳 (東邦大・理)

地方の日常空間を支えるグリーンインフラー徳島県阿南市・海岸低平地域での定量評価に向けて

鎌田鷹人 (徳島大・工)

自由集会

3月23日 15:30-17:30

会場 RoomF

W24 生態学における英語化を考える

企画責任者: 島谷健一郎 (統数研)

「英語の授業は英語です」「小学校の早い時期から英語を学ぶ」「社内公用語を英語とする」「講義は英語です」「ゼミも英語です」日本社会の各地で英語化が進んでいます。生態学研究も例外ではありません。「英語のほうが国際化の将来を見据えて有益である」と考える人も多いことでしょう。こうした主張はどのような根拠に基づくのでしょうか。

英語に限らず、言語政策や外国語教育を専門とする研究者が世界に数多くいます。世界各地における事例を基に (日本は明治期、敗戦後と2度にわたる言語政策の転換に直面し、結果的に2度とも母語を重視する政策を選んでいますが)、どのような外国語及び母語政策がどのような結果を招いたか詳細に調べられており、既に多くの教訓を得ています。その中には、「安直な外国語奨励策は国と文化を滅ぼす」「母語で科学を考えることの意義を軽視しない」という主張や、英語化にしばしば伴う「英語で行うほうが上等である」という意識に対する警鐘も見られます。一方で、科学論文の発表や、国際的なコミュニケーション・情報収集を英語で行う必要性は厳然と存在しています。私達は何に留意し、どこに道を探っていくのが良いのでしょうか。

そこで、集英社新書から「英語化は愚民化」を出された施光恒氏を講師に招き、言語政策に関する基礎的な解説から始め、生態学研究における英語化について、一緒に考えてみることにしました。

言語は生態学と似た側面を持っています。言語も絶滅します。言語の絶滅は、種の絶滅以上に進行しています。外来種ー固有種と外国語ー母語などにも類似がありそうです。

趣旨説明: 生態学研究における英語化を考える 島谷健一郎 (統数研)

英語化政策にはらむ危険性 施光恒 (九州大学比較社会文化研究院)

全体討論

コメンテータ: 伊勢武史 (京大・フィールド研)、佐藤克文 (東大・大気海洋研)、田中健太 (筑波大・菅平セ)、荒木希和子 (立命館大)、ほか

自由集会

3月23日 15:30-17:30

会場 RoomG

W25 データ解析で出会う統計的問題: なんとかしたい時系列データ

企画責任者: 粕谷英一 (九州大・理), 久保拓弥 (北海道大・環境)

昨年の自由集会で大きな反響のあった「時間の長さ・時系列データの統計モデリング」についての検討をつづけます。時系列データとは、たとえば同じ個体・生物集団・調査地などから何度も調査・観測をくりか

えして得られる時間軸をもつデータです。あるいは一個体の挙動を経時的に記録したのも時系列データとなります。ある時刻のデータは前の時刻のデータとは独立ではないという特徴があり（時間的自己相関、ここでは時間相関）、これを無視して統計モデルをあてはめると「にせの有意差」を発見することになります。

時系列データ解析では「 $Y = a + b \times \text{時間 } t$ 」といった GLM 的なモデルのあてはめができないだけでなく、説明変数として使うデータも時系列データとなる場合があります。たとえば、個体数変動は気温の変化で説明できるか、あちこちに時間相関が登場し、統計モデル構築が難しくなります。

生態学の分野でも時系列データを解析する手法がいろいろと提案されていますが、必ずしもわかりやすいものではなく、「なぜこのような統計モデルが必要なのか」が理解しにくい場合もあります。この集会では時系列データの時間相関や差分を調べるといった基本的な方法から始まり、状態空間モデルなどの統計モデルへのあてはめなどを紹介し、集会当日にあつまってくださいの皆さんと、これからの時系列データ解析について議論ができれば、と考えています。

* この自由集会の web page: <http://goo.gl/LK9q4g>

生態学の時系列データ解析（仮）

粕谷英一（九州大・理）

時系列データの統計モデリング入門（続）

久保拓弥（北海道大・環境）

自由集会

3月23日 15:30-17:30

会場 RoomH

W26 ナチュラルヒストリーと生態学 ～あなたの目を輝かせ続けるために～

企画責任者：末次健司（神大院・理）

生態学とは自然を研究する学問です。子供のころから自然が大好きで、自然の謎を解くような研究がしたくて生態学者を目指す人は多いのではないのでしょうか。ナチュラルヒストリーの研究は純粋に楽しい。しかし自然というのは多様で複雑です。ナチュラルヒストリーに偏った研究は個別論に陥りやすく、自然の大法則の理解には結びつかない、という批判の声も聞こえてきます。一方で、一般則を求めすぎることには、演繹的な発想に偏った研究を促し、生態学を自然から乖離した学問にしてしまうという危惧もあります。本集会では、そんなジレンマの中で自然への純粋な興味を大切にもがいている生態学者からその研究哲学とアプローチを紹介してもらいます。ナチュラルヒストリーと親和性の高い生態学の研究展開はあるのか？会場の皆さんとも積極的に意見交換をしたいと思います。

コメンテーター：佐藤拓哉（神大院・理）

水生昆虫の生活史研究から河川 / 溪畔林食物網をひもとく

宇野裕美（UC Berkeley）

エゾアカガエルとエゾサンショウウオの研究を始めて 15 年、まだ熱い

岸田治（北大・北方圏 FSC）

植物界のニート!?: 光合成をせず、菌に寄生する植物の不思議な生活

末次健司（神大院・理）

コミカンソウ科における送粉様式的世界的多様性

川北篤（京大・生態研）

自由集会

3月23日 15:30-17:30

会場 RoomI

W27 植物社会学研究会—外来植物群落の生態と組成—

企画責任者：村上雄秀（IGES 国際生態学センター）、中村幸人（東京農大）

外来種の群落は古くは多摩川からコアカザーオオオナモミ群集、ナガバギシギシーギシギシ群集などが記載され（奥田 1978）組成が明らかにされると同時に植生単位として認知されてきた。近年においても河川や湖岸、海浜などの水辺の外来種の群落は一向に増加速度の低下がみられず、琵琶湖流域ではナガエツルノゲイトウやオオバナミズキンバイなどが在来種群落のみならず既存の外来種群落と置き換わり広大な群落を形成するにいたっている。これらの外来種群落の侵入、定着や増減の要因などについてその植生学的な課題を検討し、植物社会学上の取り扱いを含め群集生態学的な議論の場を提供したい。以下の課題について扱う予定である。

- ・在来種との置き換わり現象（競合種、環境）
- ・外来種群落相互の競争関係と変遷
- ・人為的干渉との関係

多摩川中流域における外来樹種の分布と流路変遷との関係

和田美貴代（熊本大・薬）

琵琶湖沿岸水生植物群落への外来植物の侵入と環境条件との関係

* 田中周平，田淵智弥，辻直亨（京大・地球環境），西川博章（株式会社ラーゴ），村上泰三（自遊人），藤井滋穂（京大・地球環境）

東日本大震災の津波被災地における外来種群落

村上雄秀（IGES 国際生態学セ）

自由集会

3月23日 15:30-17:30

会場 RoomJ

W28 アメリカザリガニの生態系への影響と対策

企画責任者：高橋清孝（NPO 法人シナイモツゴ郷の会）、西原昇吾（中央大学）

アメリカザリガニはその雑食性により生態系に甚大な被害をもたらし、各地で希少種が全滅するなど深刻な事態が発生している。環境省は2015年4月に緊急対策外来種に指定したが、長い間、学校教材やペットとして一般に親しまれてきたため、侵略的外来種としての知名度はあまり高くないのが現状である。

被害を軽減し長期にわたって水辺の生態系を保全するためには、アメリカザリガニの防除を積極的かつ緊急に進めなければならない。このためには、まず、アメリカザリガニの深刻な影響と対策の必要性について啓発することが急務と考えられる。次に効果的な防除技術を確認し、これを活用して防除の戦略を練る必要がある。

本シンポジウムではアメリカザリガニの生態系への影響、防除の技術や取り組みとその効果について、これまでに得られた知見を紹介し、それをふまえて、今後のアメリカザリガニ対策の方向性について議論したい。

コメンテーター 荻部治紀（神奈川県博）

司会・総合討論 高橋清孝・西原昇吾

展示 アメリカザリガニ魚醬とレシピ 坂本啓（シナイモツゴ郷の会）

趣旨説明

二宮景喜（シナイモツゴ郷の会）

外来種被害防止行動計画と外来種リストの作成について

曾宮和夫（環境省外来生物対策室）

生態、特に旺盛な繁殖能力について

川井唯史（稚内水試）

生態系への影響

西川 潮（金沢大学）

植物への影響と対策

森晃（宮城県伊豆沼内沼環境保全財団）

水生昆虫への影響と対策

西原昇吾（中央大学）

侵入と防止対策

* 芦沢 淳（仙台海の杜水族館）・藤本泰文（宮城県伊豆沼内沼環境保全財団）

捕獲技術の開発と効果の検証

シナイモツゴ郷の会

自由集会

3月24日 17:00-19:00

会場 RoomB

W29 エコメカニクス：植物の形を力学的に捉え、巧みな戦略の解明から応用研究まで

企画責任者：宮下 彩奈（東大・院・理・日光植物園）、小野田 雄介（京大・院・農）

全ての生物は物理的制約の中で進化してきており、力学的な観点から生物を理解する（バイオメカニクス）という学問は、生物の本質に迫るものである。また近年では、生物の生態について、様々なスケールで、力学的に理解しようというエコメカニクスという新分野も生まれている。しかし生態学会においては、これまで馴染みが薄い分野であった。そこで本集会では、バイオメカニクスやエコメカニクスという学問の意義や価値を広く共有することを目的に、「力学」を軸として植物の形や成長、構造維持を評価してきた講演者たちに、それぞれの研究事例を紹介していただく。集会では、葉レベルから林分レベルまでの幅広い話題を通して、植物バイオメカニクス研究の面白さや、発展可能性について理解を深め、議論したい。

コメンテーター：舘野正樹（東大・院・理・日光植物園）、鈴木覚（森林総研・気象環境）

趣旨説明

宮下 彩奈（東大・院・理・日光植物園）

薄いけど丈夫な葉っぱの秘訣

小野田 雄介（京大・院・農）

樹木幹・枝の力学的”強さ”分布—木の弱点はどこだ

南野 亮子（岐阜大・流域圏科学研究セ）

群落内草本個体の背揃い現象と力学的評価

長嶋 寿江（東北大・院・生命科学）

振動理論を介した樹木動揺シミュレーション

南光 一樹 (森林総研・気象環境)

林分レベルの風害モデリング

上村 佳奈 (信大・山岳科学研)

まとめ

小野田 雄介 (京大・院・農)

自由集会

3月24日 17:00-19:00

会場 RoomC

W30 市民によるサケの保全活動を考える～特に稚魚の放流について～

企画責任者：森田健太郎 (水研セ・北水研)

サケは、秋になると川に遡上し、産卵する。その大きな魚体と繁殖行動は見る者に感動を与える。さらに、一回繁殖のため産卵後は死亡し、ホッチャレと呼ばれる死体は他の生物によって利用される。サケを町の川のシンボルとして保全し、環境教育の題材にしようとする試みは日本各地で行われている。1979年に札幌市・豊平川で始まった「カムバックサーモン運動」は、昔のようにサケを呼び戻そうという活動で、稚魚の放流が大々的に行われた。カムバックサーモン運動は全国に広がり、毎年春になると、子供たちがサケの稚魚を放流するニュースが各地で見られ、ほほえましいニュースとして捉えられる方が多いだろう。しかし近年、皮肉にも、人工ふ化事業によって適応度低下が生じることや、放流魚が野生魚の個体群存続性に負の影響を及ぼすことが研究者によって指摘されるようになった。サケの保全という観点から考えた場合、さまざまな活動は転換点に差し掛かっているのかも知れない、と少なくとも企画者は考えている。本集会では、研究者以外の方々にも参加していただき、市民によるサケの保全活動の現状を紹介して頂くとともに、その将来像について議論する。

趣旨説明

森田健太郎 (水研セ・北水研)

豊平川においてカムバックサーモン運動から発展した札幌ワイルドサーモンプロジェクトについて

有賀 望 (札幌市公園緑化協会)

利根川のサケ 2000年から2015年の状況

斉藤裕也 (南限のサケを育む会)

広瀬川サケプロジェクト

菅原正徳 (カワラバン)

サケ科魚類の保全と放流

棟方有宗 (宮教大)

コメンテーター講評

荒木仁志 (北大・農)

自由集会

3月24日 17:00-19:00

会場 RoomD

W31 メタバーコーディング・環境 DNA バーコーディング解析の技法

企画責任者：田辺晶史（水研セ・中央水研）

環境 DNA やメタゲノムを用いた DNA バーコーディング法は、様々な環境での生物群集の情報をより省エネルギー・省コストで得られる技術として期待されており、特に微生物生態学の分野では多くの応用例が蓄積されている。大型生物を対象とする研究では、水生生物が水中に放出している DNA = 環境 DNA を検出可能であることが実証され、今後応用が進むものと思われる。陸上生物であっても、すり潰して DNA を抽出するか、液体に溶いてから DNA を抽出することで同様の処理が可能である。この技術を応用することで、より多くの地点の群集を観測したり、より短い間隔で観測を行ったり、より網羅的な観測を行うことが可能になるが、サンプルの採集・DNA 抽出・シーケンスは言うに及ばず、シーケンスデータから群集行列データへの変換、群集行列データの統計的分析にはこれまでとは異なる様々な落とし穴が存在し、新規参入のハードルとなっている。本集会では、それぞれの分析過程のテクニカルな解説を経験者や開発者が行い、落とし穴の回避方法や今後の課題と展望について議論する。

MiSeq を用いた超多検体分析：サンプリングからシーケンスまで

東樹宏和（京大・人環）

NGS データからの超大規模群集行列データの作成

田辺晶史（水研セ・中央水研）

メタゲノムデータを用いた群集統計解析法：レアファクションから仮説検定まで

門脇浩明（京大・人環）

自由集会

3月24日 17:00-19:00

会場 RoomE

W32 南海トラフ巨大地震に備えて、環境省は、生態学者はなにをすべきか ～東日本大震災生態系影響モニタリングの成果から～

企画責任者：阿部慎太郎（環境省・多様性セ）

2011年3月11日、東日本大震災の引き金となった東北地方太平洋沖地震および津波は、青森県から千葉県の特に関東地方の太平洋沿岸の広範な地域に甚大な被害をもたらし、被災地域の生物相も大きな攪乱を受けた。環境省生物多様性センターでは、研究者の意見を仰ぎながら津波浸水域とその周辺地域において、津波や復興事業により起きた植生や生態系の変化状況の把握に努めてきた。大きな攪乱を受けた様々な生態系も、このような攪乱は日本列島の誕生以来、度々受けてきた攪乱とも見ることができ、地域の生物相は度重なる攪乱が起こる環境の中で生き抜いてきたとも言える。その生息環境も復興事業等の人為による大きな変化がなければ、時間の経過と共に回復していくことが期待される。環境省が実施したモニタリングの成果を通じて東日本大震災で見られた生態系の変化について確認することにより、近い将来起こりうる東日本大震災を越える規模の巨大地震に備えて、我々は何を学びどう生かせるか、環境省や生態学者は何をすべきか等について参加者とともに議論したい。

東日本大震災の津波浸水域における自然環境モニタリングの5年

阿部慎太郎（環境省・多様性セ）

東日本大震災における津波浸水域の植生等の変化について

塚本吉雄（アジア航測）

東日本大震災における海岸域の変化について

壱岐信二（アジア航測）

東日本大震災における沿岸生態系の変化状況～生態系監視調査の結果から～

* 村山恒也, 井上隆, 宮川浩（自然研）

自由集会

3月24日 17:00-19:00

会場 RoomF

W33 道具としての「形態測定学」：生殖器形態の定量化

企画責任者：高橋一男（岡大・環境生命）、立田晴記（琉大・農）

体内受精を行う動物の多くにおいて、生殖器の主要な役割は、雌雄間での精子の受け渡しであるが、その形態は多様性に富んでおり、その他の外部形態に比べて進化速度が速い傾向にあることが知られている。形態測定学に基づいた生殖器形態の定量化は、生殖器の進化を説明する様々な仮説の検証に役立てられてきた。立体的な構造物として機能する生殖器形態の定量化には、生物学的な知見に基づいた様々な工夫が必要であり、対象とする部分形態ごとに、適切な形態測定学的アプローチを用いる必要がある。本集会では、形態測定学的手法を道具として有効に活用し、生殖器形態の定量化に取り組んでいる演者の方々を招き、具体的な方法論とともに、研究成果を発表いただく。これらの研究成果をもとに、多様な形態を持つ生殖器形態の定量化における形態測定学的アプローチの有用性について議論したい。

形態測定学はかたちのデータをどのように可視化してきたか？

三中信宏（農環研／東大・農生）

北海道の陸産貝類にみられる劇的な表現型の多様化：距離測定法による形態解析の一例

森井悠太（北大院・農）・横山潤（山形大・理）・河田雅圭（東北大院・生命科学）・Angus Davison（ノッティンガム大）・千葉聡（東北大院・生命科学）

多様な交尾器形態にはたらく分化性淘汰の検出：距離測定法と幾何学的形態測定学法の違いと相補性

高見泰興・高橋颯吾（神戸大・人間発達環境）

自由集会

3月24日 17:00-19:00

会場 RoomG

W34 きのことる4 外生菌根菌の繁殖生態

企画責任者：都野展子（金沢大・理工）

ほとんどの陸上植物の根には菌根菌と呼ばれる菌類が存在し、菌根性樹種の生育において菌根が損なわれると機能不全に陥るほどのタイトな共生関係にあります。菌根菌がいることで植物は乾燥地や重金属を含む土壌での生育を可能にしています。内之宮は、植物と菌根菌の共生において重要な役割を果たす、栄養のやり取りについて、植物と菌根菌における炭素とリンの時間変化を考えることで、相手にどれだけの資源を渡すべきかという、最適資源配分について数理的手法を用いて考察します。

木下らは地下生菌の繁殖生態について、トリュフに代表される地下生菌は、地上生の子実体形態から進化してきたと考えられており、動物依存の有性繁殖をおこなうと同時に、土壌中に広がる菌糸によって無性繁殖します。このような地下生菌の繁殖様式の進化と多様化について、現在までの知見を紹介します。

北林らは、キノコを採集していると必ずといっていいほど見つかるうじ虫たちについて。皮一つ残し中身ほとんどウジ！なキノコも多く見かけますが、ウジはキノコにとって害虫とも限らないかもしれません。ウジの生態を報告します。この研究はキノコの集会1回目に紹介されたUJIプロジェクトの成果でもあります。

資源の時間変化を組込んだ植物-菌根菌系における最適資源配分の数理モデル

内之宮光紀 (九大・システム生命)

トリュフのきた道：地下生菌の繁殖様式の進化と多様化

* 木下晃彦 (国立科博), 佐々木廣海 (菌懇会), 奈良一秀 (東大院・新領域)

菌食性双翅目幼虫と外生菌根菌-孢子散布、菌根形成への影響

* 北林慶子 (金沢大・理工), 都野展子 (金沢大・理工), 保坂健太郎 (国立科博)

自由集会

3月24日 17:00-19:00

会場 RoomH

W35 Future Earth ってなんだ? : 地球環境問題に対応する国際プロジェクトと生態学者の生きる道

企画責任者: 大手信人 (京都大学情報), 石井励一郎 (総合地球環境学研究所)

Future Earth という国際的な研究プログラムが動き始めています。このプログラムは、自然科学、人文社会科学や、それらの応用を目指す工学、農学、医学、地域研究等にまたがる学際的研究により、地球規模・地域規模の環境問題に関する理解を深め、問題解決に向けた知の創出に挑みます。また、それだけではなく、研究者コミュニティと社会の様々なステイクホルダー (行政、研究資金提供者、産業界、教育関係者、メディア、市民) との超学際的な連携 (協働) を通じて、社会を持続可能な方向へと転換していくことを目指しています。この自由集会は、生態学、生物多様性科学に関わっている学会員に、Future Earth の動向を知ってもらいながら、関連する環境科学分野の研究のことも知ってもらい、生態学とその応用先について視野と行動範囲を広げるきっかけを作りたいと考えて企画しました。

生物多様性と生態系を生かした持続可能社会の研究

中静透 (東北大学生命科学)

Future Earth に向けた地球環境基盤情報の構築

沖大幹 (東京大学生産技術研)

ステイクホルダー対話を通じた持続可能性概念の研究

江守正多 (国立環境研究所)

Future Earth に期待すること

柴田英昭 (北海道大学フィールド科学センター)

自由集会

3月24日 17:00-19:00

会場 RoomI

W36 ボルネオ熱帯林における生物多様性定量評価手法の開発とその応用

企画責任者: 青柳亮太 (京大・農・森林生態), 藤木庄五郎 (京大・農・森林生態), 長野秀美 (京大・農・森林生物), 北山兼弘 (京大・農・森林生態)

近年環境変動や生態系劣化は地球レベルで進んでおり、人の生活を支えている生物多様性の保全を達成することは今や国際的課題である。特にインドネシアやマレーシアの熱帯降雨林地域では、過去10年間に森林減少が最も進行している地域であり、生物多様性条約が定めた保全目標を達成するためには、この地域での生態系利用と保全の両立が鍵を握っている。ところが、森林保全の進捗を把握するために必要な生物多様性指標が未だ開発されておらず、REDD+ や森林認証、生物多様性オフセットなどの保全のインセティブと

なる具体的な仕組みが機能し得ないのが現状である。そのため、熱帯林において生物多様性を定量的に評価できる指標を開発することは火急の課題であり、生態学者による研究と提案が求められている。本集会では、以上のような現状を背景として、ボルネオの熱帯生産林を対象に生物多様性の定量評価を試みた研究を紹介する。本集会を通して、特に以下の2点について言及する。(1) 種の数や均一度、それらの生物の生息地、といった非常に広い意味を含む「生物多様性」をどのように指標するのか？(2) 開発した手法を大規模に実施することによって、どのような生物多様性の時空間変動が明らかになったのか？生物多様性の評価手法を開発することは、生態学の知識の集積と切り離せない関係にある。個々の研究例を通して、生物多様性評価手法を浸透させるために今後どのような研究が必要なのか、さらにこうした研究が生態学にどのようなフィードバックを与えることができるかについて議論を深めたい。

コメンテーター：岡部貴美子（森林総研）

樹木群集組成を用いた生物多様性指標の開発：熱帯樹木遷移動態の解明

青柳亮太（京大・農・森林生態）

リモートセンシングを用いた熱帯樹木群集組成の広域時空間動態解明へのアプローチ

藤木庄五郎（京大・農・森林生態）

カメラトラップを用いた中・大型哺乳動物の生息環境予測

長野秀美（京大・農・森林生物）、鮫島弘光（地球環境戦略研究機関）

自由集会

3月24日 17:00-19:00

会場 RoomJ

W37 氾濫原研究会自由集会 河川・湖沼・湿地の自然再生4「防災・減災における生態学的課題」

企画責任者：西廣淳（東邦大・理）、河口洋一（徳島大 STS）

生物多様性保全や自然再生は、究極的には生態系サービス＝人間にとっての便益の向上を目指すものです。この点において、防災・減災を目的としたインフラ整備と矛盾するものではありません。しかし実際には、保全とインフラ整備の両立は容易ではありません。東日本大震災からの復旧・復興事業でもいくつかの「環境配慮」が実現しましたが、必ずしも十分ではありませんでした。震災後、生態学会とその周辺分野では、生態系を活用した防災・減災（EcoDRR）の重要性や、それを包含するグリーンインフラストラクチャーの考え方が議論されるようになり、防災と保全の両立という理念は普及しつつあるものの、現場での実現には多くの課題があります。

災害という非日常の事態が発生したとき、研究者には、その非日常を乗り越える取り組みに参加するだけでなく、再び「日常」が戻ったときの事を想定し、生態系サービスのバランスや持続性を考えた提案をすることが求められます。そのためには、有事を想定しそれに備える研究が必要になるでしょう。また現実的な提案をするためには、社会の多様な主体との連携も必要になります。

本集会では、以下の話題提供を踏まえて、今後重要となる研究や研究者の体制について、具体的に議論します。

話題提供

1. 「防災・減災と保全についての考え方」
2. 「東北からの教訓」
3. 「災害が生じた際の対応：鬼怒川の事例」
4. 「災害が生じる前の計画：徳島の事例」
5. 総合討論（コーディネーター・萱場祐一（独）土木研究所）

発表者・企画者一覧

講演・ 企画番号	名前	所属	講演・ 企画番号	名前	所属
P1-268	AADREAN	Kanazawa University	P2-215	Kotaro Kagawa	Univ. Tokyo
T20-1	ARAKI, Hitoshi	北大農学部	P2-203	LEE JIN	Hokkaido University
W08 P2-085	AZUMA Wakana	神戸大・農	I1-03	LEE, Ah-Young	北海道大学大学院農学院
W36 E1-18	Aoyagi Ryota	京都大学農学部森林生態	G3-28	LIU, Cong	OIST
S01-2	Benjamin L. Turner	STRI	P1-257	LIU, Xin	滋賀県立大学
P1-080	CHANG, Mei-Chang	IEEB of NTU	F3-26	Lin, Fan-Sian	National Taiwan University
P1-211	CHEN, Chien-Lung	NTNU	P2-245	MASE Keiko	九大・理・生物・生態
F2-23	CHEN, Hungyen	中央水産研究所	P2-285	MASHIKO, Miyuki	NIAES
E1-04	CHEN, Siyu	岐阜大学応用生物科学研究科	P1-091	MELNIKOVA, Irina	Gifu University
F3-31	DAVIS John Andrew	ICE-MPG, Jena, Germany	W12 P2-065	MIYAMOTO, Kazuki	Shikoku Res. Ctr. FFPRI
P1-194	DI, LIN	首都大学東京	F2-22	MOHAMAD MUSLIM, Huda Farhana	Tokyo Metropolitan University
G3-27	Evan Economo	OIST	P1-327	MORIYA, Yuki	大阪市立大学理学研究科
E2-35	FUJIWARA, Masami	Texas A&M University	P1-383	MUTAQIEN, Zaenal	Kagoshima Univ.
T20-4	Fukuoka Arisa	神戸大学大学院	P2-001	Meng Zhang	Kyushu University
P2-417	HAYASAKA, Daisuke	近畿大・農・環境管理	F2-16	Muna Maryam Azmy	Tokyo Metropolitan University
T19-2	HIROSHI JINGUJI	宮城大学	P2-379	NAGASAKA, Akiko	道総研 林業試験場
P1-127	HISHIKAWA, Yuki	京工繊大	E3-49	NAKAHAMA Naoyuki	Kyoto University
F2-24	HSIEH, Chih-hao	National Taiwan Univ.	W23	NAKAMURA, Futoshi	北海道大学大学院
F2-13	Hazuki Arakida	RIKEN AICS	E1-05	NAKAMURA, Ryosuke	Kyoto University
P1-105	Hung, Li-Jhih	IEEB NTU	P1-001	NGO, Kang Min	Tokyo Metropolitan University
P2-126	IIDA, Yoshiko	Kyoto University	P1-371	NISHIBAYASHI, Naoya	東京都市大学
P2-391	ISLAM, Rejaul	横浜国立大学	P1-391	NIWA, Takahiro	横浜国立大学
G3-25	ITO, Kai	東京大学総合研究博物館	P1-282	NUMAJIRI, Yuko	Univ. of Tsukuba
P2-237	IWAMOTO, Jiro	和歌山県立自然博物館	P1-167	Narita, Satoshi	京都大学大学院農学研究科
P1-222	Jason, Saihanna	千葉大学	P1-134	OKAMURA, Yu	千葉大学大学院
E1-11	KACHINA, Panida	Tohoku University	P2-032	ORMAN, Olga	北大
P1-403	KAIZUKA, Moeka	酪農学園大学院 野生動物	P2-253	Ohnishi, Isamu	広島大学 (理) 数理分子
P2-345	KAMEYAMA, Satoshi	NIES	F2-15	Oyake Narumi	筑波大学
P1-189	KANEMITSU, Hironobu	Kyushu University	P1-185	PARK, Kylie J	The University of Tokyo
E3-51	KATSUHARA, Koki	Kobe university	P1-182	PARK, Yong-Hwan	神戸大, 人間発達環境
E3-48	KAZAMA, Takehiro	東北大院・生命	E2-28	Pham Duy Long	Kyoto Univ.
J3-35	KAZILA, Evangelia	Hokkaido Univ.	P1-188	RAMAMONJISOA NOELIKANTO	Nagoya University
P1-406	KHATUN, Santona	University of Yamanashi	P2-125	Rakotonoely Harisoa	Hokkaido University
S01-4	KITAJIMA, Kaoru	Kyoto University	E2-36	Ryosuke Iritani	九州大学・理・生物
P2-137	KOBAYASHI Yuki	RIHN	P1-101	SASAKI, Keisuke	京都工芸繊維大学大学院
P2-262	KOBAYASHI, Kazuya	京大院・農・昆虫生態	P1-058	SASAKI, Ryota	京都大学農学部
P2-087	KOYAMA, Kohei	帯広畜産大・環境生態	E3-47	SHAN, Bing-Qin	北海道大学環境科学院
F2-20	KUBO, Yuki	Kyushu University	H3-30	SHEFFERSON, Richard	東京大学
D2-08	KUDO, Gaku	Hokkaido University	S01-3	SHIBATA, Makoto	Kyoto University
S01-1	Kazumichi Fujii	FFPRI	E2-39	SHIH, Wei-Kai	Cheng Kung Univ., Taiwan
E1-20	Kenta, Tanaka	筑波大・菅平セ			

講演・ 企画番号	名前	所属	講演・ 企画番号	名前	所属
T19-5	SHIMADA, Tetsuo	伊豆沼財団	P1-048	相澤 直	明治大学 農学部
F2-17	SKEEHAN, Emily	NOAA/VIMS	P1-090	相澤拓	山形大学農学部
I3-28	SONG, Pei-Xue	滋賀県立大学	P1-096	粟飯原友	岡大院環境生命
P1-003	TACHIBANA, Michikusa	北大院環境	W12 P2-002	相場慎一郎	鹿児島大学・院・理工
E3-40	TAKESHITA, Kazutaka	東京農工大学	P2-009	饗庭正寛	東北大・院・生命科学
P1-278	TAMECHIKA, Masami	Kamo Aquarium	P1-315	青木香澄	神大院・人間発達
E1-08	TATEBAYASHI Kana	大阪大学大学院	PH-012	青本 沙也	清心女子高等学校
F3-37	TSAI, Chih-Wei	Providence Univ.	S02	赤坂 宗光	東京農工大
P1-177	TSAI, Ming Shan	University of Bristol	P2-377	明石 信廣	道総研林試
P1-299	TSUJITA, Tetsuya	AMBL	G2-21	赤司寛志	東北大・生命
P2-178	Tetsuya Shimamura	Ehime University	P2-053	赤路康朗	岡大院環境生命
E1-01	Tomonori Kume	National Taiwan University	PH-036	秋田 陽美	大阪府立住吉高等学校
E3-42	Tong-Chang Ni	NCKU.,Taiwan	P2-190	秋野 順治	京都工芸繊維大学
P1-081	Tsai, Meng-Ying	National Taiwan University	P1-243	秋元 佐紀	北海道大学大学院 環境科学院
E1-17	UCHIDA, Eiko Megan	Kyushu University	P1-125	秋元 佑香	北海道大学環境科学院
F2-19	UCHIDA, Kenta	北海道大学環境科学院	P1-086	秋吉由佳	岐阜大院・応生
E1-16	UMEBAYASHI, Toshihiro	Hokkaido University	W22	明星 亜理沙	島根県立隠岐島前高校
T07-1	VAN VELZEN, Ellen	University of Potsdam, Germany	P2-269	浅野 郁	京大・人環
E1-02	Vilanee Suchewaboripont	岐阜大学	H2-14	浅見崇比呂	信州大・学術研究院
F2-18	Vu, Trieu-Duc	National Cheng kung University	J2-20	足立 隼	徳島大学医学部
P2-020	WAKAMATSU, Nobuhiko	横浜国立大学環境情報研究院	P1-426	安達 陽一	弘前大学農学生命科学研究科
P1-431	WAN, Ming-Hai	University of Tsukuba	U01	足立直樹	(株) レスポンスアビリティ
P2-081	WANG, QINGWEI	東北大学生命科学研究科	P1-029	渥美 和幸	早稲田大・人間科学
P1-209	WANG, Ying-Jie	National Taiwan University	P2-231	渥美圭佑	東大 大気海洋研
P1-304	WANG, Xiao-Hang	滋賀県立大学	P2-033	阿部 聖哉	電力中央研究所
E1-06	WEI, Hsin-Lin	National Cheng Kung University	PH-011	阿部 隼人	東京都立科学技術高校
E3-52	WONG SATO, Akira Armando	京都大学大学院	P2-234	阿部 永	千葉大学大学院理学研究科
P1-106	Wang, Yi-Min	IEEB NTU	P2-261	阿部 博和	水研セ東北水研
E3-43	Wang, Ying-Han	NTU	P1-093	阿部 亜里紗	京都大学農学部
E3-45	YAMAGUCHI, Haruka	北海道大学理学部	P1-332	阿部建太	長野大学環境ツーリズム
P1-071	YAMAMOTO, Akihiro	広島大・院・生物圏	W32	阿部慎太郎	環境省生物多様性センター
F3-29	YANG, Jinny	台湾大學海洋研究所	P2-011	安部 哲人	森林総合研究所九州支所
P2-076	Yoshiyuki Miyazawa	Univ Hawaii Manoa	P2-040	阿部晴恵	新潟大・農
W03	Yuka Shirokawa	東京大学総合文化	P1-005	安部真琴	鹿児島大・教育
P1-135	Yumiko Osawa	AMBL	T23-2	阿部真人	国立情報学研究所
E2-32	Yusuke Sakai	Tohoku University	P1-034	雨谷 教弘	北海道大学環境科学院
P1-247	ZHANG, Xin	The University of Tokyo	P2-084	甘田 岳	京大・農・森林生態
P1-251	相川 奈津美	東北大・院・生命	P1-254	天野 浩美	東大院・農
T12-4	相澤 章仁	千葉大・院・園芸学	P1-136	天野 創	北海道大学
			S02-1	天野達也	ケンブリッジ大学・動物学部
			T21-2	天野正博	早稲田大学
			P2-456	荒井 見和	農業環境技術研究所
			P1-320	新井 隆介	信大院・総合工/岩手林技セ

講演・ 企画番号	名前	所属	講演・ 企画番号	名前	所属
P2-048	新井孝尚	福島大・共生	P1-232	石橋 悠樹	酪農学園大学大学院
P1-328	荒川裕亮	石川県立大学	P1-104	石橋宙佳	筑波大学大学院・生命環境
H3-31	荒木 希和子	立命館大学生命科学部	I1-10	石山信雄	北海道大学
P1-153	有本晃一	九州大院・生資環	P1-050	伊豆 凜太郎	東北大・院・生命科学
H1-06	安西 航	東大・理	P1-260	伊勢崎泰	東邦大学大学院
P2-366	安藤温子	国立環境研究所	T17-2	磯部一夫	東京大学
T01-2	飯島勇人	山梨県森林研	P2-273	磯村 尚子	沖縄高専・生物資源
P2-071	飯田聡子	神戸大・院・理	P2-193	板垣智之	東北大・院・生命
P1-369	飯田泰地	東京農工大学農学府	P2-302	伊谷 行	高知大・教育
P2-455	飯村康夫	滋賀県大・環境	H3-33	井田 秀行	信州大・教
P2-300	井川 輝美	盛岡大学・文学部	F1-03	井田崇	京大・生態研
P1-272	井川 桃子	京大・人環	S01-5	市栄智明	高知大学農学部
I1-06	池川 雄亮	大阪府大院・理	P1-262	市川雄太	筑波大・院・生命環境
P1-259	池川 凜太郎	京大院・農	I3-26	市野川桃子	中央水産研究所
PH-030	池谷 友佑	中央大学附属高等学校	W23	一ノ瀬友博	慶應義塾大学環境情報学部
P2-424	池田 透	北海道大学	P2-461	市橋隆自	香川大農
P2-355	池田 浩明	(国) 農環研	P1-152	伊津野彩子	京大院・農
P1-408	池田成貴	京都大学農学研究科	P2-199	井出純哉	久工大・工・教育
P2-038	池田重人	森林総合研究所	P1-218	井出哲哉	富山大学大学院理工学教育部
T16-2	池田紘士	弘前大学農学生命科学部	P2-017	伊東 明	大阪市大・院理
E3-54	池本美都	京大生態研	P1-221	伊藤 海里	東京農工大学
W01 P2-222	井坂友一	北大・FSC	P1-187	伊藤 玄	岐阜大院・連農
P1-297	石井 絢子	九大院シス生	T13-4	伊藤 哲	宮崎大学農学部
P2-439	石井 弓美子	国立環境研・地域センター	P2-405	伊藤 健彦	鳥取大乾燥地研究センター
P2-343	石井潤	福井県里山里海湖研究所	P2-241	伊藤 毅	琉球大学
P2-097	石井弘明	神戸大農	H1-10	伊東 啓	静岡大学
W35	石井 励一郎	総合地球環境学研究所	P1-288	伊藤 真	京大院・理・動物行動
H1-03	石川 麻乃	国立遺伝学研究所・生態遺伝	P1-171	伊藤 光沙	東大院・新領域
P1-382	石川 和佳	神戸大・院・理・生物	P2-195	伊藤 睦実	首都大学東京生命科学専攻
P2-294	石川 俊之	滋賀大学・院・教育	G2-18	伊藤 宗彦	総研大・先導科学
F3-27	石川 尚人	海洋研究開発機構	T08	伊藤昭彦	国環研
G2-16	石川 由希	名古屋大学	H2-21	伊藤健二	農業環境技術研究所
P2-012	石川直子	東大・院・総合文化	D2-01	伊藤公一	九大・理
P1-359	石栗祐太	新潟大学農学部	P2-473	伊藤浩二	金沢大学里山里海プロジェクト
P2-329	石毛太一郎	東農大ゲノム	P2-295	伊藤萌	東大大気海洋研
P2-201	石崎 智美	新潟大・院・自然科学	T01-3	伊東宏樹	森林総合研究所
F1-01	石田清	弘前大学農学生命科学部	P2-248	伊藤洋	無し
P2-323	石田 惣	大阪市立自然史博物館	P1-394	伊藤雅浩	東京海洋大学
I1-02	石田 仁	岐阜大学フィールドセンター	P2-226	伊藤元己	東大・院・総合文化
P2-019	石田祐子	長野県環境保全研	P2-200	伊東康人	兵庫農技総セ
I3-30	石庭寛子	国立環境研究所	P1-203	稲垣辰哉	京大院・農・昆虫生態
S02-2	石濱史子	国立環境研究所	P2-462	稲垣善之	森林総研四国
P2-320	石原(安田) 千晶	和歌山大学教育	P1-289	稲田垂穂	東北大学生命科学研究科

講演・ 企画番号	名前	所属	講演・ 企画番号	名前	所属
P2-281	稲富 佳洋	道総研環境研	P2-442	上田実希	東北大・生命
P1-181	稲波璃香	神戸大学	S03-4	上野裕介	国土交通省・国総研
P2-296	稲葉 優太	京大生態研	P1-377	上原 裕世	酪農学園大学院・野生動物
P1-334	井上 遠	東大院・農	W16	植松 圭吾	産総研・生物プロセス
P2-386	井上 智晴	JAMSTEC	T11-5	潮 雅之	龍大・理工
P1-321	井上 奈津美	東大院・農	P2-184	丑丸敦史	神戸大学・人間発達環境学
P2-354	井上雅仁	島根県立三瓶自然館	S04-3	内井喜美子	大阪大谷大・薬
P2-217	井上みずぎ	秋田県立大学生物資源科学部	P1-163	内海 邑	総研大・生命共生体進化
P1-213	井上光也	高知大学	W02	内田 圭	東大院・総合文化
P2-416	伊原慎雄	北海道教育大学釧路校	P2-382	内田 圭	東大院・総合文化
P1-357	飯伏香織	東京大学大学院	P1-389	内田翔太	東北大・生命科学
PH-038	今飯田 果歩	横浜サイエンス高校	P2-433	内田雅己	国立極地研究所
F3-35	今井愛理	龍谷大学理工学部	P2-283	宇野裕之	北海道立総合研究機構
W17 J2-15	今井伸夫	京大・霊長研	P2-107	生方 正俊	森林総研林木育種センター
P1-138	今川未悠	長岡技術科学大学	P2-466	梅村光俊	名大院・生命農
E2-30	今坂亮介	九大院・シス生・生態研	T21-3	浦口 あや	CI ジャパン
E3-46	今田 弓女	京大院・人間・環境	P2-464	浦部 美佐子	滋賀県立大学環境科学部
P2-378	今西 亜友美	近畿大・総社	P1-013	瓜生真也	横国大・院・環境情報
P2-064	今西純一	京大・地環	P1-119	江川 信	信州大学理学部
P2-188	今村彰生	北海道教育大学旭川校	T12-2	江川知花	農業環境技術研究所
I2-24	今村航平	東北大学・院・生命	P1-298	江川遼平	東工大 情報理工
P2-171	岩井 康平	東北大学・生命	H3-29	江副 日出夫	大阪府大・院・理・生物
P2-338	岩井 紀子	東京農工大学	P2-418	榎木 勉	九州大学演習林
P2-042	岩泉 正和	森林総研林育セ関西	P2-057	栄村奈緒子	京大学生態学研究センター
P2-325	岩井美咲子	富山大学院理工学教育部	P1-231	遠藤 幸子	立教大学大学院・理
P1-421	岩岡史恵	京都大学農学研究科	P2-142	遠藤敏生	兵庫県立大学環境人間学部
PH-034	岩木 れん	埼玉県立越谷北高等学校	P2-074	及川真平	茨城大・院・理工
U12 H1-11	巖佐 庸	九大理	P1-307	種田 あずさ	横浜国大・環境情報
T04-3	岩崎 藍子	北大・環境科学・院	P1-092	王莫非	山形大学大学院
P2-211	岩崎 貴也	京大・生態研	P2-413	大石善隆	北大研究林
W04	岩崎 巨典	農業環境技術研究所	P1-244	大磯毅晃	北海道大学環境科学院
P2-151	岩崎 巨典	農業環境技術研究所	P1-253	大上 慧太	北海道大学農学部
P1-355	岩里 実季	鳥取大学大学院地域学研究科	J2-19	大浦 健志	大阪大学
P2-250	岩田 繁英	東京海洋大学	P2-446	大浦典子	農業環境技術研究所
G1-03	岩田高志	東京大学大気海洋研究所	D2-05	大河原恭祐	金沢大・自然システム・生物
P2-143	岩田智也	山梨大学生命環境学部	P1-186	大澤 崇季	信大院・農研
P1-393	岩間正和	東京農工大学大学院	U06 S02-4	大澤 隆文	環境省
P1-302	岩本 彩	広大・院・生物圏科学	W19 S02-3	大澤 剛士	農環研
P2-104	岩山幸治	龍谷大学	I3-34	大澤正嗣	山梨県森林総合研究所
P1-344	植竹 倫子	北大・環境科学院	P2-031	大杉 周	信州大学 総合工学系
P1-040	上田 健太	広島大院・総合科学	P2-467	大曾根陽子	森林総合研究所
W01	上田 昇平	大阪府大・生命	P2-129	大園享司	京大生態研
P2-158	上田 羊介	神戸大学農学部	P2-458	太田 民久	総合地球環境学研究所
P1-385	上田 亜衣	横浜国立大学	P2-316	太田彩菜	首都大学東京

講演・ 企画番号	名前	所属	講演・ 企画番号	名前	所属
P1-210	大竹裕里恵	東邦大学理学部	W22	奥津 憲人	文化学園大学杉並中高
P2-089	大谷 雅人	兵庫県大・自然研	P2-310	奥野正樹	岐阜大学応用生物科学部
P2-372	大谷洋介	大阪大学 未来戦略機構	P2-061	小口理一	東北大・院・生命
P2-008	大津 千晶	山梨県森林研	P1-184	小椋 球	信大・農
P1-037	大塚勇哉	明治大学農学部	P2-163	小椋純一	京都精華大学
P2-280	大槻 朝	東北大・院・生命科学	P2-034	小黒 芳生	東北大・院・生命
J3-26	大槻 久	総研大・先導科学	P1-346	小黒和也	筑波大学菅平高原実験センター
G1-09	大槻初音	京大院・農・生態情報	P1-067	尾崎 透	静岡大学総合科学技術研究科
W35 P2-440	大手 信人	京都大学情報学研究科	T11-3	長田 穰	総合地球環境学研究所
W19 J3-31	大西 尚樹	森林総研・東北	P2-099	長田典之	北海道大学 FSC
P1-401	大野 秀輔	京大・農・森林	T13-1	尾崎研一	森林総合研究所
P1-085	大橋 千遼	流域圏科学研究センター	P1-407	尾崎 隼斗	東邦大学理学部生物学科
T08	大橋春香	(国研) 森林総合研究所	P1-160	小田切悠	東大・総合文化
P2-389	大橋瑞江	兵庫県立大学	PH-008	越智 匠海	立命館慶祥高等学校
F1-07	大原 隆之	北海道大学環境科学院	P1-432	落合拓朗	三重大学院 生物資源学研究科
H3-27	大原佑太	自然環境研究センター	P1-325	越智まどか	広工大・院・工学系研究科
P2-404	大場 真	国立環境研・社会C	P1-233	鬼澤 康太	北海道大学地球環境
E1-19	大庭 ゆりか	広島大学総合科学研究科	P2-095	小野 清美	北大・低温研
P2-051	大林夏湖	東大・広域システム	P2-429	小野賢二	森林総研東北
P1-392	大平昌史	北大・院・環境	W29 P2-006	小野田雄介	京都大・農・森林生態
H1-12	大森浩二	愛媛大学沿岸センター	I2-17	小野田幸生	土木研究所
J1-11	大山央人	埼玉大・院・教育	P2-271	小野寺 裕乃	北大環境科学院
G3-32	大脇 淳	山梨県富士山科学研究所	P2-118	恩田 義彦	理研 CSRS
P2-116	岡 千尋	東北大・院・生命科学	P1-079	賈 舒征	東京大学 新領域
P2-182	岡浩平	広島工業大学環境学部	F3-30	鏡味麻衣子	東邦大学理学部
P2-306	岡田 賢祐	岡山大・院・環境生命	P1-340	加賀山 翔一	東邦大院・理
P2-431	岡田慶一	横浜国立大環境情報	P1-265	柿添翔太郎	九州大システム生命
P2-282	岡野 淳一	生態研セ	P2-396	柿沼 薫	東京工業大学
S03-1	岡野隆宏	環境省	P2-346	柿野 亘	北里大学獣医学部
P1-111	岡野由季	名大院生命農学研究科	P1-241	垣見直希	龍谷大・院・理工
U03	岡部 憲和	九大院シス生	P2-270	鍵谷 進乃介	北大・院・環境科学
P1-245	岡宮久規	首都大・生命	P2-247	笠井 敦	国立環境研究所
T02-4	岡本 朋子	岐阜大・応用生物	W07 T07-3	笠田 実	8578
P2-232	小粥隆弘	筑波大学菅平高原実験センター	P1-410	笠原暢	横浜国大・環境情報
F1-08	小川一治	名古屋大学	P1-130	柏木 晴香	名古屋大・院・生命農
J2-16	小川裕也	京大農	P1-084	梶野浩史	京都大学農学部
P1-068	沖村 沙耶佳	筑波大学大学院・生命環境	W25 J3-28	粕谷 英一	九大・理・生物
P1-384	沖邑 時代	横浜国大・環境情報	P2-470	堅田 元喜	日本原子力研究開発機構
P1-046	荻嶋美帆	東北大・院・生命科学	P2-356	片山 直樹	農環研
P1-353	奥井 かおり	兵庫県立大院・緑環境	P2-437	片山歩美	九大演習林
H2-15	奥崎 穰	北海道大学 FSC	P2-301	片山昇	北大・FSC
P2-381	奥田 昇	総合地球環境学研究所	U01	可知直毅	首都大院・理工・生命
T21-1	奥田敏統	広島大学 総科	T15-5	香月 雅子	筑波大生命環境系

講演・ 企画番号	名前	所属	講演・ 企画番号	名前	所属
PH-007	勝島 可奈子	東京都立国分寺高等学校	P1-100	上林真実	東北大・院・生命科学
P1-038	桂友里枝	岐阜大・応生	PH-023	神戸 朱琉	岐阜県立岐阜高等学校
P2-117	加藤 沙織	福島大・院・共生システム理工	T22-4	菊地 直樹	総合地球環境学研究所
U13	加藤 真	京大・人間・環境	P2-213	菊地賢	森林総合研究所
P2-317	加藤貴大	総研大。先導科学	P2-421	岸 茂樹	国立環境研究所
P1-120	加藤大貴	東京農工大学	P2-275	岸田 竜	佐大農
P2-194	加藤禎孝	岩手大院連合農学研	P2-419	岸本圭子	新潟大・CTER
P1-242	加藤三步 (Kato Misuho)	鹿児島大学	P1-249	北市 仁	石川県立大学
G1-02	加藤元海	高知大黒潮圏	P2-478	北澤哲弥	(株) エコロジーパス
P1-036	香取拓郎	東北大学生命科学研究科	F3-42	北出 理	茨城大学理学部
F3-34	門脇浩明	京都大学人間・環境	P2-361	北西 滋	岐阜大学地域科学部
P2-415	金澤 光	埼玉県環境科学国際センター	P2-258	北野 聡	長野県保研
P1-179	金澤 弓子	東農大・地域	P1-248	北野大輔	滋賀県大・環境
P1-376	金森 充晃	明治大学農学部	P1-064	北林 慶子	金沢大学自然科学研究科
F3-38	金森由妃	北大・院・環境科学	P2-039	北村俊平	石川県立大
P1-428	金子 命	酪農学園大学大学院	W36 S01-6	北山兼弘	京大・農・森林生態
P2-050	兼子伸吾	福島大・理工	P1-070	木下 智光	京都工芸繊維大学応用生物
P1-097	金子麻里	東北大・院・生命科学	T19-1	木下今日子	岩手大学・三陸復興
T16-5	金田 哲	国) 農環研	P2-276	木下智章	佐賀大・農
P2-115	壁谷大介	森林総研	P1-409	木村 純平	横浜国大院環境情報
P2-154	鎌内 宏光	金沢大・臨海	P1-145	木村 真美子	学芸大・院・環境科学
W08	鎌倉 真依	京大・農	P2-327	木村一貴	東北大・生命
P2-080			P1-047	木村拓真	東北大・院・生命
H1-08	上岡駿宏	九州大学院	P1-041	木村ひかり	首都大・理工
P2-136	神谷麻梨	京大生態研	P1-349	木村元則	京大・農学・環境デザイン
P1-162	亀岡 慎一郎	京大・院・人環	P2-161	清川 紘樹	東大・農・生物多様性
P2-225	亀山慶晃	東京農大・地域環境	P1-103	清水 啓史	京都工芸繊維大学大学院
P2-068	香山雅純	国際農研	P1-016	日下部亮太	千葉大院・教育
H2-23	唐沢重考	福岡教育大学	P2-233	楠本良延	(研) 農業環境技術研究所
P2-435	苅部甚一	茨城大・広域水圏セ	U09	工藤 洋	京都大学生態学研究センター
I1-12	苅部治紀・森英章	神奈川県博・自然研	P1-020	工藤惠梨	秋田県大・生物資源
P1-098	河合 清定	京都大学農学研究科	P2-049	久保田 涉誠	日大・生物資源
W14	川上和人	森林総合研究所	W25	久保拓弥	北大・環境科学
P1-112	川上隼人	石川県立大学	P1-365	久保田涼平	明治大学 農学部
W37	河口洋一	徳島大学 STS	P2-236	熊谷直喜	国立環境研究所
P1-224	川尻 啓太	北海道大学 農学部	P1-227	熊谷菜摘	奈良女子大学大学院
T11-4	川津一隆	龍谷大・理工 /JSPS・PD	P1-170	熊谷仁志	大阪大学工学研究科
P2-474	川西基博	鹿児島大・教育	P2-291	熊田 那央	NPO 法人バードリサーチ
P2-268	川西亮太	北大院・地球環境	P2-311	熊野 了州	帯広畜産大学 昆虫生態
P2-352	河野円樹	綾町役場	U07		
P1-017	川原 大基	鹿児島大学	P2-058	久米 篤	九州大学農学研究院
P1-055	川畑幸樹	滋賀県大・院・環境	P1-415	久良 祐紀子	広島大学
T01-4	川森愛	統計数理研究所	P1-051	倉園 知広	神戸大・院・理
			P1-311	倉橋 彩百合	新潟大学自然科学研究科

講演・ 企画番号	名 前	所 属	講演・ 企画番号	名 前	所 属
P2-365	倉本宣	明大・農	T05-4	小松直哉	東京都市大学
P1-285	栗原洋介	京都大学霊長類研究所	P1-207	小松茉莉奈	筑波大学
T09-1	栗山 武夫	東邦大学理学部	E3-41	小峰浩隆	東京農工大学
P2-307	栗和田 隆	鹿児島大学教育学部	P1-258	小村健人	京都大・農
F2-14	黒岩 亜梨花	九州大学 生態科学研究室	P2-384	小柳知代	東京学芸大・環境教育セ
P2-127	黒江美紗子	長野県環境保全研究所	G2-24	小山彰彦	九州大学水産実験所
P2-014	黒田有寿茂	兵庫県大・自然研	G3-31	小山明日香	森林総研
P2-403	黒田 慶子	神戸大・農	P2-101	小山里奈	京大院・情報
P1-274	黒田剛広	神戸大・発達科	P1-142	古谷祐平	新潟大・院・自然研
P1-294	黒田祐樹	東農大院生物	P1-283	近藤 崇	名古屋大・生命農・森林保護
T08-2	桑江 朝比呂	港湾空港技術研究所	P2-007	近藤 博史	横浜国立大学 環境情報
P1-191	桑原里奈	東邦大・理	T11-1	近藤 倫生	龍谷大学理工学部
T05-5	敵網林	慶應義塾大学	P2-449	近藤 美由紀	国立環境研究所
P2-468	源六孝典	京大・農・森林生態	P2-438	近藤晃	静岡森林研セ
P2-187	小池伸介	東京農工大	P2-335	近藤 俊明	広島大学 国際協力研究科
I2-20	小池文人	横浜国大	P2-242	今藤夏子	国立環境研・生物セ
F1-09	小出 大	国立環境研究所	P1-052	近藤菜々美	横浜国立大・地球生態
P2-412	幸田良介	大阪環農水研	F3-33	今野 浩太郎	農業生物
J2-13	河内 香織	近畿大学農学部	P2-078	紺野康夫	無所属
P1-362	甲野 耀登	東京大学農学部	P1-396	紺野由佳	茨城大学理工学研究科
P1-074	甲野 裕理	京都大学生態学研究センター	PH-006	郷原 雪枝	清心女子高等学校
G3-36	神山 智美 / KOHYAMA, Satomi	富山大学経済学部経営法学科	T12-6	五箇公一	国立環境研究所
P1-219	高良真佑子	近畿大農	P1-280	後藤 佑介	東大 大海研
P2-326	小坂井千夏	神奈川県立生命の星・地球博	PH-001	後藤 遼太	海城中学高等学校
P1-279	越田智恵子	筑波大・生命環境	T15-1	後藤彩子	甲南大学理工学部生物学科
T04-4	胡 之暘	北大・地球環境	T04-2	後藤和久	東北大学
P1-150	小須田修平	株式会社緑生研究所	P2-332	後藤裕子	中部大学
P2-113	小谷二郎	石川県農林研	T13-2	五味高志	東京農工大学
P2-477	小玉愛子	苫小牧市美術博物館	P1-308	才木真太郎 / Shin-Taro Saiki	京都大学生態学研究セン ター
P2-287	児玉紗希江	水産総合研究センター	T08-1	三枝 信子	国立環境研究所
T15-3	小長谷達郎	京大・院・理	E1-15	齋藤 隆実	名大・宇宙地球環境研究所
P2-305	小西 哲郎	中部大学工学部共通教育科	P2-027	齋藤 達也	農工大
P1-035	小原 昌之	大阪教育大学大学院	P1-378	齋藤 真苗	明治大学農学部
P1-192	小橋 興次	近畿大院・農・環境管理	W10 P2-427	齋藤 琢	岐阜大・流域圏
P1-124	小林 一樹	千葉科学大学院危機管理	P1-165	齋藤匠	東北大院・生命科学研究科
PH-009	小林 美佑	和歌山県立日高高等学校	P2-407	齋藤智之	森林総研東北
P1-173	小林 勇太	横浜国立大学環境情報学府	P2-445	齋藤 雅典	東北大学・院・農学
P2-180	小林 慶子	北大院・農	T18-1	齋藤昌幸	農工大・農
P2-160	小林 聡	電力中央研究所	G1-12	佐伯いく代	筑波大学
T16-7	小林真	北大 FSC	P1-287	酒井 理	京都大学理学部動物行動
P2-286	小平 真佐夫	山梨県富士山科学研究所	P2-260	境 優	中央大・理工学部
T05-1	小堀洋美	東京都市大学	P2-264	酒井陽一郎	琵琶研セ
P1-361	小町亮介	新潟大学関島研究室			

講演・ 企画番号	名前	所属	講演・ 企画番号	名前	所属
P1-225	坂入 一瑳	東邦大・理	P2-463	佐藤和弥	三重大・生物資源
P1-370	酒井理恵	神戸大学農学部	G1-06	佐藤克文	東大大海研
P1-436	坂倉 光祐	早稲田大・教育	P1-095	佐藤佳奈子	岡大院環境生命
P2-047	阪口翔太	京大院・人環	P1-049	佐藤郷	北海道大学環境科学院
P1-356	坂田雅之	神戸大学	G3-26	佐藤淳	福山大学 生命工学部
D2-09	坂田ゆず	京大生態研	P1-300	佐藤瑞奈	酪農学園大院・野生動物
P1-337	坂本大地	新潟大学農学部	S04-6	佐藤行人	東北大 ToMMo
P1-331	坂本有実	鳥取大学	P2-255	佐野真吾	東京都市大学
WO6 P2-315	坂本佳子	国立環境研究所	P2-452	佐野 智人	農研機構野菜茶業研究所
G2-17	佐賀達矢	東大院総文・県立大垣桜高	W18	鮫島弘光	IGES
H3-25	崎尾均	新潟大・農	P1-402	更科 美帆	酪農学園大学院・野生動物
P2-015	寄元 道德	京都大学フィールド研	P1-281	澤井 穂高	兵庫県立大学環境人間学部
P1-372	崎山智樹	北海道大学農学部	P2-063	澤上航一郎	東大・院・理・日光植物園
P2-472	佐久間 大輔	大阪自然史博	P1-387	澤田 彩香	神戸大・理学部
PH-037	櫻井 基樹	岐阜県立岐山高等学校	P2-321	澤田晶子	京都大学霊長類研究所
P2-394	櫻井 善文	札幌市立大院博士	P1-228	澤田紘太	総研大・先導研
G2-19	櫻井 麗賀	兵庫県立大学	P2-132	澤島 拓夫	近畿大学農学部環境管理学科
I1-09	櫻井翔	龍谷大・院・理工	D2-11	塩尻かおり	龍谷大学
T05-3	桜井良	立命館大学政策科学部	P2-426	鹿野秀一	東北大・東北アジア
P1-159	櫻澤 孝佑	東京大学大学院	J2-22	鹿山 大輔	静岡大学 総合科学技術研究科
J3-25	佐々木 顕	総研大・先導研	T10-4	静間 清	広島大学 工学部
P2-476	笹木 義雄	柳学園中学・高等学校	P1-368	篠田 悠心	東京農工大学
P1-031	佐々木 駿	山形大・理	P1-154	篠原忠	神戸大・人間発達環境
P1-009	佐々木駿	東大・院・理・日光植物園	P2-069	篠原 慶規	九州大学
P2-388	佐々木 剛	徳島大学	P1-133	篠原直登	東京大学農学生命科学
P1-174	佐々木春佳	東北大・生命	P1-056	柴田あかり	北海道大学環境科学院
T17-1	佐竹暁子／ Akiko Satake	九州大学理学研究院	P1-419	志摩兼	広島大学総合科学部総合科学科
H2-17	里居 伸祐	九州大	W24	島谷健一郎	統計数理研究所
P2-308	佐藤 綾	群馬大 教育	G3-33	島田 和則	森林総研・多摩森林科学園
P1-183	佐藤 豪士／ SATO, Goshi	茨城大学大学院理工学研究科	H3-28	島田 卓哉	森林総研・東北
P2-336	佐藤 重穂	森林総研四国	P2-364	島田 直明	岩手県立大・総合政策
PH-039	佐藤 翔太	埼玉県立坂戸西高等学校	H1-09	嶋田 正和	東大・総合文化・広域
H1-04	佐藤 真	市立大町山岳博物館	P2-406	島村 崇志	道総研環境研
E2-34	佐藤 雄大	新潟大院・自然科学	P1-366	嶋本 拓真	新潟大学
P1-014	佐藤 匠	広島大学	P2-088	清水 英幸	国立環境研究所
PH-040	佐藤 直	立命館慶祥高等学校	P1-169	清水 裕矢	東京大・総合文化・広域
P1-223	佐藤 渚	茨城大学大学院 理工学研究科	W15 P2-204	清水 啓介	海洋研究開発機構
E3-44	佐藤 允昭	瀬戸内海区水産研究所	P1-113	清水健将	神戸大院・発達
T18-4	佐藤 真行	神戸大学	W16 P2-328	下地 博之	北海道大学・地球環境
D2-10	佐藤 安弘	京大生態研	PH-005	下田 凜太郎	東京都立科学技術高校
P1-338	佐藤 悠	京大・野生動物	H2-18	下野綾子	東邦大・理
J2-21	佐藤一憲	静岡大学工学部	P1-399	下藤章	東邦大院・理

講演・ 企画番号	名前	所属	講演・ 企画番号	名前	所属
F3-40	小路 淳	広島大学	T22-2	須藤 明子	(株) イーグレット・オフィス
T13-5	庄子 康	北海道大学大学院農学研究院	J3-34	須藤正彬	農業環境技術研究所
P2-123	白崎 仁	新潟薬大・薬・生物	P1-234	角拓人	岡大院・環境生命
P1-363	白土晃一	東大院・農	P1-429	墨野倉 伸彦	早稲田大・院・先進理工
P1-348	白土智子	東邦大学保全生態学研究室	T17-4	陶山 佳久	東北大・農
PH-020	新有留 茜	池田学園池田高等学校	P2-010	清野 達之	筑波大学・生命環境
P1-435	新海 恒	早稲田大・院・先進理工	P2-073	関 剛	FFPRI, Hokkaido
P1-367	新銀 仁善	森林生態系管理学	P2-105	関川清広	玉川大・農・生物環境
P2-432	上村 真由子	日大生物	P2-368	関川 文俊	富士常葉大環防研
P1-199	徐寿明	神戸大学	W22	関口伸一	海城中学高等学校
W26 D2-02	末次 健司	神大院・理	G1-04	関澤麻伊沙	総研大
P2-334	須賀 丈	長野県環境保全研	PH-027	千古 晴菜	兵庫県立加古川東高等学校
P1-033	須貝 凌	新潟大・自然科学	P1-309	先崎理之	北大農院
P2-339	須貝杏子	森林総研	PH-028	膳 若菜	東京都立国分寺高等学校
F3-28	須貝洋海	北海道大学環境科学院	P1-030	曾我 江里	京大・生態研
PH-010	菅原 玲	埼玉県立川越女子高等学校	P2-235	曾我部 篤	弘前大・農学生命
P2-292	杉浦 秀樹	京都大学野生動物研究センター	P1-261	曾我部共生	京大院農
W08 P2-066	杉浦大輔	東大院・理	T18-3	曾我昌史	東大・工
P2-135	杉山 賢子	京大 理学部	H2-24	十河勇樹	龍谷大・院・理工
E1-10	杉山 杏奈	UCLA/ 森林総研	P1-026	園田 隼人	京都大学 農 森林生態
G2-15	洲崎 雄	京大・院・理	P1-099	染谷 汐織	筑波大学
P2-003	鈴木 英治	鹿児島大学理工学研究科	P1-417	孫麗娟	京大農森林生態学
P2-304	鈴木 圭	水研セ 国際水研	J3-32	平 祥和	大阪府立大学
G2-20	鈴木 翔	東邦大院・理	P1-215	平 拓也	東北大学大学院
G1-05	鈴木 俊貴	総研大・先導科学	S02-5	高川晋一	日本自然保護協会
T09-2	鈴木 牧	東大・新領域	P2-422	高木 俊	兵庫県立人と自然の博物館
P1-208	鈴木 真裕	大阪府大院・生命・環動昆	P1-413	高木 勇輔	横浜国立大学・理工
J1-09	鈴木 亮	筑波大・菅平セ	P1-246	高木香里	東大・農
P1-425	鈴木英里	早稲田大学・教育	P1-364	高木俊甫	北大・環境
T23-3	鈴木健大	国立環境研究所	P1-023	高木豊大	東京大学農学部
P2-168	鈴木智之	東大・農・秩父演	P2-120	高倉耕一	滋賀県大・環境
P1-024	鈴木詩織	名大院・生命農	W13 13-25	高科直	琉球大・熱生研
U10 T14-4	鈴木準一郎	首都大・理工・生命	P1-214	高嶋 あやか	龍谷大学理工学研究科
P2-342	鈴木節子	森林総合研究所	E2-23	高島 瑠伊	京大・農・昆虫生態
E2-38	鈴木紀之	立正大	T24-2	高巢 裕之	東京大学大気海洋研究所
P1-144	鈴木陽花	学芸大・院・環境科学	E2-26	高須賀圭三	神戸大学大学院農学研究科
P1-398	鈴木広美	東邦大・理	T10-1	高田 モモ	広島大 総科
W05 P2-166	鈴木まほろ	岩手県立博物館	P2-140	高田宜武	水研セ・日本海区水研
P1-418	鈴木真祐子	早稲田大・院・先進理工	P2-098	高梨 聡	森林総研
P1-116	鈴木美季	筑波大・生命環境	T06-1	高野 (竹中) 宏平	東北大・生命科学研究科
P2-103	鈴木 祥弘	神奈川大学理学部	W20 P2-319	高橋 晃周	国立極地研究所
P2-350	須島充昭	東大総合文化	T02-3	高橋 文	首都大・理工・生命
			W28	高橋清孝	NPO 法人シナイモツゴ郷の会

講演・ 企画番号	名前	所属	講演・ 企画番号	名前	所属
P1-195	高橋瑛乃	高知大・院・理	P2-141	田中 優穂	千葉大学大学院理学研究科
P1-226	高橋華江	神戸大学理学研究科	J2-17	田中嘉成	国立環境研・環境リスク
P2-189	高橋一秋	長野大・環境ツーリズム	P2-240	田中崇行	信州大学
W33	高橋一男	岡大・環境生命	P1-062	田中美澄枝	京都大学農学研究科
P1-021	高橋沙也香	新潟大学農学部	P2-209	田辺 力	熊本大教育
P2-314	高橋大輔	長野大・環境ツーリズム	W31	田辺晶史	水研セ・中央水研
P1-157	高橋迪彦	東北大学理学部	P2-224	田邊優貴子	極地研
P1-256	高橋祥尚	滋賀県立大学	P2-430	田邊優貴子	極地研
H3-35	高島千尋	信州大学山岳科学研究所	P2-090	谷 友和	上越教育大・理科
H3-36	高原 光	京都府大・生命環境	G2-22	谷口昇志	東京大学農学部
T20-2	高原輝彦	島根大・生物資源	F1-06	種子田春彦	東京大学・理・生物科学
T15-2	高見泰興	神戸大・人間発達環境	P1-060	田畑早紀	三重大院・生資
P2-223	高村健二	国立環境研究所	P2-041	玉木 一郎	岐阜県森文了
P1-202	高安伶奈	東大新領域	P1-139	玉置祐芸	京都大学農学研究科
P2-035	高柳咲乃	東北大学生命科学研究科	P2-155	玉田 克巳	道総研
T10-2	田上 恵子	放射線医学総合研究所	H1-05	玉手 智史	東北大・院・生命
E3-53	田川一希	九大・院・生態研	H2-16	田村 繁明	東大院・農学生命
T12-3	滝 久智	森林総研	P1-310	田村大也	京大院・理・生物
P2-216	滝々平 智博	岡山大・環境生命	P2-443	陀安 一郎	総合地球環境学研究所
P1-122	瀧川裕介	滋賀県立大学	P2-367	田和康太	兵庫県大院・地域資源
E3-55	瀧本岳	東大・農	P1-326	丹野 夕輝	静岡大・農、岐阜大・院・連農
P1-123	武 真祈子	京都大・霊長研	P1-318	知識亜果音	神戸大・農
P1-292	竹内智勇	茨城大学	PH-029	千葉 汀	宮城県仙台第三高等学校
P2-362	竹内やよい	国立環境研究所	PH-033	千葉 利久	東京都立国分寺高等学校
P2-218	竹内勇一	富山大学医学部解剖学	P1-078	陳 磊	北海道大学低温研
T15-4	竹垣 毅	長崎大院水環	P1-305	塚本 康太	環境省東北地方環境事務所
P1-347	竹川有哉	徳島大院 先端技術	P1-015	築地孝典	高知大・院・理
P1-082	竹島 綾乃	筑波大学大学院・生命環境	U11 E2-21	辻 和希 (Kazuki TSUJI)	琉球大学
G2-13	武田 浩平	総研大・先導研	T20-6	辻 冴月	龍谷・院・理工
P2-220	竹中明夫	国立環境研究所	P2-079	辻井悠希	京都大学農学研究科
P1-164	竹中将起	信州大学院理工学系研究科	P2-119	辻かおる	京大・生態研究センター
P2-028	竹原 明秀	岩手大・人文社会・環境	P2-370	辻野亮	奈良教大自然セ
P1-108	竹原 巧	京都大学森林生態学研究室	P1-114	辻本 翔平	富山大学
P1-301	武村 達也	龍谷大学大学院	P1-107	辻本 克斗	北海道大学大学院農学院
W11	多田満	国立環境研究所	P2-043	辻本典顯	京大・生態研
P2-471	多田満	国立環境研究所	D2-04	辻大和	京都大学霊長類研究所
P1-148	太刀川翼	新潟大学院自然科学研究科	J1-10	津田 智	岐阜大 流域圏センター
T14-1	立木 佑弥	九大・理	P1-118	津田 優一	京大院・農
W33	立田 晴記	琉球大学農学部	P1-131	土田洋子	山形大学大学院理工学研究科
E1-09	辰巳晋一	横浜国大	P1-180	筒井 優	東京大学
P1-433	立岩沙知子	京都大学大学院農学研究科	P2-086	都築なつみ	千葉大学大学院理学研究科
P1-335	舘野太一	東邦大学大学院理学研究科	P1-238	津野 きりこ	新潟大学
P1-317	立脇 隆文	横国大・環境情報	P2-191	角田智詞	横国大・院・環境情報
F3-44	田中幸一	農業環境技術研究所			

講演・ 企画番号	名 前	所 属	講演・ 企画番号	名 前	所 属
P2-414	角田裕志	埼玉環境科学国際センター	P2-256	中川 光	Hiroshima University
W34 J3-33	都野展子	金沢大・理工	P1-061	中川宏記	横浜国立大・院・環境情報
P2-055	壺内 巧馬	金沢大学大学院	E1-03	中川湧太	兵庫県立大学
P2-174	露崎 史朗	北大・院地球環境	P2-165	中川祐弥	三重大学・生物資源学部
P2-274	鶴井 香織	琉大・戦略的研究セ	P2-249	中河嘉明	国立環境研究所
P2-288	鶴田 哲也	大阪産大・人間環境	P1-057	中川佳真	北海道教育大学旭川校
P2-330	手塚あゆみ	龍谷大・農	P2-145	中桐齊之	兵庫県立大・環境人間
P1-388	特努恩	大阪市大・院・理	H3-32	中越 信和	広大院国際協力
P2-243	寺田 一美	東海大学工学部	E3-50	仲澤剛史	国立成功大学・生命科学
H2-22	寺田 考紀	沖縄県衛生環境研究所	P1-296	仲澤伸子	京大・野生研
P2-025	寺田 佐恵子	環境省／京大・理学	U06	中静 透	東北大学
P1-217	寺西 琢矢	北海道大学環境科学院	P2-259	中島啓裕	日本大学生物資源科学部
P1-306	寺本 悠子	筑波大学大学院・生命環境科学	P1-205	中島 一豪	東京大学
P1-290	寺山佳奈	高知大学	P1-075	中島宏昭	東京農大・院・農
P2-348	照井 滋晴	NPO 法人 PEG	PH-025	中武 泰成	横浜サイエンス高校
F3-32	照井慧	北海道大学	U05 G2-14	中田兼介	京都女子大学
T07-4	東樹宏和	京大・人環	P1-350	中田功大	長野大・環境ツーリズム
G3-35	遠山弘法	九大・理・生物	P1-151	中臺 亮介	京大大学生態学研究センター
P1-109	富樫 絢夏	茨城大学理工学研究科	E1-12	中西 晃	京大院農
W03	富樫辰也	千葉大・海洋バイオ	J1-08	中西 正	愛知県環境審議会
J2-18	時田恵一郎	名大院情報	P2-214	中西 希	琉球大学理学部
P1-045	時田紘太郎	東北大学理学部	P2-156	中野 善	水産総合研究セ
P1-270	徳山 奈帆子	京都大学霊長類研究所	P1-386	中野 光議	滋賀県大・院・環境
P2-062	戸田 求	広島大学・院生物圏科学	U09	中野伸一	京大生態研
P1-252	戸塚邦洋	東大院・農	E1-13	中原 亨	九大・システム生命・生態
P1-379	外崎 杏由子	筑波大学大学院	P2-091	中村 隆俊	東農大
P1-206	戸祭 森彦	筑波大学下田臨海実験センター	I2-19	中村誠宏	北大・北方生物
P2-371	富田 啓介	法政大文学部	W27	中村 幸人	東京農業大学
P1-319	富田 勢	神戸大学	T12-1	中村 純	玉川大・ミツバチ科学研
P2-052	富田 基史	電中研	P1-117	中村友香	富山大学大学院
P2-157	富田瑞樹	東京情報大学	P2-357	中山 大志	酪農学園大学
P2-077	富松 元	国立環境研究所 生物	W21	中山 隆治	環境省生物多様性センター
T14-3	富松 裕	山形大・理	T23-1	中山新一朗	中央水研
P2-460	友常満利	神戸大学大学院農学研究科	W10	永井 信	海洋研究開発機構
P1-345	豊福晋作	龍谷大学 大学院	PH-026	長井 孝彦	海城中学高等学校
P2-109	鳥丸 猛	三重大院・生資	P1-316	長井 拓馬	神戸大院 人間発達環境
S04-1 S04-4	土居秀幸	兵庫県大院・シミュレーション	P1-087	長尾 彩加	岐阜大・応用生物
P2-411	土光智子	慶應義塾大学	P2-021	長倉有理	酪農学園大学
D2-06	直江 将司	森林総合研究所	T13	長坂 有	道総研 林業試験場
P1-275	直塚 翔吾	九州大学大学院	P1-072	長瀬 泰代	帯広畜産大学
PH-019	中 光咲	和歌山県立日高高等学校	I1-11	長太 伸章	科博標本資料セ
H2-20	中井 克樹	琵琶湖博物館	W09 G1-07	永田尚志	新潟大学・CTER
T06	中尾勝洋	森林総合研究所関西支所	P2-210	永野 真理子	東大・総合文化

講演・ 企画番号	名前	所属	講演・ 企画番号	名前	所属
W36 P1-295	長野秀美	京大・農	T24-3	野牧秀隆	海洋研究開発機構
P2-179	永松 大	鳥取大・地域環境	P2-227	法月 直也	富士常葉大環防研
P2-284	永光輝義	森林総合研究所	P1-147	芳賀 真帆	北大・環境科学院
I2-16	永山滋也	国研) 土木研究所	P2-102	芳賀 由晃	山形大 農学部
P2-272	夏原由博	名古屋大学	P1-271	羽方 大貴	筑波大学 生命環境科学研究科
P1-043	名取史晃	弘前大・院・農生	J3-29	箱山 洋	水研センター／東京海洋大
P2-114	名波 哲	大阪市立大学理学研究科	T20-5	橋爪裕宜	神戸大学人間発達環境
P2-029	並川寛司	北海道教育大学札幌校生物	P1-341	橋本 寛治	酪農学園大学大学院
P1-019	成田あゆ	京都大学農学研究科	P1-126	橋本 洸哉	京大生態研
P1-351	南部祐大朗	明治大農 M1	P2-434	橋本 徹	森林総研北海道
P1-267	新津 伊織	岐阜大院・応用生物	P2-167	橋本 啓史	名城大・農
P2-026	新山 馨	森林総合研究所	PH-003	橋本 実希	埼玉県立熊谷西高等学校
P2-046	西尾 孝佳	宇都宮大・雑草と里山七	P1-430	橋本桂佑	東北大・院・生命
E1-14	西尾 治幾	京大 生態研	W05 S03-3	橋本佳延	兵庫県博
P1-006	西澤 啓太	横浜国大・環境情報	T08-4	羽島 知洋	海洋研究開発機構
W17 P2-341	西嶋翔大	横浜国大・環境情報	P2-212	長谷和子	東大院・総合文化
P2-093	西田 圭佑	京工織大・院	I1-05	長谷川 啓一	国土技術政策総合研究所
S03-2	西田 貴明	三菱 UFJR & C	P2-112	長谷川 成明	北大・低温研
T08-3	仁科一哉	国環研	P1-027	長谷川一総	京大院・農
P2-122	西野貴子	大阪府大・院・理	P2-313	長谷川克	総研大・先導研
W28	西原 昇吾	中央大学人間総合理工学	T16-1	長谷川元洋	森林総研 四国
W37	西廣 淳	東邦大・理	P1-237	秦 彩夏	帯広畜産大学
P2-030	西村貴皓	筑波大・生命環境	P2-385	畑 憲治	首都大院・理工・生命
P2-170	西村 尚之	群馬大学社会情報学部	P2-144	波多拓哉	兵庫県立大学環境人間学部
U05	西脇 亜也	宮崎大学農学部	P2-147	服部 昭尚	滋賀大学教育学部
P2-183	日下石碧	神戸大学院人間発達環境	P1-044	初谷慶太	弘前大・院・農生
P2-265	丹羽 慈	自然研	P2-044	花岡 創	森林総研林木育種センター
P2-005	沼田 真也	首都大・都市環境	P2-390	埴岡雅史	北大院・農
I3-31	乃美大佑	北大環境科学院	PH-017	濱口 青空	愛知県立豊丘高等学校
P2-349	野上 達也	白山自然保護センター	F3-41	浜崎健児	大阪環農水研
P1-313	野口翔	東農大院・農	P2-380	濱津 友紀	水研セ北海道区水産研究所
P2-173	野口麻穂子	森林総研東北	P2-465	早川 智恵	東大院農
E2-37	野崎 友成	京大院・農・昆虫生態	P2-410	林 悦子	東京都市大学環境学部
W15 P2-205	野下 浩司	東京大学・農学生命科学	P2-428	林 健太郎	農環研
P2-425	野田 響	国立環境研究所	P1-156	林 寿樹	福井県立大学 海洋生物資源
P1-333	野田 顕	東邦大学	T22-1	早矢仕 有子	札幌大学地域共創学群
P1-032	野田佳愛	明治大学農学部	P2-164	林 竜馬	琵琶湖博
T04-1	野田隆史	北大・地球環境	T12-5	林岳彦	国立環境研究所
P1-381	野田智祥	神戸大・院・理・生物	P1-284	早瀬 晴菜	名古屋大・生命農・森林保護
P1-028	野々山朋信	東北大学	J1-04	原 慶太郎	東京情報大・総合情報
T10-3	野原精一	国立環境研究所	P2-395	原口 岳	森林総研
P2-402	野間 直彦	滋賀県大・環境	PH-024	原田 愛華	埼玉県立越ヶ谷高等学校
			P1-197	原田 隆成	近畿大学大学院環境管理学専攻

講演・ 企画番号	名前	所属	講演・ 企画番号	名前	所属
P1-269	原田龍一	滋賀県立大 環境科学部	PH-002	富加津 柚奈	群馬県立高崎女子高校
P2-208	原野智広	総研大・先導研	T03-3	深野祐也	農工大・農
P2-072	原山 尚徳	森林総研北海道	H3-34	深町加津枝	京都大学
P2-059	春間俊克	筑波大学大学院・生命環境	T01-1	深谷肇一	統計数理研究所
P2-221	半田佳宏	株式会社ファスマック	P2-254	福井 眞	早稲田大 人間科学
P2-108	韓慶民	森林総研北海道	P2-322	福島 路生	国立環境研究所
P2-082	半場祐子	京都工繊大・応用生物	P2-358	福島 玲依	酪農学園大学
J3-30	半谷吾郎	京都大学霊長類研究所	P2-469	福島慶太郎	首都大学東京
P2-453	馬場 光久	北里大学 獣医学部	T22-3	福田 佳弘	知床海鳥研究会
P2-299	馬場 孝	水研セ・日水研	P1-008	福村友	信大農
W19	馬場友希	農業環境技術研究所	P1-330	伏見 愛雄	東北大学農学研究科
U08	日浦 勉	北大・苫小牧研究林	P1-102	藤居 慧	京都工芸繊維大学、応生
P1-405	稗田真也	滋賀県大 環境科学	P2-297	藤井 太基	近畿大農
P2-004	比嘉基紀	高知大・理	P1-141	藤井 暢之	滋賀県大・環境科学
P1-395	樋口 裕美子	京大・農	T16-6	藤井佐織	アムステルダム自由大学
P1-166	樋口拓人	東邦大学大学院	P2-359	藤井直紀	富士常葉大環境防災研究所
P1-329	日隈徳子	信大農・院	P1-286	藤岡春菜	東大・広域システム
P2-045	肥後睦輝	岐阜大学地域科学部	W36 P1-375	藤木庄五郎	京大・農・森林生態
P1-235	肥後悠馬	名古屋大・農・森林保護	P2-150	藤田 剛	東大・農
T16-3	菱 拓雄	九大演習林	D2-03	富士田 裕子	北海道大学 FSC 植物園
T19-4	日鷹一雅	愛媛大学大学院農学研究科	P2-353	藤田 宏之	埼玉県立川の博物館
P1-312	日高 舜介	神戸大学大学院	P2-175	藤田知弘	京都大大学院
P2-111	櫃間 岳	森林総合研究所	T14-2	藤沼 潤一	北大・環境科学院
T16-4	兵藤 不二夫	岡山大学異分野コア	P1-323	藤彦 祐貴	新潟大・自然科学
P2-267	平泉秀樹	南蒲生モニタリングネット	H1-01	藤本真悟	琉球大・熱生研
P2-185	平岩将良	神戸大学・院・人間発達環境	P1-200	藤本泰樹	京都大学院地球環境学舎
D2-07	平尾 章	筑波大・菅平セ	P2-312	藤山 直之	山形大学理学部生物学科
F1-12	平賀 優大	北海道大学環境科学院	P2-360	藤原 愛弓	東京大学
G2-23	平瀬祥太郎	東京大学・水産実験所	P1-240	札本 果	京大生態研
P2-197	平野 滋章	京大 生態研	P1-115	船本大智	筑波大学生物学類
P1-190	平野 尚浩	東北大・院・生命科学	J2-23	布野孝明	九大・理・生物
P1-168	平野友幹	京大生態研	W13 P2-279	古市 生	水研センター・西海区水研
P1-201	平林 由莉	明治大学農学部農学科	W04	古川 泰人	北大院・農
P2-387	平吹 喜彦	東北学院大 教養	P2-196	古川沙央里	京大・生態研
U05 P2-192	平山 大輔	三重大・教育	P2-400	古川拓哉	森林総合研究所
J1-06	広木詔三	愛知大学	P1-264	古川真莉子	滋賀県大・院・環境科学
P2-441	広木幹也	国立環境研	P1-291	古田 智博	京大院・農
P2-067	廣瀬 忠樹	東北大学生命科学	P1-293	邊見由美	高知大・黒潮
P2-459	廣田 充	筑波大・生命環境系	U02 U04	別宮 有紀子	都留文科大学
P2-450	廣野 祐平	農研機構 野菜茶業研究所	W03 P2-246	別所和博	Univ. British Columbia
P1-196	深川幹	奈良教大	P1-089	芳士戸 啓	山形大学大学院
P2-252	深澤圭太	国立環境研究所	PH-014	保坂 京花	群馬県立高崎女子高校
P1-400	深津 美佐紀	東京学芸大・院・環境科学			

講演・ 企画番号	名前	所属	講演・ 企画番号	名前	所属
T18-2	保坂哲朗	首都大学東京 都市環境学部	P1-434	松浦真奈	京大農
I3-32	保坂美沙子	横浜市立大学	P1-069	松岡 達也	東京大学大学院
J1-05	星直斗	栃木県立博物館	PH-035	松岡 朋寛	愛媛県立南宇和高等学校
G3-30	星野 滋	広島総研農業技術センター	P1-324	松岡 悠	大阪府大院・生命
P2-124	星野仏方	酪農学園大	P2-133	松岡俊将	京大生態研センター
P1-011	細谷啓太	岩手大学連合農学研究科	P2-094	松尾奈緒子	三重大院・生物資源
P1-149	堀田 拓	九州大学天草臨海実験所	P1-273	松尾遼馬	九大院・シス生
T06-3	堀田 昌伸	長野県環境保全研	P1-373	松崎 弘利	学芸大
P2-398	堀 正和	水産総合研究センター	P1-012	松澤 琢	首都大院・理工・生命
P1-374	堀金 司	広島大学総合科学研究科	F1-04	松下 通也	森林総研・林育セ
PH-022	堀越 えみ	埼玉県立川越女子高等学校	P2-369	松島野枝	国立環境研究所
P1-059	堀之内 祐介	千葉大院・海洋バイオ	P1-140	松谷 祐一郎	東北大学生命科学研究科
P1-390	本郷真理	龍谷大・院・理工	H2-13	松田 一希	京都大学霊長類研究所
P1-423	本多 朝陽	早稲田大・教育	PH-018	松田 空	成蹊高等学校
P2-289	本間 淳	琉球産経・沖縄県防技センター	P2-408	松田 裕之	横浜国立大学
P2-023	本間 航介	新潟大・農・フィールド科学	P2-219	松波 雅俊	北大・地球環境
P2-022	前川 優衣	兵庫県立大学環境人間学部	P2-054	松橋彩衣子	兵庫県大・院・シミュ
P1-404	前川 侑子	大阪大学大学院	W07 F2-21	松葉史紗子	東大院・農
P2-016	前迫ゆり	大阪産大・院・人間環境	T02-2	松林 圭	九大・基幹教育
P2-351	前田太郎	農業生物資源研究所	P1-146	松原 豊	東北大学・生命科学
P1-077	前田瑞貴	横浜国大・理工	H3-26	松久 聖子	神戸大・人間発達環境
E2-29	前野 浩太郎	京都大学白眉センター	E2-27	松村 健太郎	岡山大・院・環境生命
P1-343	前原千華	大阪府立大学	P2-333	松村 俊和	甲南女子大学人間科学部
PH-032	牧 尚澄	大分県立大分舞鶴高等学校	P1-128	松本 洋平	東北大学・生命・植物生態
F1-10	蒔田 明史	秋田県大・生物資源	P1-022	松本薫	明治大院
P1-416	牧野 奏佳香	京大院農	P1-053	松本哲也	岡山大院環境生命
P2-278	牧野 渡	東北大 生命科学	P1-088	松山 泰	北里大学海洋生命科学部
J1-07	牧野崇司	山形大・理	P2-401	松山周平	酪農大・環境共生
T01	正木隆	森林総合研究所	T06-2	馬奈木 俊介	九州大学・工学研究院
PH-013	増井 真那	都立小石川中等教育学校	P1-065	丸尾 文乃	総合研究大学院大学
P1-010	増井太樹	岐阜大 流域圏センター	P1-172	丸山 紗也可	三重大院 生資
P1-161	増井悠人	弘前大・院・農生	P2-303	丸山 敦	龍谷大学理工学部
P2-244	増澤直	株式会社地域環境計画	P2-373	三浦 収	高知大学総合研究センター
P1-266	増田 萌子	岡山理科大学	P1-358	三浦 麻由子	広島大院・総合科学
P1-427	増田信悟	早稲田大・教育	P2-138	三浦彩	北海道大学低温科学研究所
F3-39	益田玲爾	京都大学舞鶴水産実験所	P2-238	三浦一輝	北大院環境科学院
P2-130	増本翔太	国立極地研究所	P1-155	三浦弘毅	新潟大学大学院
P2-070	町田 悟	(株)豊田中央研究所	F3-25	三木健	国立台湾大学海洋研究所
T24	松井 一彰	近畿大・理工	P1-063	三木望	九大・生態研
P2-363	松井 淳	奈良教育大学・生物	J2-12	三島慎一郎	(国)農業環境技術研究所
P1-198	松井美咲	明治大学大学院	W01	水澤 玲子	福島大・人間発達
P1-176	松浦 亮介	信州大学	P2-106	水谷 瑞希	信州大・志賀施設
P2-162	松浦俊也	森林総合研究所	P1-137	水永 優紀	北海道大学 環境科学院

講演・ 企画番号	名前	所属	講演・ 企画番号	名前	所属
I1-01	水野 晃子	名古屋大学 宇宙地球環境	P1-018	村田沙耶	奈良教育大学
E2-33	水野 佳緒里	京都大学理学研究科	J1-03	目黒伸一	国際生態学センター
P1-277	水野尊文	京都工芸繊維大学	T07-2	舞木昭彦 / MOUGI Akihiko	島根大学
E2-24	水元 惟暁	京大院・農・昆虫生態	P1-129	奎屋貴士	東北大学大学院 生命科学
T20-3	水本寛基	北大・農・動物生態	H1-02	持田浩治	慶應大学 生物学教室
E2-22	三高 雄希	京大院農・昆虫生態	P2-186	望月, 昂	京都大学生態学研究センター
F1-11	三田村 敏正	福島県農業総合センター浜	I1-07	本澤大生	龍谷大・院・理工
P2-263	満尾 世志人	新潟大・CTER	P2-337	森 敬介	国立水俣病総合研究センター
G3-34	満行知花	九大・理・生態	P2-096	森 茂太	山形大農学部
P1-352	南 純一	近大院 農学研究科	G3-29	森 照貴	東大・総合文化
P1-276	南 美月	名古屋大・生命農・森林保護	P1-336	森井清仁	滋賀県大・環境
P2-083	南野 亮子	岐阜大・流域圏セ	P2-423	森 生枝	岡山県自然保護センター
J1-01	南 佳典	玉川大学農学部	E2-31	森井悠太	北大院・農
T11-2	源 利文	神戸大・院・人間発達環境	I2-13	森口 紗千子	新潟大・自然
T19-3	嶺田 拓也	農研機構・農村工学研究所	P2-146	盛口満	沖縄大学人文学部
P1-025	見原 悠美	北海道大学環境科学院	E1-07	森大喜	京大森林生態
I3-29	三村琢磨	筑波大生命環境科学研究科	W30 I3-27	森田健太郎	北海道区水産研究所
S04-5	宮 正樹	千葉中央博	PH-031	森永 康寛	東京都立戸山高高等学校
H1-07	宮川 一志	宇都宮大学・バイオ	P1-263	森野 光太郎	兵庫県大院・環境人間
G1-01	宮川 幸雄	土木研究所	P2-393	森野 真理	吉備国際大学
PH-021	宮城 加菜	静岡北高等学校	P1-042	森英樹	筑波大学
P2-277	宮国 泰史	JSPS Research Fellow	P2-056	森広 信子	多摩森林科学園
U05	三宅 崇	岐阜大・教育	P1-066	森本 彩夏	首都大 都市環境
P1-414	都 賢太郎	広島大学	PH-016	森本 早稀	岐阜県立岐阜高等学校
P1-212	宮崎 怜	横浜国立大学大学院	I2-23	森本 淳子	北大院・農
F1-05	宮澤真一	森林総合研究所	P2-024	矢ヶ崎 朋樹	IGES-JISE
P2-152	宮下 直	東大・農・生物多様性	P1-239	柳沼 康平	東北大学理学部生物学科
W29 P2-060	宮下 彩奈	東大・院理・日光植物園	P2-110	八木橋勉	森林総合研究所東北支所
P1-420	宮嶋恵里花	早稲田大・院・先進理工	P1-076	家倉 凌	京都市大・農
P2-451	宮田 能寛	千葉大学大学院理学研究科	P2-100	矢崎 健一	森林総研
P1-121	宮田 真生	明治大学農学部	P1-229	安岡法子	奈良女子大学大学院
P2-374	宮脇成生	株式会社建設環境研究所	P2-340	安田 美香	森林総研
T17-3	三輪 京子	北海道大学 地球環境	P1-007	安田圭佑	筑波大学生命環境科学
P2-383	向井 喜果	新潟大学自然科学研究科	P2-444	安野 翔	仙台市
T03-2	向井裕美	森林総研・森林昆虫	I2-21	谷内 茂雄	京大・生態研
P2-454	向井真那	京都大学農学研究科	P2-149	柳川 亜季	東工大・理工学
P1-039	武藤 公樹	新潟大学農学部	P2-206	柳真一	九大・博
P2-172	村尾 未奈	(一社) 日本森林技術協会	P1-193	矢納早紀子	京大・農・森林生態
P1-054	邑上 夏菜	神戸大学発達科学部	G1-10	矢野修一	京大院・農・生態情報
W27	村上 雄秀	IGES 国際生態学センター	U03 U12	矢原徹一	九大理生物
P2-153	村上健太郎	名古屋産業大学・環	P1-204	藪原佑樹	北大農学院
P1-143	村上勇樹	首都大・生命	P1-412	矢部詩織	東邦大学理学部化学科
P2-131	村田 政穂	東大院新領域	J3-27	山内 淳	京都大学生態学研究センター

講演・ 企画番号	名前	所属	講演・ 企画番号	名前	所属
F1-02	山浦 攻	信州大院・教	P2-399	山本 啓之	海洋研究開発機構
T13	山浦悠一	森林総研・植生	F3-43	山元綾弥香	東北大学
T03-1	山尾 僚	弘前大学農学生命科学部	P2-207	山本 京祐	産総研・生物プロセス
PH-004	山岡 歩美	清心女子高等学校	W02 S04-7	山本 哲史	神戸大学・院・発達
P1-250	八巻 健有	東北大学	P2-293	山本 誉士	名大院・環境
P2-475	山岸洋貴	弘前大学白神自然環境研究所	P2-202	山本 智子	鹿児島大学水産学部
P1-380	山口 英美	岩手大学院連合農学研究科	P1-083	山本 遼平	京大・地球環境
J3-24	山口 幸	神奈川大・工	P1-255	山守 瑠奈	京都大・農
P1-110	山口 毅志	名大院生命農	P1-397	行年 恭兵	名大院・生命農
T02-1	山口 諒	九大院・システム生命	G1-08	油田 照秋	新大・CTER
P2-148	山口 高志	北海道環境科学研究センター	P2-257	柚原 剛	東北大院・生命
P2-121	山崎 絵理	チューリッヒ大学	P2-324	横井 智之	筑波大・院・生命環境
P2-198	山崎 理正	京大院・農	T24-4	横川 太一	海洋研究開発機構
P1-236	山崎 曜	京大院理	P2-013	横川 昌史	大阪自然史博
P1-339	山崎 響子	東邦大・理	J2-14	横部 智浩	京大院・農
P1-175	山崎 大志	東北大・生命	T09-3	横溝 裕行	国立環境研究所
P1-073	山崎 大地	帯広畜産大	P1-411	横山 大稀	京大・農・森林生態
P2-177	山崎 遥	北海道大学環境科学院	T09-5	横山 真弓	兵庫県立大学
P2-128	山下 聡	徳島大・生物資源	P2-344	吉岡 明良	国立環境研究所
P1-158	山下 晋平	岡山大学 農学部	P2-230	吉川 徹朗	森林総合研究所
P1-314	山下 由美	福島大・共生システム理工	P2-290	吉川 朋子	玉川大学 農学部
P2-229	山科 千里	京大アフリカセンター	P2-447	吉竹 晋平	岐阜大・流圏セ
P1-322	山地 祥子	信州大学農学部	P2-420	吉田 誠	東大大気海洋研
P2-176	山瀬 敬太郎	兵庫農技総セ	I1-04	吉田 康子	神戸大院・農・食資源セ
P1-220	山田 紗友美	東北大生命科学研究科	P2-397	吉田 勝彦	国立環境研・生物
P1-422	山田 理香	早稲田大・院・先進理工	P2-036	吉田 圭一郎	横浜国大・教育
P2-159	山田 勝雅	水産総合研究センター	P2-075	吉田 耕治	金城学院大・薬
I3-33	山田 健太郎	北海道大学環境科学院	T07	吉田 丈人	東大・総合文化
P2-392	山田 晋	東大・農	P2-409	吉田 剛司	酪農学園大学院 野生動物
T21-4	山田 俊弘	広島大学総合科学	T13-3	吉田 俊也	北海道大学
P1-424	山田 靖子	早稲田大・院・先進理工	P2-266	吉田 智弘	東京農工大・農
P2-134	大和 政秀	千葉大学教育学部	E2-25	吉田 滯	兵庫県立大, 環境人間
S04-2	山中 裕樹	龍谷大・理工	I2-22	吉原 佑	東北大 農学研究科
I1-08	山中 聡	北海道大学農学院	W08	吉村 謙一	森林総研関西
P1-216	山中 萌	高知大理	P2-092	吉村 正志	OIST
P2-347	山ノ内 崇志	東邦大・理	I2-14	吉村 真由美	森林総合研究所
P1-094	山野 大樹	筑波大学大学院・生命環境	I2-18	吉村 友里	九大院・農
T23-4	山道 真人	京大白眉 / 生態研	P2-318	吉村 友里	九大院・農
P2-251	山村 則男	同志社大学文化情報学部	W03	吉山 浩平	滋賀県大 環境
T09-4	山村 光司	農業環境技術研究所	P2-139	吉山 浩平	滋賀県大 環境
P2-457	山本 昭範	東京学芸大学	P2-376	米村 惣太郎	清水建設(株) 技術研究所
P1-354	山本 啓介	千葉大・院・園芸	P1-002	米森 由紀	鹿児島大学
P2-298	山本 俊昭	日本獣医生命科学大学	P2-228	頼末 武史	北大・厚岸臨海実験所
			I2-15	梁 政寛	東工大, Eawag

講演・ 企画番号	名前	所属
P1-132	若林 加枝	東北大・生命
P1-230	若林 紘子	北海道大学環境科学院
T24-1	和穎 朗太	農業環境技術研究所
P1-342	脇谷量子郎	中央大学
P1-004	和久井 彬実	北海道大学農学部
T05-2	鷺谷いづみ	中央大学理工学部
PH-015	渡邊 葵乃	横浜サイエンス高校
P2-018	渡邊 修	信大農
P2-331	渡邊 潔	山形県森林研究研修センター
P2-448	渡辺 謙太	港湾空港技術研究所
P2-169	渡辺 直登	名大院・生命農
P2-375	渡部 陽介	清水建設（株）技術研究所
P2-239	渡辺健太郎	北大・厚岸
P2-037	渡部俊太郎	滋賀県立大学環境科学部
P2-181	渡邊仁志	岐阜県森林研究所
W20	綿貫 豊	北海道大学水産科学研究院
P2-309	和田 哲	北海道大学水産科学研究院
J1-02	和田 直也	富山大研究推進機構極東
P1-360	和田 のどか	明治大学農学部
G1-11	和田 葉子	奈良女子大学大学院

本大会は下記の企業・団体の皆様から、広告・展示協賛、寄付のご協力をいただきました。
ここにお名前を掲載し、御礼を申し上げます。(敬称略、五十音順)



広告

株式会社 アイエスイー
株式会社 建設環境研究所
株式会社 地人書館
株式会社 日本ヴォーグ社
株式会社 ハイク
株式会社 ファスマック
株式会社 文一総合出版
共立出版株式会社
メイワフォーシス株式会社
有限会社 麻里府商事

展示

一般社団法人 京都大学学術出版会
一般財団法人 東京大学出版会
株式会社 海游舎
株式会社 古今書院
株式会社 日本ヴォーグ社
株式会社 ニホン・ミック
株式会社 ハイク
株式会社 ファスマック
株式会社 文一総合出版
共立出版株式会社
シュプリンガー・ジャパン株式会社
東海大学出版部
ナモト貿易株式会社
有限会社 さくま書店
ワイリー・ジャパン株式会社
ESRI ジャパン株式会社

寄付

株式会社 セイミ

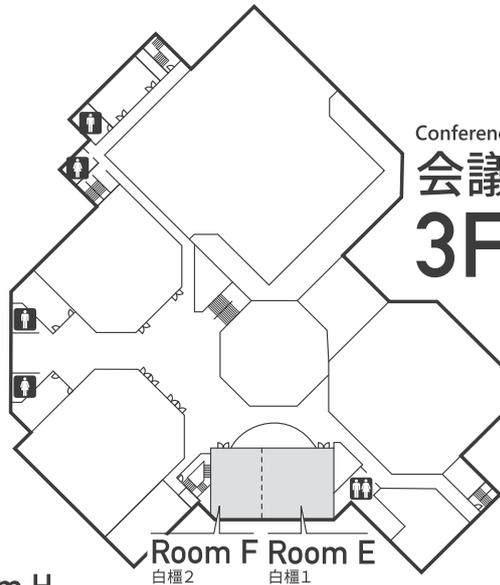
仙台国際センター

Sendai International Center

Exhibition Bldg
展示棟
1F



Conference Bldg
会議棟
3F



Conference Bldg
会議棟
2F



Conference Bldg
会議棟
1F



大会会場
仙台国際センター
宮城県仙台市青葉区青葉山
Tel. 022-265-2211

Main venue
Sendai International Center
Aobayama, Aoba, Sendai,
Miyagi, Japan
Tel. +81-22-265-2211



懇親会会場
仙台国際ホテル
仙台市青葉区中央 4-6-1
Tel. 022-268-1111

Banquet
SENDAI KOKUSAI HOTEL
4-6-1, Chuo, Aoba, Sendai,
Miyagi, Japan
Tel. +81-22-268-1111



第63回
日本生態学会大会実行委員会
〒980-8578
仙台市青葉区荒巻字青葉 6-3
生命科学研究科

大会公式ホームページ
<http://www.esj.ne.jp/meeting/63/>

本大会に関する問い合わせは、大会公式ホームページからリンクしている問い合わせページからお願いします。

まる三重 ホカクマン

Web による遠隔監視・操作

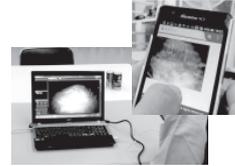
取り逃がしや誤捕獲する事なく、効率的な捕獲が可能！
見廻りが軽減する等、管理が楽になる！
映像閲覧で管理者のモチベーションUP！

パソコンやスマートフォンから檻・罠の遠隔監視と操作が可能！
センサーで獣の侵入をメールでお知らせ！

特許出願中



檻のゲートに設置した
センサーが反応すると
管理者にメール通報！！



効率的に多頭捕獲が可能！

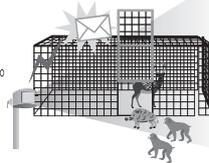
装置を設置する

獣の侵入をメール受信

WEB 監視・操作！

捕獲成功

配線なども簡略化されており
だれでも簡単に設置出来ます。
約2時間あれば設置完了！！



WEB上のライブ映像で
すべての獣が完全に檻の
中に入るのを確認して、
捕獲ボタンをクリック！！
檻のゲートが落下！！



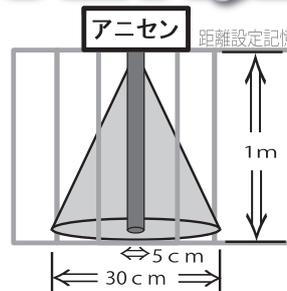
檻・罠用 獣サイズ判別センサー式自動捕獲システム

狙ったサイズの獣を捕獲！！

特許第 5696975 号



アニセン-2



センサー感度	距離センサー：5cm (X1mの円柱状) 温度センサー：30cm (X1mの円錐状)
電源	DC 6V バッテリー
使用温度	-10℃～+50℃
外形(mm)	ベース板：320×400 ボックス：180×220



AMS-200

標準セット

防水性能
強力モータ使用
センサー精度UP



AMS-200-T

機械式仕掛けセット

仕掛けがついて
作業が統一される



AMS-200-MT

マグネット式
仕掛けセット

マグネットで瞬時に
無音ゲート落下！！
獣が逃げない

檻周辺検知による野生獣自動捕獲システム

登録実用新案第 3183537 号

三重県農業研究所との共同研究成果を製品化

おりわな みはるちゃん！



侵入センサーにより、頭数を把握！ 目的頭数に達すると、周辺センサーにてゲート付近の獣の存在を判断し、反応がなければ、ゲート落下！

警戒する個体を作らない！



設置例



周辺センサー



電子トリガー



侵入センサー



株式会社アイエスイー

〒516-0802 三重県伊勢市御園町新開80番地 大西ビル301号
E-mail : info@ise-hp.com / fax.0596-36-3847

まずはお気軽にご相談・お問い合わせ下さい。

tel.0596-36-3805

詳細情報や捕獲動画などはホームページにて <http://www.ise-hp.com/jyuugai.html>

ICT 獣害対策

検索

野生動物の餌付け問題

(仮題)

近刊!

小島望・高橋満彦 編
A5判/頁数・価格未定

野生動物への餌付け行為はこれまで、個人の趣味やモラルの問題とされてきたが、近年、餌付け行為は野生動物を人間の生活圏へ接近させ、感染症の蔓延や動物の行動変化、獣害などの様々な問題を引き起こす原因となってきた。本書は餌付けが起こした様々な問題事例や課題について、整理と検証・分析を試み、餌付け規制への取り組みと展望等を述べる。「無秩序な餌付けは社会問題である」との共通認識にまで高めることを目的とする画期的な書。

カッコウの托卵

(仮題)

近刊!

ニック・デイヴィス 著/中村浩志他 訳
四六判/頁数・価格未定

カッコウによる托卵は、アリストテレスの時代から知られ、数々の古典的文学作品の中でも、比喩表現の対象になっている。本書で、著者ニック・デイヴィスは、カッコウによる托卵の実際と共に、托卵される宿主側の鳥の防衛戦略とカッコウのだましの技(わざ)が、進化の過程でどのようにデザインされてきたのかを詳細に紹介する。宿主の防衛をすり抜け、托卵し、宿主の気を引き、自分の雛を養わせるためにカッコウはどのようなテクニックを用いるのか。

海と湖の貧栄養化問題

水清ければ魚棲まず

山本民次・花里孝幸 編著
A5判/208頁/本体2400円



1970年代のわが国では水域の富栄養化が進行し、海や湖沼で赤潮が発生して問題となったが、その後の水質改善の努力が功を奏し、水質は良好になってきた。しかしその一方で、「貧栄養化」が原因と思われる海苔の色落ちや漁獲量の低下が報告されている。すでに問題が指摘された瀬戸内海、諏訪湖、琵琶湖における水質浄化の取り組み、長年にわたる水質データ、生態系の変化などから、「貧栄養化問題」の背後にあるプロセスとメカニズムを浮き彫りにする。

■自然再生講習会テキスト■

自然再生ハンドブック

日本生態学会 編
矢原徹一・松田裕之・竹門康弘・西廣淳 監修
B5判/280頁/本体4000円

自然再生事業とは何か。なぜ必要なのか。何を目標に、どのような計画に基づいて実施すればよいのか。本書は「生態系管理専門委員会」での議論をもとに作成され、生態学の立場から、自然再生事業の理論と実際を総合的に解説し、全国各地で行われている実施主体や規模が多様な自然再生事業の実例について、成果と課題を検討する。研究者、市民、行政の担当者、NGO、環境コンサルタント関係者など、自然再生事業の実務者必携の書。

深海魚のレシピ

釣って、拾って、食ってみた
平坂寛 著
四六判/192頁/本体2000円

新刊!

外来魚のレシピ

捕って、さばいて、食ってみた
平坂寛 著
四六判/212頁/本体2000円

鮭鱈鱒鮪 食べる魚の未来

最後に残った天然食料資源と養殖漁業への提言
ポール・グリーンバーグ 著/夏野徹也 訳
四六判/352頁/本体2400円

ミジンコ先生の水環境ゼミ

生態学から環境問題を視る
花里孝幸 著/四六判/272頁/本体2000円

世界自然遺産と生物多様性保全

吉田正人 著/A5判/272頁/本体2800円

ダム湖の中で起こること

ダム問題の議論のために
村上哲生 著/四六判/208頁/本体1800円

川と湖を見る・知る・探る

陸水学入門
日本陸水学会 編/村上哲生・花里孝幸・吉岡崇仁・森和紀・小倉紀雄 監修
A5判/204頁/本体2400円

海はめぐる

人と生命を支える海の科学
日本海洋学会 編/A5判/232頁/本体3200円

テントウムシの島めぐり

ゲッチョ先生の楽園昆虫記
盛口満 著
四六判/232頁/本体2000円

新刊!

唐沢流 自然観察の愉しみ方

自然を見る目が一変する
唐沢孝一 著
四六判/200頁/本体1800円

パラサイト

寄生虫の自然史と社会史
ローズマリー・ドリスデル 著/神山恒夫・永山淳子 訳
四六判/376頁/本体2600円

ミジンコ先生の諏訪湖学

水質汚濁問題を克服した湖
花里孝幸 著/四六判/224頁/本体2000円

樹木葬和尚の自然再生

久保川イーハートブ世界への誘い
千坂峻峰 著/四六判/196頁/本体1800円

サイエンスライティング

科学を伝える技術
デボラ・プラム他 編/渡辺政隆 監訳/A5判/432頁/本体3800円

外来種ハンドブック

日本生態学会 編/村上興正・鷲谷いつみ 監修/B5判/412頁/本体4000円

生物多様性緑化ハンドブック

豊かな環境と生態系を保全・創出するための計画と技術
龜山章 監修/小林達明・倉本宣 編集/A5判/340頁/本体3800円

●当大会会場内「さくま書店」にて限定割引販売中!

〒162-0835
東京都新宿区中町15番地
TEL 03-3235-4422
FAX 03-3235-8984

地人書館

※価格は税別価格です。
郵便振替 00160-6-1532
http://www.chijinjshokan.co.jp

環境と建設をともに理解する私たちだからできること

当社は、河川、道路、都市等を対象に調査・計画・企画から設計・維持管理に至る幅広い業務を行っている環境コンサルタントです。



株式会社
建設環境研究所
Civil Engineering & Eco-Technology Consultants

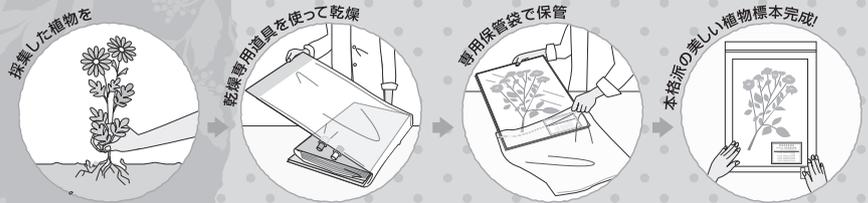
〒170-0013 東京都豊島区東池袋 2-23-2
TEL 03-3988-1818 FAX 03-3988-2018
<http://www.kensetsukankyo.co.jp/>

- ・環境アセスメント
- ・生態系の保全・再生
- ・環境管理計画
- ・環境計量
- ・水環境
- ・環境調査・解析
- ・環境教育
- ・環境防災
- ・地域連携

本格派の美しい植物標本がつくれる

原色植物 標本キット

首都大学東京
牧野標本館
監修



従来の押し葉標本作りの問題点を解決!

3つの
ポイント

1. 手間が減り、かんたんに作製できる
2. 保存状態を良くし、標本の破損を防ぐ
3. きれいに色を残す

本格的な研究用途から私的な観察用途まで、
幅広く多くの方に使用していただける植物標本作製キットです。

原色植物標本キット

[単品合計希望小売価格]
¥33,340+税

¥29,800
(税込)

原色植物標本キットの内容物は単品購入することができます。植物標本館や学校などでたくさん植物標本作製する場合は商品別に必要な数量でご購入いただいた方が経済的です。商品の使用用途・特長をご確認の上、お買い求めください。

詳しい使い方をわかりやすくプロセス入りで解説!

<http://www.oshibana.com/herbarium>

商品の使用方法・ご購入は原色植物標本ホームページをご覧ください。

植物乾燥・標本保存・乾燥マットの再乾燥、植物標本作製に必要なすべての道具がそろったキット

販売元 **株式会社 日本ヴォーグ社** 〒162-8705 東京都新宿区市谷本村町3-23

お問い合わせ ☎0120-247-879 受付時間/9:30~17:30 ※土・日・祝日を除く

進化するトレイルカメラ ハイカムは日本生まれの日本仕様

ハイカム

自動撮影カメラとしての基本性能と静止画・動画画質に徹底的にこだわった日本向け新モデル

ハイカム SP108-J

- H264 MPEG4
- リアルHD音声付動画撮影
- リカバリータイム 2-3秒
- 日本語表示
- 2way スケジュール機能



ハイカム SP158-J 3G

- SP108-Jの機能はそのまま
- ・画像メール送信機能
- ・Androidアプリ Hyke APPでSMS遠隔設定変更
- ・格安SIMで月々630円定額
- ・技術適合証明取得済



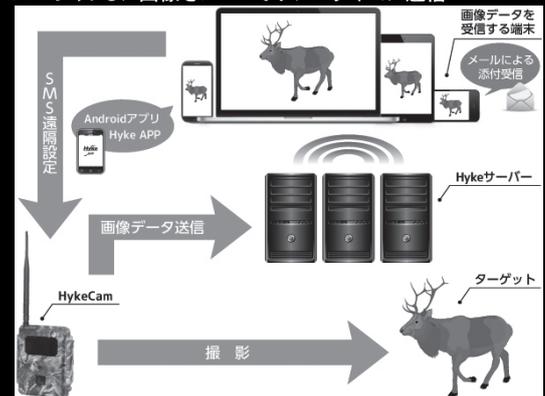
音声付リアルHD動画



日本語メニュー

カメラ	トリガー	システム
モード 静止画	センサー感度 中	日時設定 実行
静止画解像度 5M	インターバル 1分	タイムスタンプ オン
連続撮影 3枚	タイムラプス オフ	フラッシュ出力 高
連続撮影間隔 短	開始終了設定1 オフ	フォーマット 実行
	開始終了設定2 オフ	初期設定 実行

スマホやPCに画像をメールでリアルタイムに送信



罠に向けて設置し、捕獲された動物の画像がメールで届きます

ソーラーパネルオプション他アクセサリも豊富



Browning社トレイルカメラ 最新モデル

日本初登場

アメリカで絶大な支持を受けているBrowning社トレイルカメラの最新モデルはトリガースピード0.67秒、リカバリータイム2秒で超小型、2.2万円からと低価格



Dark(ダーク)

- ・トリガー0.67秒
- ・リカバリー2秒
- ・ノーグロー



Strike(ストライク)

- ・トリガー0.67秒
- ・リカバリー2秒
- ・照射30m



Range(レンジ)

- ・トリガー0.67秒
- ・リカバリー2秒
- ・低価格

撮影された画像や動画は Web で公開中

ハイクストア

検索

生物の生態を調べるなら次世代シーケンス解析 !!

MiSeqによるアンプリコン解析

価格: 150,000円/16サンプル

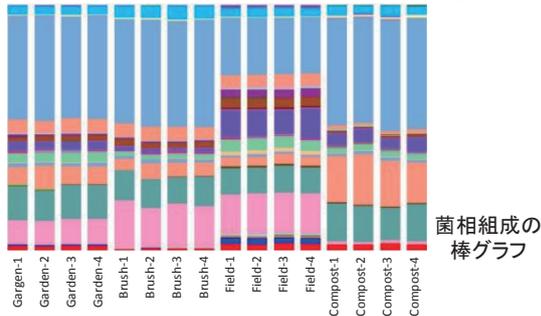
納期: 15営業日

解析の流れ

- 1 対象領域を増幅するサンプル調製用プライマーを無償で提供致します。
- 2 お客様でサンプル調製用プライマーを使用してPCRを行い、ライブラリーを作製して下さい。
→プライマーの組み合わせによって1解析につき最大16サンプルを識別可能です。
- 3 各ライブラリーを精製後、吸光度計等で濃度測定し、等量混合したサンプルを弊社に発送(注1)して下さい。
- 4 弊社にてサンプルのQC作業(注2)実施後、MiSeqでシーケンス解析(注3)を行います。
- 5 データ解析を行います。

【16SrRNAやITS領域, 18SrRNAの場合】

菌叢解析用パイプライン「Qiime」を用いて解析を行い、「菌群組成グラフ」や「ヒートマップ」の形でデータの可視化まで行います。
解析事例は弊社webをご参照願います。
(http://www.fasmac.co.jp/gene_loupe/ngs/analysis_sample.html)



菌相組成の棒グラフ

【12SrRNAやCOIの場合】

各OTUに対して、検出されたリード数と対応する生物種を示した「エクセルデータ」を提供致します。

各OTUに対するリード数と生物種の対応表(例:相模川サンプル)

OTUId	Sagami_river_1	Sagami_river_2	Target
OTU_2.size=37432	40630	7	gb AB038556 Anguilla japonica ([["Anguilliformes"; "1[" Ar
OTU_3.size=7265	959	4438	gb AB188176 Cottus pollux ([["Perciformes"; "1[" Cottida
OTU_4.size=31220	3564	19385	gb AB626855 Tribolodon hakonensis ([["Cypriniformes"; "1["
OTU_9.size=6785	0	3413	gb AF125512 Oncorhynchus keta ([["Salmoniformes"; "1["
OTU_10.size=8191	1578	7474	gb AP009147 Rhynchocypris lagowskii ([["Cypriniformes"; "1["
OTU_1.size=46880	0	1238	gb DQ288271 Oncorhynchus mykiss ([["Salmoniformes"; "1["
OTU_7.size=10067	169	1493	gb EU124683 Plecoglossus altivelis ([["Osmeriformes"; "1["
OTU_19.size=136	192	0	gb JF802126 Pseudorasbora parva ([["Cypriniformes"; "1["
OTU_12.size=3259	654	5	gb KF408383 Zacco platypus ([["Cypriniformes"; "1[" Cyr
OTU_3.size=33313	373	2497	gb KJ427719 Nipponocypris koreanus ([["Cypriniformes"; "1["
OTU_5.size=24388	129	7554	gb KM030473 Rhinogobius brunneus ([["Gobiiformes"; "1["
OTU_6.size=14097	2076	6689	gb KM030477 Tridentiger brevispinis ([["Gobiiformes"; "1["
OTU_14.size=2923	0	2826	gb KM461699 Procypris mera ([["Cypriniformes"; "1[" Cy
OTU_31.size=52	419	111	gb KM659025 Carassius auratus ([["Cypriniformes"; "1["
OTU_18.size=125	1	170	gb KP281293 Hypomesus olidus ([["Osmeriformes"; "1["

対象領域

対象領域	ターゲット生物種	具体例
16SrRNA V4領域	細菌と古細菌	<ul style="list-style-type: none"> ・土壤中の微生物群集構造解析 ・環境DNAから生物の推定 ・胃や腸内、糞便に含まれる餌生物の推定 など
ITS領域	真菌類	
18SrRNA	真核生物	
12SrRNA (引用文献: Miya et al., 2015)	魚類	
Cytochrome c oxidase subunit I (COI)	動物	

オプション

作業内容	サンプル	価格
DNA抽出からライブラリー作製(注4)	1~8サンプル	+40,000円
	9~16サンプル	+60,000円
PCRからライブラリー作製	1~8サンプル	+20,000円
	9~16サンプル	+30,000円
レアファクションカーブと主座標分析(PCoA)	1解析(納品後)	+10,000円 (+30,000円)

(注1)お送りいただく等量混合したサンプルの濃度と液量は10ng/μl、20μl 以上をお願いします。

(注2)QC(quality control)について サンプル受領後にMiSeqでのrunが可能であるかどうかを確認することを目的として、サンプルDNAの長さや量を測定します。

(注3)QC作業の結果、サンプル調製に用いたプライマー除去の不徹底等MiSeqでのrunに問題があると判断した場合、弊社でビーズ精製を行います(有償:5,000円)。また、この時点でrunを行ってもデータが得られないと判断した場合は解析を中止させていただきます(この場合のご請求は行いません)。

(注4)DNA抽出は対象生物やサンプルの状況によって抽出方法を最適化する必要があります。より良いデータを得るための非常に重要なステップであると位置づけております。この観点から弊社におけるDNA抽出ノウハウに乏しいサンプルについては、お断りさせていただく場合がございます。

FASMAC

株式会社ファスマック

神奈川県厚木市岡田3088 ケーオービルA棟4階

TEL.046-281-9901 FAX.046-281-9931 URL. <http://www.fasmac.co.jp>

お問い合わせ先

E-mail ngs@fasmac.co.jp

▶▶▶大会期間中展示室にて特別価格で販売！ 現品をご覧になれます 公費購入承ります

Carex of Japan, Enlarged and Revised Edition

ネイチャーガイド

日本のスゲ

増補改訂

勝山輝男 著 定価(本体5,500円+税)

待望の改訂版、ついに完成！

ルーペで観察できる形態をキーにした検索表と、ポイントとなる各部の質感までをとらえた拡大写真により、困難とされるスゲ属植物の野外での識別を可能にする実践的なフィールド図鑑。新種・新産種約20種を追加、記載にも最新情報を反映した。



シカの脅威と森の未来

シカ柵による植生保全の有効性と限界

前迫ゆり・高槻成紀 編 定価(本体3,000円+税)



柵で植生は守れるか？

各地に設置されてきた「シカ柵(防鹿柵, 植生保護柵)」。その取り組みは、どのような成果をもたらしたのか？ シカの排除実験ともとえられる柵の効果と運用の実際を、各地の研究者が報告。日本の森林とシカの「今」をまとめ、効果的な対策を探る。日本植生学会による「シカ影響度マップ」も収録。

地図でわかる

樹木の種苗移動ガイドライン

津村義彦・陶山佳久 編 定価(本体5,500円+税)

公園樹、街路樹等として植樹される広葉樹を中心に、43種の遺伝的地域性を図で解説する、待望の資料集。



樹木の実生図鑑 芽生えと樹形形成

八田洋章 編著 定価(本体16,000円+税)

環境の変化を受ける前の遺伝的特質を示す実生とその初期成長3年分を集積した画期的図鑑！ 236種を収録。



▶▶▶種生物学シリーズ——最新刊+既刊 15冊

種生物学会 編

時間生物学への招待

生物時計の生態学 リズムを刻む生物の世界

新田梢・陶山佳久 責任編集 定価(本体3,800円+税)

地球上の多くの生物は、ほぼ24時間周期の生体リズムを持っている。これは、地球の自転がもたらす昼夜のサイクルに適応して進化したものと考えられる。が、生物が刻むリズムはこれだけではない。潮の満ち引き、一緒に暮らすなかまとの関係など、多様な生物リズムと、その解明に挑む研究法を紹介する。

花生態学の最前線 美しさの進化的背景を探る

定価(本体3,000円+税)

森の分子生態学 遺伝子が語る森林のすがた

西脇亜也・陶山佳久 責任編集 定価(本体3,600円+税)

保全と復元の生物学 野生生物を救う科学的思考

矢原徹一・川窪伸光 責任編集 定価(本体3,200円+税)

光と水と植物のかたち 植物生理生態学入門

村岡裕由・可知直毅 責任編集 定価(本体3,800円+税)

草木を見つめる科学 植物の生活史研究

堀良通・大原雅 責任編集 定価(本体3,200円+税)

森林の生態学 長期大規模研究からみえるもの

正木隆・田中浩・柴田鏡江 責任編集 定価(本体3,800円+税)

農業と雑草の生態学 侵入植物から遺伝子組換え作物まで

浅井元朗・芝池博幸 責任編集 定価(本体3,600円+税)



共進化の生態学 生物間相互作用が織りなす多様性

横山潤・堂園いくみ 責任編集 定価(本体3,800円+税)

発芽生物学 種子発芽の生理・生態・分子機構

吉岡俊人・清和研二 責任編集 定価(本体4,500円+税)

外来生物の生態学 進化する脅威とその対策

村中孝司・石濱史子 責任編集 定価(本体3,800円+税)

ゲノムが拓く生態学 遺伝子の網羅的解析で迫る植物の生きざま

永野惇・森長真一 責任編集 定価(本体3,800円+税)

種間関係の生態学 共生・寄生・捕食の新しい姿

川北篤・奥山雄大 責任編集 定価(本体4,000円+税)

系統地理学 DNAで解き明かす生きものの自然史

池田啓・小泉逸郎 責任編集 定価(本体3,800円+税)

視覚の認知生態学 生物たちが見る世界

牧野崇司・安元暁子 責任編集 定価(本体3,800円+税)

special issue

森の分子生態学 2

津村義彦・陶山佳久 編著

定価(本体4,600円+税)

次世代に残す11冊の教科書！ 新進気鋭の生態学者が考える生態学の体系をシリーズ化！！



シリーズ 現代の生態学

日本生態学会 [編] / 全11巻



今日の生態学に求められる学術的・社会的ニーズはきわめて高く、かつ多様化している。これらのニーズに応えるべく、多様化する生態学の第一線で活躍している研究者を執筆陣に迎えた教科書シリーズとして企画した。時代を越えて変わらない普遍的な生態学原理から、近年めざましく発展した新しい分野までを大きくまとめ、さらなる生態学の普及と啓蒙を推進する。単に最新の知見を網羅するのではなく、研究の基盤となる原理から重要な研究が着想されるに至った経緯までを分かり易く解説することを目指す。現在における生態学の中心的な動向をスナップショット的に切り取り、今後の方向性を探る道標としての役割を果たすシリーズである。【各巻：A5判・並製ソフトカバー・税別価格(価格は変更される場合がございます)】

1 集団生物学

担当編集：巖佐 庸・館田英典

【目次】 I部 生物の人口論 / II部 適応戦略 / III部 進化のメカニズム / IV部 系統と進化 / V部 生態系と群集 / VI部 生物多様性保全 / 他……………404頁・本体3,600円

7 エコゲノミクス 遺伝子からみた適応

担当編集：森長真一・工藤 洋

【目次】 I部 遺伝変異と適応研究 / II部 適応遺伝子の探索 / III部 適応遺伝子の機能 / IV部 適応遺伝子の進化 / 引用文献・索引 / 他……………322頁・本体3,400円

2 地球環境変動の生態学

担当編集：原 登志彦

【目次】 地球環境変動と陸域生態系 / 陸域生態系研究における現地観測 / リモートセンシングによってわかる陸上植生 / 森林破壊と地球環境変化 / 他……………296頁・本体3,400円

8 森林生態学

担当編集：正木 隆・相場慎一郎

【目次】 森林の分布と環境 / 森林の分布と気候変動 / 森林の成立と攪乱体制 / 森林の遷移 / 森林の土壌環境 / 森林の水平構造 / 森林の垂直構造 / 他……………316頁・本体3,400円

3 人間活動と生態系

担当編集：森田健太郎・池田浩明

【目次】 人間活動の歴史 / 生物多様性の危機 / 都市の自然環境 / 二次的な自然環境 / 生息地の分断化 / 農業の特性と生物の応答 / 他……………272頁・本体3,400円

9 淡水生態学のフロンティア

担当編集：吉田丈人・鏡味麻衣子・加藤元海

【目次】 淡水動物プランクトン種の地理的構造を形成した歴史のプロセス / 淡水における空間個体群動態 / 環境の変化に対する柔軟な応答 / 他……………290頁・本体3,400円

4 生態学と社会科学の接点

担当編集：佐竹暁子・巖佐 庸

【目次】 I部 生物の適応戦略と協力 / II部 環境問題解決の考え方 / III部 人間と生態系のかかわり / 引用文献 / 索引 / 他……………216頁・本体3,200円

10 微生物の生態学

担当編集：大園享司・鏡味麻衣子

【目次】 生態学からみた微生物の世界 / 微生物生態学における分子生物学的手法 / 分子系統解析と化石記録から紐解く菌類多様化のみちすじ / 他……………278頁・本体3,000円

5 行動生態学

担当編集：沓掛展之・古賀庸憲

【主要】 行動生態学の基礎 / 採餌、捕食回避 / 移動・どこに住むか / メカニズム・至近要因 / 表現型進化の理論 / アダプティブ・ダイナミクス / 他……………292頁・本体3,400円

6 感染症の生態学

担当編集：川端 吉田・古賀 鏡味……………2016年3月発売予定

10 海洋生態学

担当編集：津田 敦・森田健太郎……………2016年2月発売予定

生態学フィールド調査法シリーズ

占部城太郎・日浦 勉・辻 和希 [編]

本シリーズは個体から生態系までを対象に、最新のフィールド調査法とその分析・解析手法を、学生や研究者のみならずコンサルタントや技術者等、生態学に携わる多くの読者へ向けて丁寧に解説する。本シリーズは生態学に携わる読者がそれぞれの立場で生態学の多様な現象を深く捉え、正しく理解していくための道しるべとなるだろう。

1. 森林集水域の物質循環調査法

柴田英昭著……………120頁・本体2,000円

2. 送粉生態学調査法

酒井章子著……………124頁・本体2,000円

3. 植物群集の構造と多様性の解析

佐々木・小山・小柳・古川・内田著……………226頁・本体3,000円

4. 植物の光合成・物質生産の測定とモデリング

彦坂幸毅著……………2016年3月発売予定

【各巻：A5判・並製ソフトカバー・税別価格】

〒112-0006 東京都文京区小日向4-6-19
TEL. 03-3947-2511 / FAX. 03-3947-2539

共立出版



<http://www.kyoritsu-pub.co.jp/>
<https://www.facebook.com/kyoritsu.pub>

LI-6400XT 植物総合解析システム

(光合成・蒸散・クロロフィル蛍光・アラビドプシス植物測定装置)

おかげさまで
国内300台以上の販売

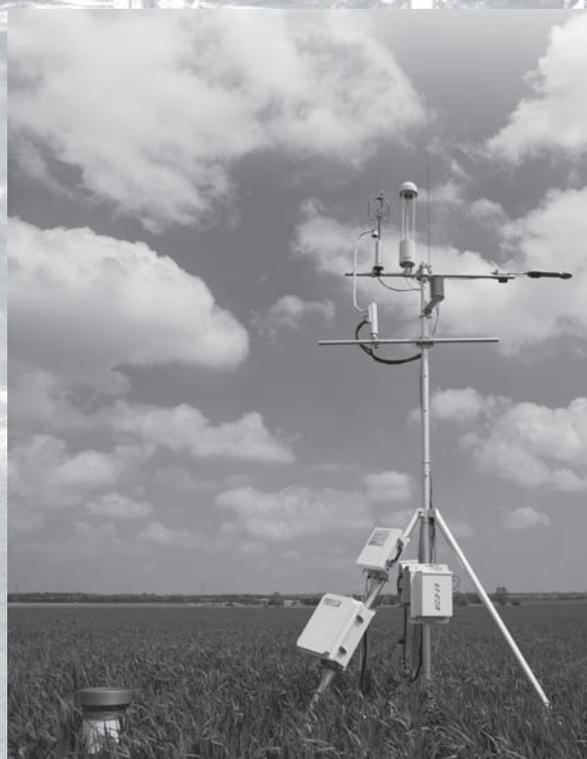


- 光合成反応をリアルタイムに測定
測定植物直下にある2台のIRGA分析計で、チャンバーの入口と出口を同時測定
- セミオープンパス機構で安定測定
高性能分析計は炭酸ガス測定濃度±0.2ppm
光合成反応の小さいサンプルも正確にキャッチ
- イーサーネット通信機能追加
新CPU搭載で、イーサーネットでのネットワーク通信が可能。PCやiPhone等も使用可能
- 豊富なチャンバーラインナップ
大型サンプルも安定測定できる新型針葉樹チャンバー等、測定サンプルに対応したチャンバーを数多くラインナップ

SMART Flux 温室効果ガスフラックス測定システム

新世代の 自動Flux測定システム

- データロガー・
複雑配線・記録用Flux計算プログラム不要
新しいSMART Flux Systemは面倒な作業が一切不要の誰もが簡単にできる唯一のシステム
- Flux生データを内部CPUで演算処理
CH₄/CO₂/H₂O Fluxデータは、生データと共に附属メモリに記録
- 渦相関法各種補正を自由に取捨選択
各種補正はユーザーが選択し、Fluxを自動計算
- FluxSuite ソフトウェアによる遠隔サイト管理
データの確認ダウンロードや、アラートのe-mail送信設定が可能



メイワフォーシス 株式会社
meiwafosis.com

東京 〒160-0022 新宿区新宿1-14-2 KI御苑前ビル 名古屋 〒464-0075 名古屋市千種区内山3-10-18
TEL(03)5379-0051(代) FAX(03)5379-0811 TEL(052)686-4794(代) FAX(052)686-5114
大阪 〒558-0047 大阪市住吉区千鉢2-4-25 仙台 〒981-3133 仙台市泉区泉中央3-4-1
TEL(06)6674-2222(代) FAX(06)6674-2323 TEL(022)218-0560(代) FAX(022)218-0561



学術センサーカメラ FieldNote[®]

.....ともに在るこの地球を大切に.....

第1回 哺乳類学会 功労賞を授与されました。

Ltl-Acorn シリーズ

夜間の挙動観察に最適

新発売「Ltl-Acorn6310W MARIF スペシャル」

広角タイプを追加しました



動画撮影専用機(夜間ノングローHD画質)

麻里府商事品質のLtl-AcornでHD動画撮影。

見えない遠赤外線光で動物の自然な挙動が撮れます。

サンプル動画 HPIにアップロード中

<http://www.sensorcamera.jp>

Fieldnote DUO+

Fieldnote DUOがさらにパワーアップ



高性能ツインセンサーと最高級デジタルカメラにより、夜間でも高精細カラー画像が得られます。



カラー動画(昼間)からのカット画像



提供：栗原智昭様

..... センサーカメラは技術とアフターサービスで貢献します

Fieldnoteシリーズ

- ・ アフリカ熱帯雨林からヒマラヤの標高4000m以上の使用実績あり。
- ・ 世界TOPクラスの高性能ツインセンサー(特許技術)で貴重な瞬間を撮影出来ます。
- ・ 世界最高級防水カメラによる超精彩画像撮影は個体識別が可能。

Ltl-Acornシリーズ

- ・ 正規輸入だから責任あるアフターサービスが提供出来ます
- ・ 比類ない防水性と回路保護機能(実用新案申請中)で安心使用。
- ・ 撮影距離0.5mからの近距離動画撮影(特別仕様)が可能。

安心のサポート体制

- ・ 国内生産、正規輸入代理店だからお約束できる完全アフターサービス。

- 光学映像機器・その他
- ハードユースカメラ：耐衝撃・防水
- 工業用グラスファイバー及びマイクロスコープ
- コンパスグラス・双眼鏡
- かごワナ(HOON'S TRAP)
- 代行輸入承ります。

学術センサーカメラの麻里府商事
 〒740-0022山口県岩国市山手町1丁目9-16
 TEL.0827-22-8888/Fax.0827-22-8100
<http://www.sensorcamera.jp/>
marif@sensorcamera.jp

64

日本生態学会大会（2017年東京）のご案内

2017年3月14日(火)～18日(土)
早稲田大学早稲田キャンパス
東京都新宿区戸塚町1-104
<http://www.esj.ne.jp/meeting/64/index.html>

第64回日本生態学会大会は上記の期間(5日間)に、早稲田大学早稲田キャンパスで開催されます。東京での大会は7年前の東京大学を始め、東京都立大学(当時)、東京農工大学などで行われてきました。現在の形式での大会を早稲田大学で開催するのは、おそらく今回が初めてとなります。

第64回大会の最大の特徴は、一つのキャンパス内ですべての会場を用意できることです。会場間はすべて徒歩で移動可能で、会場のほとんどはエレベーターなどバリアフリー対策が施されています。総会などを予定している大隈記念講堂は、重要文化財に指定されています。一方、2020年の東京オリンピックに向け一部施設が改修中のため、ご不便をおかけすることがあるかもしれません。

早稲田キャンパスは東京都新宿区に位置し、地下鉄早稲田駅から徒歩5分、JRまたは私鉄高田馬場駅からバスで5分(徒歩20分)の所にあります。早稲田駅までは鉄道等を利用し、東京駅から20分余り、羽田空港からは約1時間です。近隣には、東京ならではの商業施設ばかりではなく、大隈庭園(キャンパス内)、新宿御苑や明治神宮をはじめ緑豊かな公園・庭園、史跡、歌にうたわれた神田川など名所も数多くあります。大会の合間に、脚を伸ばしてはいかがでしょうか。

関東地区所属の会員で大会実行委員会を結成し、大会企画委員会と協力して、実りある大会にできるよう準備を進めております。皆様のご参加を、心よりお待ちしております。

大会会長 小泉博
大会実行委員長 関川清広

To join the Ecological Society of Japan, please contact the ESJ office:

1-8 Koyama Nishihanaike, Kitaku, Kyoto, 603-8148, Japan
Email: kaiin@mail.esj.ne.jp Tel: +81-75-384-0250

The annual fee for an individual, due on 1 January, is Japanese Yen 11,000.
Members are entitled to receive two journals. Ecological Research (in English; six issues per year) and Japanese Journal of Ecology (in Japanese; three issues per year).

一般社団法人 日本生態学会 入会・会誌購読案内

会費は前納制で、学会の会計年度は1月～12月です。新規入会希望の方は下記ウェブサイトより入会申し込みの後、本会費+地区会費の合計を次の口座にお振込み下さい。退会のお届けのない限り、基本的に入会は継続となります。学会誌購読希望の方はウェブサイトよりご連絡ください。

郵便振替口座番号 01070-6-19256 口座名: 一般社団法人日本生態学会

区分と会費・購読費

正会員 ● 日本生態学会誌・Ecological Research・保全生態学研究の3誌配布 学生 10,000円 一般 13,000円
生態誌・Ecological Researchの2誌配布 学生 8,000円 一般 11,000円

地区会費 北海道地区200円/東北地区600円/関東地区400円(当面徴収しない)/中部地区0円/
近畿地区400円/中国・四国地区400円/九州地区700円

年間購読 ● 各和文誌配布 (大会講演発表は不可) 生態誌 9,000円 保全誌 5,000円

詳細については下記ウェブサイトの入会案内をご覧ください。

一般社団法人 日本生態学会事務局

〒603-8148 京都市北区小山西花池町1-8

TEL&FAX: 075-384-0250 <http://www.esj.ne.jp/office/member/index.html>

日本生態学会 大会企画委員会 (○は部会長)

- 委員 長： 半谷吾郎(京都大)
副委員 長： 川北篤(京都大)
大会運営部 会： ○辻野亮(奈良教育大)、北村俊平(石川県立大)、佐々木晶子(広島大)、竹中明夫(国立環境研)、富松裕(山形大)、中川弥智子(名古屋大)、三木健(国立台湾大)、小池伸介(東京農工大)、田邊晶史(水研センター)、高橋佑磨(東北大)、藤田志歩(鹿児島大)
発表編成部 会： ○牧野能士(東北大)、山本智子(鹿児島大)、櫻井玄(農環研)、松尾奈緒子(三重大)、山平寿智(琉球大)、西廣淳(東邦大)、小泉逸郎(北海道大)、土松隆志(東京大)
シンポジウム部 会： ○柴田銃江(森林総研)、横溝裕行(国立環境研)、岩崎亘典(農環研)、岩田繁英(東京海洋大)、大西尚樹(森林総研)、小林真(北海道大)、曾我部篤(弘前大)、東樹宏和(京都大)、福島慶太郎(首都大)、及川真平(茨城大)、佐藤拓哉(神戸大)、熊野了州(帯広畜産大)、清野達之(筑波大)、若松伸彦(東京農業大)
ポスター部 会： ○内海俊介(北海道大)、赤坂卓美(帯広畜産大)、安立美奈子(筑波大)、小野田雄介(京都大)、金田哲(農環研)、上村真由子(日本大)、栗和田隆(鹿児島大)、高原輝彦(島根大)、土居秀幸(兵庫県立大)、小口理一(東北大)、永松大(鳥取大)、池田紘士(弘前大)
高校生ポスター部 会： ○西脇亜也(宮崎大)、丑丸敦史(神戸大)、栗和田隆(鹿児島大)、嶋田正和(東京大)、高原輝彦(島根大)、土居秀幸(兵庫県立大)、富山清升(鹿児島大)、中井咲織(立命館宇治中・高)、小口理一(東北大) 深澤遊(東北大)
英語口頭発表部会(WG)： ○三木健(国立台湾大)、辻和希(琉球大)、久米朋宜(国立台湾大)、田中健太(筑波大)、日室千尋(九州大)、藤井一至(森林総研)、杉浦真治(神戸大)、韓慶民(森林総研)、仲澤剛史(国立成功大)

日本生態学会 第63回大会実行委員会

- 大会 会 長： 中静透(東北大)
大会 実行委員 長： 占部城太郎(東北大)
プログラム： 牧野能士(東北大)
ウェブ・表紙デザイン： 高橋佑磨(東北大)
企画連絡調整： 富松裕(山形大)
受 付： 鈴木孝男(東北大)、清和研二(東北大)
ク ロ ー ク： 牧野渡(東北大)
ポスター会場： 小口理一(東北大)、兼子伸吾(福島大)
高校生ポスター： 深澤遊(東北大)
公開講演会： 彦坂幸毅(東北大)、松政正俊(岩手医大)、島田直明(岩手県大)、鈴木まほろ(岩手県博)、鈴木孝男(東北大)、黒沢高秀(福島大)、占部城太郎(東北大)
(講演本編集など)
懇 親 会： 饗庭正寛(東北大)、河田雅圭(東北大)、牧野能士(東北大)、陶山佳久(東北大)、中静透(東北大)
ア ル バ イ ト： 酒井聡樹(東北大)
託 児 室： 長嶋寿江(東北大)、大野ゆかり(東北大)
会場(器材)： 鹿野秀一(東北大)
会場(進行補助)： 牧雅之(東北大)、池田紘士(弘前大)、池田実(東北大)、石田清(弘前大)、大槻朝(東北大)、大西尚樹(森林総研)、小黒芳生(東北大)、小野賢二(森林総研)、風間健宏(東北大)、木下今日子(岩手大)、木村一貴(東北大)、黒沢高秀(福島大)、郷右近勝夫(宮城県利府町)、島田卓哉(森林総研)、嶋田哲郎(伊豆沼・内沼財団)、曾我部篤(弘前大)、高野宏平(東北大)、富樫博幸(東北水研)、成田憲二(秋田大)、平吹喜彦(東北学院大)、藤林恵(秋田県立大)、藤山直之(山形大)、星崎和彦(秋田県立大)、蒔田明史(秋田県立大)、松政正俊(岩手医科大)、森茂太(山形大)、安野翔(仙台市)、彦坂幸毅(東北大学)、千葉聡(東北大)、牧野能士(東北大)、鹿野秀一(東北大)
サイン計画： 千葉聡(東北大)
危機管理： 河田雅圭(東北大)
広報・協賛企業： 陶山佳久(東北大)
大会事務局・会計： 柚原剛(東北大)

第63回日本生態学会大会プログラム

2016年1月31日発行

編集・発行 ● 日本生態学会大会企画委員会
〒603-8148 京都市北区小山西花池町1-8 一般社団法人日本生態学会内
TEL&FAX: 075-384-0250
<http://www.esj.ne.jp/>

印刷・製本 ● (株) 土倉事務所
〒603-8148 京都市北区小山西花池町1-8
TEL: 075-451-4844

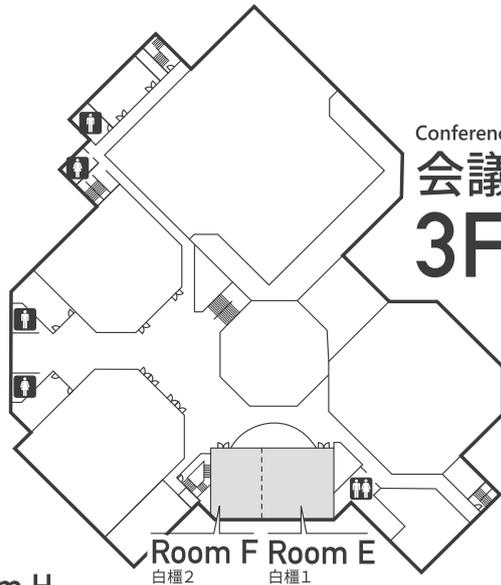
仙台国際センター

Sendai International Center

Exhibition Bldg
展示棟
1F



Conference Bldg
会議棟
3F



Conference Bldg
会議棟
2F



Conference Bldg
会議棟
1F



大会会場
仙台国際センター
宮城県仙台市青葉区青葉山
Tel. 022-265-2211

Main venue
Sendai International Center
Aobayama, Aoba, Sendai,
Miyagi, Japan
Tel. +81-22-265-2211



懇親会会場
仙台国際ホテル
仙台市青葉区中央 4-6-1
Tel. 022-268-1111

Banquet
SENDAI KOKUSAI HOTEL
4-6-1, Chuo, Aoba, Sendai,
Miyagi, Japan
Tel. +81-22-268-1111



第63回
日本生態学会大会実行委員会
〒980-8578
仙台市青葉区荒巻字青葉 6-3
生命科学研究科

大会公式ホームページ
<http://www.esj.ne.jp/meeting/63/>

本大会に関する問い合わせは、大会公式ホームページからリンクしている問い合わせページからお願いします。